

男女共同参画に関する市民意識調査 報告書

令和 8 年 2 月
白山市

目 次

第一章 調査の概要

本報告書における表記について	5
1. 調査の目的	7
2. 調査の項目	7
3. 調査の設計	7
4. 回収結果	7
5. 回答者の属性	8

第二章 調査結果の要約

I. 男女の平等について	13
II. 家庭生活について	13
III. 職業について	14
IV. 女性の社会進出について	15
V. DV・性暴力について	16
VI. 男女共同参画社会の実現について	17

第三章 調査結果の詳細

I. 男女の平等について	21
II. 家庭生活について	31
III. 職業について	42
IV. 女性の社会進出について	68
V. DV・性暴力について	76
VI. 男女共同参画社会の実現について	118
VII. 自由意見	156

資料 本調査の調査票

第一章 調査の概要

本報告書における表記について

1. 本報告書内で記載される比率は、各質問における対象者数（全回答数もしくは、質問内で指定した条件に一致する回答の数）に対する百分率（%）を表記している。
2. 本報告書内での比率は、小数第二位を四捨五入した小数第一位までの値を表記している。そのため、項目内の比率を合計しても100%と一致しない場合がある。
3. 単一の質問内で複数の回答を求める質問では、回答数を質問の対象者数で割って、それぞれの選択率を求めている。そのため、回答の百分率を合計すると100%を超える。
4. 本文中で結果の数値同士を比較する際、その大小を表す場合には「〇〇ポイント」という表記を使っている。この数値も、小数第二位を四捨五入した小数第一位までの値を表記している。

第1章 調査の概要

1. 調査目的

この調査は、平成29年に策定した「白山市第2次男女共同参画行動計画」が令和8年度末に期間を完了するのに伴い、男女共同参画についての市民の意識を把握し、今後の男女共同参画行政の指針となる基礎資料とすることを目的とする。なお、一部の設問において令和3年に実施した「男女共同参画に関する市民意識調査」の調査結果との経年比較を行った。

2. 調査の項目

- | | |
|--------------|--------------------|
| I 男女の平等について | IV 女性の社会進出について |
| II 家庭生活等について | V DV・性暴力について |
| III 職業について | VI 男女共同参画社会の実現について |

3. 調査の設計

- (1) 調査地域：石川県白山市
- (2) 対 象：18歳以上の市民2,000人
- (3) 標 本 数：2,000人
- (4) 抽出方法：単純無作為抽出
- (5) 調査方法：郵送法
(郵送による質問紙の配布、WEB回答および郵送による回収)
- (6) 調査期間：令和7年10月～11月

4. 回収結果

有効回答数は754件（37.9%）であった。回収率および有効回収率などは、次の通りである（図表1-1）。

図表1-1. 回答数および回答率

対象者数 (A)	2,000人
回収数 (B)	758件
回収率 (B/A)	37.9%
有効回答 (C)	754件
有効回答率 (C/A)	37.7%

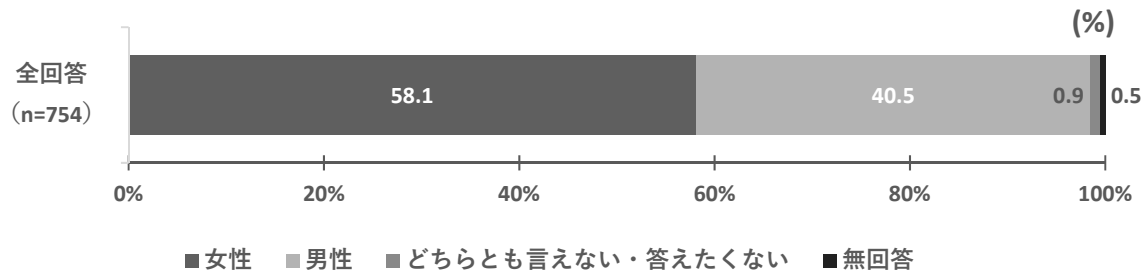
5. 回答者の属性

本調査での有効回答数754件の基本属性は、次の通りである。

A あなたの性別は。(あてはまる番号に1つだけ○をつける)

男女の構成比は、およそ2:3で、女性の方が多い（図表1-2）。

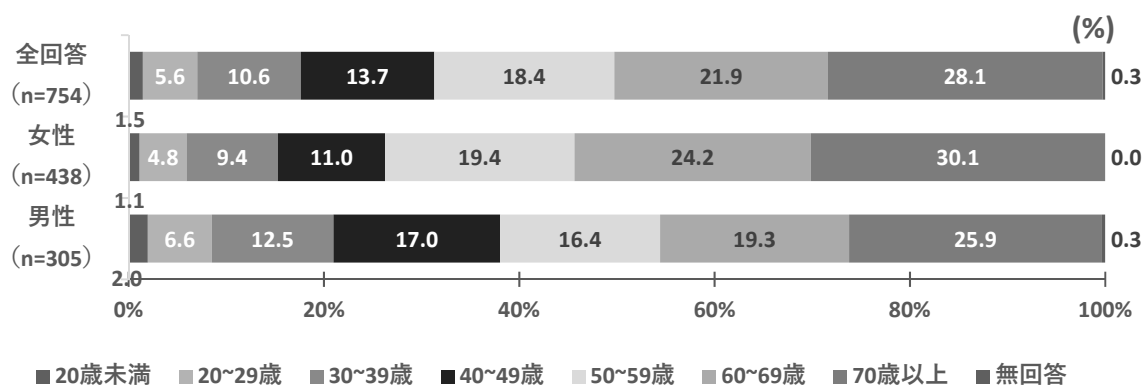
図表1-A. 回答者の性別



B あなたの年齢は。(あてはまる番号に1つだけ○をつける)

有効回答のうち、60歳以上の回答がおよそ半数を占めている。また、20歳未満（18、19歳）の回答数は男女ともに少数であるため、後述する年代別の回答結果などを見る場合には注意されたい（図表1-3）。

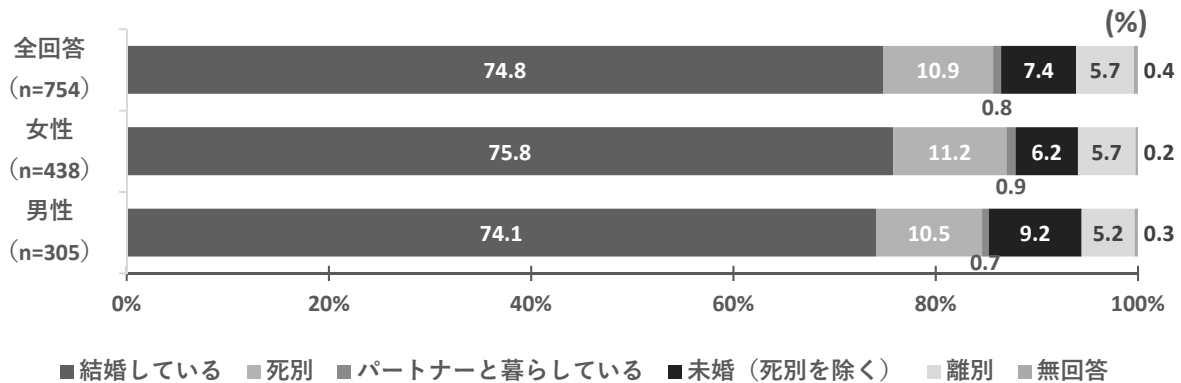
図表1-B. 回答者の年齢構成



C あなたは結婚（法律婚）をしていますか。(あてはまる番号に1つだけ○をつける)

男女ともに、未婚は1割に満たない（図表1-4）。無回答を含めた全有効回答のうち、何かしら結婚に類する経験があるとの回答は9割を超える。

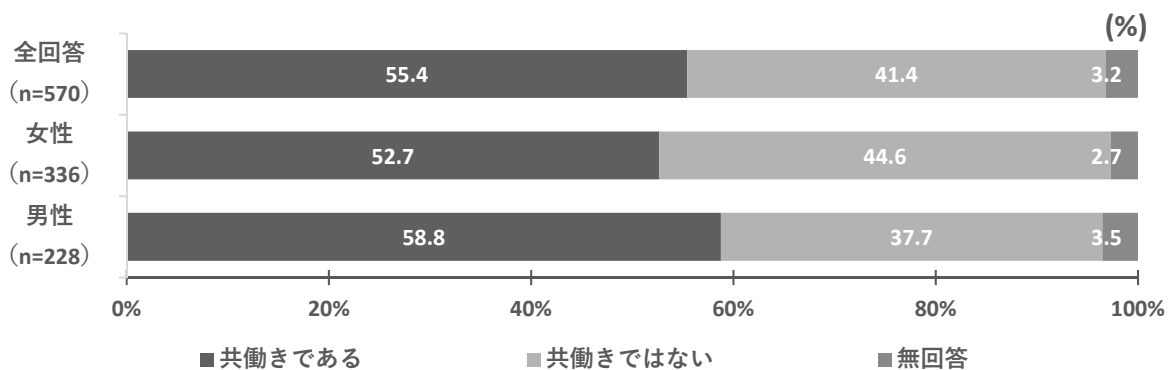
図表1-C. 婚姻等の状況



D Cで「1.結婚している」または「3.結婚していないがパートナーと暮らしている」を選択した方にお聞きます。あなたは共働き（収入を得る仕事を共にしている状態）ですか。（あてはまる番号に1つだけ○をつける）

「共働きである」が、わずかに多い（図表1-4）。

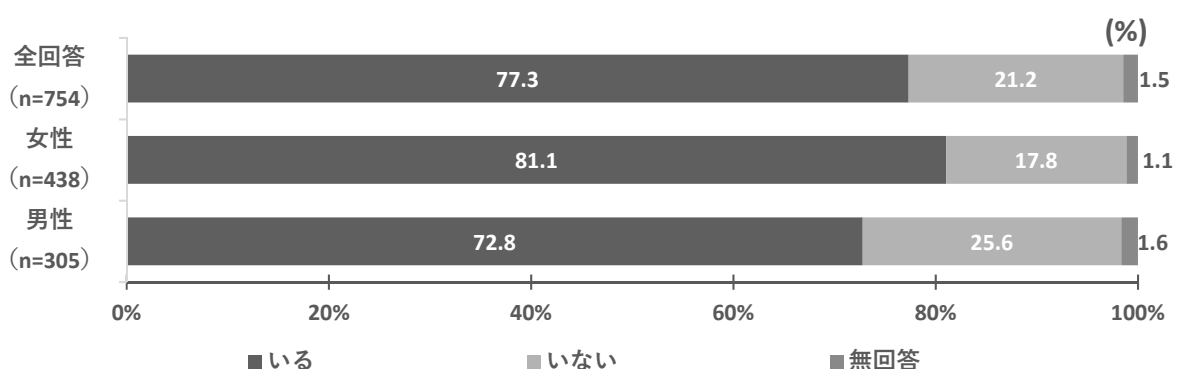
図表1-D. 共働き



E あなたには、お子さんがいらっしゃいますか。（あてはまる番号に1つだけ○をつける）

男女ともに、7割を超える回答で子供がいると選択された（図表1-6）。

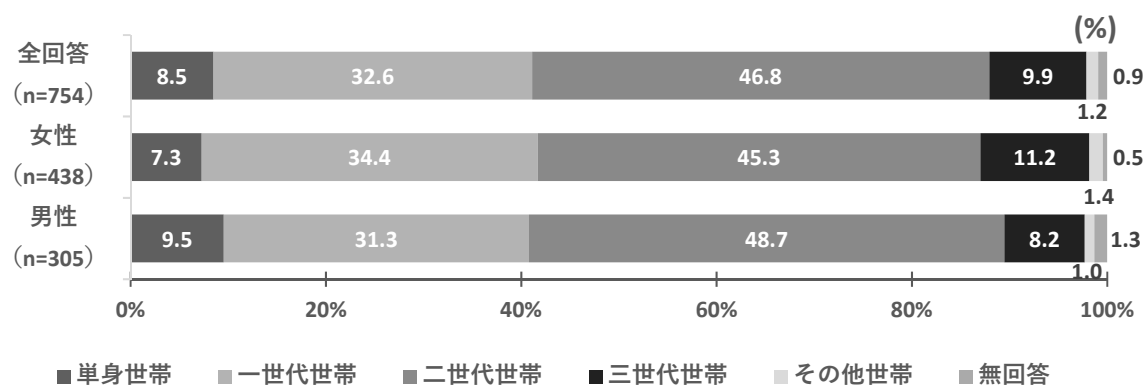
図表1-E. 子どもの有無



F あなたの家族構成は次のどれですか。(あてはまる番号に1つだけ○をつける)

およそ半数弱が二世世代世帯であり、次いで一世代世帯が3割程度と続いている。単身世帯は1割に満たない（図表1-7）。

図表1-F. 世帯構成



第二章 調査結果の要約

第2章 調査結果の要約

I. 男女の平等について

(1) 男女の平等意識（問1、21ページ）

『平等である』の率は、「学校教育の場では」（44.3%）、「家庭の中では」（33.3%）、「法律や制度の上では」（30.2%）、「職場の中では」（26.1%）の順に高い。一方で、『平等である』の選択率が最も低いのは「社会通念・地域の慣習・しきたりの上では」（12.2%）となった。

男女別には、女性では「政治の場では（9.1%）」、「社会通念・地域の慣習・しきたりの上では（8.9%）」で、『平等である』の選択率が1割未満となっている。一方で、男性では「政治の場では（17.4%）」、「社会通念・地域の慣習・しきたりの上では（17.1%）」と女性同様に選択率が低くなっているものの、1割を下回った項目はなかった。

また、男女間を比較すると、全ての項目で『平等である』の選択率が男性で女性より高く、「法律や制度の上では（男性39.8%、女性24.2%）」、「地域活動の中では（男性36.2%、女性24.4%）」、「家庭の中では（男性39.5%、女性29.2%）」の選択率で、それぞれ10ポイント以上の開きがあった。

II. 家庭生活について

(1) 「男は仕事、女は家庭」という考え方（問2、31ページ）

回答全体では男女間で同様の選択率の構成で『あまり賛成しない』と『賛成しない』の合計が最も高く、『賛成』と『やや賛成』の合計の割合が最も低かった。その差は、女性で45.8ポイント、男性では39.9ポイントとなった。『どちらとも言えない』も女性の方が低く（女性31.4%、男性33.6%）、女性の方が賛成してしないことがわかる。

前回調査（尺度は『賛成』『賛成しない』『どちらとも言えない』の3つ）と比較した場合、『賛成』が増えた一方で『賛成しない』と『どちらとも言えない』は下がった。

(2) 「男は仕事、女は家庭」に賛成する理由（問2-1、34ページ）

全体では『家事・育児・介護と両立しながら、女性（妻）が働き続けることは大変だから』（64.0%）、『女性（妻）が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いから』（59.3%）の両選択肢が、他のものに20ポイント以上の差をつけて多く回答された。『家事・育児・介護と両立しながら、女性（妻）が働き続けることは大変だから』では、女性が男性に15.3ポイントの差をつけて高くなった。

(3) 「男は仕事、女は家庭」に反対する理由（問2-2、34ページ）

全体では『固定的な男性(夫)と女性(妻)の役割分担の意識を押しつけるべきではないから』（70.0%）、『男性(夫)、その他の家族と協力しながら家事・育児・介護を両立することは可能だから』（55.3%）、『男性(夫)も女性(妻)も働いた方が多くの収入を得られるから』（40.3%）と続いた。それぞれの選択肢での男女差はなかった。

(4) 男性が家事や育児を行うことに対する意識（問3、37ページ）

全体では高い順に『男性も家事・育児を行うことは当然である』（70.0%）という当然視する選択肢が圧倒的に高く、『子どもに良い影響を与える』（40.8%）『子どもに良い影響を与える（26.5%）』と続いた。当然だとする回答が圧倒的に高く、特に40歳代までの選択率が、それ以降のものよりも高かった。

(5) 男性に家事等への参加を促すために必要な施策（問4、39ページ）

全体の選択率は、高い順に『育児・介護のための休暇を取得しやすい職場環境が整備されること』（66.2%）、『夫婦や家族間で家事・育児などの分担について、十分に話し合うこと』（66.0%）『男性が家事、育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと』（56.9%）となった。

III. 職業について

(1) 職場での平等意識（問6、42ページ）

全体の選択率をみると、高い順に『教育や研修制度』（65.3%）、『募集や採用の条件』（54.7%）となり、これらが5割を超えていた。一方で低い順には『昇進・昇格』（41.9%）、『人事配置』（42.3%）となり、それぞれ45%を割っていた。

(2) 女性の管理職昇進に関する意識（問7、49ページ）

全体での『賛成』と『やや賛成』の合計は80.0%で、『あまり賛成しない』と『賛成しない』の合計は5%未満だった。大半の人々が好意的にとらえている。性別で比べると、4ポイント弱の差ではあるものの、女性の方が男性より『賛成』と『やや賛成』の合計の選択率が高かった。

(3) 役職の就任意欲（問8、51ページ）

「a.職場の管理職や役員」について、全体では『依頼されたら受ける』が『断る』を1ポイント未満の差で上回った。性別で見ると、女性は『断る』が僅差で高くなり、男性では『依頼されたら受ける』が8ポイント上回って最高となった。

「b.自治会長、町内会長」においては、全体でも性別で見ても『断る』が他の選択肢を30ポイントを超えて上回る形で高かった。『断る』の選択率は、女性では年代でも6割以上を維持した。一方で男性では30歳代で76.3%と高く、50歳代以降では5割台となった。

「c.議員や自治体の首長」では、性別年代を問わず、『断る』の選択率が総じて7割以上と高かった。

(3) 役職を辞退する理由（問8-1、55ページ）

3分野の役職を断る理由について、選択率最上位と2位の選択肢がどの役職においても『責任が重いから』と『知識や能力の面で不安があるから』のどちらかで占められていた。

「a.職場の管理職や役員」では『責任が重いから』が『知識や能力の面で不安があるから』を9.2ポイント上回った。

「b.自治会長、町内会長」では、『責任が重いから』（54.5%）が『知識や能力の面で不安があるから』（44.2%）を10.3ポイント上回って最大になった。

「c.議員や自治体の首長」については、『知識や能力の面で不安があるから』（47.5%）が『責任が重いから』（42.5%）を5ポイント上回って最も高くなった。

（4）女性が職業を続けていくために必要なこと（問9、62ページ）

全体での選択率が高い順に『家事・育児・介護などにおける家庭内の協力』（67.2%）、『保育・介護サービスの充実（施設の充実、時間の延長など）』（43.0%）、『給与、昇進・昇格の機会が男女間格差の解消』（34.2%）となった。また、性別でみると、『保育・介護サービスの充実（施設の充実、時間の延長など）』で女性の選択率が15.2ポイント高く（女性49.4%、男性34.2%）、『再就職のための自己啓発セミナーや技術、技能の習得機会の充実』では、男性の選択率が18.7ポイント高くなった（男性40.5%、女性22.8%）。

（5）男性が仕事と家庭を両立するために必要なこと（問10、65ページ）

全体では高い順に『育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場環境づくり』（47.2%）、『男性が家事・育児などを行うことについての職場や周囲の理解と協力』（47.1%）、『昇進・昇格において、不当な扱いを受けることのない職場環境』（45.1%）となった。

性別でみると、『労働時間の短縮や休暇制度の充実』で男性の選択率が10ポイント高かった（女性35.1%、男性45.1%）が、10ポイントを超えるものは他の項目では見られなかった。

IV. 女性の社会進出について

（1）女性リーダーの増加で考えられる影響（問11、68ページ）

全体での選択率が高い順に『男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる』（70.7%）、『多様な視点が加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される』（60.5%）、『女性が持つ意見や発想が反映される』（56.6%）となった。性別でみると、5ポイント以上の差がある選択肢は本質問には無く、男女ともに近い数値の選択率となっていた。

（2）女性の管理職昇進に関する意識（問12、71ページ）

全体での選択率が高い順に『さまざまな立場の人が参加しやすいよう活動時間帯を工夫すること』（56.6%）、『地域活動のリーダーは男性が務めるという性別による役割分担意識を改めること』（43.0%）、『女性が地域活動のリーダーを務めることについて、社会的に高く評価すること』（28.9%）となった。

性別でみると、『地域活動のリーダーは男性が務めるという性別による役割分担意識を改めること』において男性の選択率が8.1ポイント高かった（女性39.6%、男性47.7%）。

（3）性別に配慮した防災・災害対策に必要なこと（問13、73ページ）

全体では、高い順に『更衣室やプライバシーの確保など、性別に配慮した避難所運営を行う』（59.4%）、『避難所の設置・運営について、物事を決める際には男女を交えた話し合いをする』（55.0%）、『避難所でのリーダーや炊き出しなどの役割を、性別で固定せずに分担する』（35.1%）となった。

性別でみると、『更衣室やプライバシーの確保など、性別に配慮した避難所運営を行う』において女性の選択率が5.9ポイント高かった（女性39.6%、男性47.7%）。

V. DV・性暴力について

(1) 暴力に対する意識（問14、76ページ）

回答者全体での『暴力にあたる』の選択率が高い順に「嫌がっているのに、性的な行為を強要する」（94.3%）、次いで同列で「『誰のおかげで生活できるんだ』や『甲斐性なし』などと言う」および「避妊に協力しない」（83.3%）、「家計に必要な生活費を渡さない」（82.5%）となった。

性別で『暴力にあたる』をみると、「交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する」（女性68.3%、男性61.8%）、「他の異性や親しい人との会話を許さない」（女性60.1%、男性53.6%）の項目では、それぞれ男性の方が5ポイント以上低かった。

(2) 配偶者や交際相手からのDV被害経験の有無（問15、92ページ）

性別でみた場合、「身体的暴行」では、『一、二度あった』（女性15.7%、男性14.1%）、『何度もあった』（女性5.2%、男性2.3%）で、その合計では女性が男性を4.4ポイント上回った。

「心理的攻撃」では、『一、二度あった』（女性19.1%、男性18.1%）、『何度もあった』（女性7.3%、男性8.6%）となり、その合計の差は1ポイント未満に収まった。

「経済的圧迫」では、『一、二度あった』（女性5.5%、男性3.9%）、『何度もあった』（女性3.9%、男性2.3%）で、その合計は女性が1.5ポイント上回った。

「性的強要」では、『一、二度あった』（女性7.7%、男性7.6%）、『何度もあった』（女性3.9%、男性2.3%）で、その合計は女性が1.7ポイント上回った。

(3) DV被害の相談先（問15-1、99ページ）

回答全体を見ると、4割強は相談経験が無かった。相談した回答では、多い順に『知人、友人』（22.1%）、『家族や親せき』（15.4%）、『警察』（2.2%）と、私的な間柄にある相手への相談が、公的な機関よりも圧倒的に多かった。前者2つの回答を性別で見ると、女性の選択率がそれぞれ13.8ポイント（女性27.7%、男性13.9%）、9.2ポイント（女性19.4%、男性10.2%）高かった。

(4) DV被害を相談しなかった理由（問15-2、100ページ）

前問（問15-1）で相談しなかった回答者に尋ねた。回答全体を見ると、選択率の高い順に『相談するほどのことではないと思ったから』（54.1%）、『自分にも悪いところがあると思ったから』（29.7%）、『相談しても無駄だと思ったから』（25.2%）となった。

回答を性別で見ると、選択率が高い順に『相談するほどのことではないと思ったから』と『自分にも悪いところがあると思ったから』では男性がそれぞれ21.5ポイント（女性44.4%、男性66.0%）、10.8ポイント（女性25.4%、男性36.2%）上回った。

(5) 性暴力被害に関する言説への考え（問16、102ページ）

回答全体を見ると、『そう思う』と『どちらかというと思う』の合計が高い順に「性暴力は加害者の性欲がコントロールできずに起こっている」（計62.3%）、「被害にあうのはたいてい暗い夜道やひと気の悪い場所である」（計56.5%）、「性暴力にあうのは、若い女性である」（計53.5%）となった。

性別では、合計が大きい順に「挑発的な服装や行動が被害をまねている」（女性52.2%、男性45.7%）で女性が6.5ポイント、「性暴力にあうのは、若い女性である」（女性51.3%、男性56.9%）と「本気で抵抗すれば被害は防げる」（女性8.4%、男性12.8%）で男性がそれぞれ5.6ポイント、4.4ポイント上回った。

(6) DVや性暴力の相談機関の認知度（問17、110ページ）

回答全体では、選択率の高い順に『警察』（84.2%）、『市女性相談・DVホットライン白山』（30.6%）、『石川県女性相談支援センター（配偶者暴力相談支援センター）』（30.2%）となった。警察以外の専門機関の認知度は、高いところでも3割台にとどまった。

性別で見ると、『市女性相談・DVホットライン白山』では女性の選択率が男性よりも8.2ポイント高かった（女性33.9%、男性25.7%）。男性では『職場・アルバイトの関係者（上司、同僚、部下など）』が女性より6.1ポイント高かった（女性8.0%、男性14.1%）。

(7) DV・性暴力等の防止に必要なこと（問18、115ページ）

回答全体を見ると、選択率の高い順に『被害者が早期に相談できるよう、相談窓口や保護施設を充実させる』（69.4%）、『加害者への罰則を強化する』（60.1%）、『学校または大学で児童・生徒・学生に対し、暴力の被害者にも加害者にもならないよう教育を行う』（58.4%）となった。

性別で見ると、男女での選択率の差は、『暴力を助長するおそれのある情報（雑誌、インターネットなど）を取り締まる』の5.8ポイントが最大（女性35.1%、男性29.3%）で、それ以外の選択肢では男女間の差は5ポイント未満に収まった。

VI. 男女共同参画社会の実現について

(1) 用語の認知度（問19、118ページ）

回答全体でみると、『言葉も内容も知っている』が高い順に「DV（配偶者や交際相手からの暴力）」（85.3%）、「マタニティ・ハラスメント」（60.9%）、「ジェンダー（社会や文化の中で形成された、性別に関する考え方や役割）」（60.7%）、「男女雇用機会均等法（雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律）」（57.3%）となった。なお、これらの項目は『言葉は知っている』の選択率まで含めると、いずれも9割を超える。

(2) 性別による無意識の思い込み（問20、137ページ）

回答全体を見ると、『そう思う』と『どちらかというと思う』の合計が5割を超えていたのは、「女性には女性らしい感性があるものだ」（計66.8%）、「男性は仕事をして家計を支えるべきだ」（計62.3%）の2項目のみだった。性別で見ると、差が大きい順に「デートや食事のお金は男性が負担すべきだ」（女性19.1%、男性27.0%）で男性が7.9ポイント「女性には女性らしい感性があるものだ」（女性69.9%、男性63.2%）で女性が6.7ポイント上回った。

一方で『そう思わない』と『どちらかというと思わない』の合計が高い順に、「同程度の実力なら、まず男性から昇進させたり、管理職に登用するものだ」（計78.6%）、「受付、接客・対応（お茶出し）は女性の仕事だ」（計74.7%）、「男性は人前で泣くべきではない」（計74.0%）となった。また、性別で見ると、5ポイント以上の差がある項目は2つのみで、順に「デートや食事のお金は男性が負担すべきだ」（女性64.5%、男性58.2%）で6.3ポイント、「結婚したら姓を変えるのは女性であるべきだ」（女性65.1%、男性59.2%）で5.9ポイントと、それぞれ女性の方が高かった。

(6) 男女共同参画社会の実現に向けて行政に望むこと（問21、152ページ）

回答全体で選択率の高い順に『保育の施設・サービスや、高齢者・病人の施設、介護サービスを充実する』（49.1%）、『条例や制度の面で見直しを行い、性別による差別につながるものを改める』（38.6%）、『労働時間の短縮や在宅勤務の普及など、男女ともに働き方の見直しを進める』（30.2%）となった。一方で、低い順には『DV や性暴力等の被害者支援を進める』（1.3%）、『男女の平等と相互理解について広報・PRする』（8.4%）、『女性の社会的・経済的な自立をめざす講座などを実施する』（8.5%）となった。

性別で見ると、『保育の施設・サービスや、高齢者・病人の施設、介護サービスを充実する』では、女性の選択率が男性よりも9.3ポイント高かった（女性53.1%、男性43.8%）。また、『政策や方針決定の場に女性を積極的に登用する』では、男性が女性より5.3ポイント高かった（女性24.6%、男性29.9%）。

第三章 調査結果の詳細

第3章 調査結果の詳細

I. 男女の平等について

問1 現在の日本の社会において、次にあげる分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。（各分野についてあてはまる番号に1つずつ○をつける）

回答全体でみると、どの項目においても男性の優遇の割合（『男性が優遇されている』『どちらかと言えば男性が優遇されている』の和、以下同じ）が、女性の優遇の割合（『女性が優遇されている』『どちらかと言えば女性が優遇されている』の和、以下同じ）を上回っている。また、『平等である』の選択率は、「学校教育の場では」（44.3%）、「家庭の中では」（33.3%）、「法律や制度の上では」（30.2%）、「職場の中では」（26.1%）の順に高い。一方で、『平等である』の選択率が最も低いのは「社会通念・地域の慣習・しきたりの上では」（12.2%）となった。

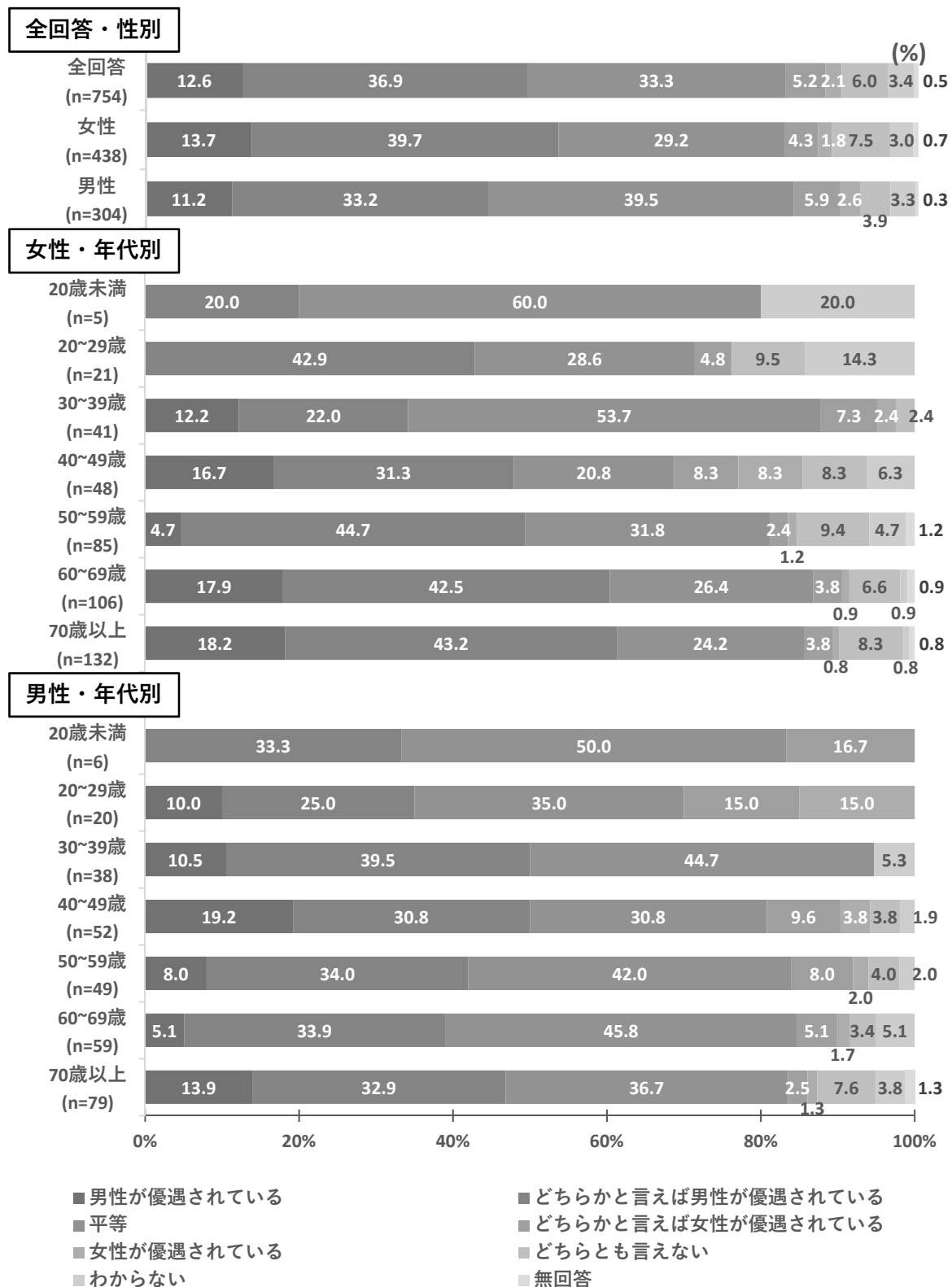
男女それぞれの選択率をみると、女性の選択率では、「政治の場では」（9.1%）、「社会通念・地域の慣習・しきたりの上では」（8.9%）で、『平等である』の選択率が1割未満となっている。一方で、男性では「政治の場では」（17.4%）、「社会通念・地域の慣習・しきたりの上では」（17.1%）と女性同様に選択率が低くなっているものの、1割を下回った項目は無かった。

また、男女間を比較すると、全ての項目で『平等である』の選択率が男性で女性より高く、「法律や制度の上では」（男性39.8%、女性24.2%）、「地域活動の中では」（男性36.2%、女性24.4%）、「家庭の中では」（男性39.5%、女性29.2%）の選択率で、それぞれ10ポイント以上の開きがあった。

1-1. 家庭内における男女の地位の平等意識

年代別にみると、『平等である』の選択率は、女性が53.7%（第1位）、男性44.7%（第2位）と、男女ともに30歳代が他の年代と比べて高くなっている。また、女性の回答では年齢層が上がるほど、男性の優遇の割合が上がる傾向が見られる。

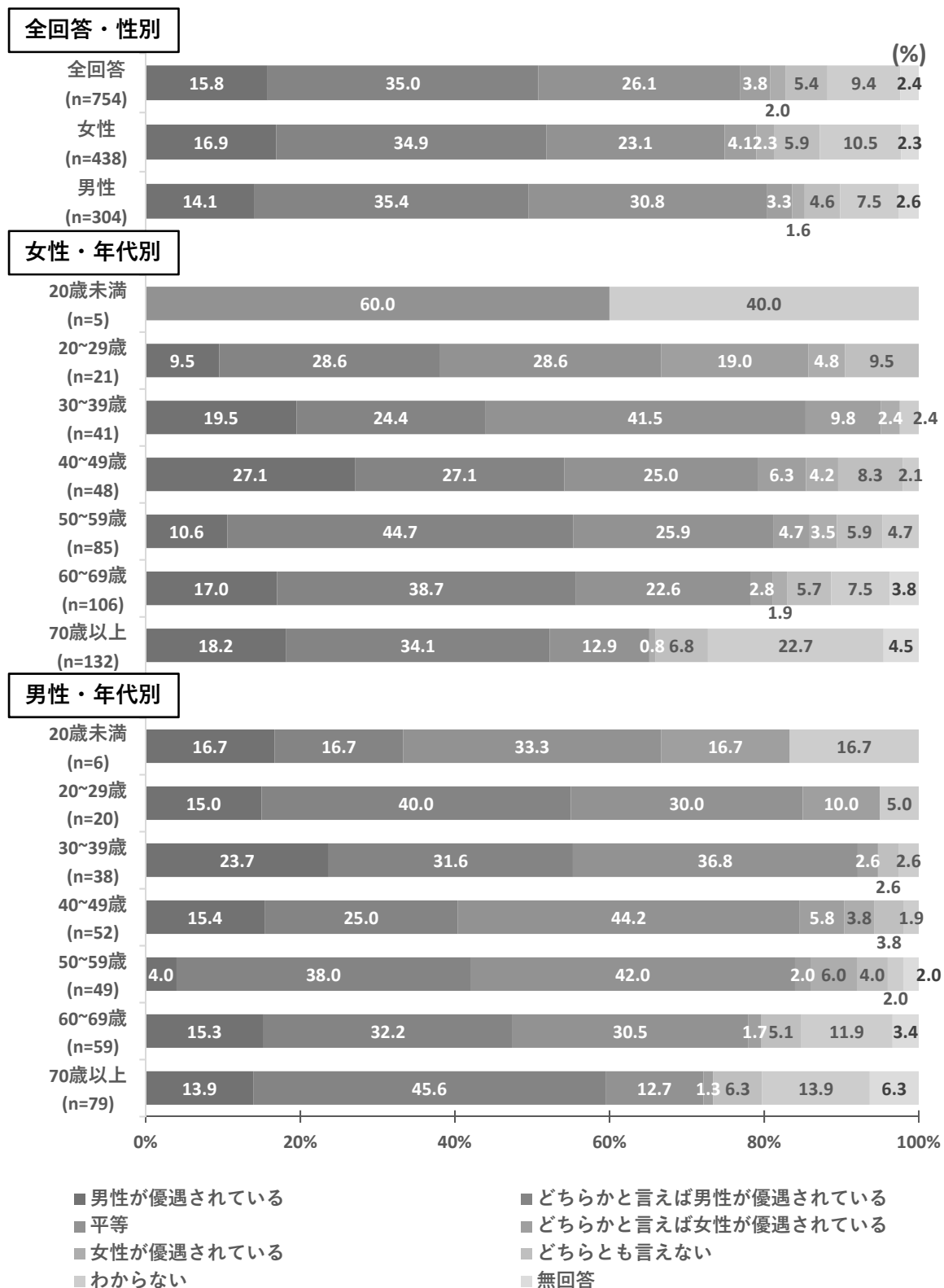
図表3-1-1. 男女の地位の平等意識（家庭の中では、性別・年代別比較）



1-2. 職場における男女の地位の平等意識

年代別にみると、『平等である』の選択率は、女性では30歳代が41.5%、男性では40歳代が44.2%と、最も高くなっている。なお、男性では40歳代を頂点に、年代が上がっていくにつれて『平等である』の選択率が下がっていき、男性の優遇の割合が上がる傾向が強くなっている。

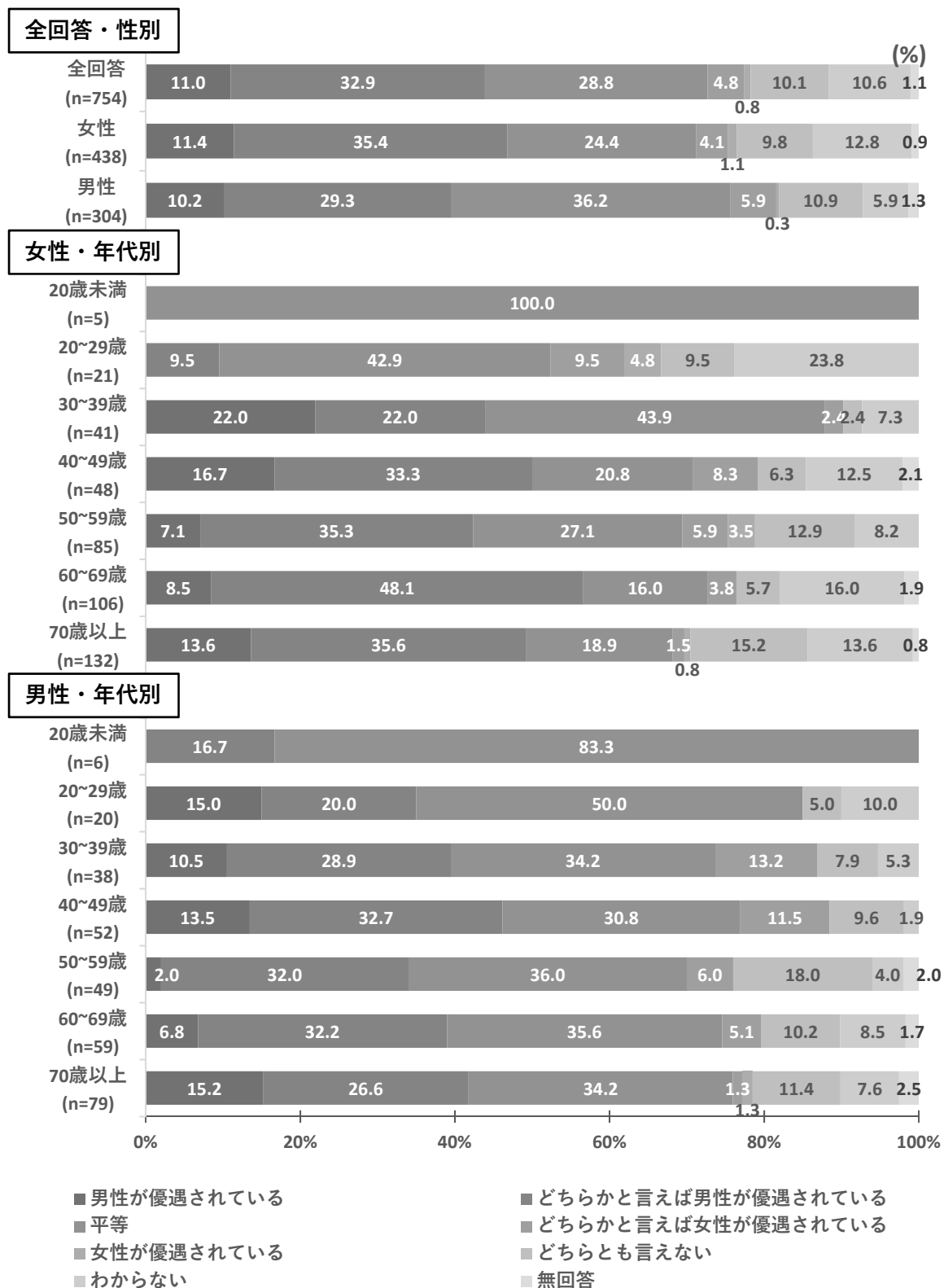
図表3-1-2. 男女の地位の平等意識（職場の中では、性別・年代別比較）



1-3. 地域活動における男女の地位の平等意識

男女での平等意識に差がある項目の一つとなった。年代別にみると、女性での『平等である』の選択率は、60歳以上での選択率が他の年代よりも低くなっていき、それと替わるように『どちらとも言えない』、『わからない』が占める割合が上がっていくが、男性では微増傾向となるため、全体として差が生じている。

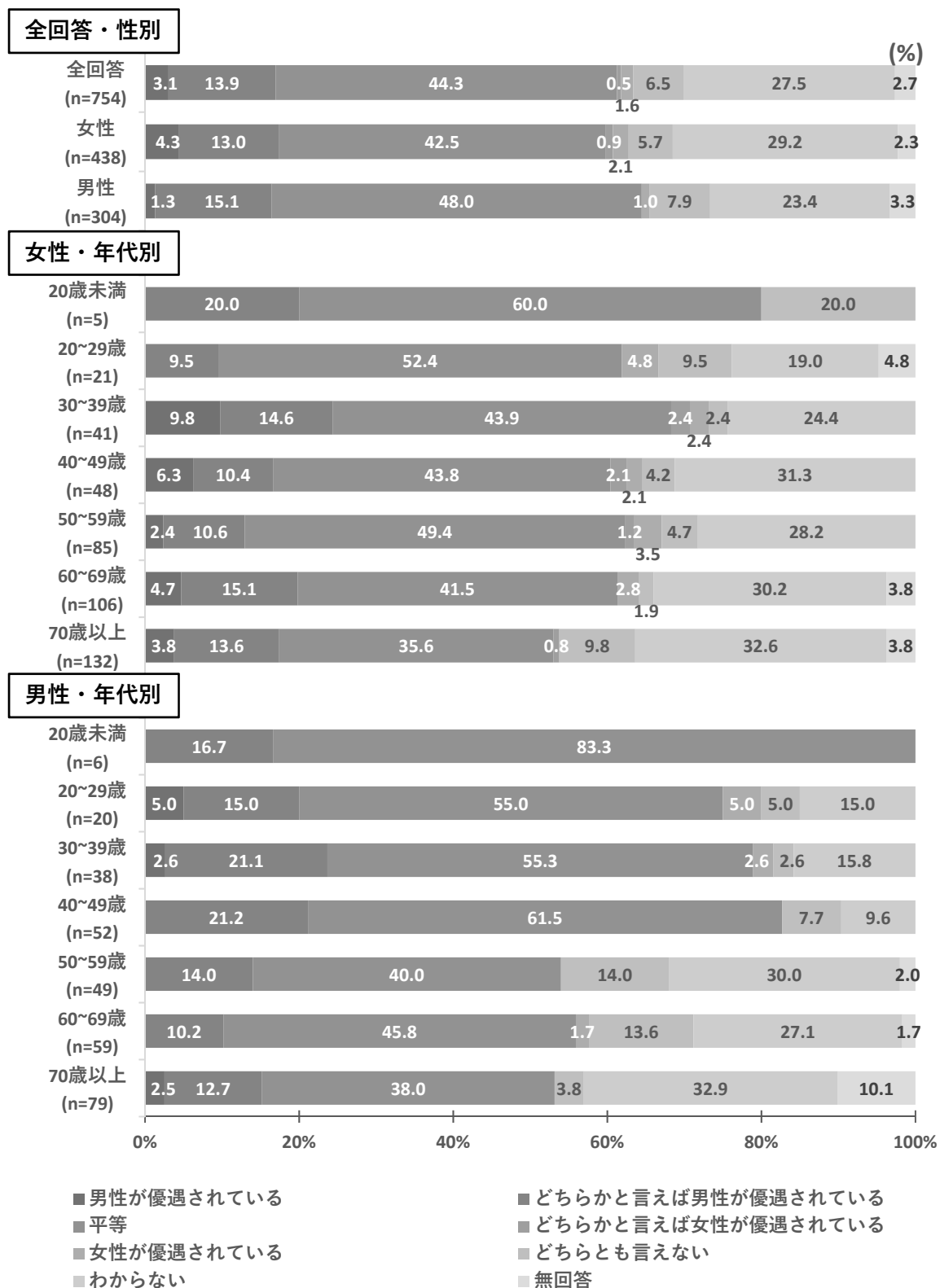
図表3-1-3. 男女の地位の平等意識（地域活動の場では、性別・年代別比較）



1-4. 学校教育における男女の地位の平等意識

『平等である』の選択率が他の項目よりも高かったが『わからない』の割合も他の項目よりも2倍以上高かった。年齢別にみると、男性では『平等である』の選択率が40歳代を頂点に50歳以降では大きく減り、『わからない』が大きく増えた。女性では70歳以上の『平等である』の選択率が他の年代よりも低くなっている。

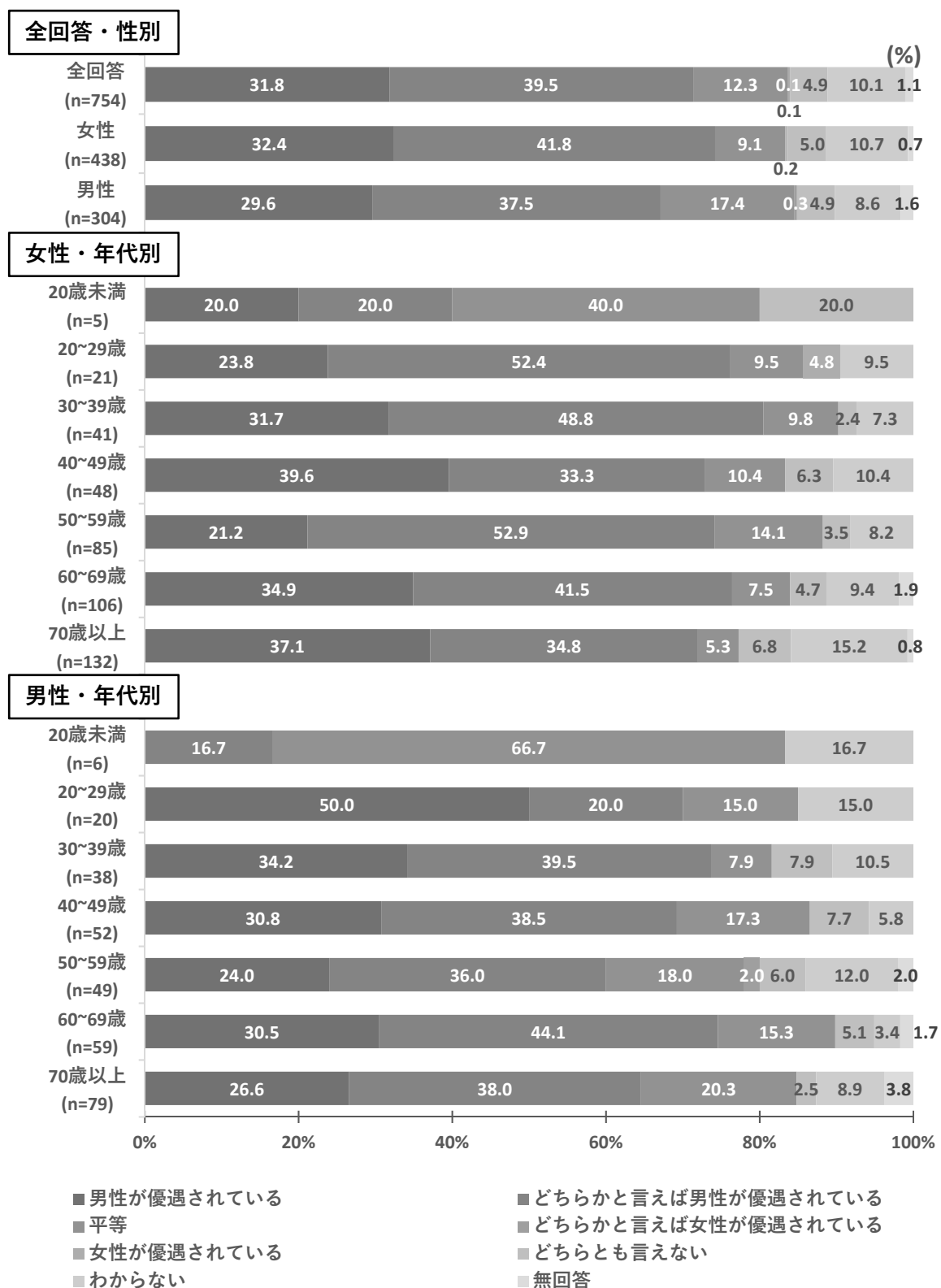
図表3-1-3. 男女の地位の平等意識（地域活動の場では、性別・年代別比較）



1-5. 政治における男女の地位の平等意識

『平等である』の選択率は特に60歳以上の女性で大きく減っており、全体を押し下げる要因となった。また、どの世代でも男性の優遇の割合が大きい。男性では年齢が上がる＆『男性が優遇されている』の選択率が減るが、『どちらかと言えば男性が優遇されている』の選択率も上がり、男性の優遇の割合は維持されている。

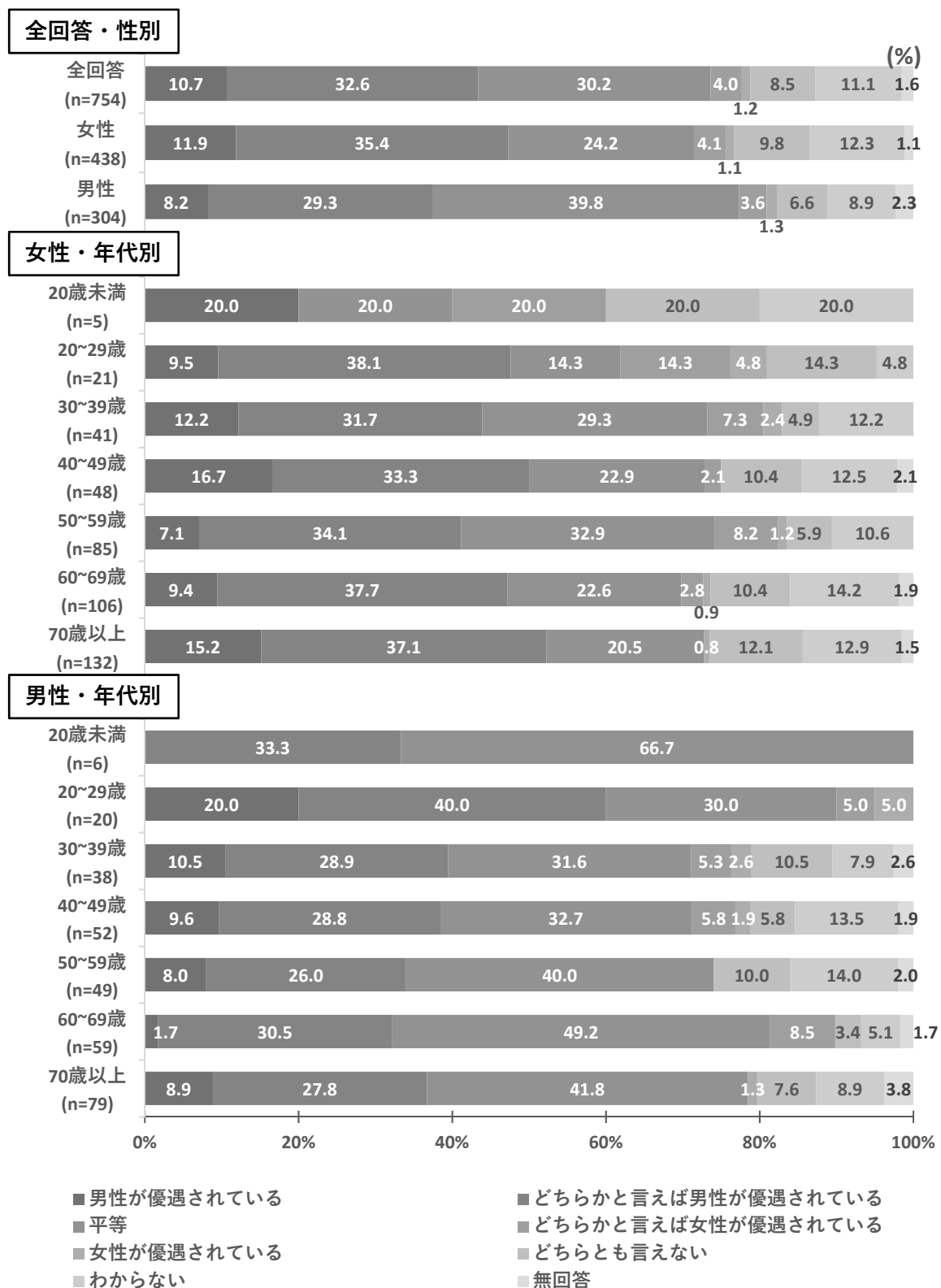
図表3-1-5. 男女の地位の平等意識（政治の場合は、性別・年代別比較）



1-6. 法律や制度における男女の地位の平等意識

『平等である』の選択率は他の項目に比べて高いものの、男女間でその差が大きい項目である。40歳以降で選択率に10ポイント前後の差があり、60歳以上で更にその差が開く。60歳以降で女性は『平等である』と答える割合が低下するのに対し、男性は増加するため、全体で見た場合の乖離となって表れている。

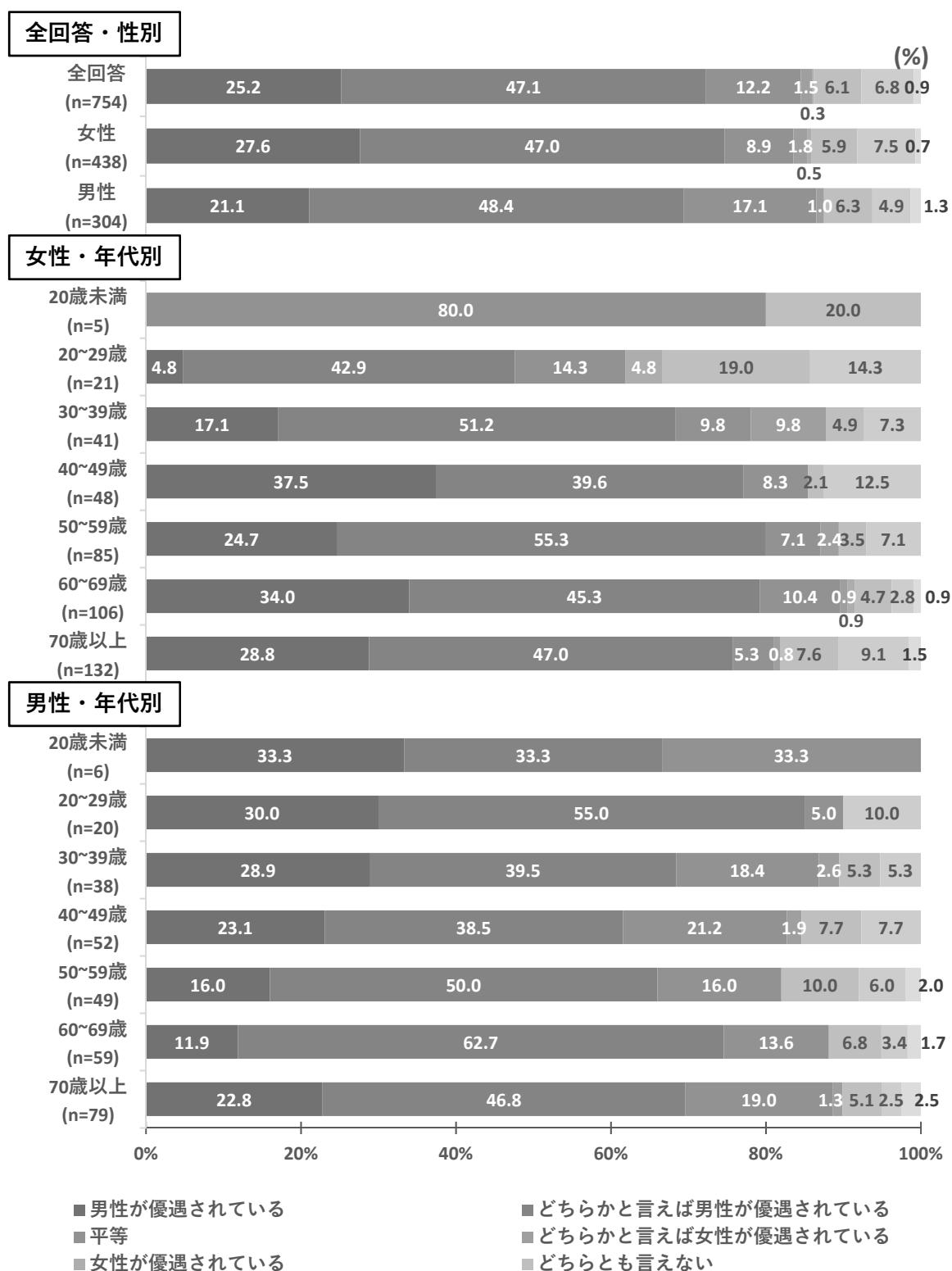
図表3-1-6. 男女の地位の平等意識（法律や制度の上では、性別・年代別比較）



1-7. 社会通念や慣習、しきたり等における男女の地位の平等意識

『平等である』の選択率が低い項目である。男女別でも差が大きく、女性は『平等である』と答える割合が1割に満たない層が多く、特に70歳以上は他の年齢層よりも低い(5.3%)。男性では各年齢層で1割～2割前後の選択率となり、男女間を全体として比較した場合、8.2ポイントの差が生じている。

図表3-1-7. 男女の地位の平等意識（社会通念・地域の慣習・しきたりの上では、性別・年代別比較）



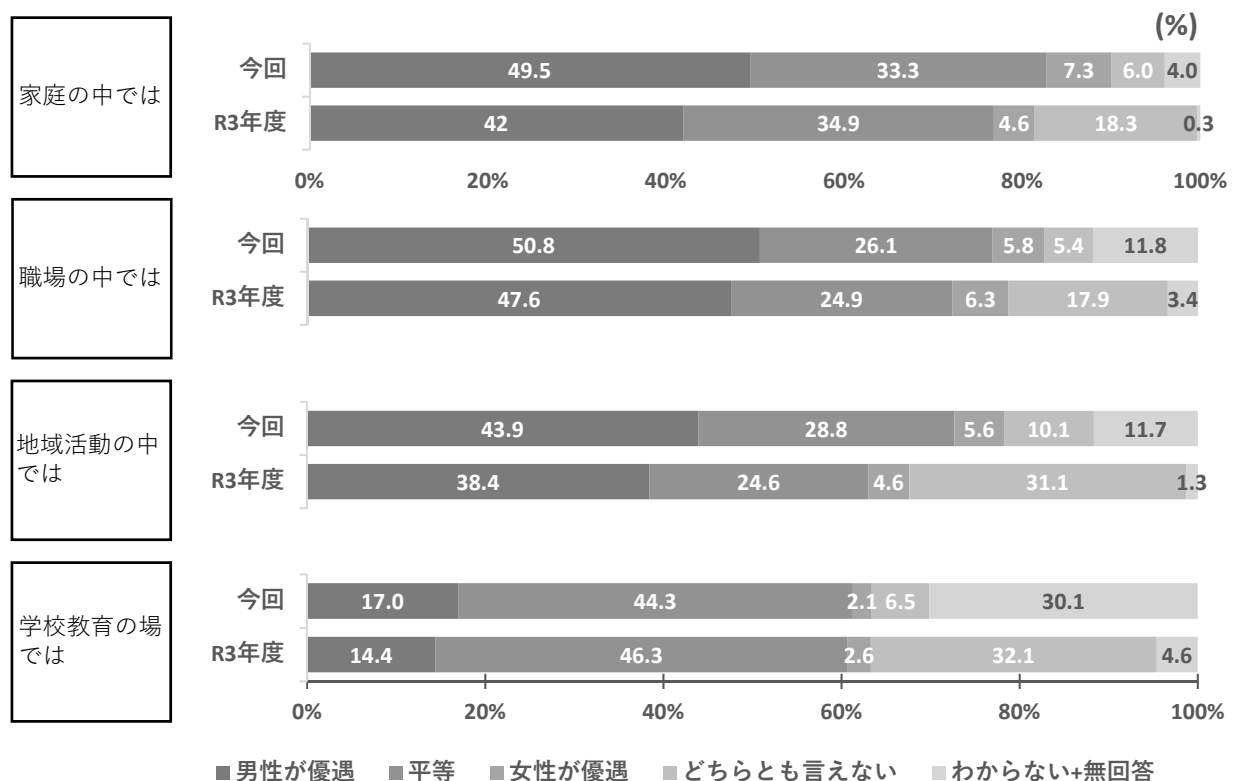
1-8. 男女の地位の平等意識の比較（前回調査との比較）

前回調査（令和3年度実施）の結果と比較する。前回調査では今回より調査項目と選択肢が少なかったため、比較できる範囲は限られている。なお、前回調査と比較できるよう、今回調査の結果を男性の優遇の割合と女性の優遇の割合に集計（『どちらかと言えば』を『優遇されている』と合計する）として表示している。

『平等である』の選択率は、「職場の中では」「地域活動の中では」で改善がみられるものの、「家庭の中では」、「学校教育の場では」においては同様の幅で悪化がみられる。また、どの項目でも男性の優遇の割合が上がっている。

なお、第2次白山市男女共同参画行動計画において「職場において『男女の地位が平等』と考える人の割合」を令和8年度（2026年度）までに30%とする数値目標が掲げられている。前回調査から割合に改善が見られるものの、4.9ポイント下回って対策が求められる。

図表3-1-8. 男女の地位の平等意識（令和3年度調査との比較）



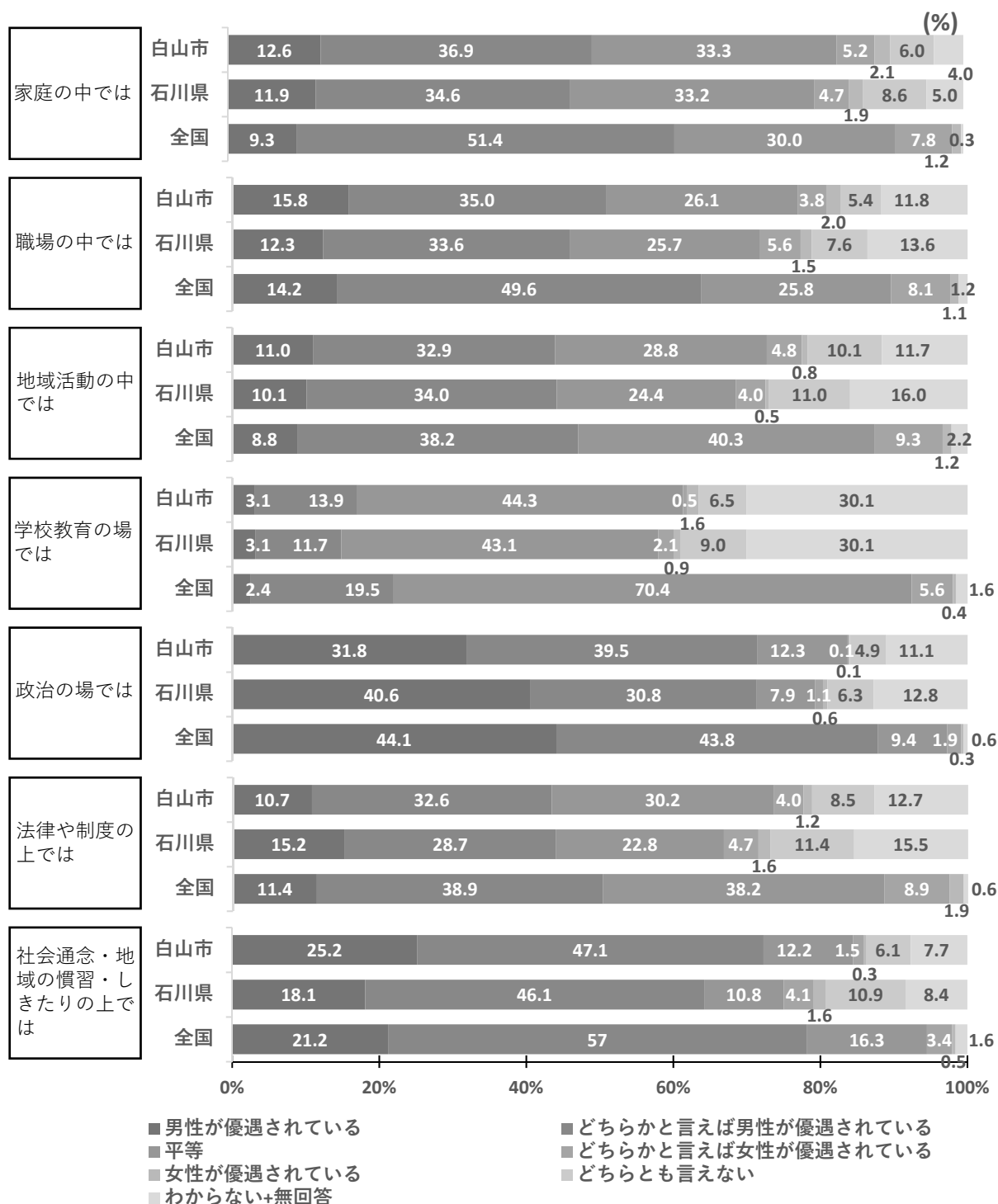
※今回調査（n=754）、令和3年度調査（n=700）

1-9. 男女の地位の平等意識の、県や全国との比較

全国（内閣府、令和5年度実施）と石川県（令和6年度実施）の調査結果と比較する。内閣府調査では、『わからない』の選択肢が無いため、石川県と白山市の結果は『無回答』と合算して集計している（図表3-1-9）。そのため、白山市と石川県に無回答が多く見える。

『平等である』の選択率は、「家庭の中では」「職場の中では」「政治の場では」の項目で全国や県に比べてわずかに高くなった。「政治の場では」については本調査結果でも最低水準を争う項目となっていたが、全国的に低水準の項目だと考えられる。また、どの項目でも石川県よりも『平等である』の選択率が高かったが、「地域活動の中では」「学校教育の場では」「法律や制度の上では」において全国よりも低くなった。

図表3-1-9. 男女の地位の平等意識（石川県、全国調査との比較）



※白山市（n=754）、石川県（n=1,102）、全国（n=2,673）

II. 家庭生活等について

問2 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、どう思いますか。
(各分野についてあてはまる番号に1つつつ○をつける)

回答全体でみると、男女間で同様の選択率の構成となっている（図表3-2-1）。非賛成合計（『あまり賛成しない』と『賛成しない』の合計）の割合が最も高く、賛成合計（『賛成』と『やや賛成』の合計）の割合が最も低く、『どちらとも言えない』がその間の選択率となった。なお、この項目では無回答が無かった。

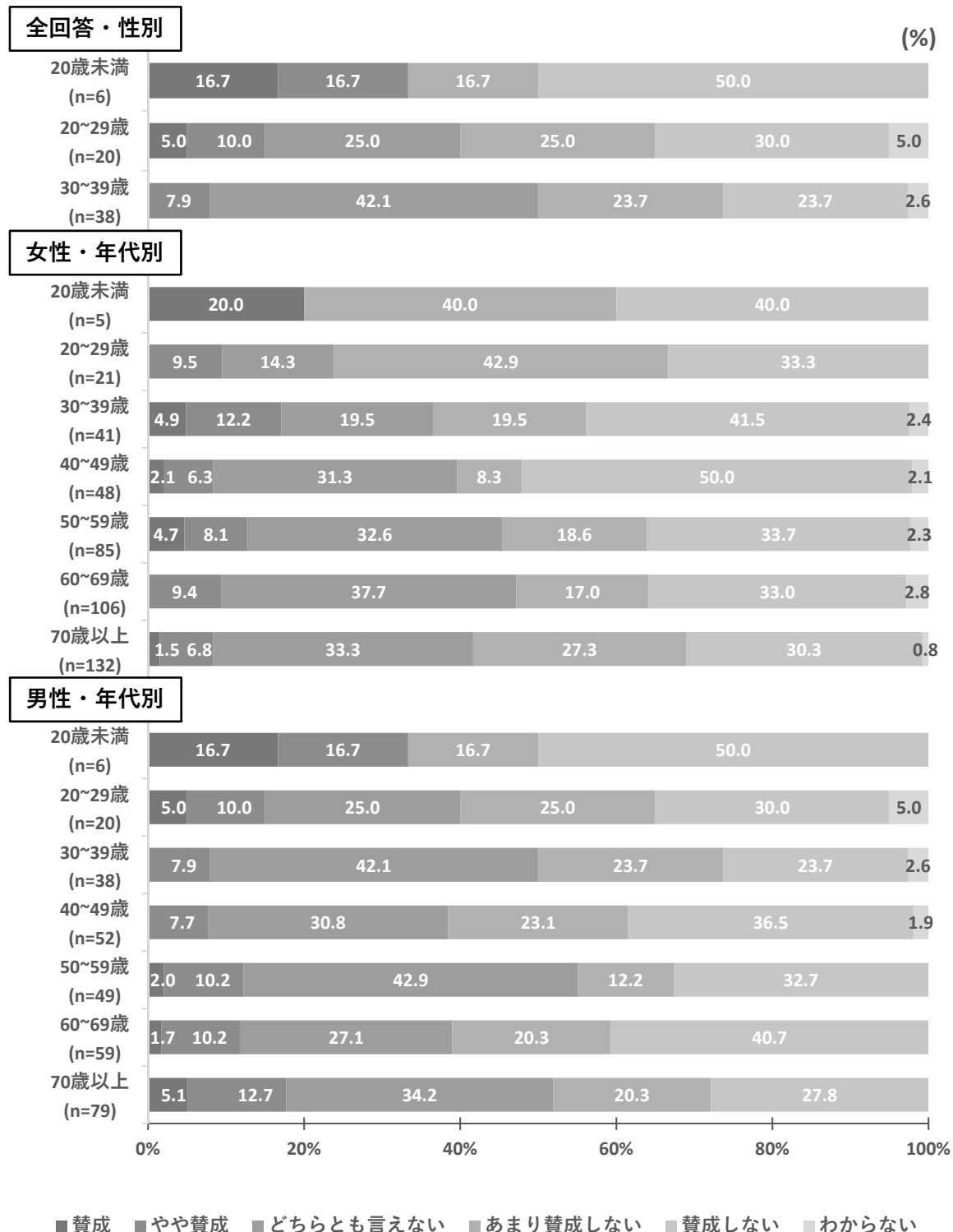
非賛成合計と賛成合計の差は、女性においては45.8ポイント（非賛成合計56.3%、賛成合計10.5%）で、男性においては39.9ポイント（非賛成合計52.7%、賛成合計12.8%）となった。『どちらとも言えない』の選択率も女性の方が低く（女性31.4%、男性33.6%）、女性の方が賛成してしないことがわかる。

年代別に見ると、女性では70歳以上でまた非賛成の割合が上がるものの、高い年代層ほどその割合が下がる傾向にある。一方で男性では『どちらとも言えない』の選択率が高い世代（40%超）と低い世代（30%前後）が10歳代ごとに交互に見られるため、年齢が上がることで生じる傾向は特に見られなかった。ただ、賛成合計の割合は年代によって大きな変化はないため、『どちらとも言えない』から『賛成しない』の賛成していない層が多くを占めていることが考えられる。

2-1. 「男は仕事、女は家庭」という考え方に対する意識

年代別に見た場合、『賛成しない』の選択率は40～49歳で最も高くなり（50%）、それより上の世代では30%台前半で推移している。この年代は『賛成しない』が高い一方で、『あまり賛成しない』の選択率は他の世代より大きく低く（8.3%）、全体として非賛成の割合は他年代と比較して高くはなっていない。

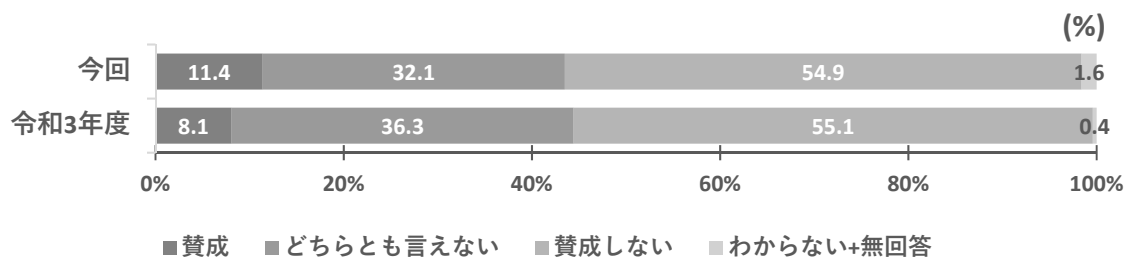
図表3-2-1. 「男は仕事、女は家庭」という考え方に対する意識（性別、年代別比較）



2-2. 「男は仕事、女は家庭」という考え方に対する意識の経年比較

前回調査と比較する。前回調査は今回調査より尺度の幅が小さかったため、今回調査の結果を集計して比較する（図表3-2-2）。今回調査の賛成合計と非賛成合計が、前回調査の『賛成』と『賛成しない』に対応する。また、『わからない』の選択肢がなかったため、無回答と合計して表示する。前回調査と比較した場合、『賛成』の選択率が増えた一方で『賛成しない』と『どちらとも言えない』の選択率は下がった。

図表3-2-2. 「男は仕事、女は家庭」という考え方に対する意識（前回調査比較）



※全体（n=754）、令和3年度（n=700）

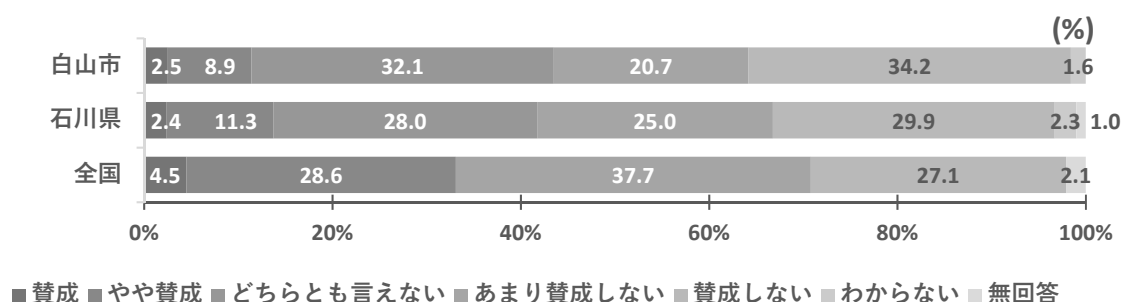
2-3. 「男は仕事、女は家庭」という考え方に対する意識の、県や全国との比較

国（内閣府、令和5年度実施）および石川県（令和6年度実施）の調査結果と比較する。なお、内閣府の調査では『どちらとも言えない』の表記が無いため、その部分は表示されていない（図表3-3-3）。

石川県の調査結果と比べた場合、『賛成しない』の選択率が高いものの、『あまり賛成しない』の選択率が低く、非賛成合計は同水準となっている（ともに54.9%）。また、『どちらとも言えない』の選択率が石川県より高くなっている（白山市32.1%、石川県28.0%）。

全国調査と比較した場合、『どちらとも言えない』の選択肢の欠如による影響が未知数ではあるが、強い意思表示となる選択肢である『賛成しない』と『賛成』への影響は低いと考えられる。これらと比較した場合、『賛成しない』の選択率は白山市の方が高く（白山市34.2%、全国27.1%）、『賛成』の選択率は全国の方が高い（白山市2.5%、全国4.5%）。

図表3-2-3. 「男は仕事、女は家庭」という考え方に対する意識（石川県、全国調査との比較）



※白山市（n=754）、石川県（n=1,102）、全国（n=2,673）

2-4. 「男は仕事、女は家庭」に賛成する理由

**問 2-1 問2で「1.賛成」「2.やや賛成」と答えた方にお聞きます。そう思うのはなぜですか。
(あてはまる番号すべてに○をつける)**

前問にて、賛成合計の各選択肢（『賛成』または『やや賛成』）を選んだ回答者に、その理由を尋ねた（図表3-2-4）。

全体では『家事・育児・介護と両立しながら、女性（妻）が働き続けることは大変だから（64.0%）』、『女性（妻）が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いから（59.3%）』の両選択肢が他のものに20ポイント以上の差をつけて多く回答された。前者の選択肢は女性の高年齢層の選択率が高く、女性全体としても男性よりも選択率が15ポイント以上高かった（女性71.7%、男性56.4%）。後者は男性の選択率が高かったものの、男女の選択率に大きな差は見られなかった（女性58.7%、男性59.0%）。男性の高年齢層の選択率が高い。

2-5. 「男は仕事、女は家庭」に反対する理由

問2-2 問2で「4.あまり賛成しない」「5.賛成しない」と答えた方にお聞きます。そう思うのはなぜですか。(あてはまる番号すべてに○をつける)

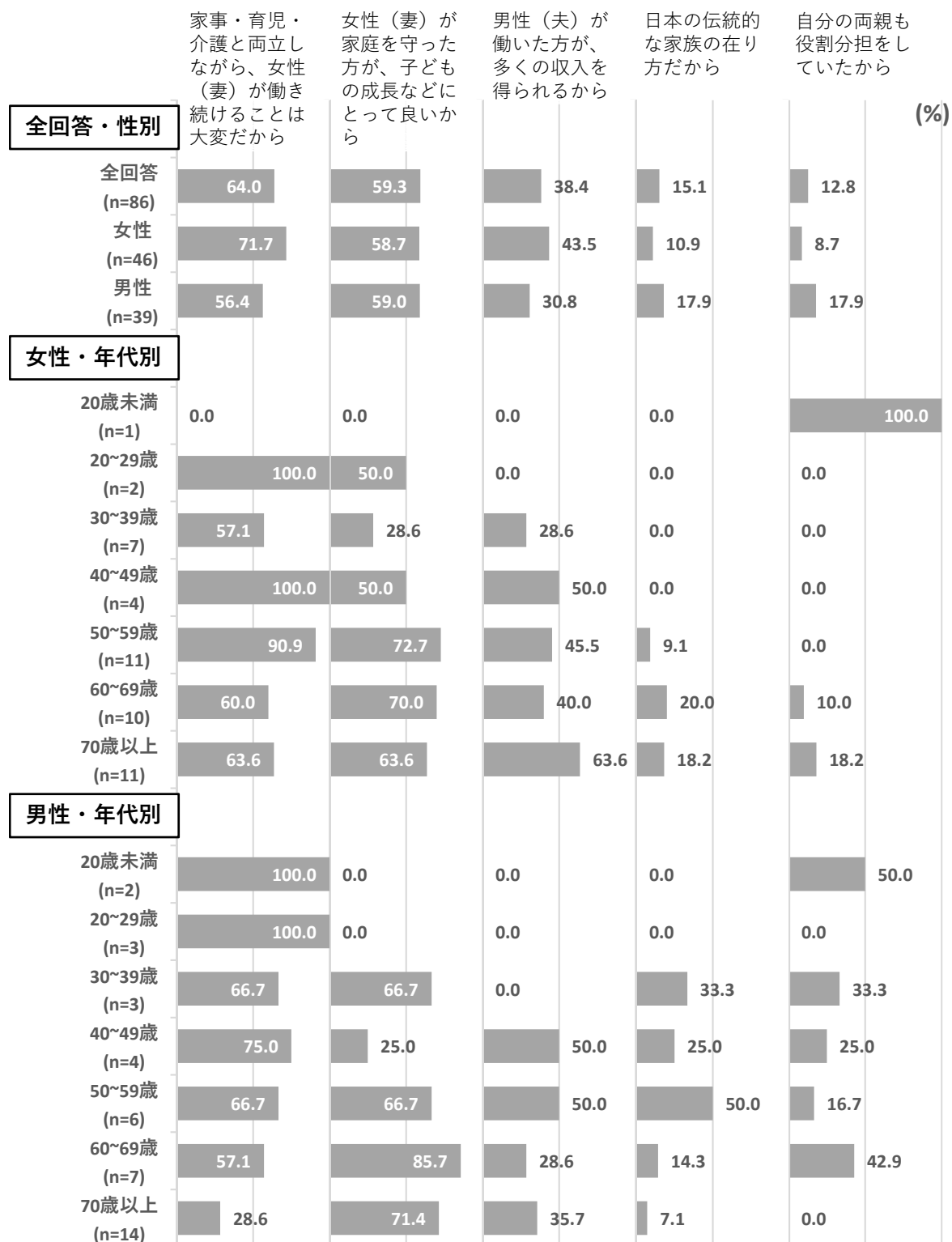
前問と同様に、非賛成合計の各選択肢（『あまり賛成しない』と『賛成しない』）を選んだ回答者に、その理由を尋ねた（図表3-2-4）。

全体では『固定的な男性(夫)と女性(妻)の役割分担の意識を押しつけるべきではないから（70.0%）』、『男性(夫)、その他の家族と協力しながら家事・育児・介護を両立することは可能だから（55.3%）』、『男性(夫)も女性(妻)も働いた方が多くの収入を得られるから（40.3%）』と続いた。それぞれの選択肢への選択率については男女差はあまりないものの、年代別にみると、『固定的な男性(夫)と女性(妻)の役割分担の意識を押しつけるべきではないから』では、男女ともに、『男性(夫)、その他の家族と協力しながら家事・育児・介護を両立することは可能だから』では女性に、40~50歳代を頂点に選択率が山なりになる傾向がそれぞれ見られた。

2-4. 「男は仕事、女は家庭」に賛成する理由

全体では上位2選択肢で圧倒的に選択率が高いものの、下位2選択肢（『日本の伝統的な家族の在り方だから（15.1%）』、『自分の両親も役割分担をしていたから（12.8%）』）は、選択率がそれぞれ1割台と低く、女性の選択が少なかった。この回答では該当する回答者が少なく、各年代の回答者数も少なくなった。そのため、全体の選択率が低い選択肢で高い選択率が出ている場合があるが、その回答者実数はとても少ないため注意が必要である。

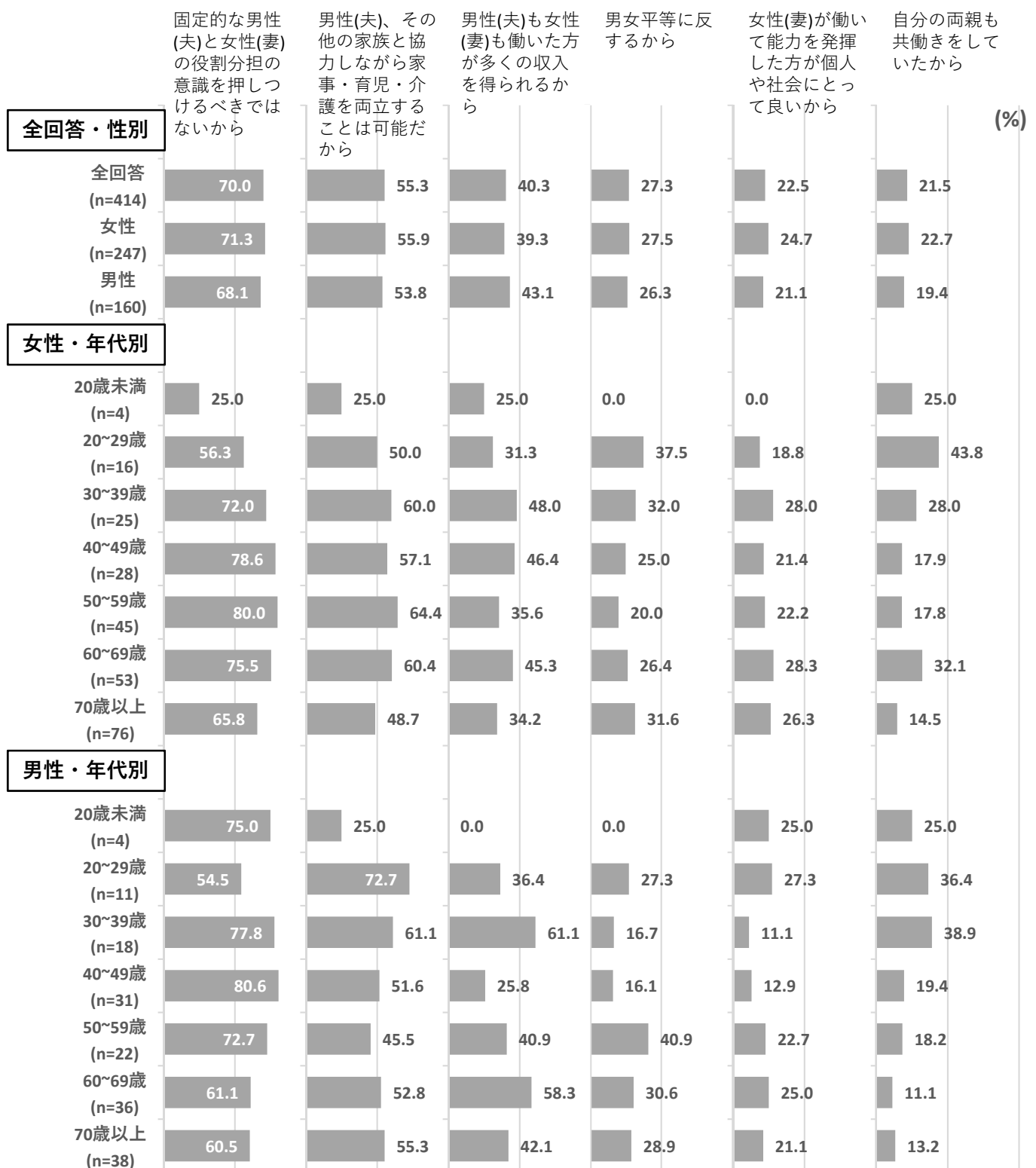
図表3-2-4. 「男は仕事、女は家庭」という考え方に賛成する理由（性別、年代別比較）



2-5. 「男は仕事、女は家庭」に賛成する理由

選択率下位の選択肢3つ（『自分の両親も共働きをしていたから（21.5%）』、『女性(妻)が働いて能力を発揮した方が個人や社会にとって良いから（22.5%）』、『男女平等に反するから（27.3%）』）は、それぞれ2割台となっている。これらはそれぞれ性別間での回答割合の分布に性別間での大きな差は見られない。最下位の選択肢は選択率では高い数値が見られるものの、回答者の絶対数が少ないため、全体としての選択率が下がっている。

図表3-2-5. 「男は仕事、女は家庭」という考え方に反対する理由（性別、年代別比較）

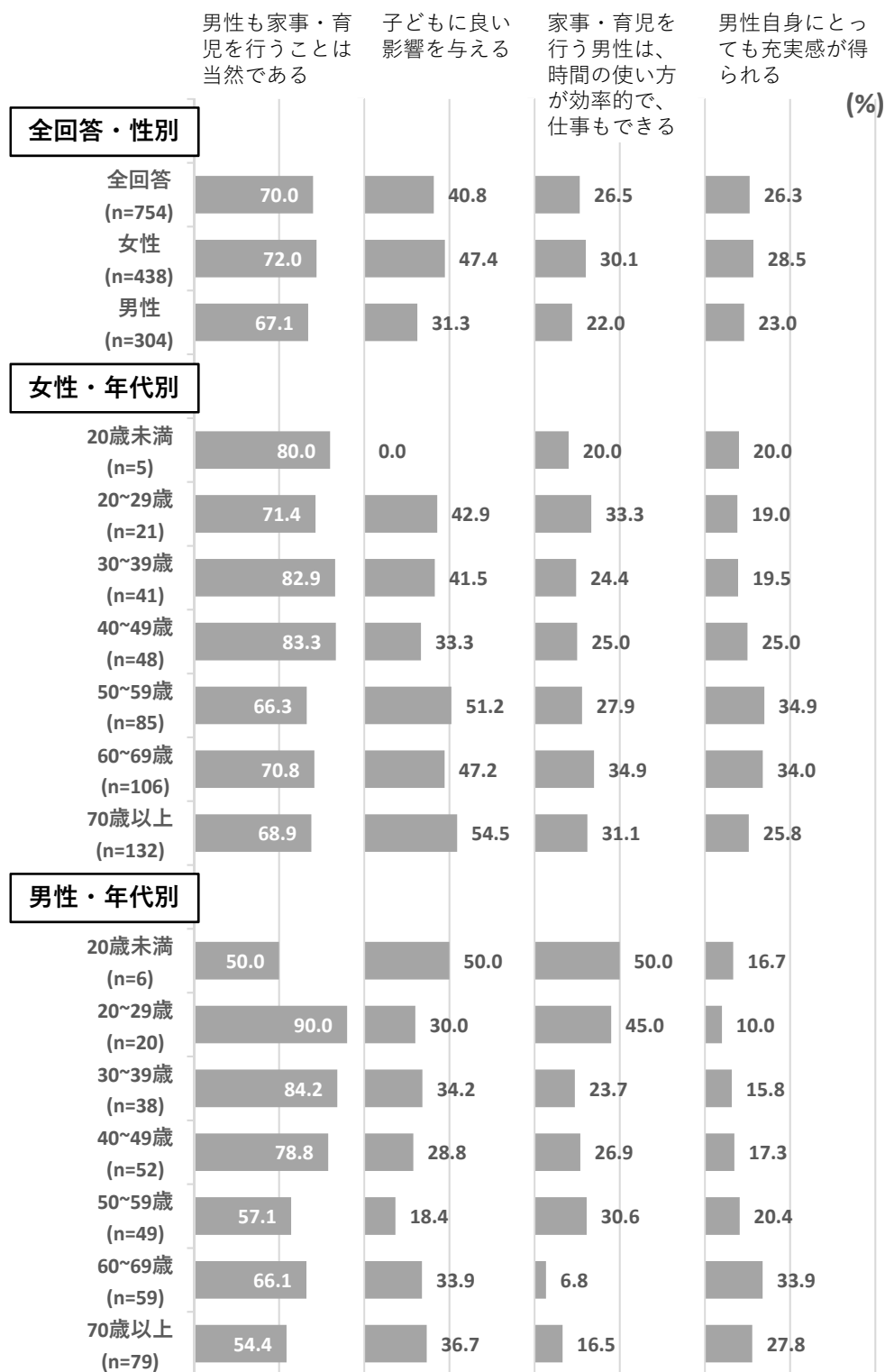


2-6. 男性が家事や育児を行うことに対する意識

問3 あなたは男性が家事・育児を行うことについて、どのようなイメージをお持ちですか。
(あてはまる番号すべてに○をつける)

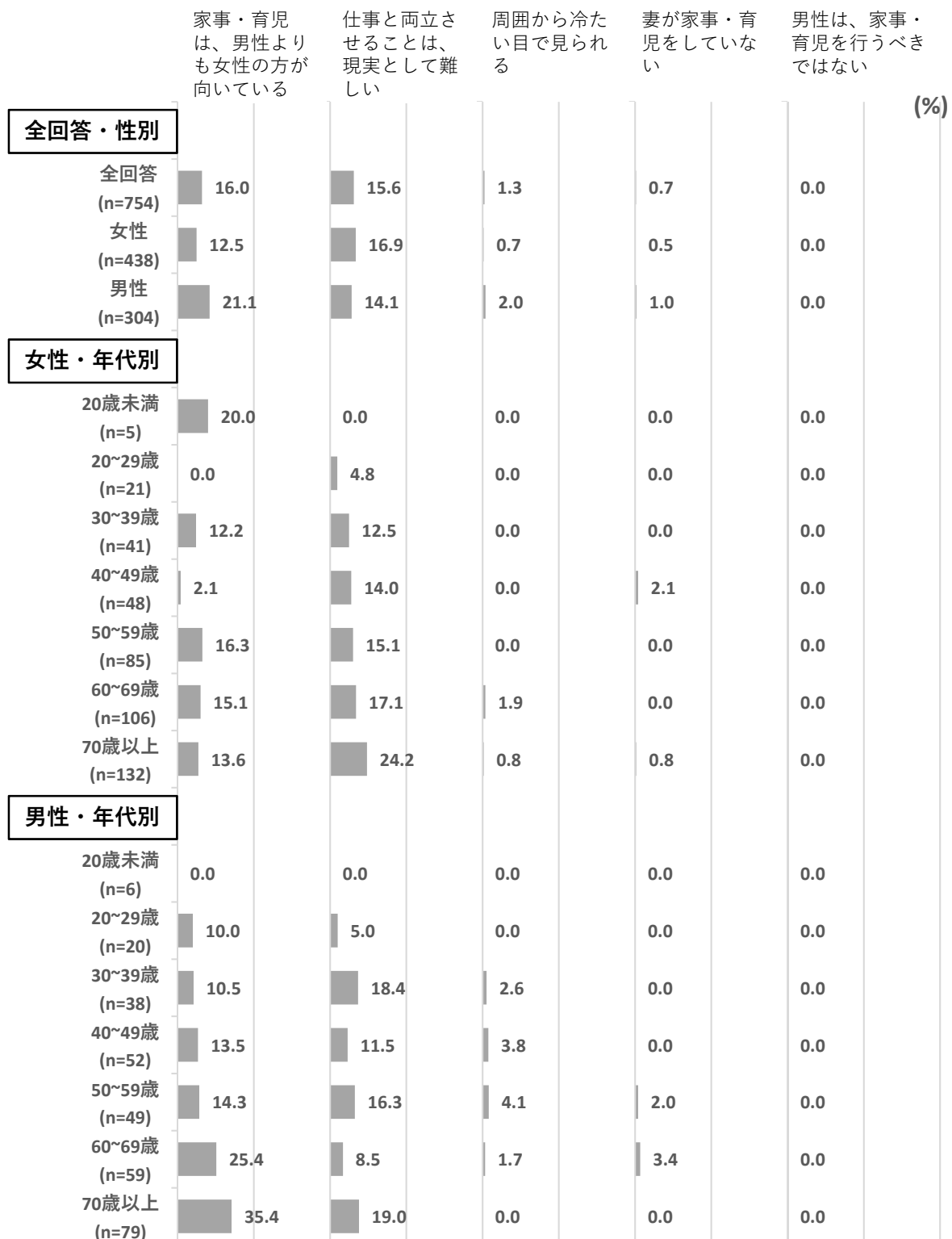
全体では高い順に『男性も家事・育児を行うことは当然である（70.0%）』、『子どもに良い影響を与える（40.8%）』『子どもに良い影響を与える（26.5%）』と続いた。当然だとする回答が圧倒的に高く、特に40歳代までの選択率が、それ以降の選択率よりも高かった。

図表3-3-1-1. 男性の家事や育児へ従事することに対する意識（性別、年代別比較）①



一方で選択率が低い順には、『男性は、家事・育児を行うべきではない（0.0%）』、『妻が家事・育児をしていない（0.7%）』、『周囲から冷たい目で見られる（1.3%）』となった。これら3つの選択肢はそれぞれ1%台以下と、他の選択肢より顕著に低い選択率となった。また、『仕事と両立させることは、現実として難しい』との回答は、女性は年齢が上がるほど選択率が上がるものの、男性には顕著な傾向が無い。対照的に『家事・育児は、男性よりも女性の方が向いている』では、男性に年代で選択率が上がる傾向が見られた。

図表3-3-1-2. 男性の家事や育児へ従事することに対する意識（性別、年代別比較）②



2-7. 男性に家事等への参加を促すために必要な施策

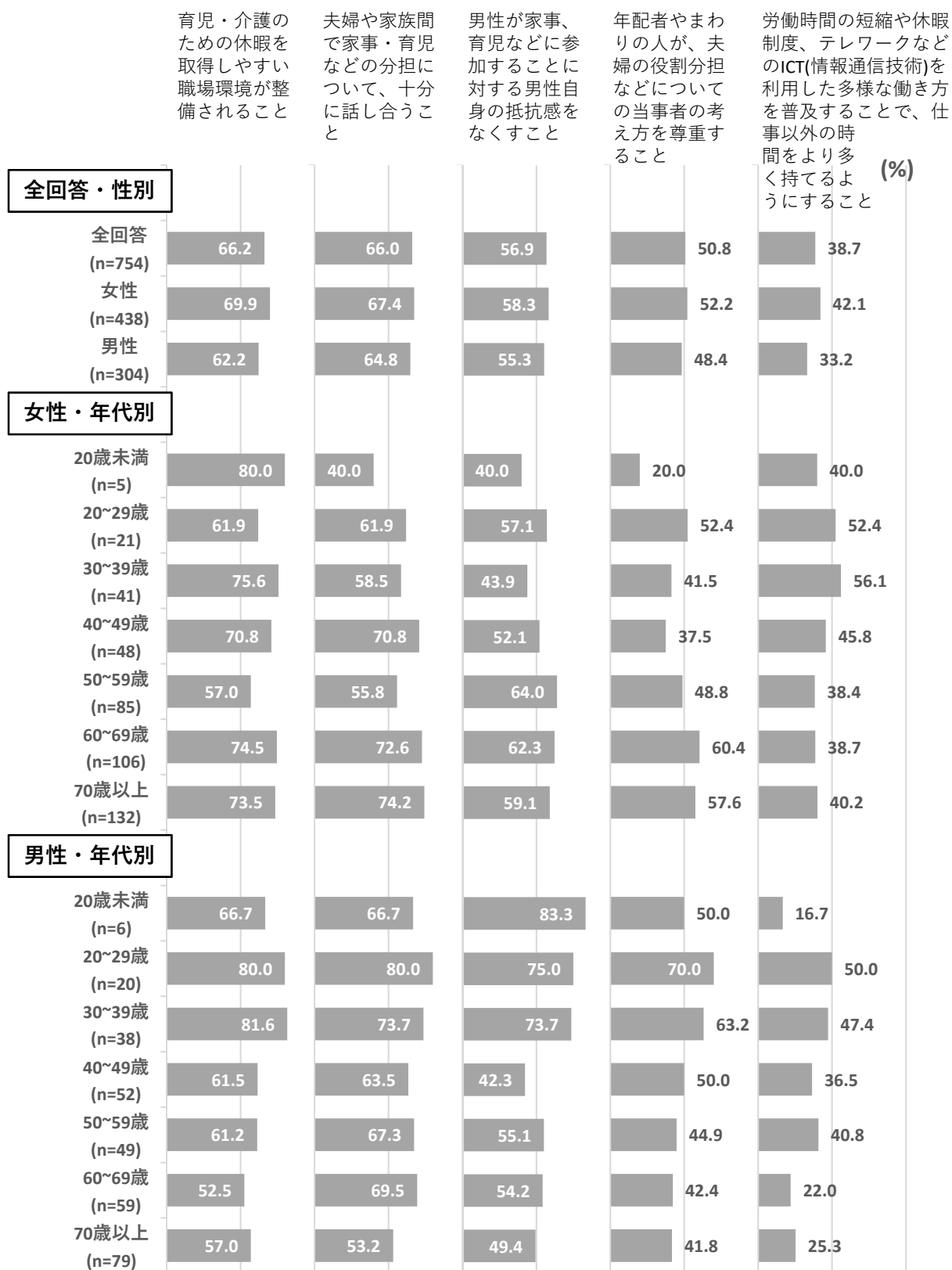
問4 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。(あてはまる番号すべてに○をつける)

全体の選択率は、高い順に『育児・介護のための休暇を取得しやすい職場環境が整備されること（66.2%）』、『夫婦や家族間で家事・育児などの分担について、十分に話し合うこと（66.0%）』『男性が家事、育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと（56.9%）』となった（図表3-2-7-1）。

一方で、必要と思われる対策で選択率が低いのは、順に『男性が家事・育児などを行うための、仲間（ネットワーク）づくりをすすめること（15.9%）』、『男性の家事・育児などについて、啓発や情報提供、相談窓口の設置、技能の研修を行うこと（18.7%）』、『男性が家事・育児などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと（23.9%）』となった（図表3-2-7-2）。なお、『特に必要なことはない（2.0%）』との回答は低かった。

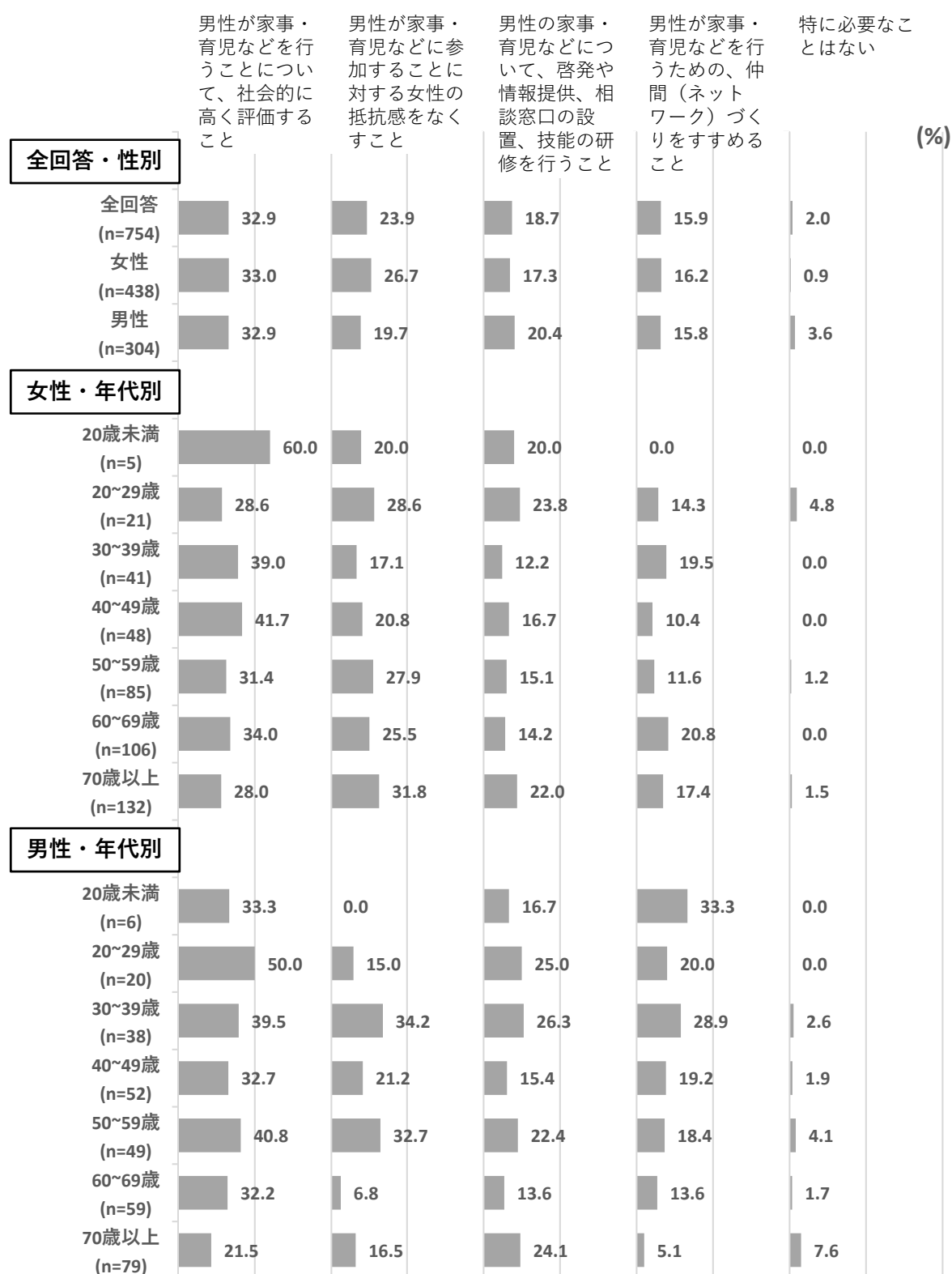
高い項目を年齢別にみると、『育児・介護のための休暇を取得しやすい職場環境が整備されること』、『夫婦や家族間で家事・育児などの分担について、十分に話し合うこと』『男性が家事、育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと』では、男性の選択率に40歳を境に隔たりがある。若年層では男性全体より選択率が高いが、40歳以降では下がって男性全体と同等の選択率となる。

図表3-4-1-1. 男性に家事等への参加を促すために必要な施策（性別、年代別比較）①



低い項目を年齢別にみると、『男性が家事・育児などを行うための、仲間（ネットワーク）づくりをすすめること』では、年齢が上がるほど選択率が下がっていく。また、『男性が家事、育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと』では、女性の選択率は30~49歳が2割程度と低いものの、その他の年代が2割台後半から3割前後となっている。一方で男性では年代観での傾向は乏しく、3割台半ばから1割未満まで、多様な選択率となっており、結果として全体での選択率は女性が男性を上回っている。

図表3-4-1-2. 男性に家事等への参加を促すために必要な施策（性別、年代別比較）②



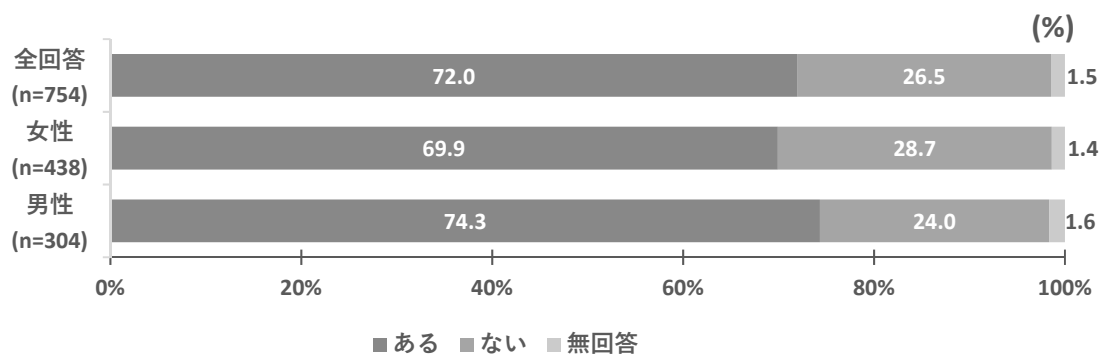
III.職業等について

問5 あなたは過去1年に仕事（収入を得る仕事）をしていたことがありますか。

職場での男女の地位に関する意識を尋ねるに先立ち、回答者に直近一年間での就業経験を尋ねた。以降に続く問のうち、職場での男女の地位にかかる質問の全体数にあたる回答数は、この質問で『ある』と答えた回答者（女性307件、全体比69.9%および男性227件、全体比74.3%）となる。

なお、仕事をしていた（あるいはしている）層は、全体の7割強である。男女別には、女性で約7割、男性で7割半ばとなった。

図表3-5-1. 直近一年間での就業の有無（男女別）



問6 問5で「1.ある」とお答えした方にお聞きます。あなたの職場では、次にあげるそれぞれの面で男女平等になっていると思いますか。あなたの考えに近いものを選んでください。 (あてはまる番号に1つつ0をつける)

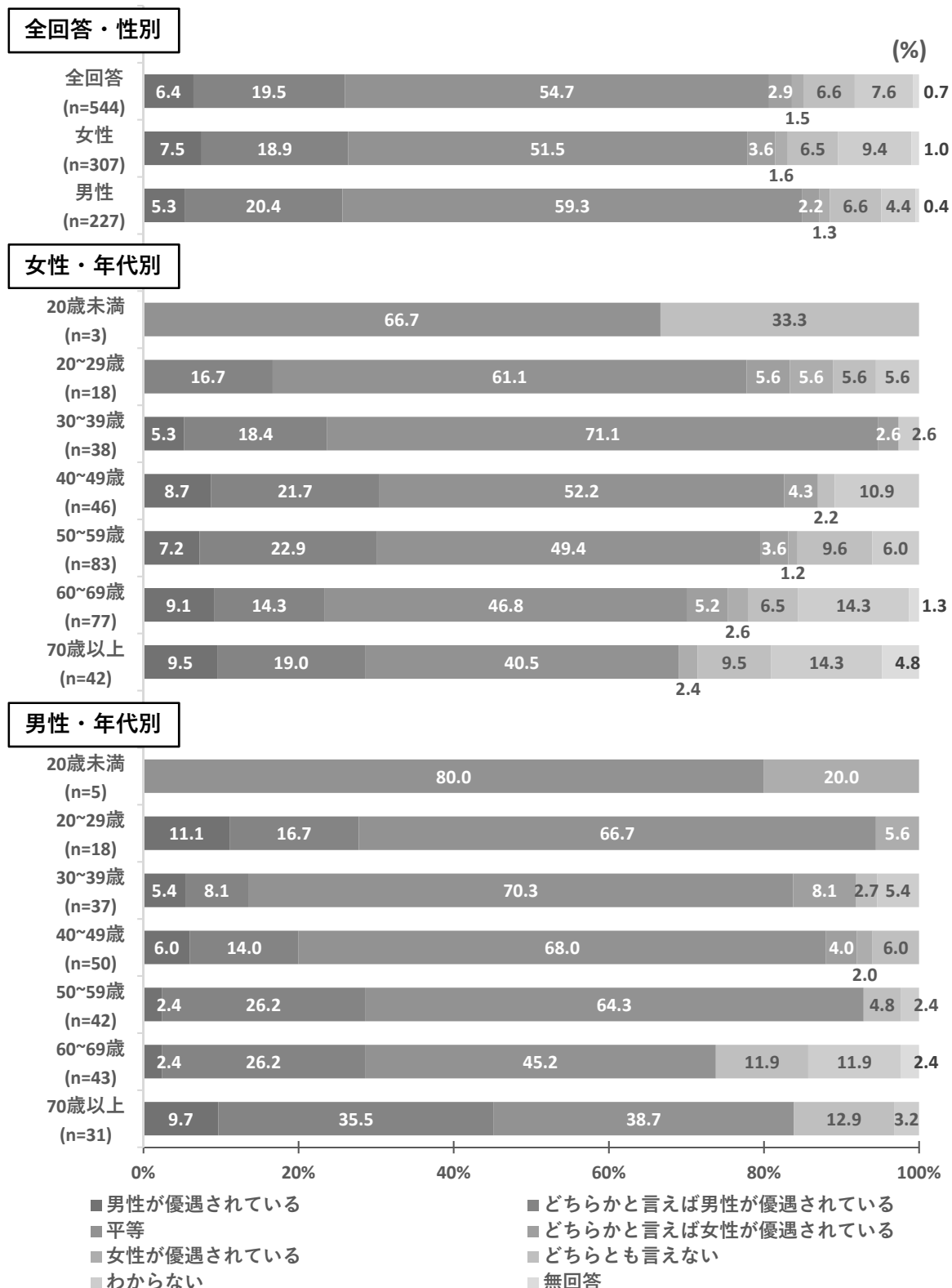
全体の選択率をみると、高い順に『教育や研修制度（65.3%）』、『募集や採用の条件（54.7%）』となり、これらが5割を超えていた。一方で低い順には『昇進・昇格（41.9%）』、『人事配置（42.3%）』となり、それぞれ45%を割っていた。

全体的に、年齢が上がるほど、特に生産年齢を超えると『平等である』が低下する傾向にあり、女性では『わからない』が、男性では男性の優遇（『男性が優遇されている』『どちらかと言えば男性が優遇されている』）がそれに合わせて上がっていく傾向にある。

3-1. 職場での平等意識（募集や採用の条件）

全体で見ると男女間での『平等である』の差が8ポイント弱となっている。年代別にみると、女性は30歳代（71.1%）が特に高く、年齢が上がるほど下がっている。また、男性も30歳代（70.3%）を頂点に緩やかに下がり、60歳代で20ポイント弱の急落を起こす。下がった『平等である』には、女性では『わからない』が、男性では男性の優遇の選択が増える。

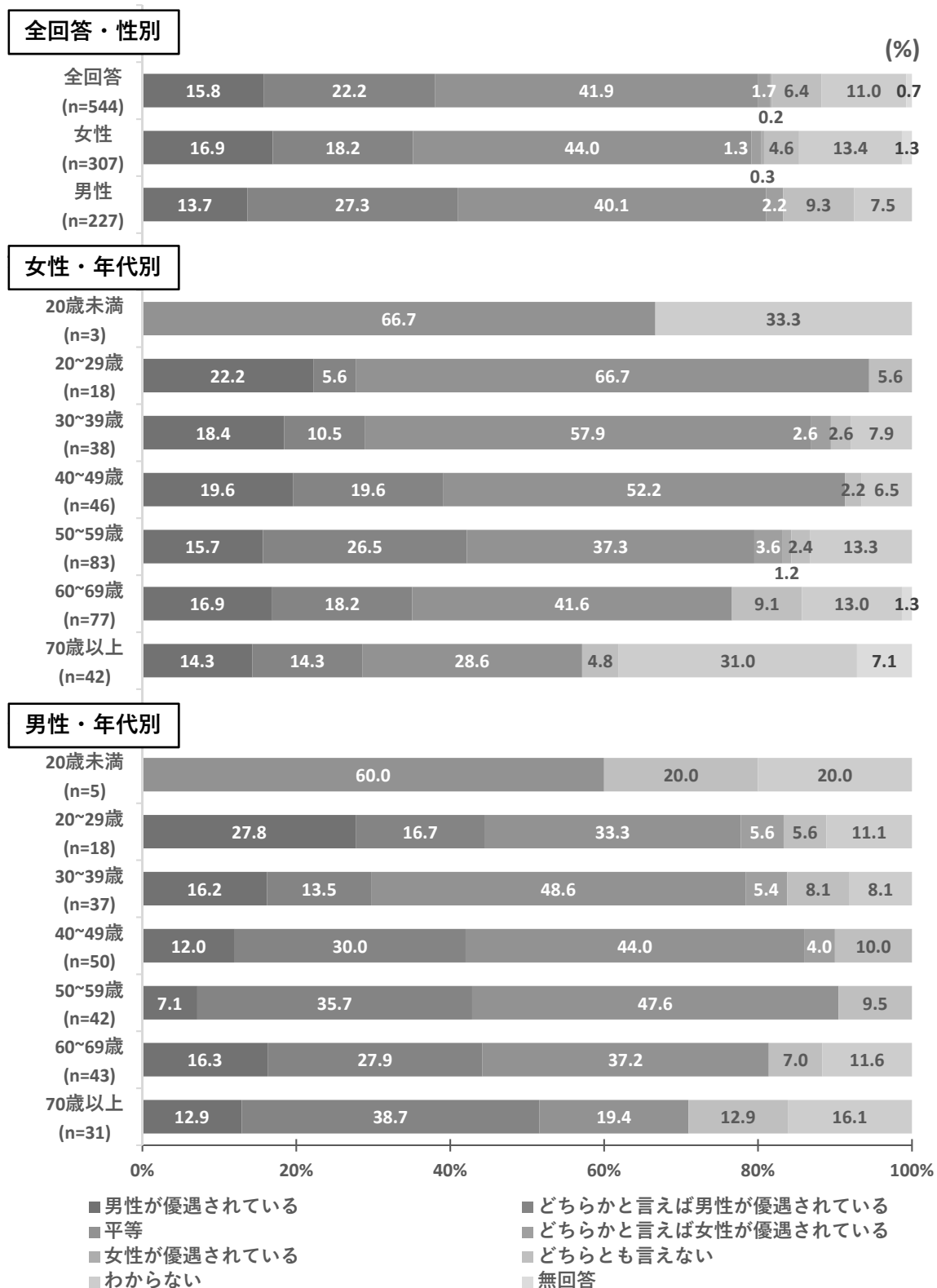
図表3-6-1. 職場での平等意識（募集や採用の条件、性別・年代別）



3-2. 職場での平等意識（昇進や昇格）

全体で見ると男女間での『平等である』の差は、4ポイント弱であるが女性の方が高くなっている。年代別にみると、女性は20歳代（66.7%）を頂点に、年齢が上がるほど『平等である』が下降傾向にある。また、男性では30歳代から50歳代（若い順に48.6%、44.0%、47.6%）が40%を超えているが、その前後の年代で下がり、70歳代以降では2割を下回る。

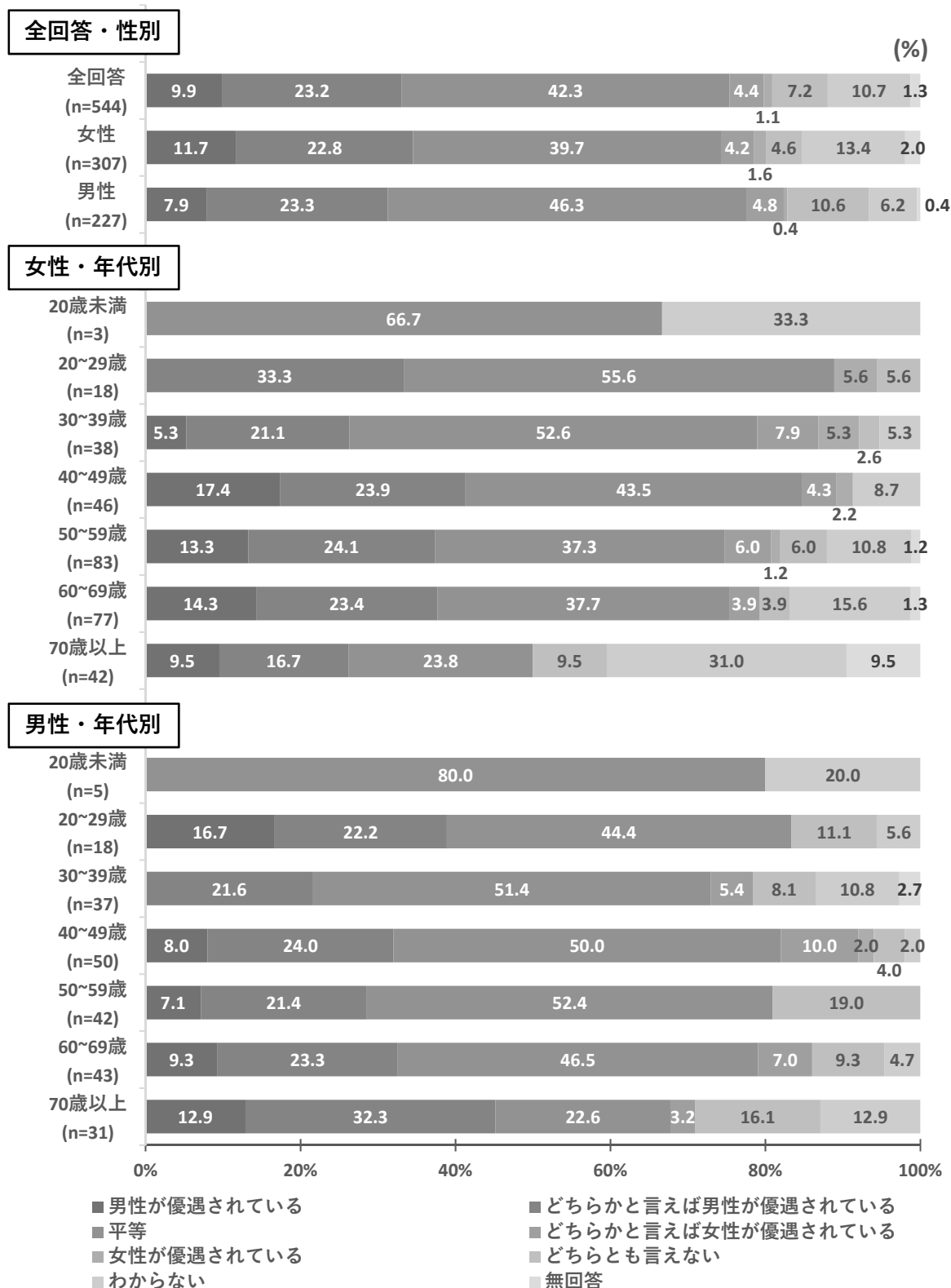
図表3-6-2. 職場での平等意識（昇進や昇格、性別・年代別）



3-3. 職場での平等意識（人事配置）

全体で見ると女性では『平等である』が4割に満たないのに対し、男性では4割半ばを超えている。年齢別にみると、女性では20～30歳代（55.6%、52.6%）で、男性では30～50歳代（51.4%、50.0%、52.4%）で『平等である』の選択率が高いのに対し、それぞれ70歳以上では2割台前半と低く、60歳代と比べても大きく下がっている。

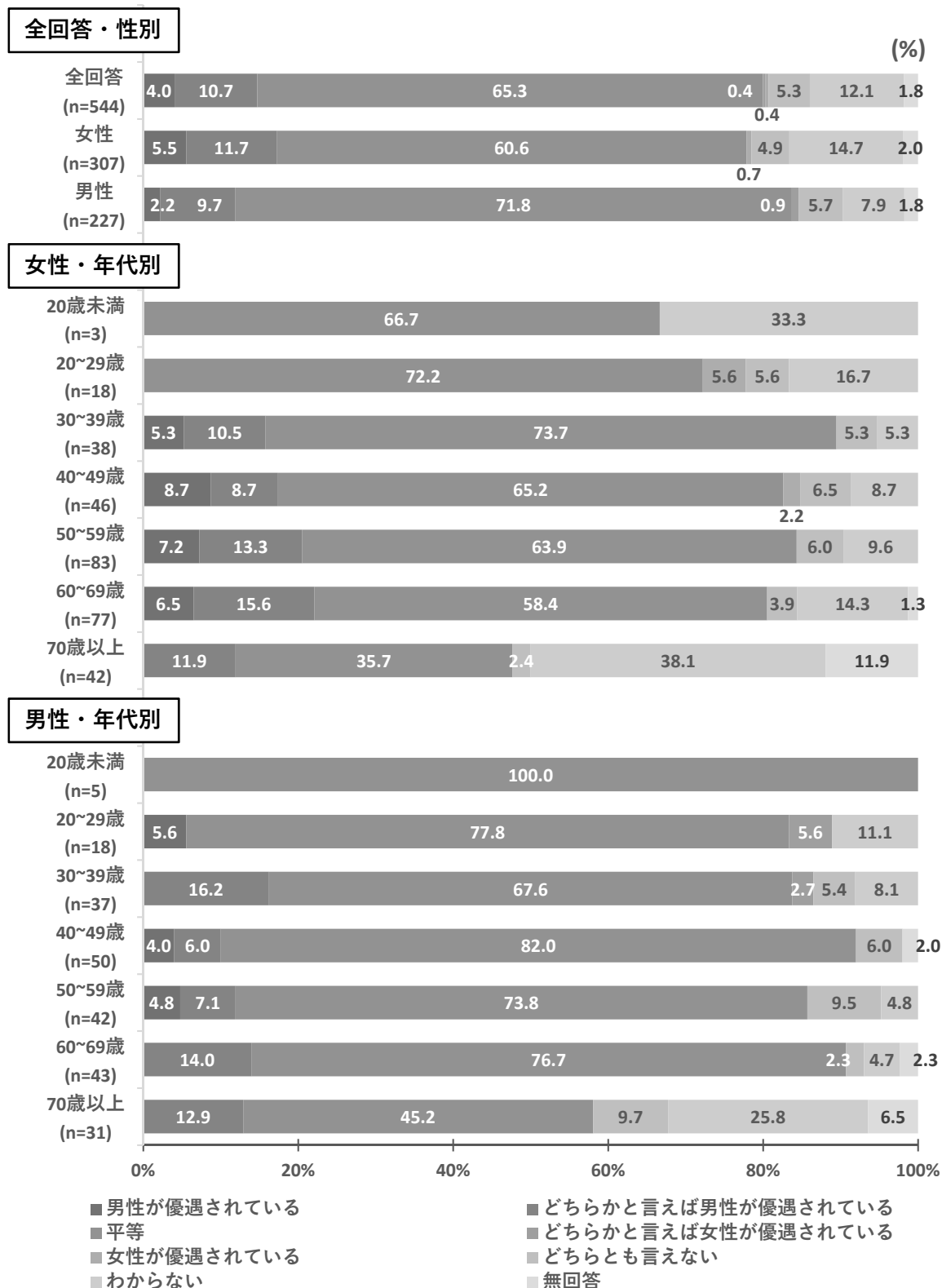
図表3-6-3. 職場での平等意識（人事配置、性別・年代別）



3-4. 職場での平等意識（人事配置）

全体で見ると『平等である』が最も高い項目となった。年齢別にみても、60歳代までは女性では6割前後を、男性では7割弱をそれぞれ保っている。最も高いのは女性が30歳代（73.7%）で、男性では40歳代（82.0%）だった。この高い数値の一方で、70歳以上では女性が35.7%、男性が45.2%へと急落し、男女ともに『わからない』が増えている。

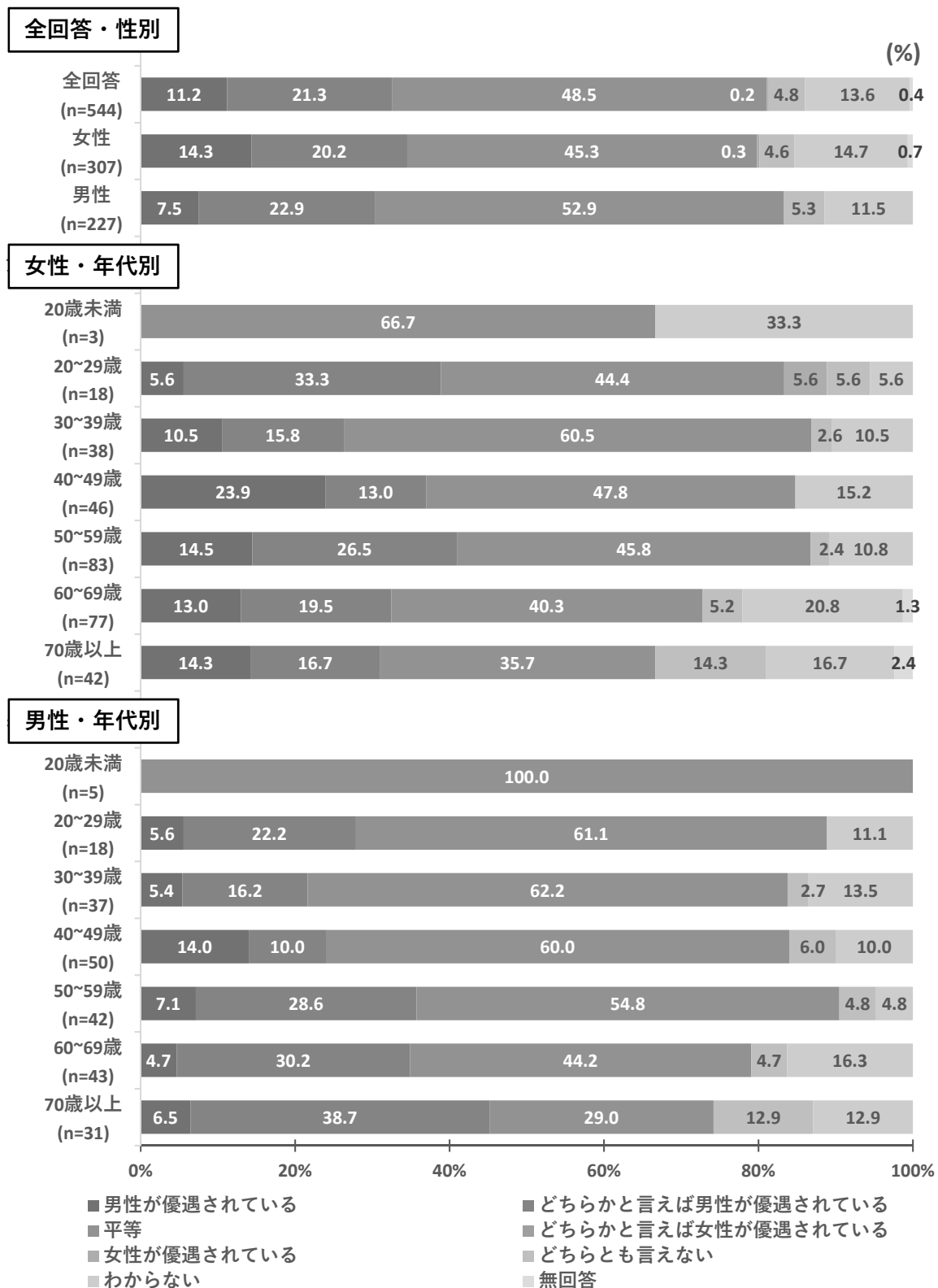
図表3-6-4. 職場での平等意識（人事配置、性別・年代別）



3-5. 職場での平等意識（賃金）

全体で見ると『平等である』との回答割合は男性が女性より7ポイント強高かった。年齢別には男女ともに30歳代が最も高い（女性60.5%、男性62.2%）。女性ではその前後の年代より10ポイント高いが、男性ではその前後の年代で6割を維持している。女性ではその他の年代で『平等である』の回答割合が低いため、全体として4割半ばの選択率となっている。

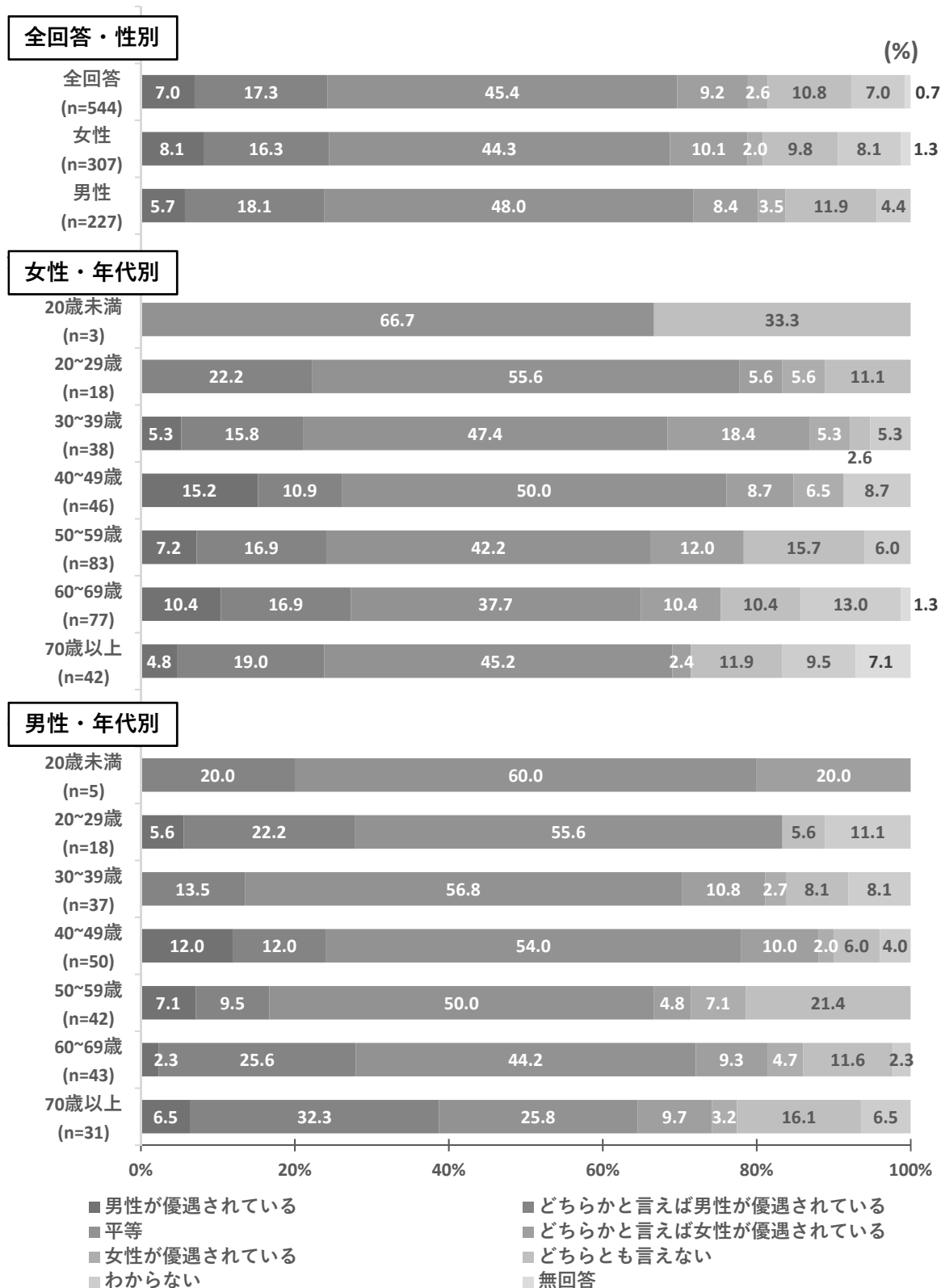
図表3-6-5. 職場での平等意識（賃金、性別・年代別）



3-6. 職場での平等意識（仕事の内容）

全体で見ると『平等である』との回答割合は男女で3ポイント強の差で、他の項目より差が小さかった。年齢別には女性が全年齢ととして4割弱～5割半ばに収まっていたのに対し、男性は5割を超える年代が過半数だったものの、70歳以上の回答が25.8%と大きく下がっていたために、男性全体としては5割弱の選択率となっている。

図表3-6-6. 職場での平等意識（仕事の内容、性別・年代別）



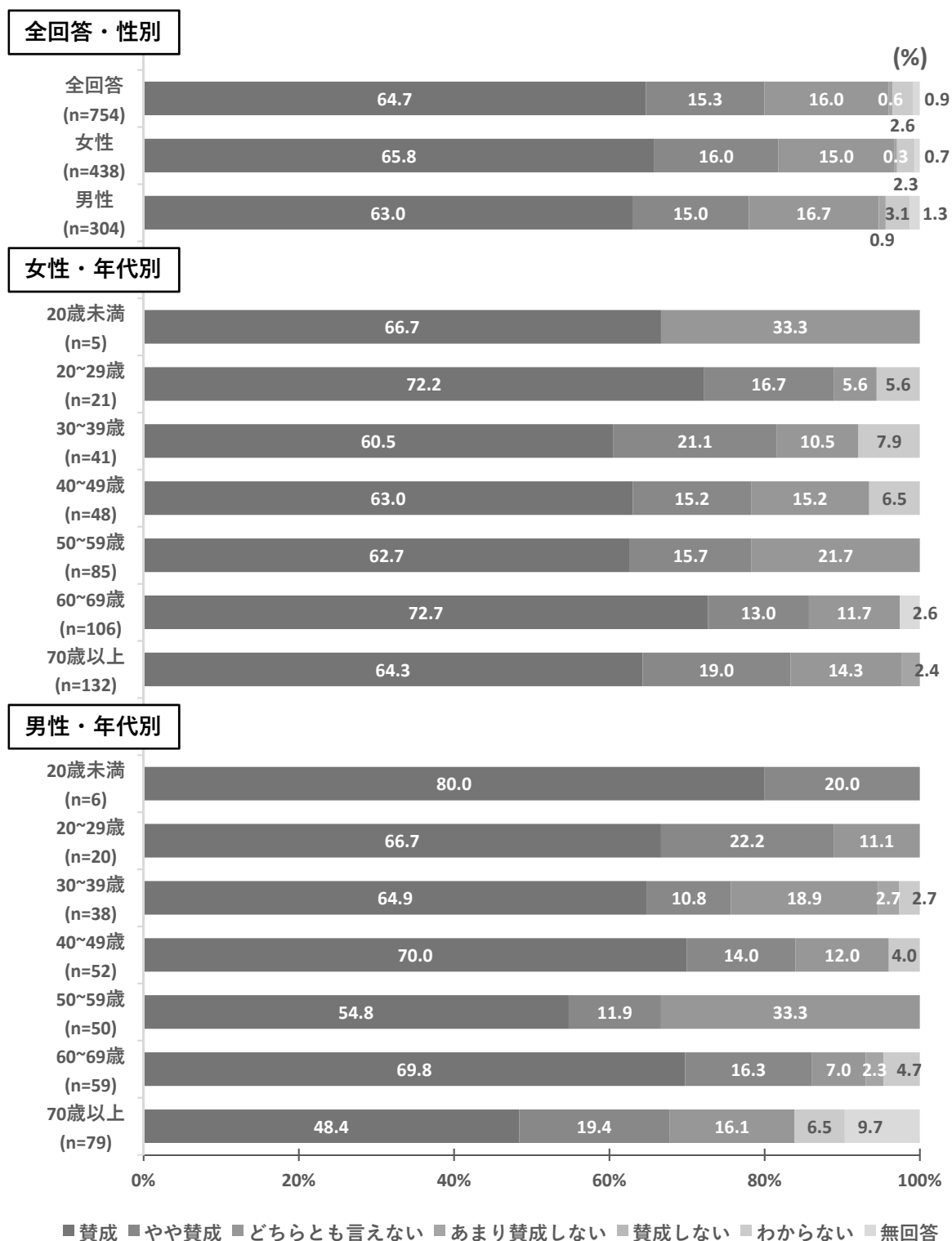
3-7. 女性の管理職昇進に関する意識

問7 女性が管理職に昇進することについて、どう思いますか。(あてはまる番号に1つ○をつける)

この質問は、全回答者（回答件数754件）に質問した。全体での賛成合計（『賛成』と『やや賛成』の合計）の選択率は80.0%で、非賛成合計（『あまり賛成しない』と『賛成しない』の合計）は5%を下回った。性別でみると、男女ともに7割台後半に達しており、4ポイント弱の差ではあるものの女性の方が男性よりも賛成合計の選択率が高かった。

年代別にみると、女性ではどの年代でも賛成合計が8割前後を維持したのに対し、男性では選択率が高い年代では8割後半に達した（60歳代が86%）ものの、低い年代では7割を切る（50歳代で65.3%）など、選択率の差が激しく、結果として男性全体での賛成合計は下がった。（図表3-3-8）。

図表3-7-1. 女性の管理職昇進にかかる意識（性別・年代別）



3-8. 役職の就任意欲

問8 あなたは、次の役職について就任を引き受けますか。

（それぞれの役職についてあてはまる番号に1つつ〇をつける）

この質問は、全回答者（回答件数754件）に対して、「a.職場の管理職や役員」、「b.自治会長、町内会長」、「c.議員や自治体の首長」の3つの役職について質問した。

「a.職場の管理職や役員」については、全体では『依頼されたら受ける』が『断る』を1ポイント未満の差で上回った。性別で見ると、女性は『断る』が約3ポイント差で高く、男性では『依頼されたら受ける』が8ポイント上回って最も高い項目となった。年代別には、女性でも40歳代までは『依頼されたら受ける』が最も高く、以降は『断る』が上回るため、全体としては『断る』が優勢となった。また男性では30歳代までは『断る』が最も高く、それより上の世代では『依頼されたら受ける』が最も高くなるため、男性全体では『依頼されたら受ける』が優勢となった。

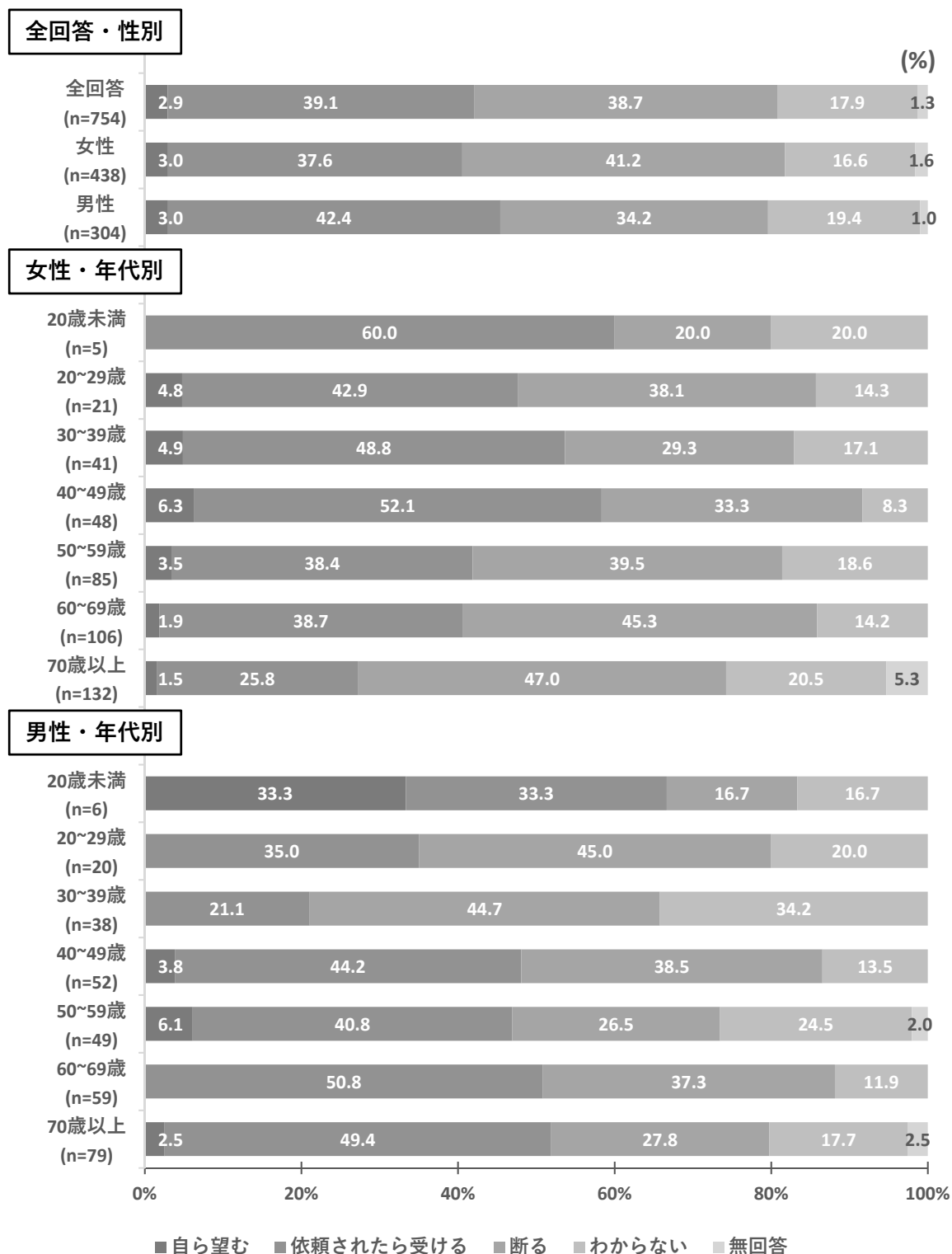
「b.自治会長、町内会長」においては、全体でも性別で見ても『断る』が他の選択肢を30ポイントを超えて上回る形で高かった。『断る』の選択率を年齢別にみると、女性では40歳代（72.9%）を頂点に大きくは下がらずどの年代でも6割以上を維持した。一方で男性では30歳代で76.3%と高い値を示したが、50歳代以降では5割台の選択率となり、『依頼されたら受ける』の選択率がその分上がる。

「c.議員や自治体の首長」については、性別年代を問わず、『断る』の選択率が総じて7割以上と高かった。「b.自治会長、町内会長」においては男性で年齢が上がるにつれて『断る』の選択率が減少していたが、本項目ではその傾向も見られず、40～50歳代がわずかに低い程度の差しか見られなかった。

3-8-a. 役職の就任意欲 (a)職場の管理職や役員

全体で見ると『依頼されたら受ける』との回答割合が39.1%と最も高い。性別で見た場合、女性では『断る (41.2%)』が最も高く、男性では『依頼されたら受ける (42.4%)』が最も高かった。年齢別でみると女性は40歳代までは『依頼されたら受ける』が最も高く、男性は30歳代までは『断る』が最も高い。それ以降は性別全体のように割合が逆転する。

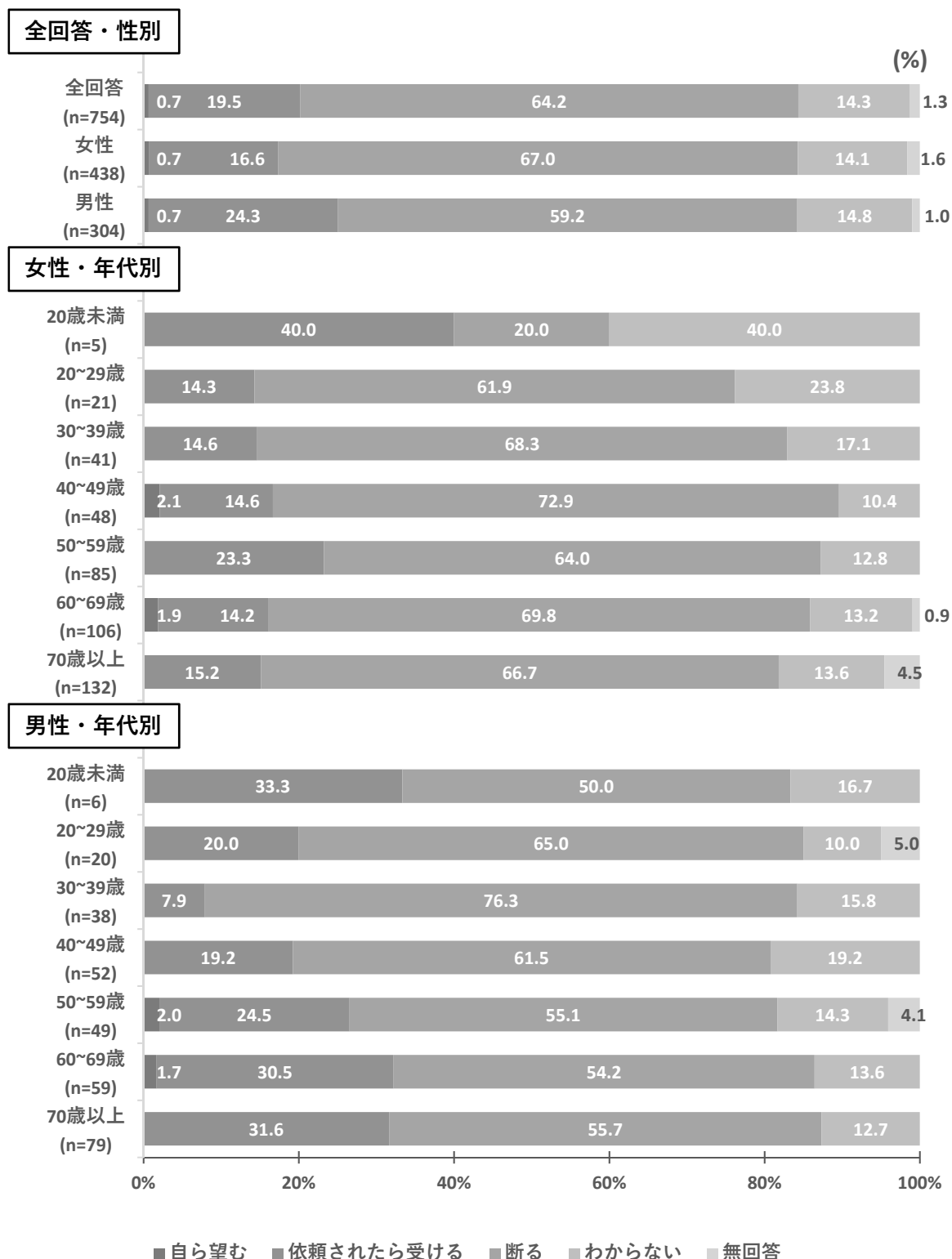
図表3-8-1a. 役職の就任意欲 (a)職場の管理職や役員 (性別・年代別)



3-8- b. 役職の就任意欲 (b)自治会長、町内会長

全体で見ると『断る』との回答割合が64.2%で最も高い。性別で見た場合、男女ともに『断る』が最も高くなった（女性67.0%、男性59.2%）。女性では40歳代（72.9%）を頂点に、大きくは下がらず6割以上を維持する。一方で男性では30歳代で76.3%と高い値を示すものの、50歳代以降では5割台まで断る割合が下がる。

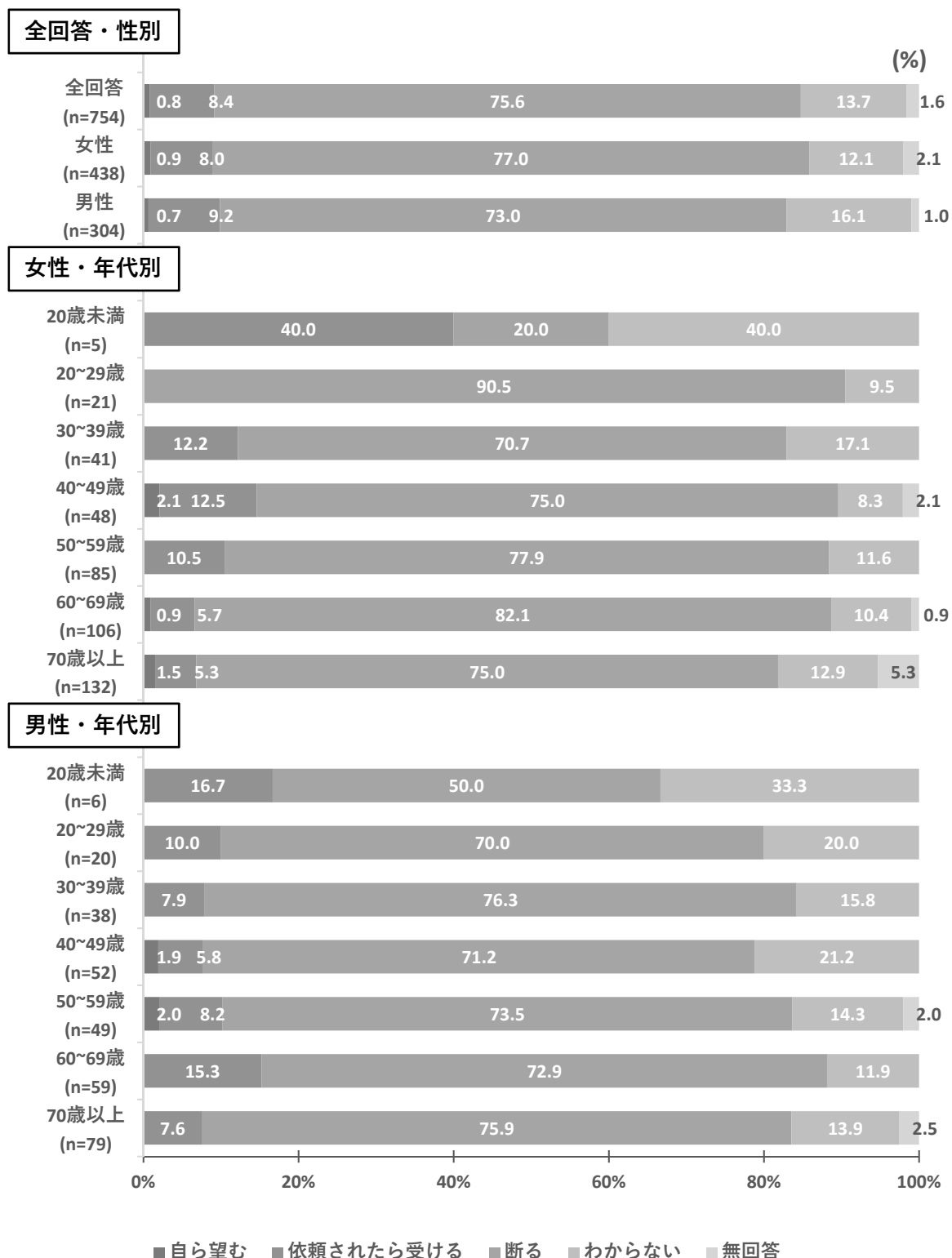
図表3-8-1b. 役職の就任意欲 (b)自治会長、町内会長（性別・年代別）



3-8-c. 役職の就任意欲 (c)議員や自治体の首長

全体で見ると『断る』との回答割合が75.6%で最も高く、性別で見ても男女ともに最も高くなった(女性77.0%、男性73.0%)。年代別でも女性では大半の年代が75%を超える選択率となっており、全体での『断る』の高い選択率となった。男性も年代での大きな差異は無く、総じて7割台で男性全体回答の73.0%前後の選択率となった。

図表3-8-1c. 役職の就任意欲 (c)議員や自治体の首長 (性別・年代別)



3-9. 役職を辞退する理由

問8-1 問8のいずれかの役職で「3.断る」と答えた方にお尋ねします。断る理由は何ですか。
（「3.断る」と答えた役職についてあてはまる番号を下記の選択肢から3つまで選択し、回答欄へ記入）

この質問は、前の質問で『断る』を選んだ回答者に、その理由について問うたものである。

3分野の役職を断る理由について、選択率最上位と2位の選択肢がどの役職においても『責任が重いから』と『知識や能力の面で不安があるから』のどちらかで占められていた。

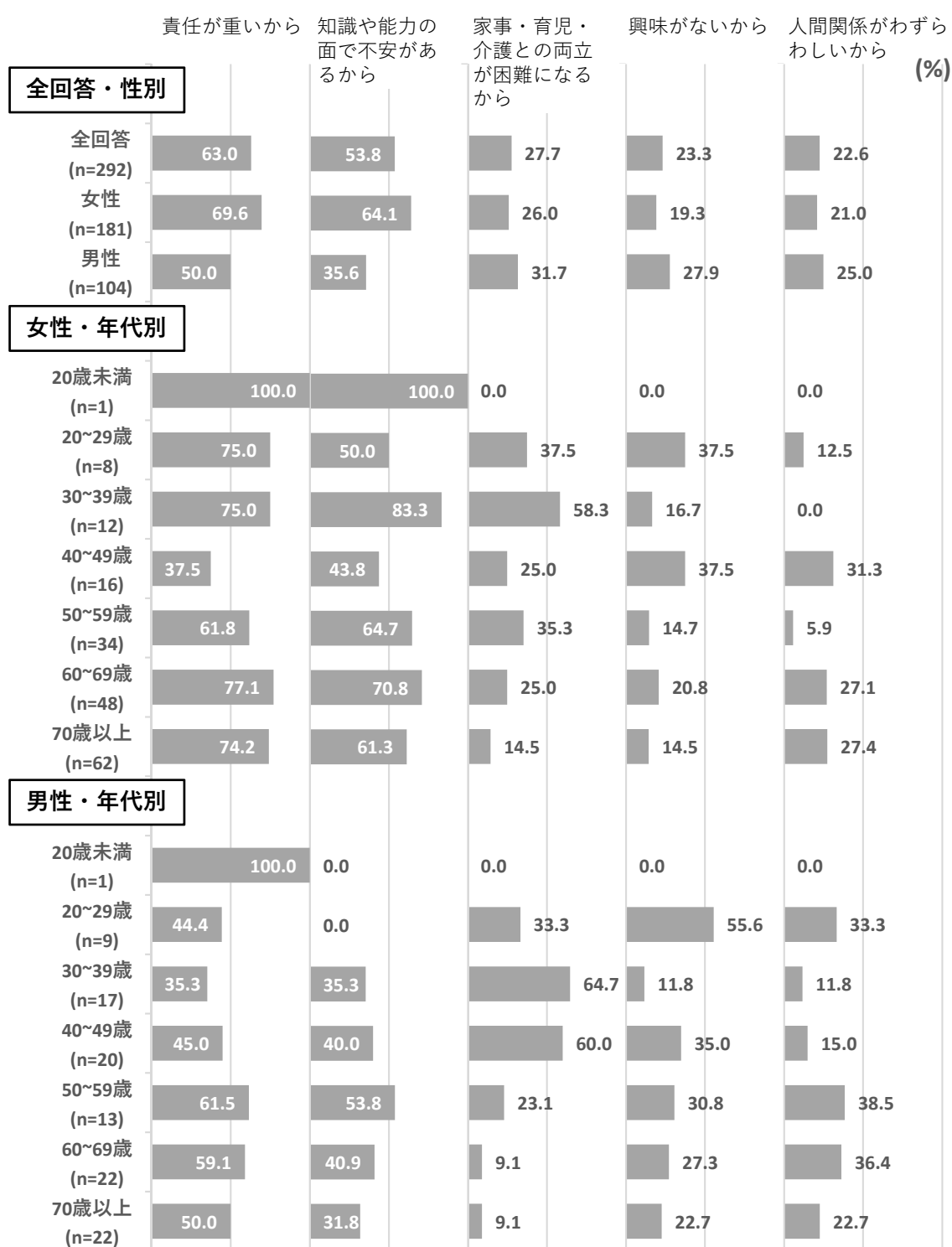
選択率が高い理由の3位についてはそれぞれ、「a.職場の管理職や役員」では『家事・育児・介護との両立が困難になるから（27.7%）』に、「b.自治会長、町内会長」においては『人間関係がわずらわしいから（36.6%）』に、「c.議員や自治体の首長」では『興味がないから（32.1%）』になった。

選択率の下位を見ると、最下位とその次点の理由には、役職に共通して『経済的な余裕がないから』と『家族の理解・協力が得られないから』のどちらが回答されていた。3番目に少ない回答だった理由には「a.職場の管理職や役員」と「b.自治会長、町内会長」では共通して『性別によって不利・不当な扱いを受けそうだから』が、「c.議員や自治体の首長」においては『時間的な余裕がないから（16.8%）』がそれぞれ該当した。

3-9-a. 役職を断る理由 (a)職場の管理職や役員

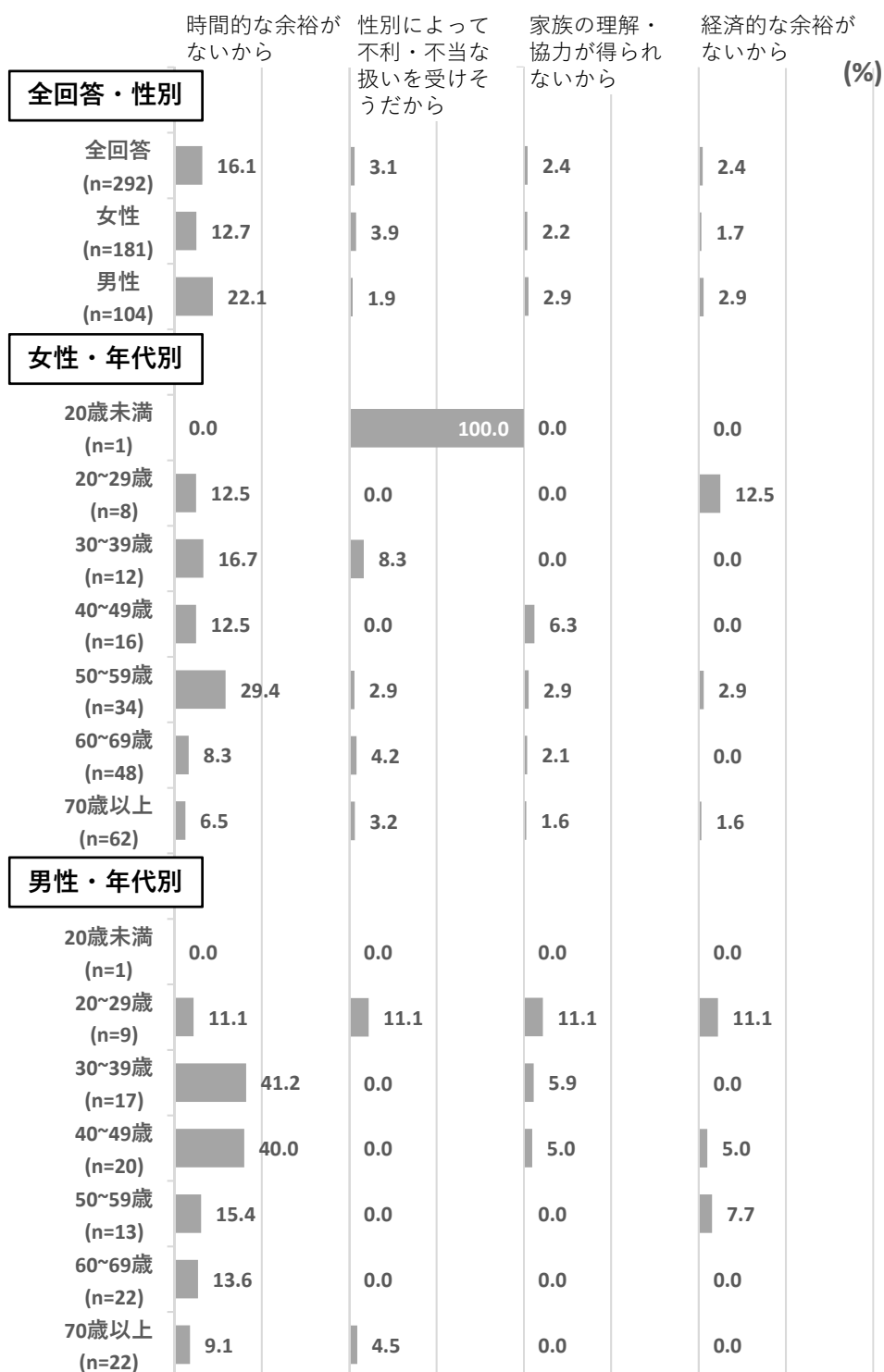
回答全体を性別で見ると、全体の選択率が高い順に『責任が重いから（63.0%）』と『知識や能力の面で不安があるから（53.8%）』では女性の選択率が高く、『家事・育児・介護との両立が困難になるから（27.7%）』では男性の選択率が高かった。年代別も見た場合、これら3つの選択肢を通じて、40歳代の女性の選択率が周辺の年代よりも低かった。また、家事や育児、介護との両立の困難さを理由に挙げた回答は、30歳代女性に多く見られ、男性では30～40歳代で他よりも20ポイント以上差を付けて多く見られた。

図表3-8-2a-1. 役職を断る理由 (a)職場の管理職や役員（性別・年代別）①



全体の選択率が低い順には、『経済的な余裕がないから（2.4%）』と『家族の理解・協力が得られないから（2.4%）』では男性の選択率が、『性別によって不利・不当な扱いを受けそうだから（3.1%）』では女性の選択率が高くなった。家族の理解を理由に挙げた回答は、40歳代女性で他の年代より多く見られ、男性では40歳代以下で回答が見られた。

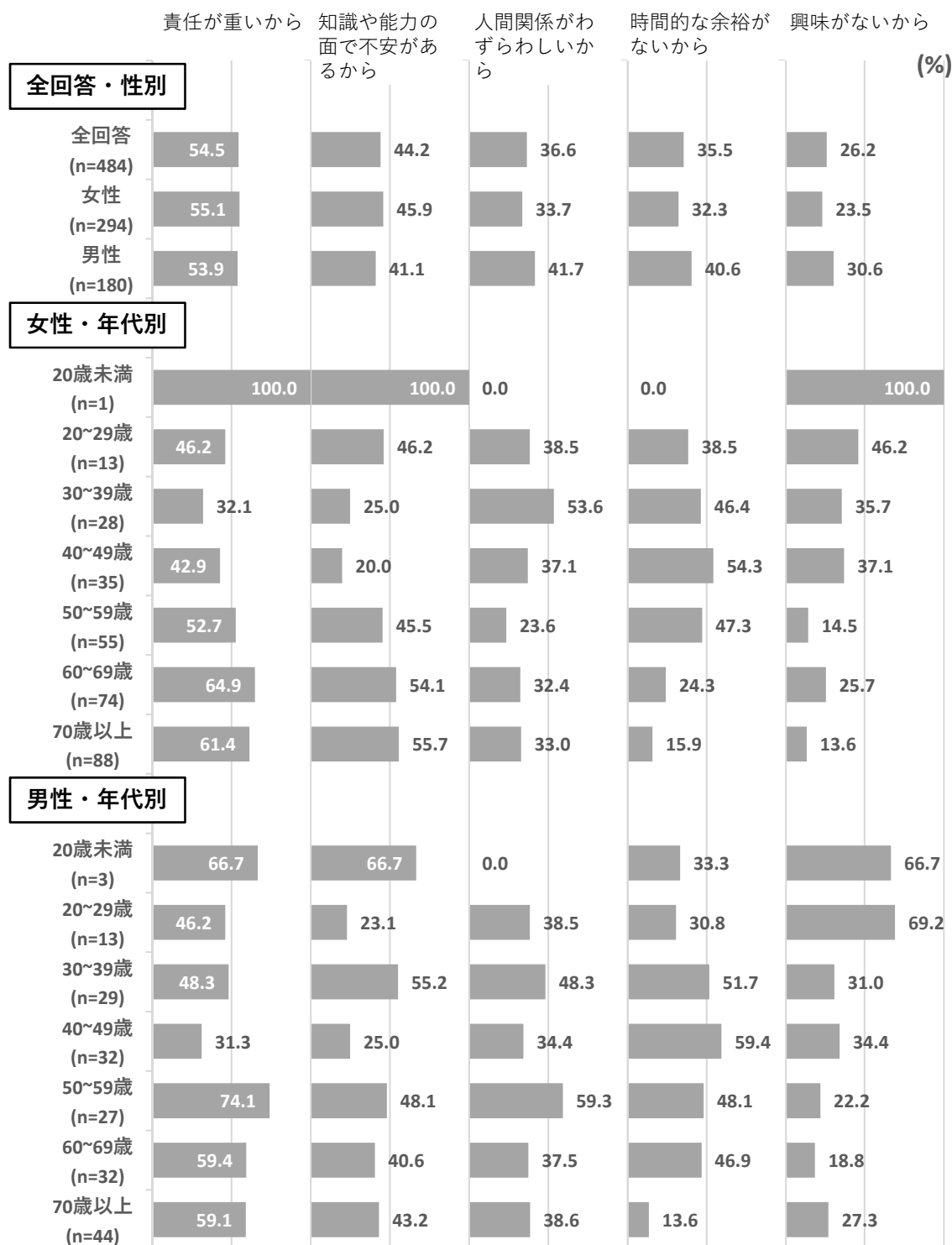
図表3-8-2a-2. 役職を断る理由（a）職場の管理職や役員（性別・年代別）②



3-9-b. 役職を断る理由 (b)自治会長、町内会長

回答全体を性別で見ると、選択率が高い順に『責任が重いから（54.5%）』と『知識や能力の面で不安があるから（44.2%）』では女性の選択率が高く、『人間関係がわずらわしいから（36.6%）』では男性が高かった。年代別も見た場合、上位2つの選択肢では、女性の場合は30～40歳代を底として、年代が上がると選択率が高くなった。男性では40歳代の選択率が上位3つの選択肢では低く、『時間的な余裕がないから（59.4%）』で高くなった。

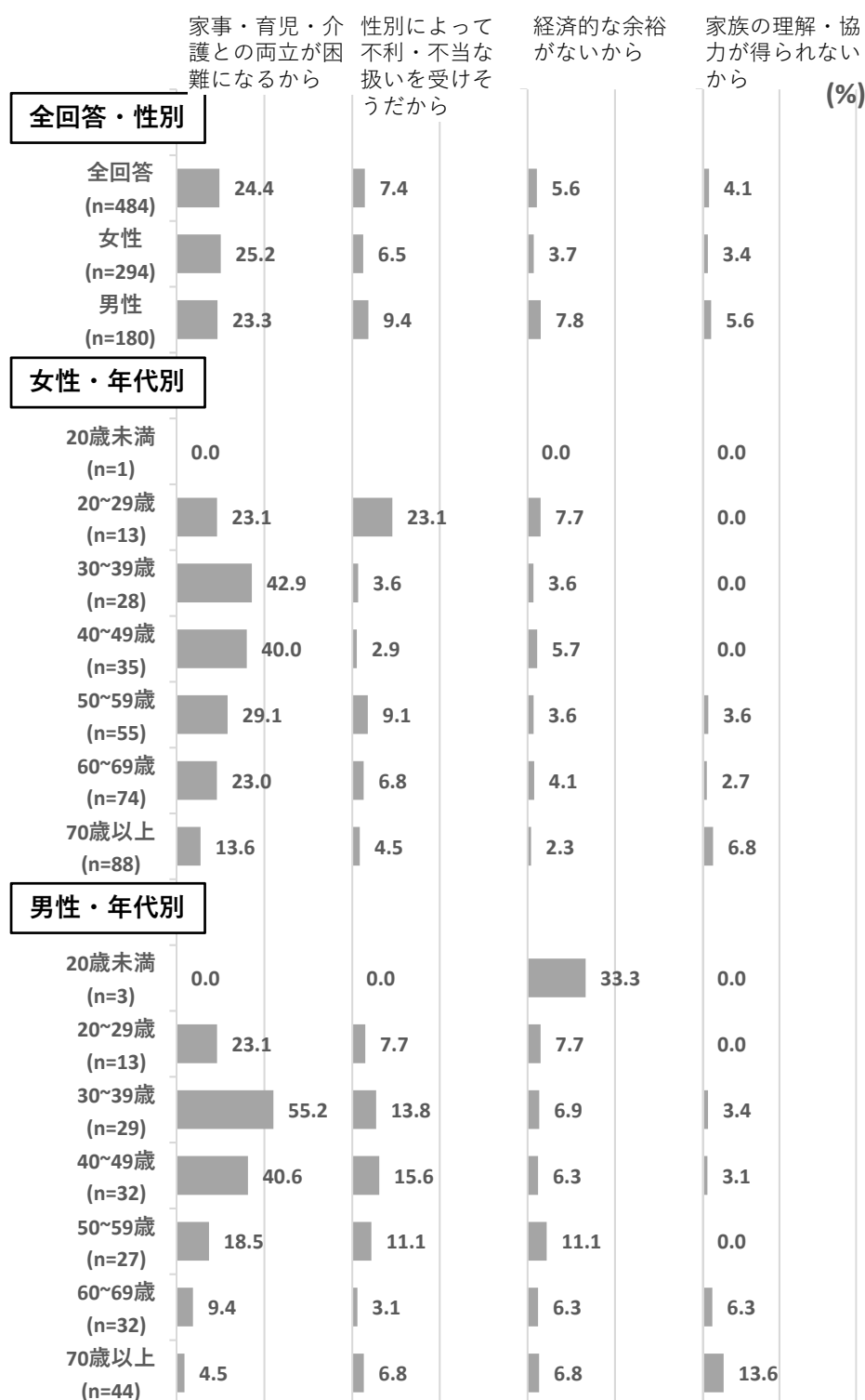
図表3-8-2b-1. 役職を断る理由 (b) 町内会長、自治会長（性別・年代別）①



全体の選択率が低い順には、『家族の理解・協力が得られないから（4.1%）』、『経済的な余裕がないから（5.6%）』『性別によって不利・不当な扱いを受けそうだから（7.4%）』と並び、どれも男性の方が女性より選択率が高かった。

また、年齢別に全選択肢を見ると、前述した『時間的な余裕がないから』や『家事・育児・介護との両立が困難になるから』では、男女ともに30~40歳代での選択率が高かった。これらは本質問の回答者の年齢構成比の関係で、全体では高い数値としては表れていない。

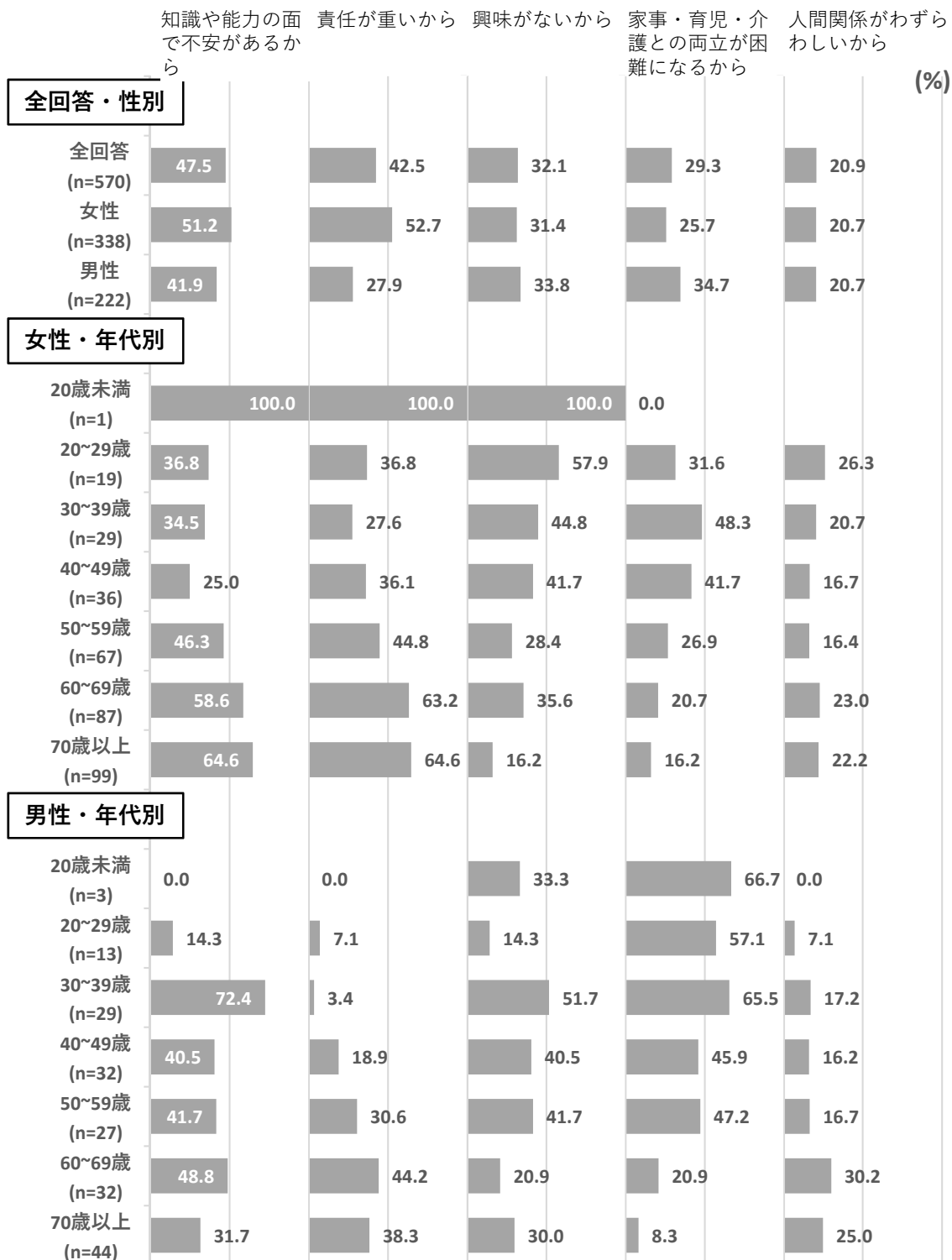
図表3-8-2b-2. 役職を断る理由（b）町内会長、自治会長（性別・年代別）②



3-9-c. 役職を断る理由 (c)議員や自治体の首長

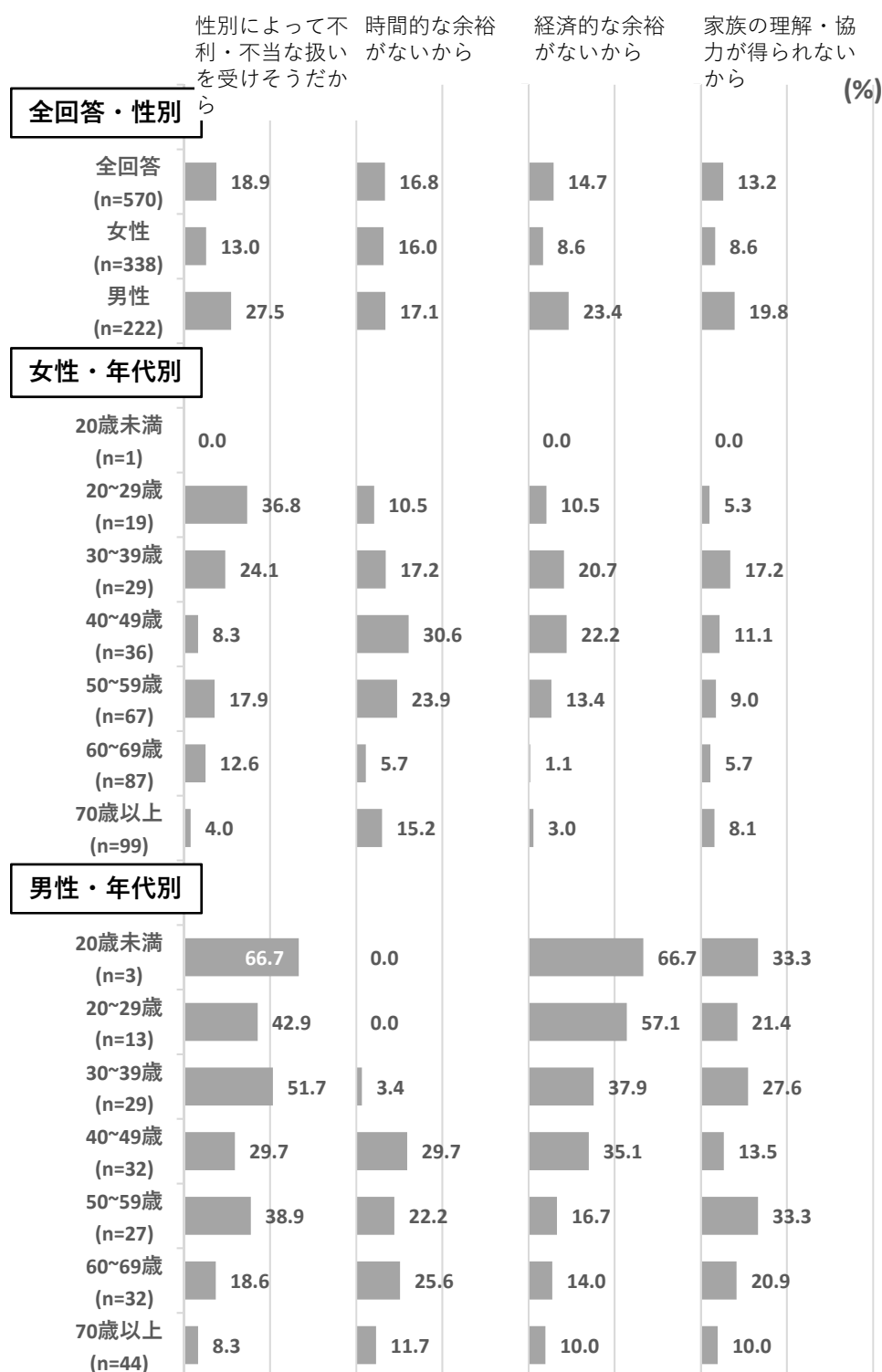
回答全体を性別で見ると、全体の選択率が高い順に『知識や能力の面で不安があるから(47.5%)』と『責任が重いから(42.5%)』では女性の選択率が高く、『興味がないから(32.1%)』では男性が高かった。年代別も見た場合、上位2つの選択肢では、女性の場合は30～40歳代を底として、年代が上がる则選択率が高くなった。男性でも『責任が重いから』では30歳代を底として年齢が上がるほど選択率が高くなる傾向にあった。

図表3-8-2c-1. 役職を断る理由 (c)議員や自治体の首長 (性別・年代別) ①



全体の選択率が低い順には、『家族の理解・協力が得られないから（13.2%）』、『経済的な余裕がないから（14.7%）』『時間的な余裕がないから（16.8%）』と並び、どれも男性の方が女性より選択率が高かった。年代別も見た場合、『経済的な余裕がないから』では、男女ともに若年層で選択率が高い傾向にあり、男性では40歳代で35.1%の選択率だったのが、50歳代以降では1割台と低くなっている。高年齢層で選択率が低くなった他の選択肢には、『家事・育児・介護との両立が困難になるから』などがあった（図表3-8-2c-1）。

図表3-8-2c-2. 役職を断る理由（c）議員や自治体の首長（性別・年代別）②



3-10. 女性が職業を続けていくために必要なこと

問9 女性が職業を続けていく上で、どのようなことが必要だと思いますか。
（あてはまる番号に3つまで○をつける）

この質問は、全回答者（回答件数754件）に質問した。全体での選択率が高い順に『家事・育児・介護などにおける家庭内の協力（67.2%）』、『保育・介護サービスの充実（施設の充実、時間の延長など）（43.0%）』、『給与、昇進・昇格の機会が男女間格差の解消（34.2%）』となった。また、低い順には『相談、情報提供機関の充実（7.6%）』、『中高年の女性に退職を促すような周りの圧力の解消（17.4%）』『結婚や出産の際、退職しなければならない慣行の解消（19.6%）』となった（図表3-9-1）。

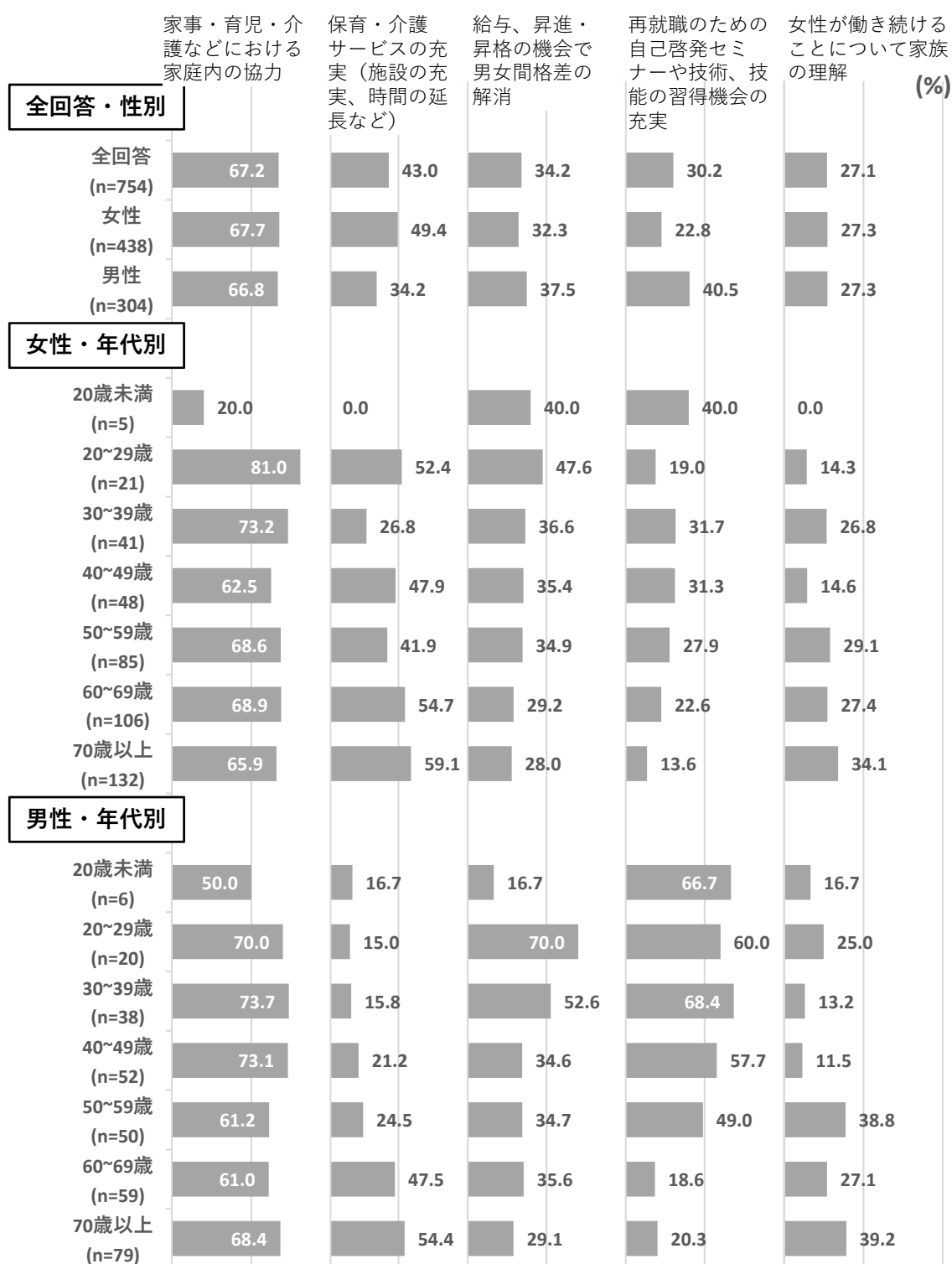
性別でみると、『保育・介護サービスの充実（施設の充実、時間の延長など）』で女性の選択率が15.2ポイント高く（女性49.4%、男性34.2%）、『再就職のための自己啓発セミナーや技術、技能の習得機会の充実』では、男性の選択率が18.7ポイント高くなった（男性40.5%、女性22.8%）。

年代別にみると、『家事・育児・介護などにおける家庭内の協力』では、男女ともに6割台から7割台と、年代を問わず高い選択率となっていた。さらに男性では、30～40歳代で50～60歳代よりも10ポイント以上高く回答していた。

また、女性の回答が高かった『保育・介護サービスの充実（施設の充実、時間の延長など）』では、60歳未満の男性で、男性全体選択率よりも10ポイント以上低い選択率となっており、男性全体の選択率を押し下げている。なお、男性でも60歳代以降では選択率が5割前後となり、女性の選択率と遜色ない高さだった。

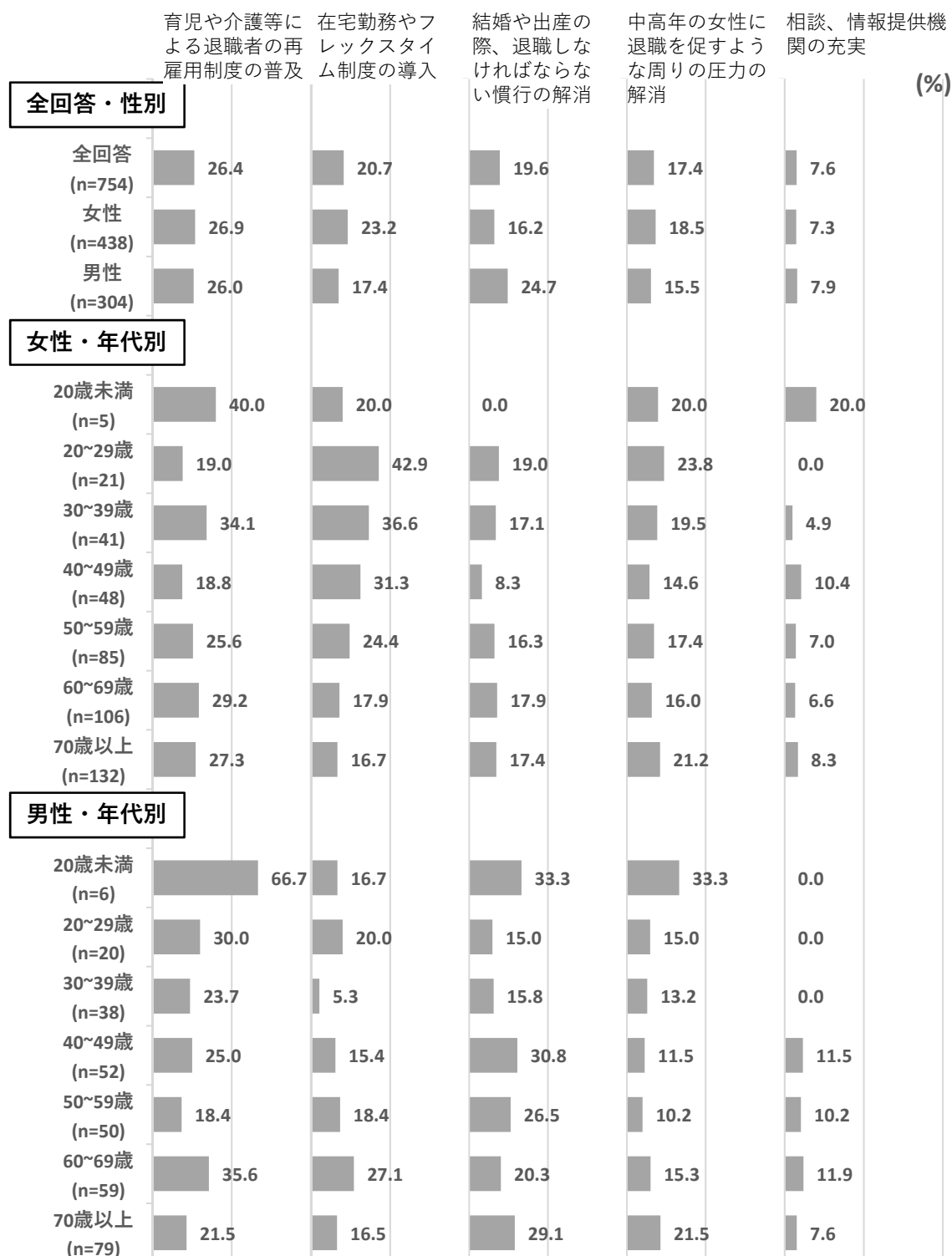
男性の選択率が高かった『再就職のための自己啓発セミナーや技術、技能の習得機会の充実』では、女性では高くとも3割強であった選択率に対して、60歳未満の男性による選択率が総じて5割弱から7割弱と高く、60歳以上では2割未満だった選択率を補って男性全体の選択率を押し上げた。

図表3-9-1-1. 女性が職業を続けていくために必要なこと①



『在宅勤務やフレックスタイム制度の導入』では、男女間の選択率を比較すると5ポイント弱の開きがある。年代別にみると、女性では20～30歳代を天井に、4割前後から2割弱へと、年代が上がるほど選択率が下がっている。逆に男性では、30歳代（5.3%）を底にして、60歳代（27.1%）にかけて選択率が上昇している。

図表3-9-1-2. 女性が職業を続けていくために必要なこと②



3-11. 男性が仕事と家庭を両立するために必要なこと

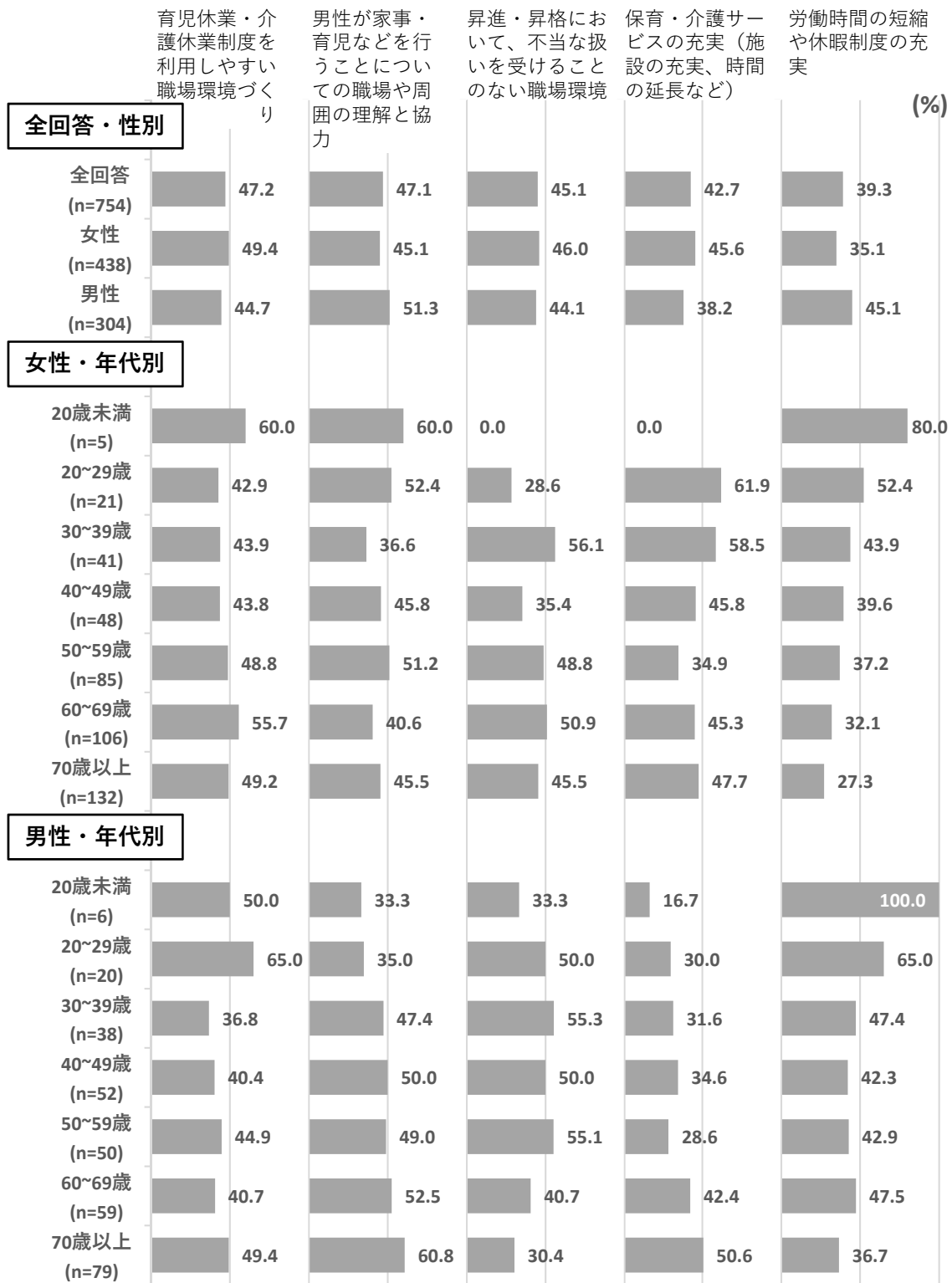
問10 男性が仕事と家庭の両立をしていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。
(あてはまる番号に3つまで○をつける)

この質問は、全回答者（回答件数754件）に質問した。全体での選択率が高い順に『育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場環境づくり（47.2%）』、『男性が家事・育児などを行うことについての職場や周囲の理解と協力（47.1%）』、『昇進・昇格において、不当な扱いを受けることのない職場環境（45.1%）』となった。また、低い順には『相談、情報提供機関の充実（5.2%）』、『再就職のための自己啓発セミナーや技術、技能の習得機会の充実（5.7%）』、『育児や介護等による退職者の再雇用制度の普及（11.4%）』となった（図表3-9-1）。

性別でみると、『労働時間の短縮や休暇制度の充実』で男性の選択率が10ポイント高かった（女性35.1%、男性45.1%）ものの、10ポイントを超える男女差は他の項目では見られなかった。

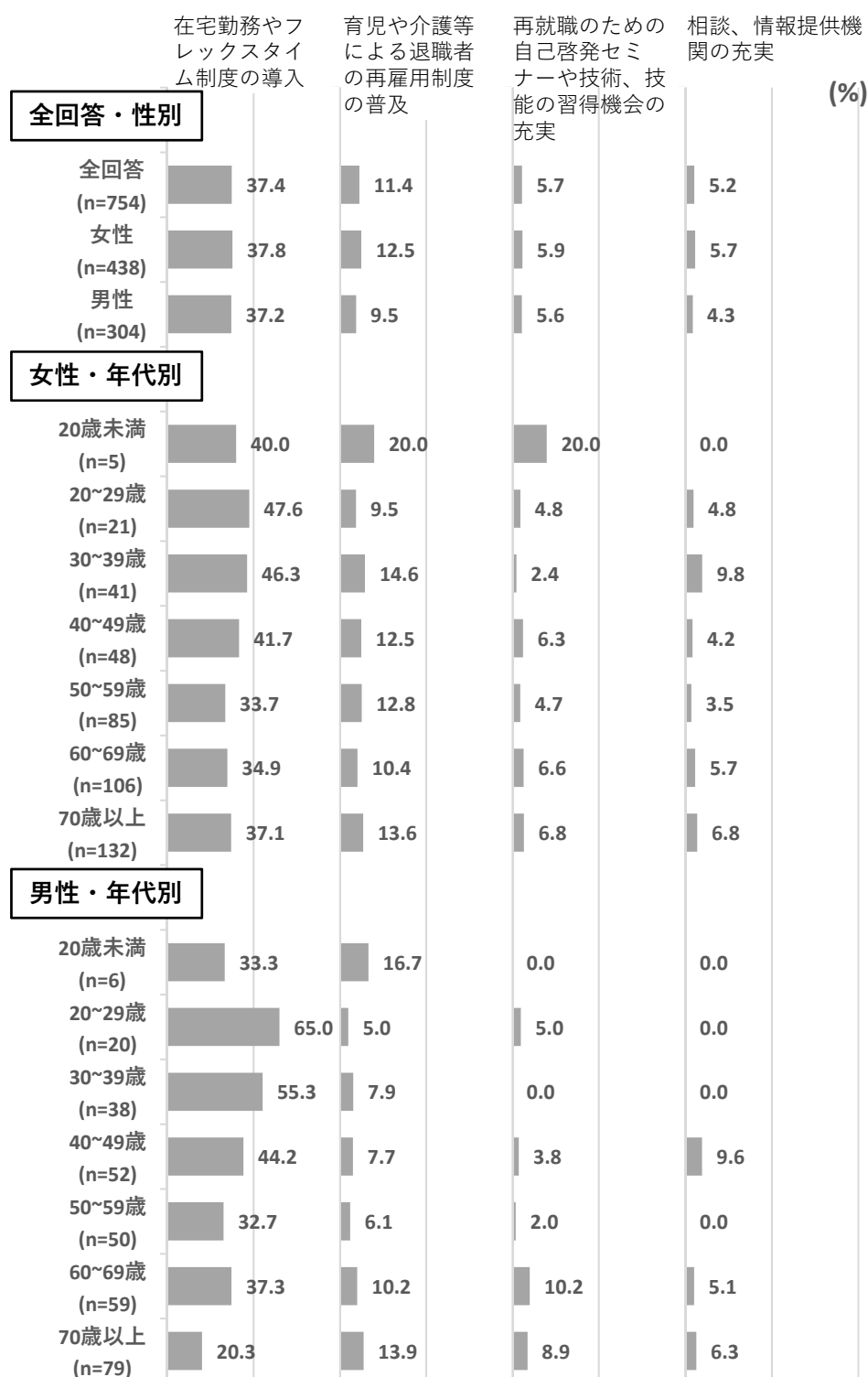
年代別にみると、『労働時間の短縮や休暇制度の充実』では、女性の選択率が年齢が上がるにつれて5割台から3割弱へと緩やかに下降していた。同選択肢では、70歳以上の男性が3割台の選択率を出すものの、それより若い世代では4割台でまちまちの選択率となった。男女ともに6割台から7割台と、年代を問わず高い選択率となっていた。さらに男性では、30～40歳代で50～60歳代よりも10ポイント以上高く回答していた。

図表3-10-1-1. 男性が仕事と家庭を両立するために必要なこと（性別・年代別）①



最下位となった『相談、情報提供機関の充実』は、前問（問9：女性が職業を続けていく上で、どのようなことが必要だと思いますか。）においても同様に最下位の選択肢となっていた（図3-9-1-2）。また、『再就職のための自己啓発セミナーや技術、技能の習得機会の充実』は、前問（問9）では50歳代以下の男性による選択が多く見られたが、この質問ではその層からの選択がほぼ見られない。この質問においては、再就職を前提としない判断がなされていると考えられる。

図表3-10-1-2. 男性が仕事と家庭を両立するために必要なこと（性別・年代別）②



IV. 女性の社会進出について

4-1. 女性リーダーの増加で考えられる影響

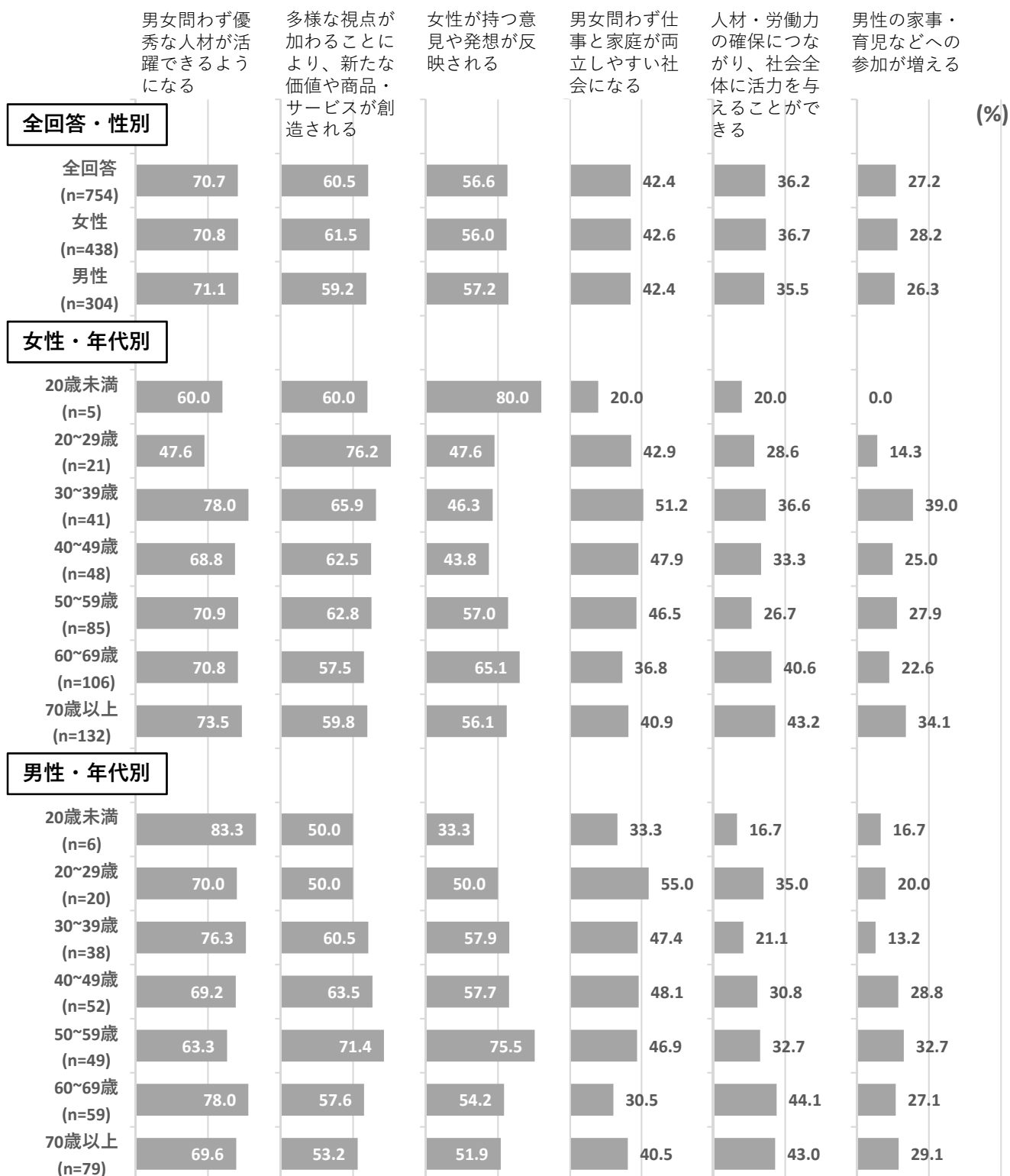
問ⅠⅠ あなたは、社会の各分野で、女性の参加が進み、女性のリーダーが増えるとどのような影響があると思いますか。（あてはまる番号すべてに○をつける）

全体での選択率が高い順に『男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる（70.7%）』、『多様な視点が加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される（60.5%）』、『女性が持つ意見や発想が反映される（56.6%）』となった。また、低い順では、『今より仕事以外のことが優先され、業務に支障を来たすことが多くなる（5.2%）』、『男性の役職が減る（5.2%）』、『保育・介護などの公的サービスの必要性が増大し、家計負担や公的負担が増大する（11.1%）』となった（図表3-4-1-1）。

性別でみると、5ポイント以上の差がある選択肢は本質問には無く、男女ともに近い数値の選択率となっていた。

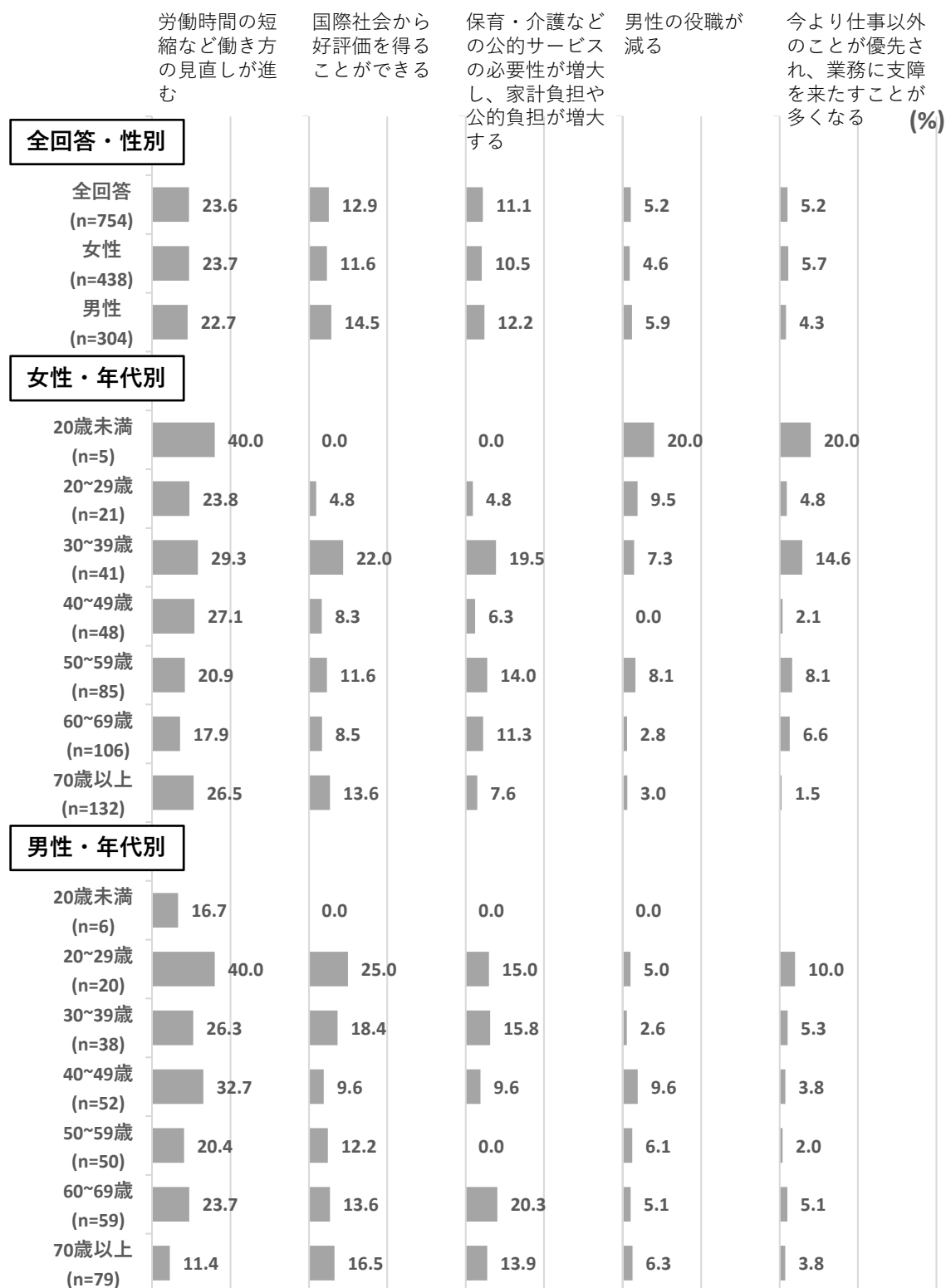
年代別にみると、『男女問わず仕事と家庭が両立しやすい社会になる』では、男女ともに30～50歳代の選択率が60歳以上の選択率を5ポイント以上上回っている。一方で、『人材・労働力の確保につながり、社会全体に活力を与えることができる』においては、男性で60歳以上の選択率が30～50歳代の選択率を10ポイント以上上回った。この選択肢での女性の選択率も60歳以上が高い傾向にあるが、男性ほど差は開いていない。

図表3-11-1. 女性リーダーの増加で考えられる影響（性別・年代別）①



選択率の上位には、機会の拡大や創造、課題の解決などの好意的な影響が並び、問題や負担の増加といった否定的な影響はすべて最下位から順に並んだ。

図表3-11-2. 女性リーダーの増加で考えられる影響（性別・年代別）②



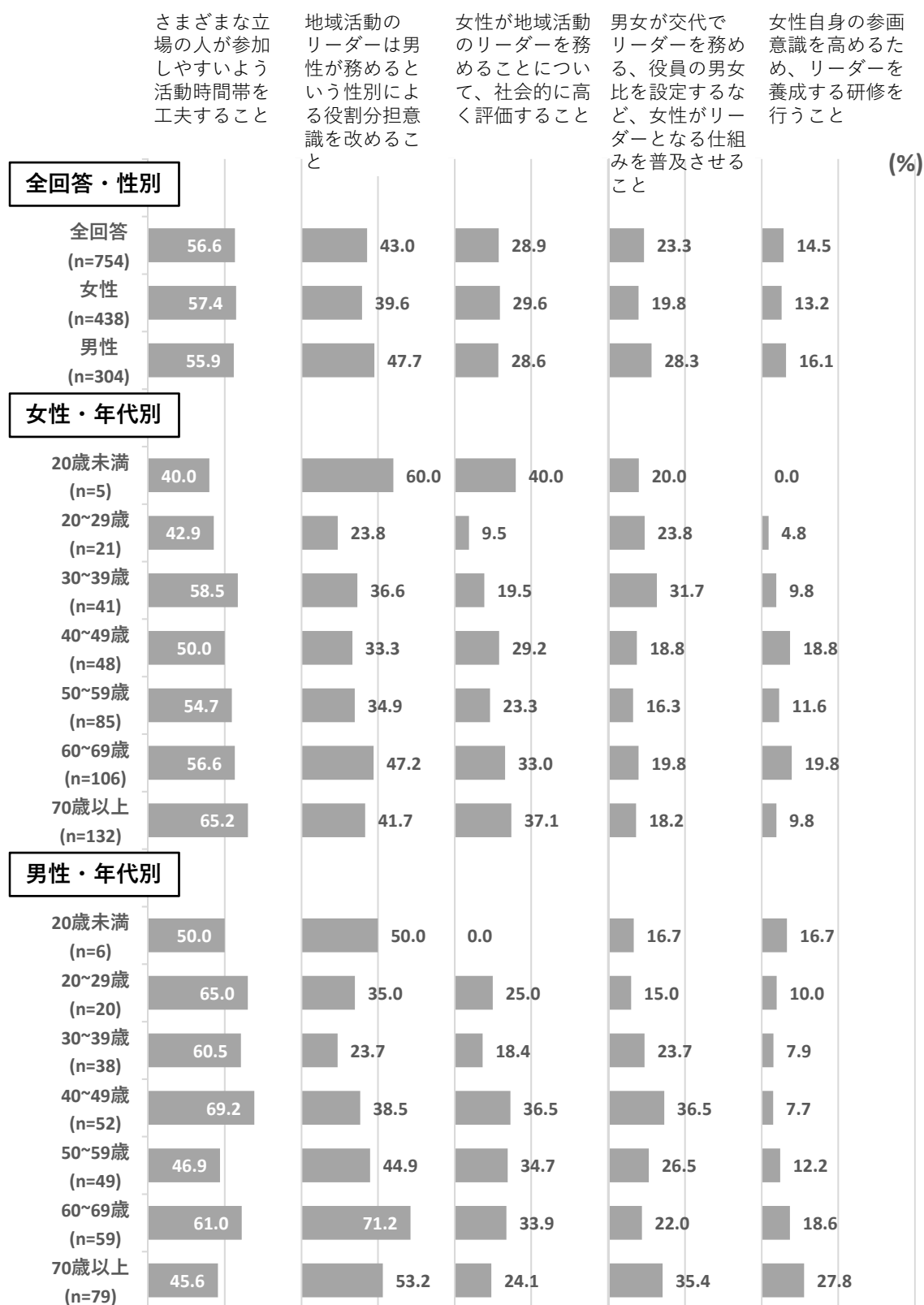
4-2. 地域活動で女性が方針決定の場に参加するために必要なこと

問12 あなたは、自治会やPTAなどの地域活動において、女性が方針決定の場に参画するためには、どのようなことが必要だと思いますか。（あてはまる番号すべてに○をつける）

全体での選択率が高い順に『さまざまな立場の人が参加しやすいよう活動時間帯を工夫すること（56.6%）』、『地域活動のリーダーは男性が務めるという性別による役割分担意識を改めること（43.0%）』、『女性が地域活動のリーダーを務めることについて、社会的に高く評価すること（28.9%）』となった。また、最も低い選択肢は『女性自身の参画意識を高めるため、リーダーを養成する研修を行うこと（14.5%）』となった（図表3-12-1）。

性別でみると、『地域活動のリーダーは男性が務めるという性別による役割分担意識を改めること』において男性の選択率が8.1ポイント高かった（女性39.6%、男性47.7%）。この選択肢を年代別にみると、60歳代男性の選択率が7割を超え、それより下の年代よりも25ポイント以上高くなっており、男性全体の選択率を上げていた。

図表3-12-1. 地域活動で女性が方針決定の場に参加するために必要なこと（性別・年代別）



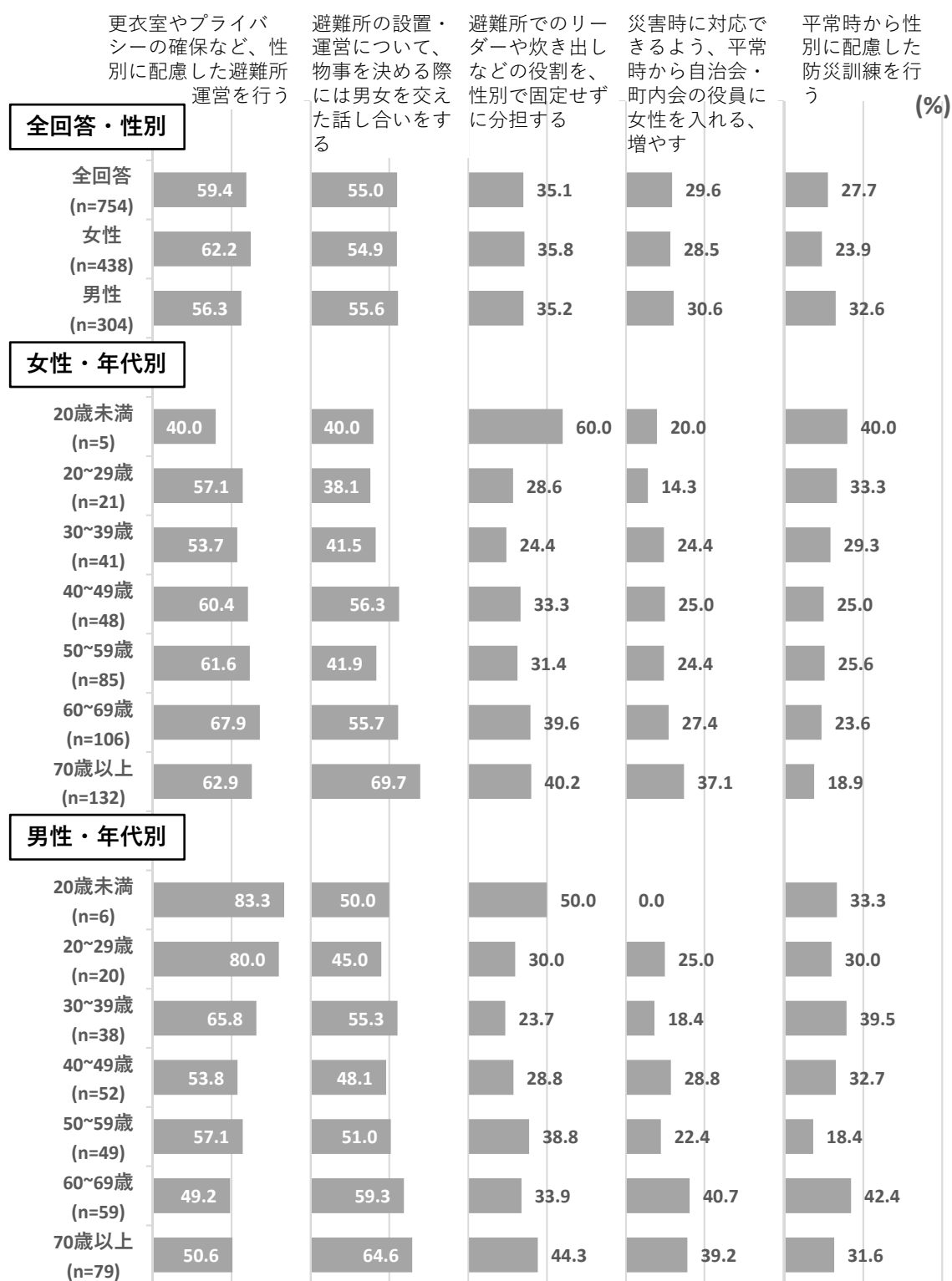
4-3. 性別に配慮した防災・災害対策に必要なこと

問13 あなたは、性別に配慮した防災・災害対応・復興対策のためには、どのようなことが必要だと思いますか。（あてはまる番号を3つまで○をつける）

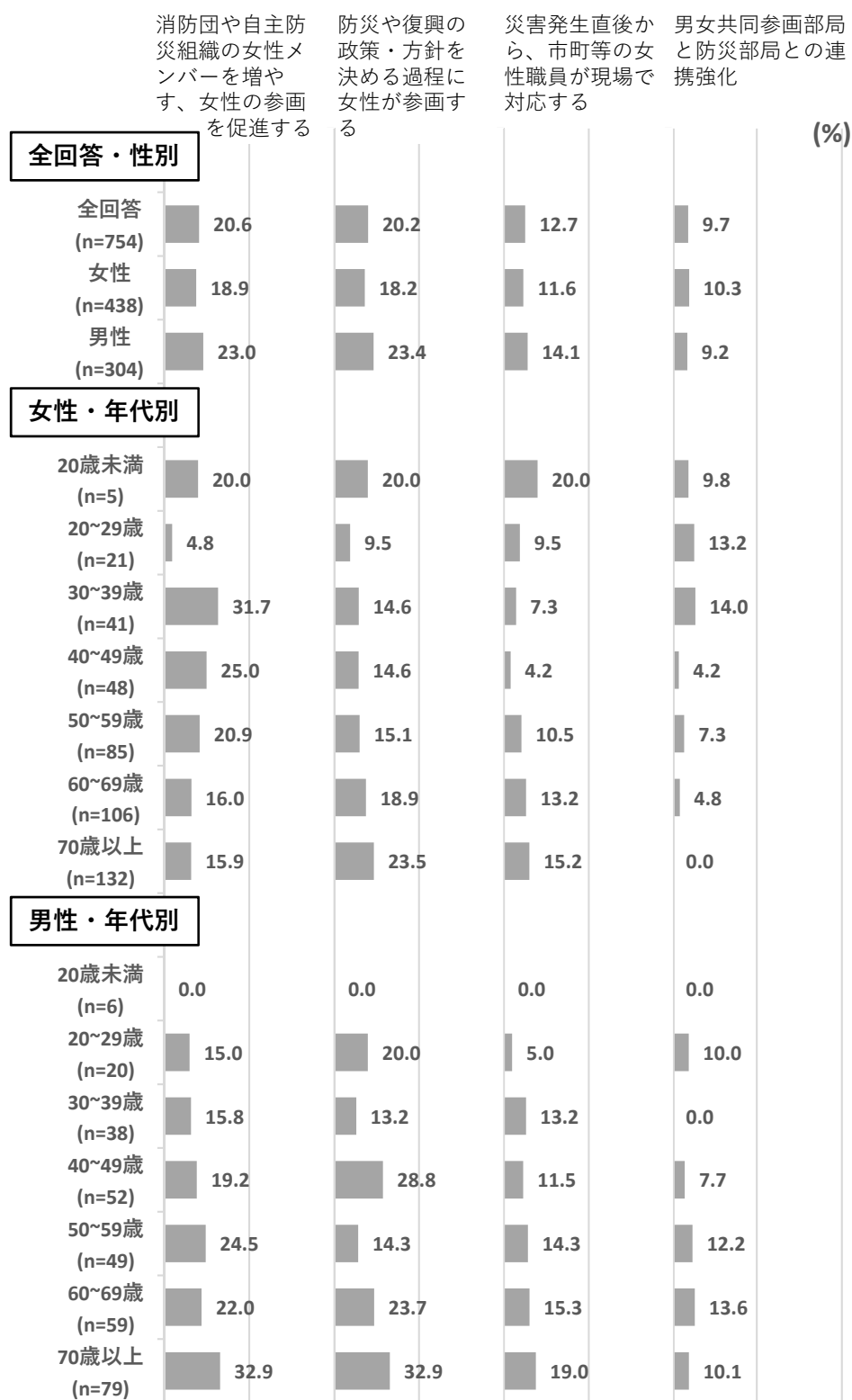
全体での選択率は、高い順に『更衣室やプライバシーの確保など、性別に配慮した避難所運営を行う（59.4%）』、『避難所の設置・運営について、物事を決める際には男女を交えた話し合いをする（55.0%）』、『避難所でのリーダーや炊き出しなどの役割を、性別で固定せずに分担する（35.1%）』となった。また、低い順で見ると、『男女共同参画部局と防災部局との連携強化（9.7%）』、『災害発生直後から、市町等の女性職員が現場で対応する（12.7%）』、『防災や復興の政策・方針を決める過程に女性が参画する（20.2%）』となった（図表3-13-1）。

性別でみると、『更衣室やプライバシーの確保など、性別に配慮した避難所運営を行う』において女性の選択率が5.9ポイント高かった（女性39.6%、男性47.7%）。この選択肢を年代別にみると、40歳以降の女性の選択率が各年代で6割を超えていた。一方で男性の選択率は若い世代は高いものの、40歳以上では5割台となり、60歳代では5割前後となったため、男女間での選択率に差が出た。また、『避難所でのリーダーや炊き出しなどの役割を、性別で固定せずに分担する』では全体の選択率より男女それぞれの選択率が高い結果となっているが、全体数には男性と女性以外の回答者も含んでいるため、選択率が下がっている。

図表3-13-1. 性別に配慮した防災・災害対策に必要なこと（性別・年代別）①



図表3-13-2. 性別に配慮した防災・災害対策に必要なこと（性別・年代別）



V. DV・性暴力について

5-1. 暴力に対する意識について

問14 次のようなことが配偶者や交際相手など、親密な関係にある者の間で行われた場合、それを暴力だと思いますか。（各項目についてあてはまる番号に1つつ0をつける）

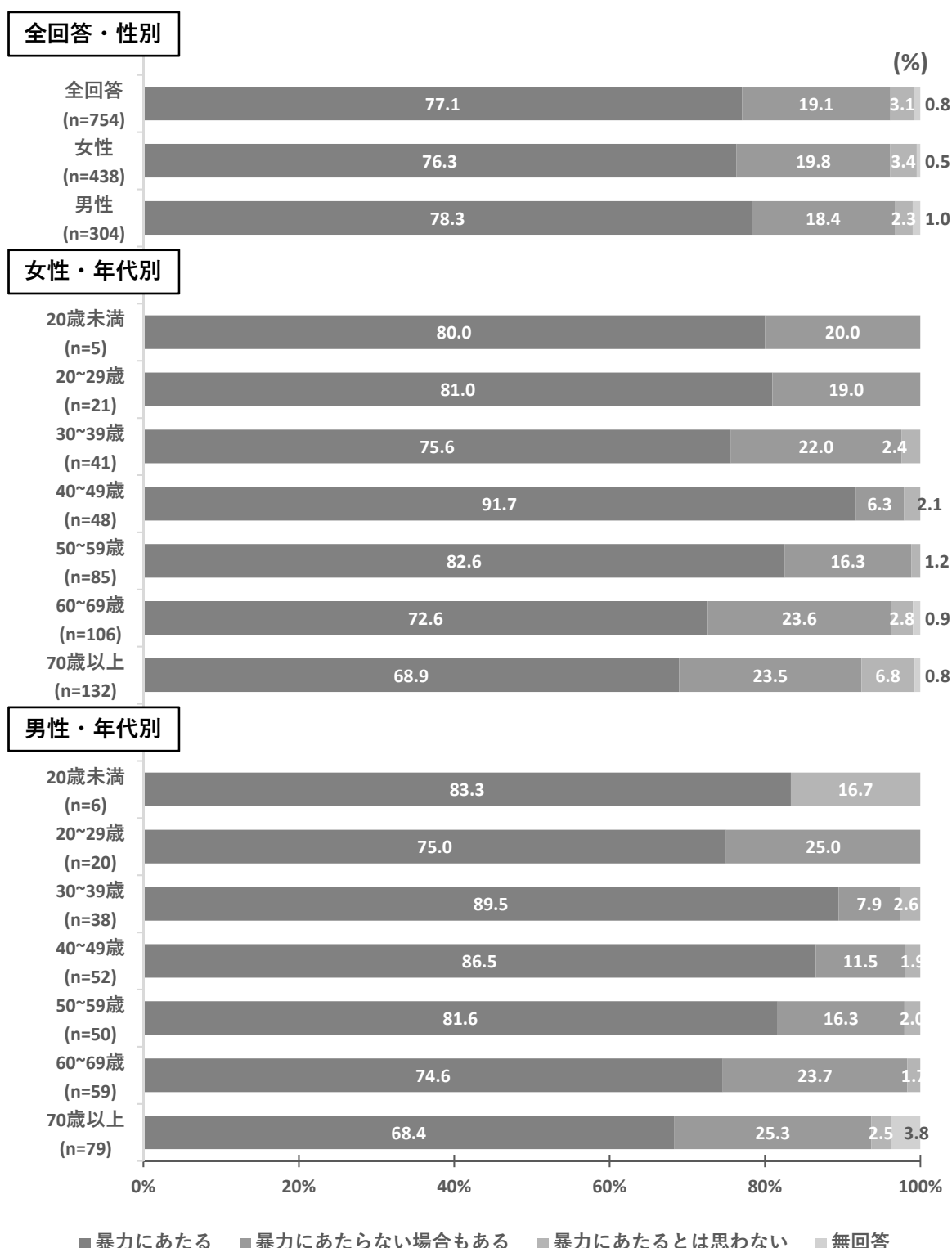
全体での『暴力にあたる』の選択率が高い順に『嫌がっているのに、性的な行為を強要する（94.3%）』、同列で「『誰のおかげで生活できるんだ』や『甲斐性なし』などと言う」および「避妊に協力しない（83.3%）」「家計に必要な生活費を渡さない（82.5%）」となった。また、低い順では、「他の異性や親しい人との会話を許さない（57.6%）」、同列で「馬鹿にしたり、見下したような言動をする」および「交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する（65.8%）」、「家族や友人との関わりを持たせない（70.2%）」となった。

性別で『暴力にあたる』の選択率をみると、「他の異性や親しい人との会話を許さない（女性60.1%、男性53.6%）」、「交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する（女性68.3%、男性61.8%）」の項目ではそれぞれ5ポイント以上の差で男性の方が低かった。『暴力にあたる』の選択率では差が出たものの、『暴力にあたらない』の選択率については、男女間の差が3ポイント未満で収まっている。

5-1-1. 「なぐるふりをしておどす」行為への認識

性別にみると、どの選択肢も同じような割合で選ばれている。『暴力にあたる』の選択率を年代別にみると、女性では40歳代が最も高く（91.7%）、そこから年代が上がると70歳以上になるまでに選択率が20ポイント以上低くなる。男性では30歳代が最も高く（89.5%）、そこから年代が上がると、70歳以上になるまでに選択率が20ポイント以上低くなる。男女ともに70歳以上で『暴力にあたる』の選択率が最も低くなった。

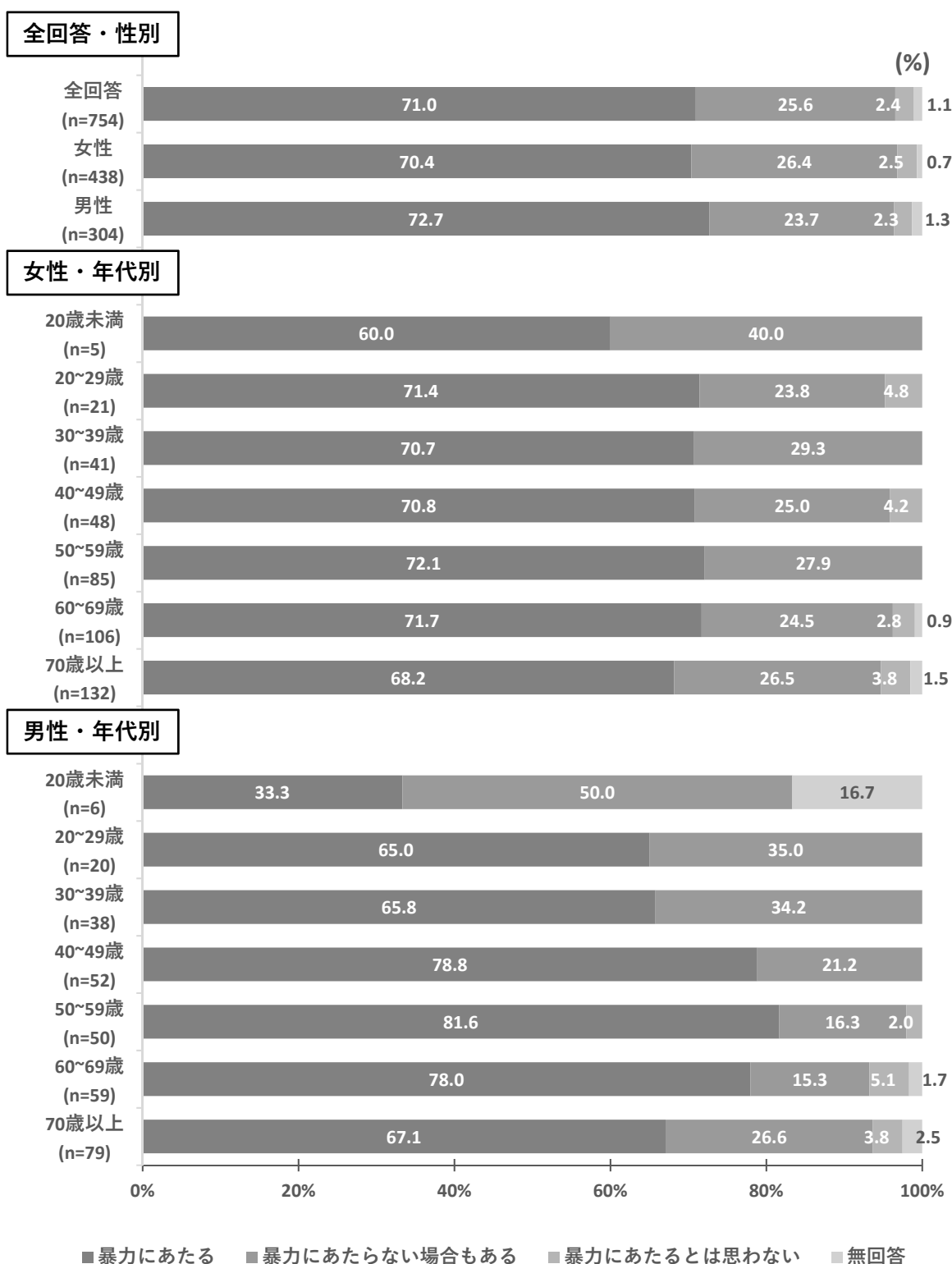
図表3-14-1. 「なぐるふりをしておどす」行為への認識（性別・年代別）



5-1-2. 「大声でどなる」行為への認識

性別では、どの選択肢も同様の割合で選ばれている。『暴力にあたる』の選択率を年代でみると、女性では70歳代が低くなるものの（68.2%）、各年代で7割台となった。一方で男性では、『暴力にあたる』の選択率は30歳代までは6割台半ばと低く、40～50歳代で8割前後まで上がり、そこから70歳以上（67.1%）にかけて下がっていた。下がったものの、30歳代以下よりは高かった。30歳代では『暴力にあたる』の選択率が低いが、『暴力にあたらない』の選択は無かった。

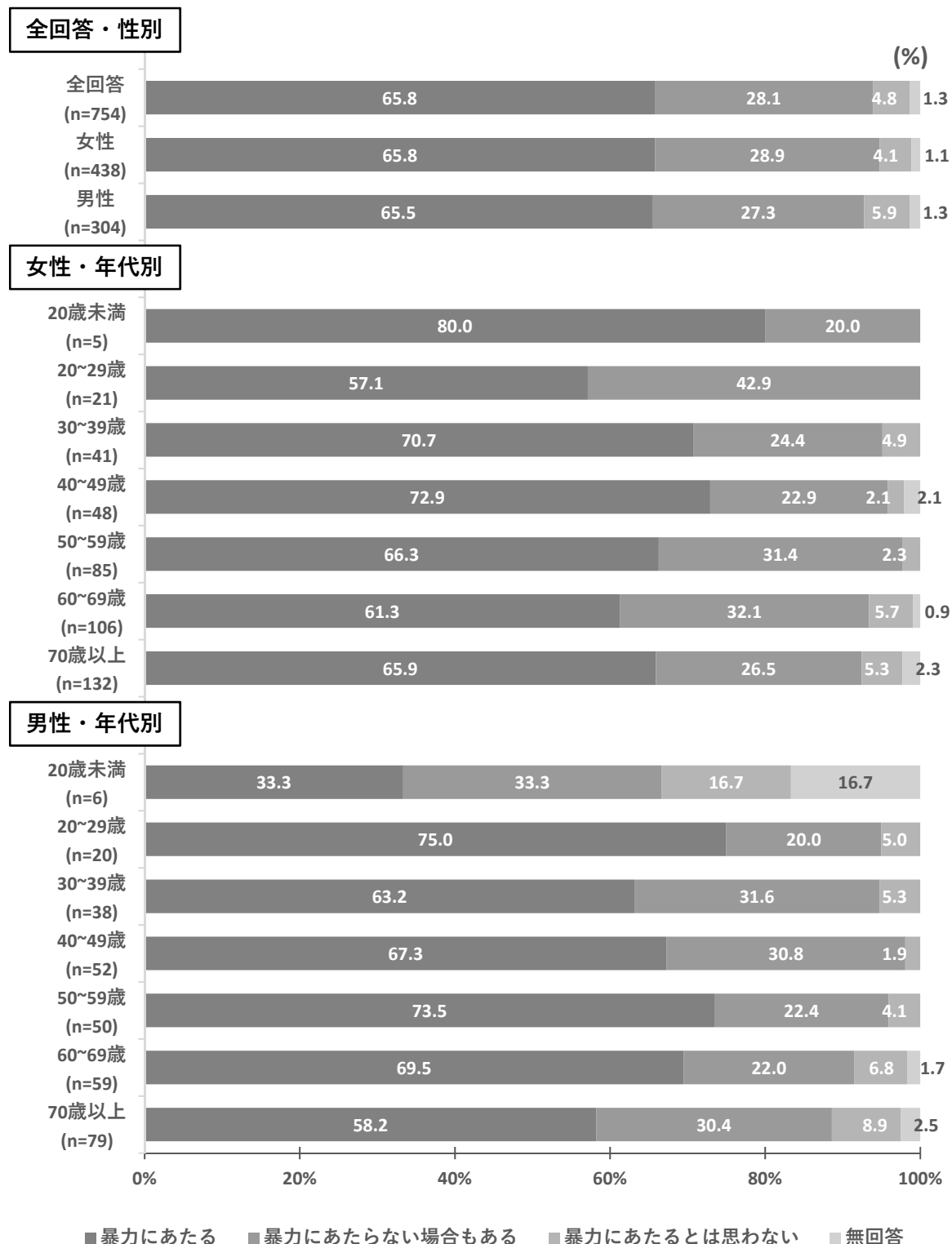
図表3-14-2. 「大声でどなる」行為への認識（性別・年代別）



5-1-3. 「馬鹿にしたり、見下したような言動をする」行為への認識

本調査では『暴力にあたる』の選択率が低い項目の一つだったが、性別にみると、その差は1ポイント未満で、男女ともに『暴力にあたらない場合もある』の選択率が高い項目となった。また、他の選択肢でも選択率の男女差は2ポイント未満で収まっている。『暴力にあたる』の選択率を年代別にみると、女性では30～40歳代が他の世代より高く、男性では50歳代で高くなった（73.5%）。一方で、低かった年代は女性で29歳以下（合算で61.5%）、男性で70歳以上（58.2%）となった。

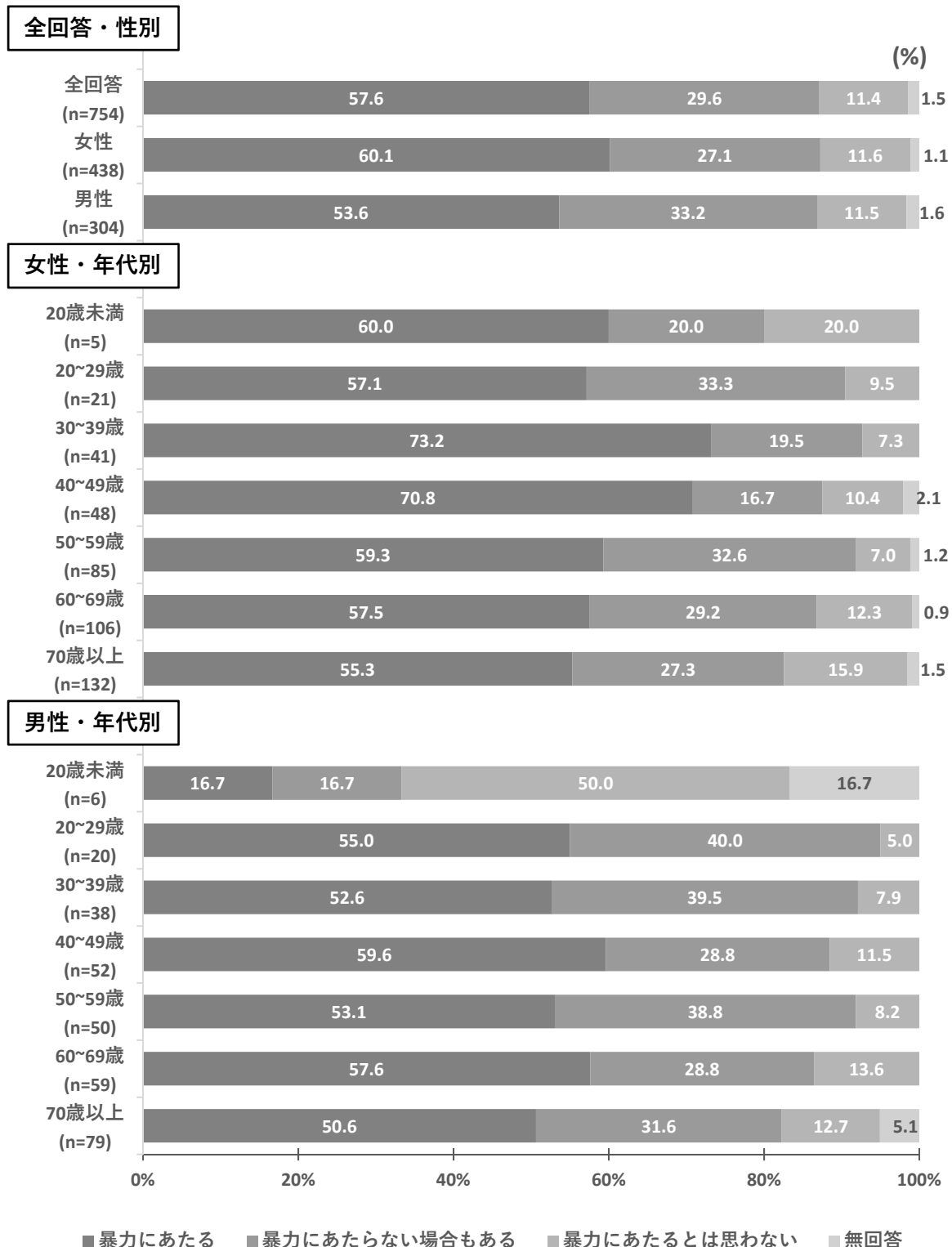
図表3-14-3. 「馬鹿にしたり、見下したような言動をする」行為への認識（性別・年代別）



5-1-4. 「他の異性や親しい人との会話を許さない」行為への認識

本調査で『暴力にあたる』の選択率が最も低い項目で、男女間での選択率は男性が6.5ポイント低くなった。『暴力にあたらない』の選択率には差があった一方で『暴力にあたらない』の選択率の差は0.1ポイントに収まっている。『暴力にあたる』の選択率を年代別にみると、女性では30～40歳代が7割台と高い一方で、それ以降では6割弱と、世代間で開きがあった。男性では世代を通じて選択率が5割台に収まっており、女性より開きが小さかった。

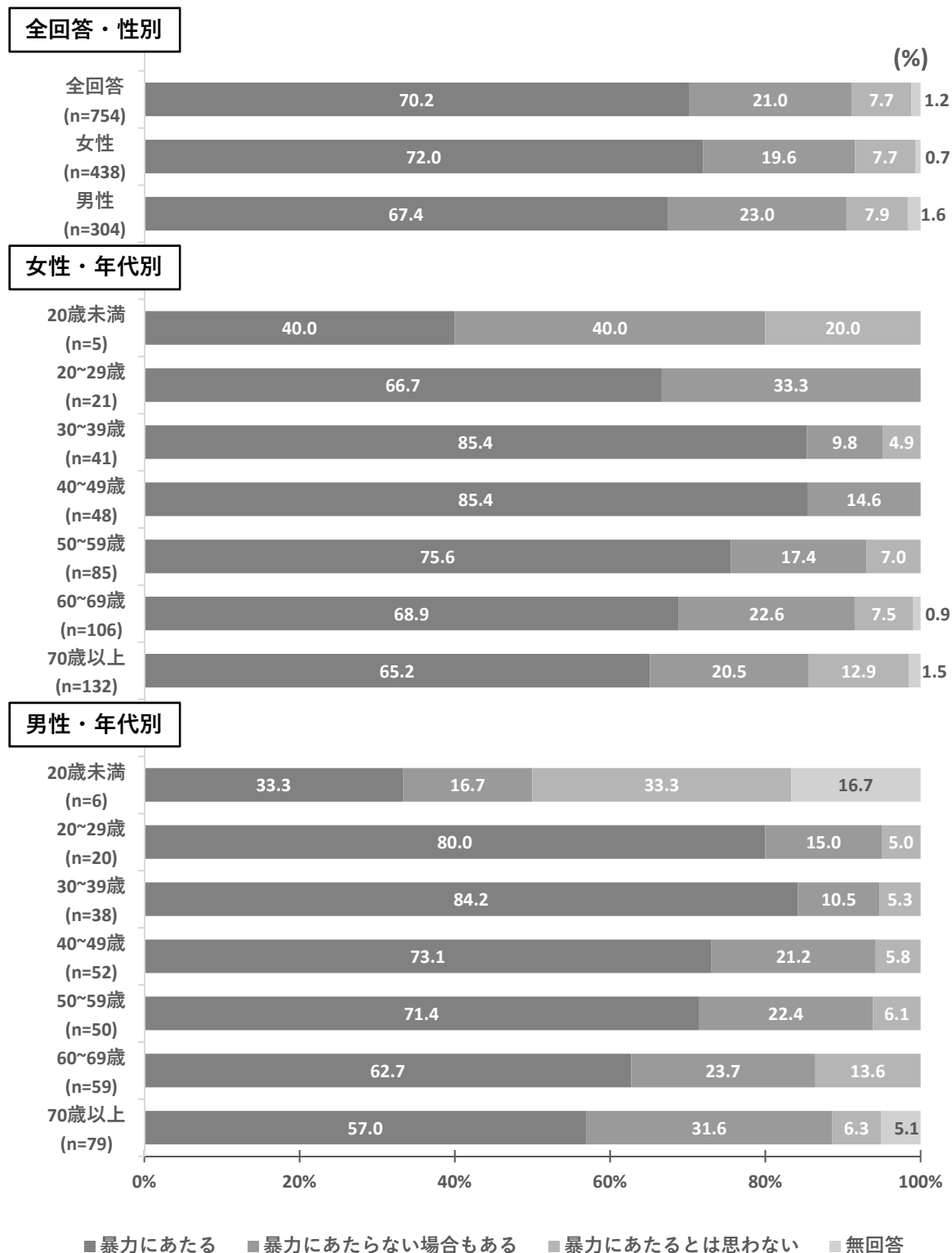
図表3-14-4. 「他の異性や親しい人との会話を許さない」行為への認識（性別・年代別）



5-1-5. 「家族や友人との関わりを持たせない」行為への認識

男女間での『暴力にあたる』の選択率は男性が4.6ポイント低く、『暴力にあたらない』の選択率は0.2ポイント高かった。『暴力にあたる』の選択率を年代別にみると、男女ともに世代間で大きな開きがあった。女性では30～40歳代が85.4%と高く、70歳以上では65.2%と、20ポイントの差があった。男性でも、30歳代が84.2%だったのに対して70歳以上では57.0%と、25ポイントを超える開きがあった。

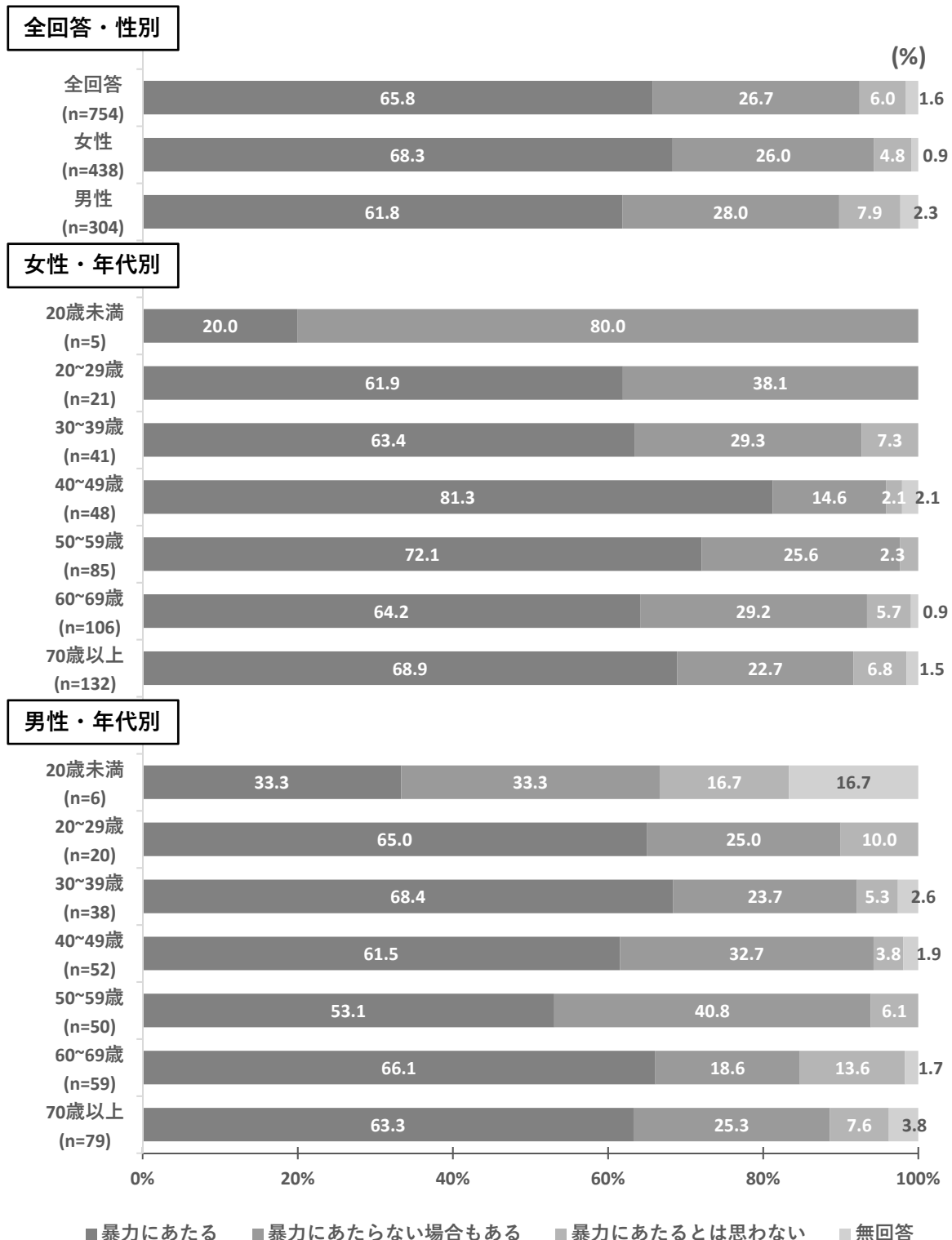
図表3-14-5. 「家族や友人との関わりを持たせない」行為への認識（性別・年代別）



5-1-6. 「交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する」行為への認識

男女間での『暴力にあたる』の選択率は男性が4.6ポイント低く、『暴力にあたらない』の選択率は3.1ポイント高かった。『暴力にあたる』の選択率を年代別にみると、世代間での開きは女性の方が大きかった。女性では40歳代が81.3%、20歳代以下では53.8%と、27.5ポイントの差があった一方で、男性では、30歳代が68.4%に対して、他の世代が6割台、60歳代では53.1%で、差は最大で15.3ポイントとなった。

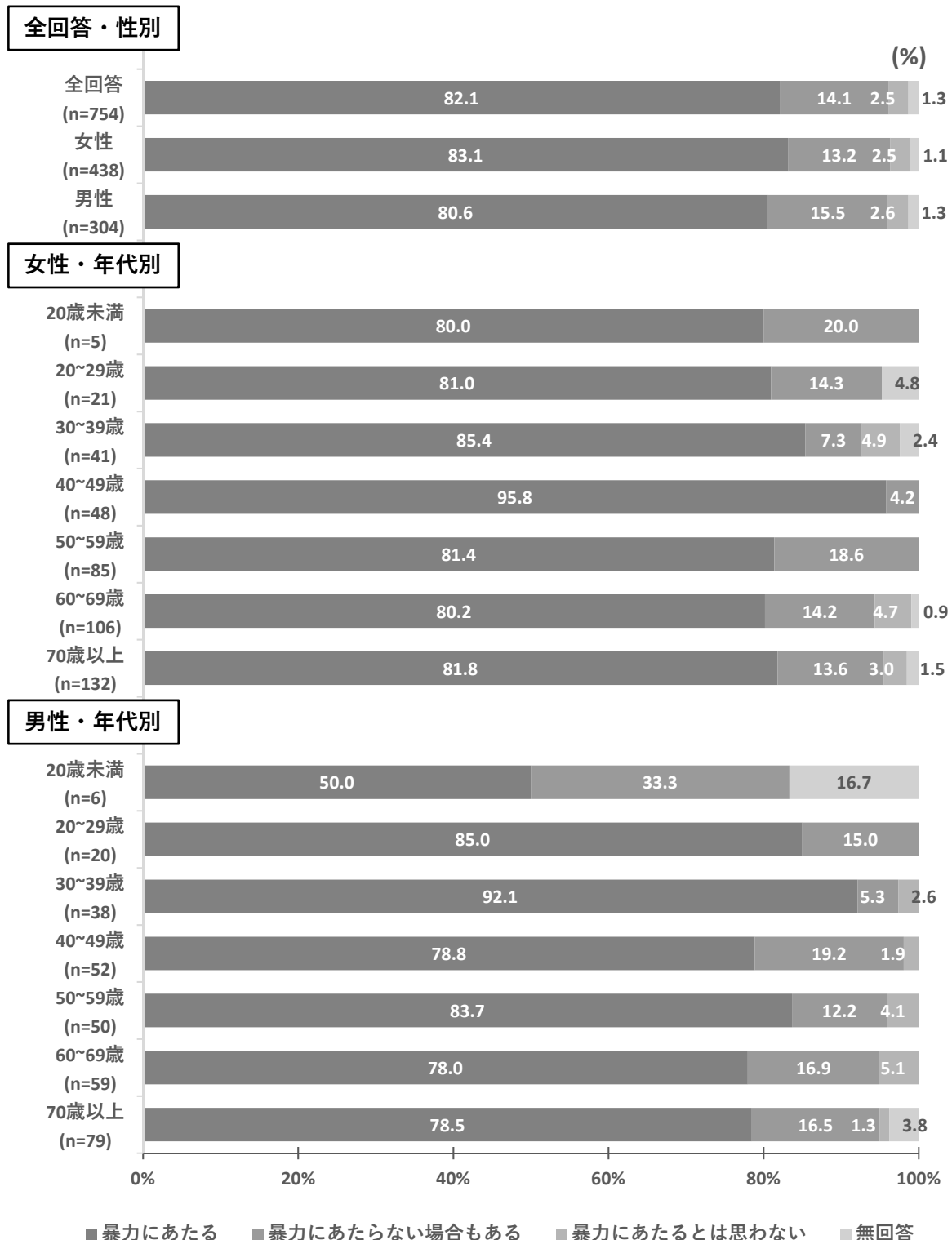
図表3-14-6. 「交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する」行為への認識（性別・年代別）



5-1-7. 「職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する」行為への認識

男女間での『暴力にあたる』の選択率の差は2.5ポイント、『暴力にあたらない』の選択率は0.1ポイントの差に収まった。『暴力にあたる』の選択率を年代別にみると、男女ともに世代間で同様の開きがあった。女性では40歳代が95.8%、60歳代では80.2%と、15.6ポイントの差があった。一方で男性では、30歳代が92.1%、20歳代以下では76.9%で、差15.2ポイントの差となった。男女ともに突出して高い年代があり、世代間で差が開いた。

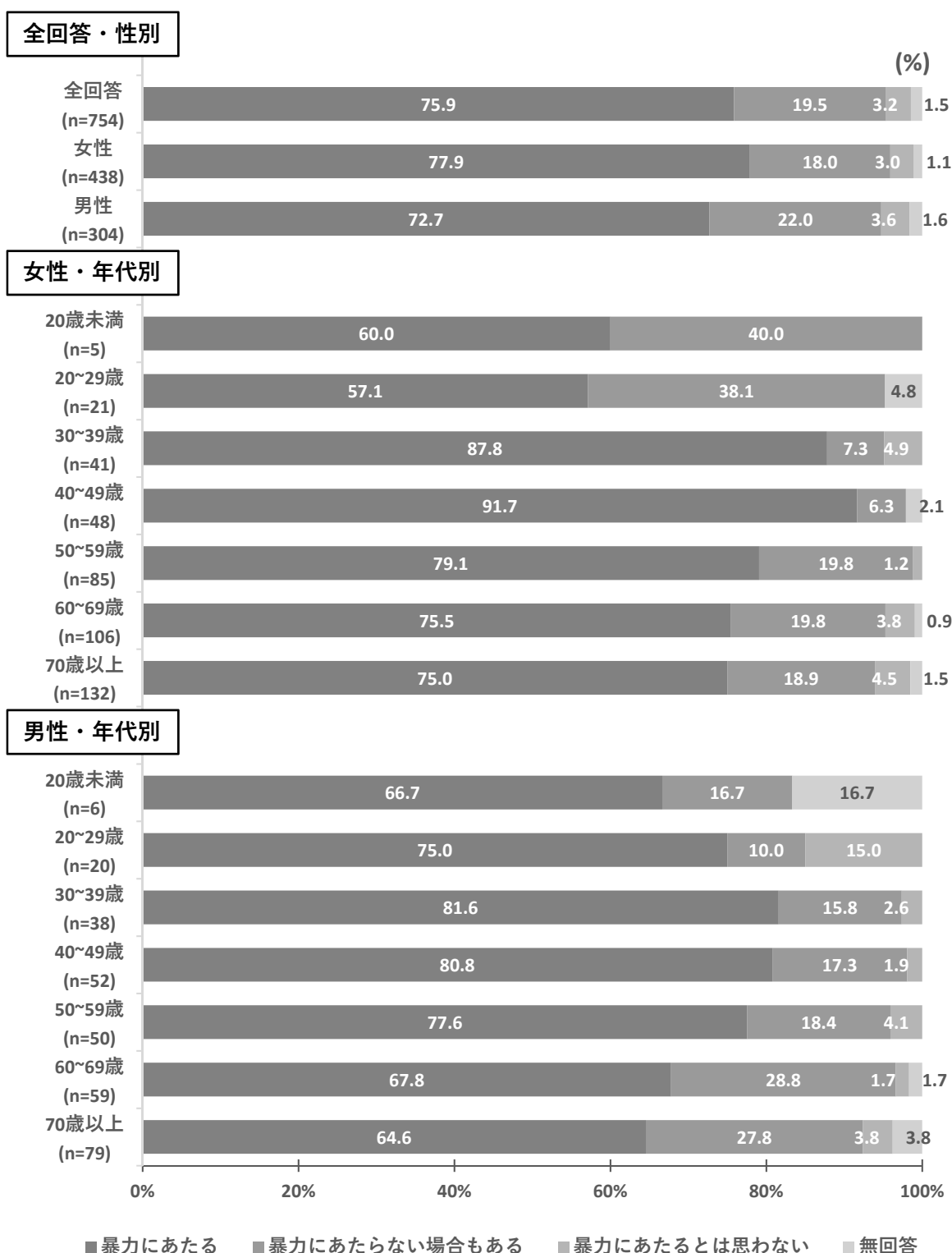
図表3-14-7. 「職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する」行為への認識（性別・年代別）



5-1-8. 「何を言っても長期間無視し続ける」行為への認識

男女間での『暴力にあたる』の選択率の差は5.2ポイントと開きがあり、『暴力にあたらない』の選択率は0.6ポイントの差に収まった。『暴力にあたる』の選択率を年代別にみると、男女で世代間の開きに差があった。女性では40歳代が91.7%、30歳未満では57.7%と、34.0ポイントの差があった。一方で男性では、30歳代が81.6%、70歳以上では64.6%と17.0ポイントの差となった。女性では選択率が低い年代があり、世代間での差が開いた。

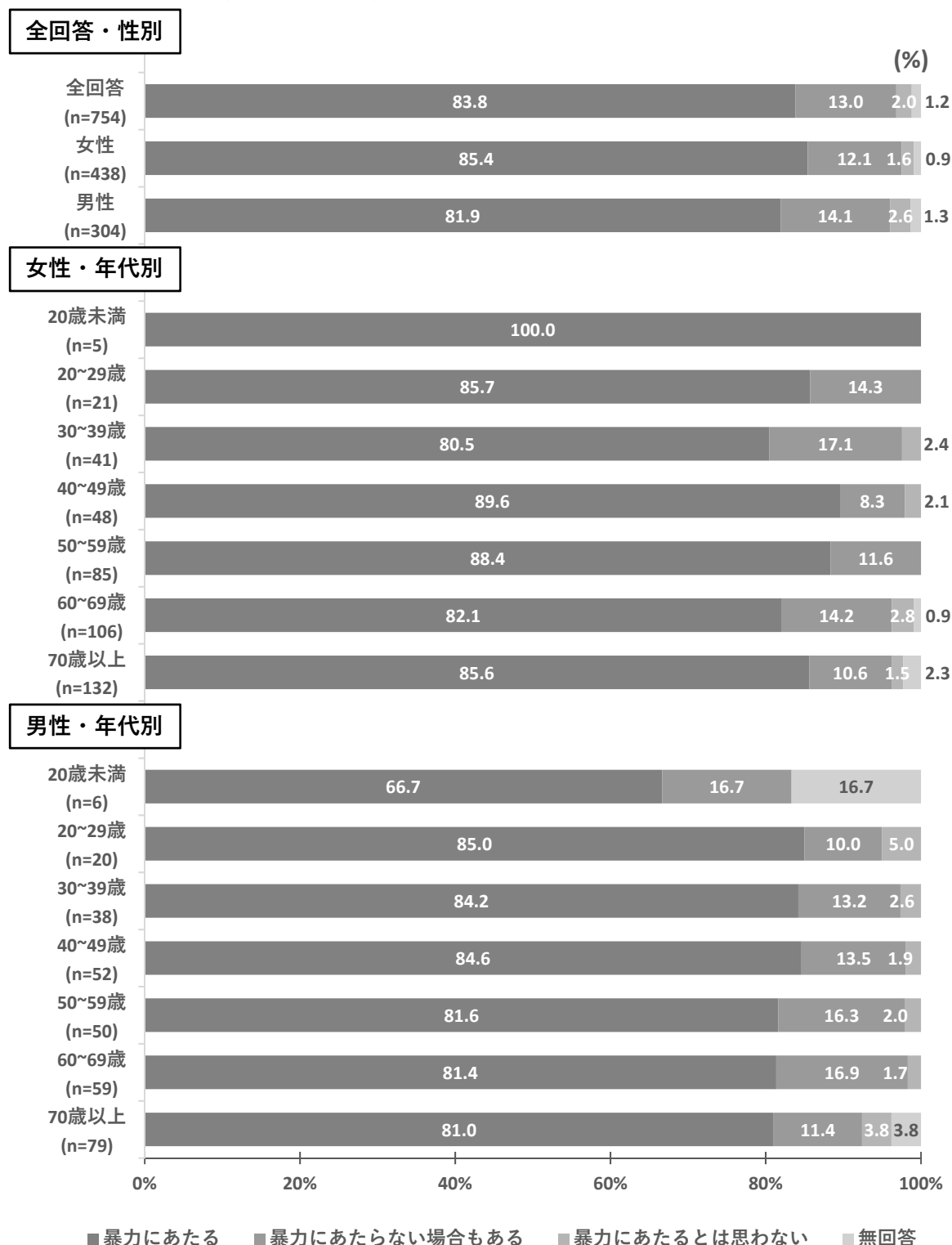
図表3-14-8. 「何を言っても長期間無視し続ける」行為への認識（性別・年代別）



5-1-9. 「『誰のおかげで生活できるんだ』や『甲斐性なし』などと言う」行為への認識

『暴力にあたる』の選択率は女性の方が3.5ポイント高く、『暴力にあたらない』の選択率は男性の方が1.0ポイント高かった。『暴力にあたる』の選択率を年代別にみると、男女ともに世代間での差は、男性の30歳未満を除いては無かった。女性では40歳代が89.6%、30歳代では80.5%と、9.1ポイントの差となった。一方で男性では、40歳代が84.6%、20歳代以下では73.1%と11.5ポイントの差となった。

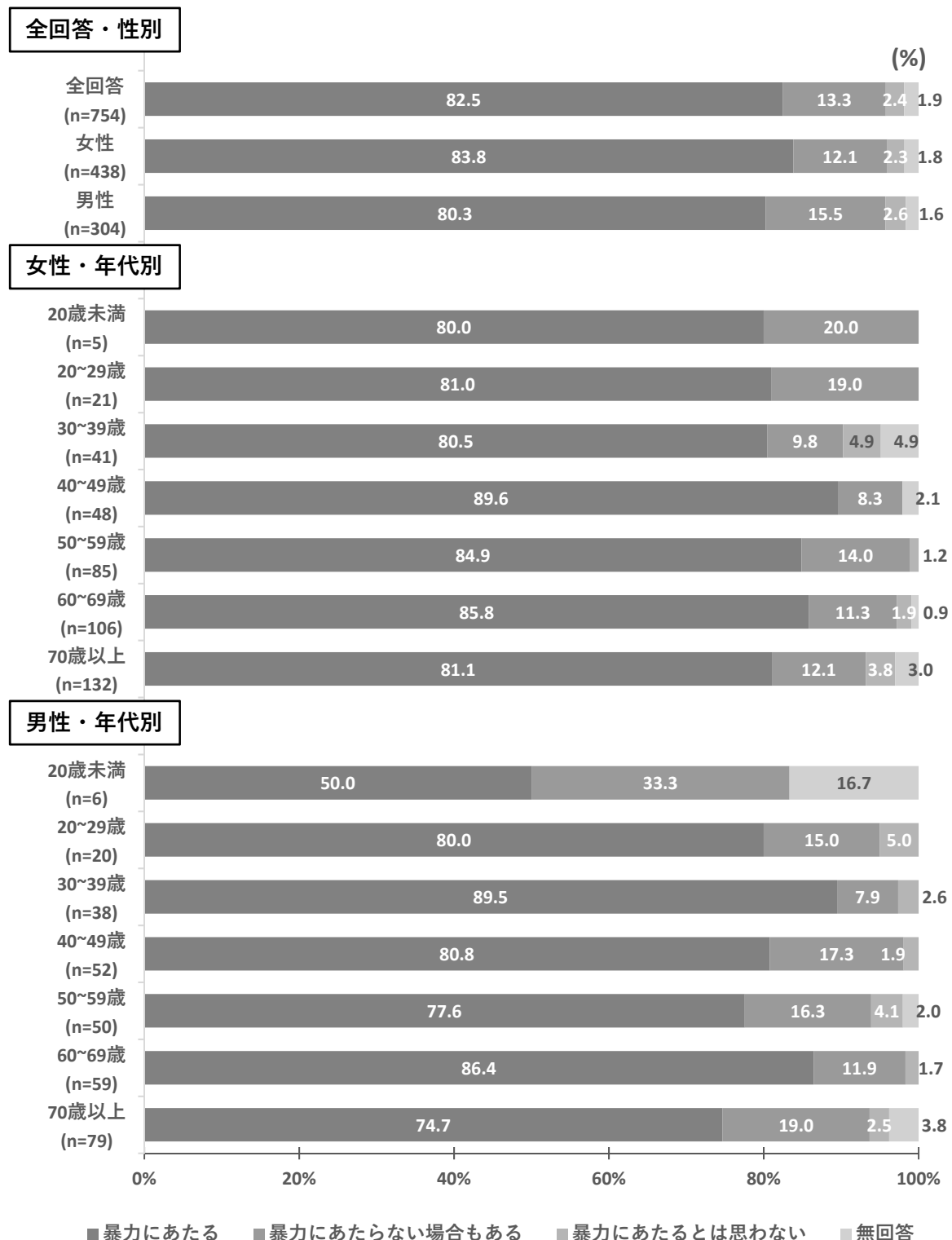
図表3-14-9. 「『誰のおかげで生活できるんだ』や『甲斐性なし』などと言う」行為への認識（性別・年代別）



5-1-10. 「家計に必要な生活費を渡さない」行為への認識

『暴力にあたる』の選択率は女性の方が3.5ポイント高く、『暴力にあたらない』の選択率は男性の方が0.3ポイント高かった。『暴力にあたる』の選択率を年代別にみると、男女ともに世代間での差は、男性の方が大きかった。女性では40歳代が89.6%、30歳代では80.5%と、9.1ポイントの差となった。一方で男性では、30歳代が89.5%、20歳代以下では73.1%と15.4ポイントの差となった。

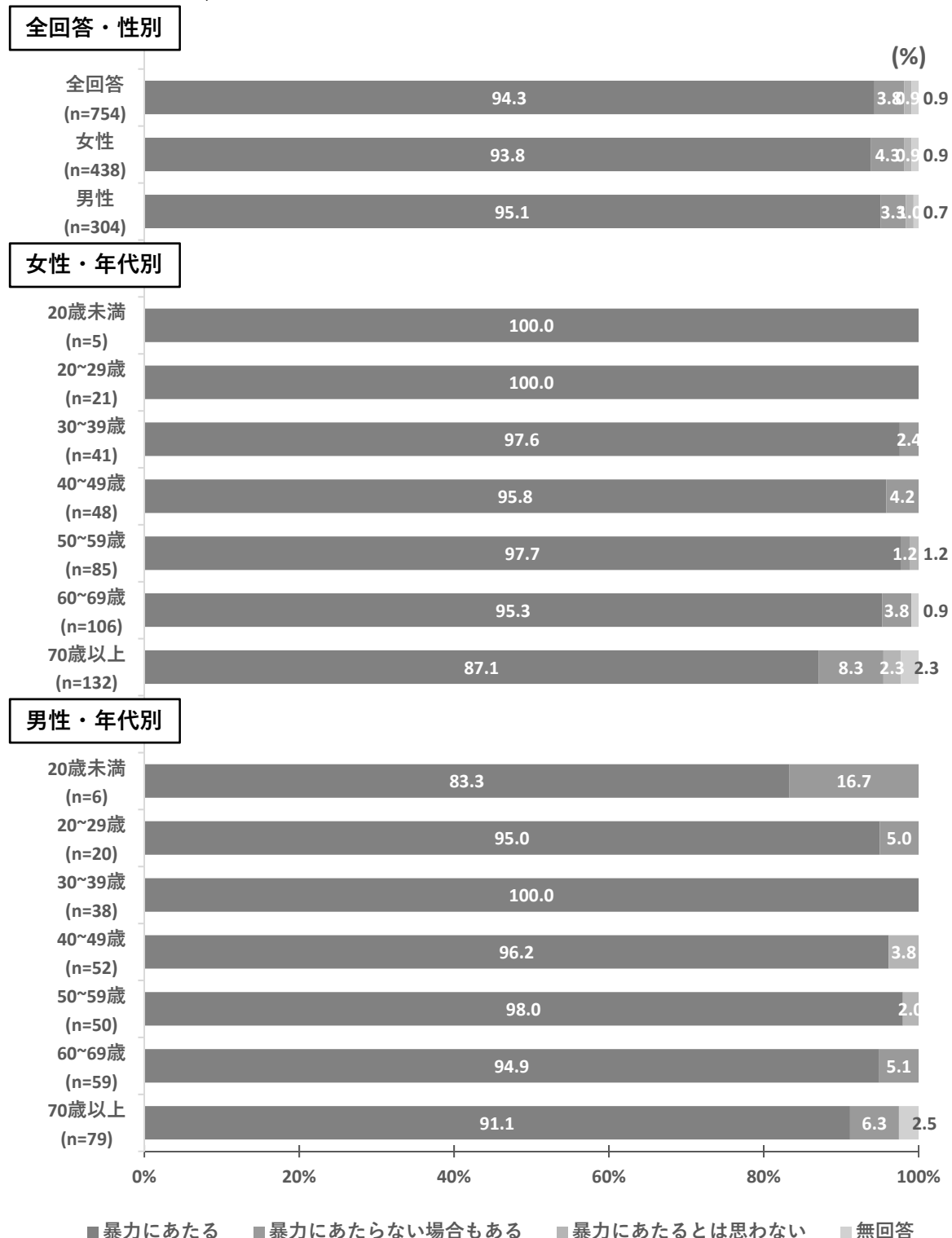
図表3-14-10. 「家計に必要な生活費を渡さない」行為への認識（性別・年代別）



5-1-11. 「嫌がっているのに、性的な行為を強要する」行為への認識

『暴力にあたる』の選択率は全項目で最も高くなった。また、性別では1.3ポイントながら男性の方が高かった。『暴力にあたる』の選択率を年代別にみると、男女ともに70歳以上で下がる結果となり、女性の方が開きが大きかった。男女ともに全員が選択した世代があり（女性：20代以下、男性、30歳代）、選択率が最も低い70歳以上では、女性が87.1%、男性が91.1%となった。

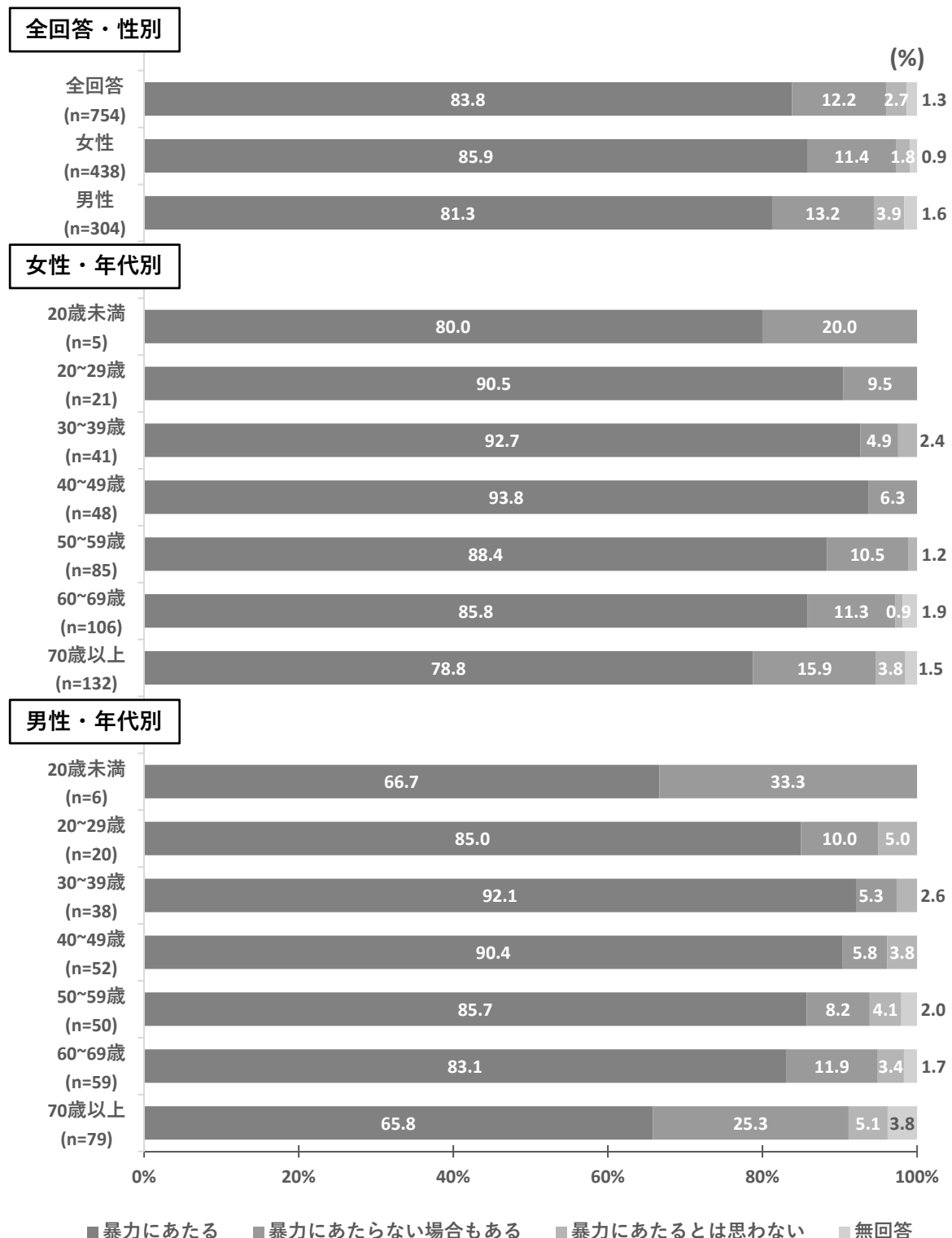
図表3-14-11. 「嫌がっているのに、性的な行為を強要する」行為への認識（性別・年代別）



5-1-12. 「避妊に協力しない」行為への認識

『暴力にあたる』の選択率を性別でみると、女性の方が4.6ポイント高かった。『暴力にあたらない』の選択率は男性の方が2.1ポイント高かった。『暴力にあたる』の選択率を年代別にみると、最も高い世代も最も低い世代も男性で、30歳代が97.1%、70歳以上が65.8%と、31.3ポイントの開きがあった。また、男女ともに40歳代以降では、年齢が上がるごとに選択率が下がっていた

図表3-14-12. 「避妊に協力しない」行為への認識（性別・年代別）

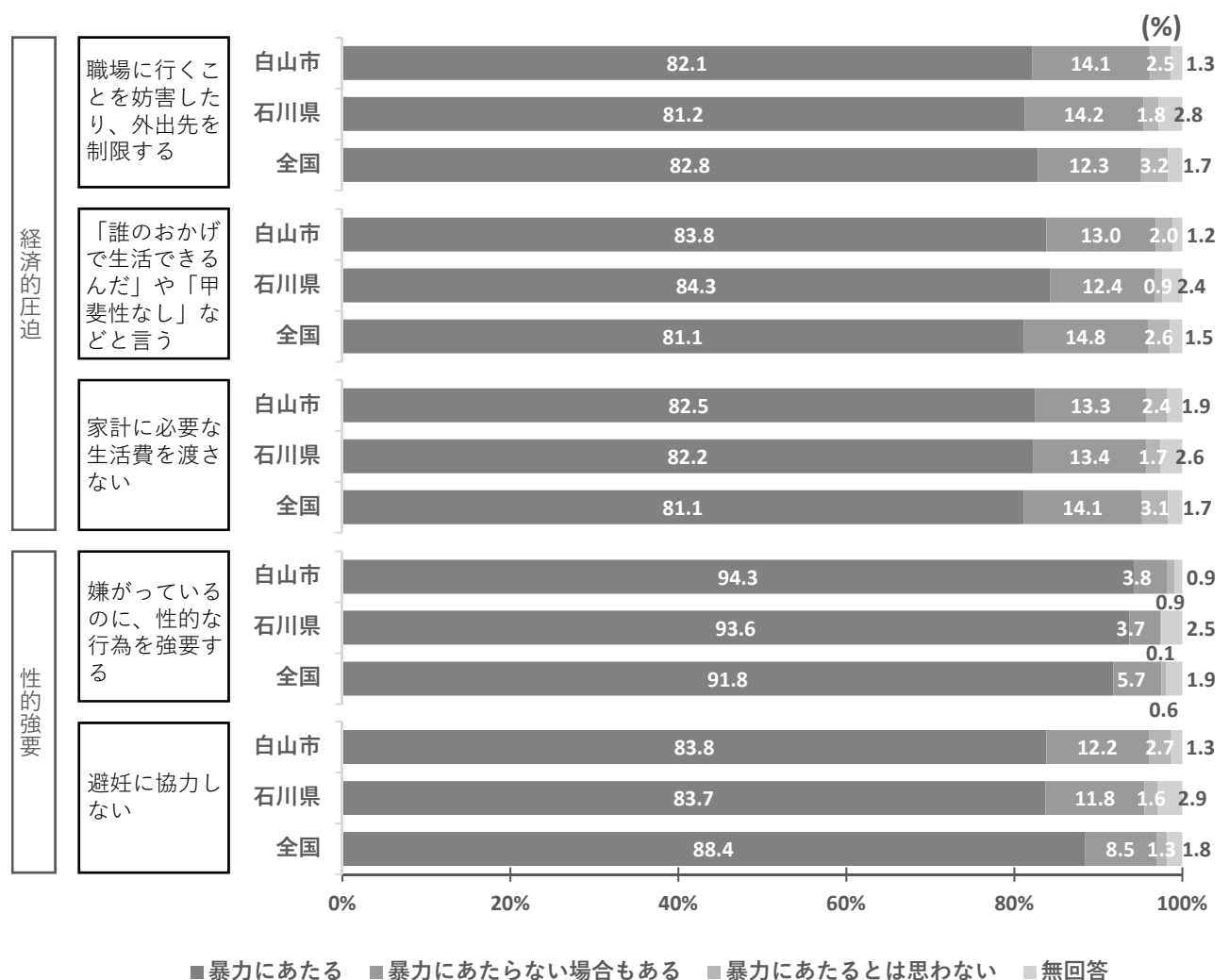


5-1-13. 暴力に関する意識の、国や県との比較

全国や石川県での調査結果と比較する。比較対象には内閣府による令和5年度「男女間における暴力に関する調査」の結果および石川県の令和6年度「男女共同参画に関する県民意識調査」の結果を使用した。質問の選択肢に調査間で違いはないので、公表されている結果を加工せずに比較している。まず、各項目のうち「経済的圧迫」と「性的強要」に分類される行為についての比較結果について示す（図表3-14-14-1）。

「経済的圧迫」に分類される行為については、全国や石川県と同様の回答であった。「性的強要」に分類される行為については、「避妊に協力しない」について『暴力にあたる』の選択率が全国を4.7ポイント下回った。なお、同項目で石川県と比較した場合に顕著な差は無かった。

図表3-14-13-1. 「経済的圧迫」および「性的強要」への認識（全国、石川県との比較）①

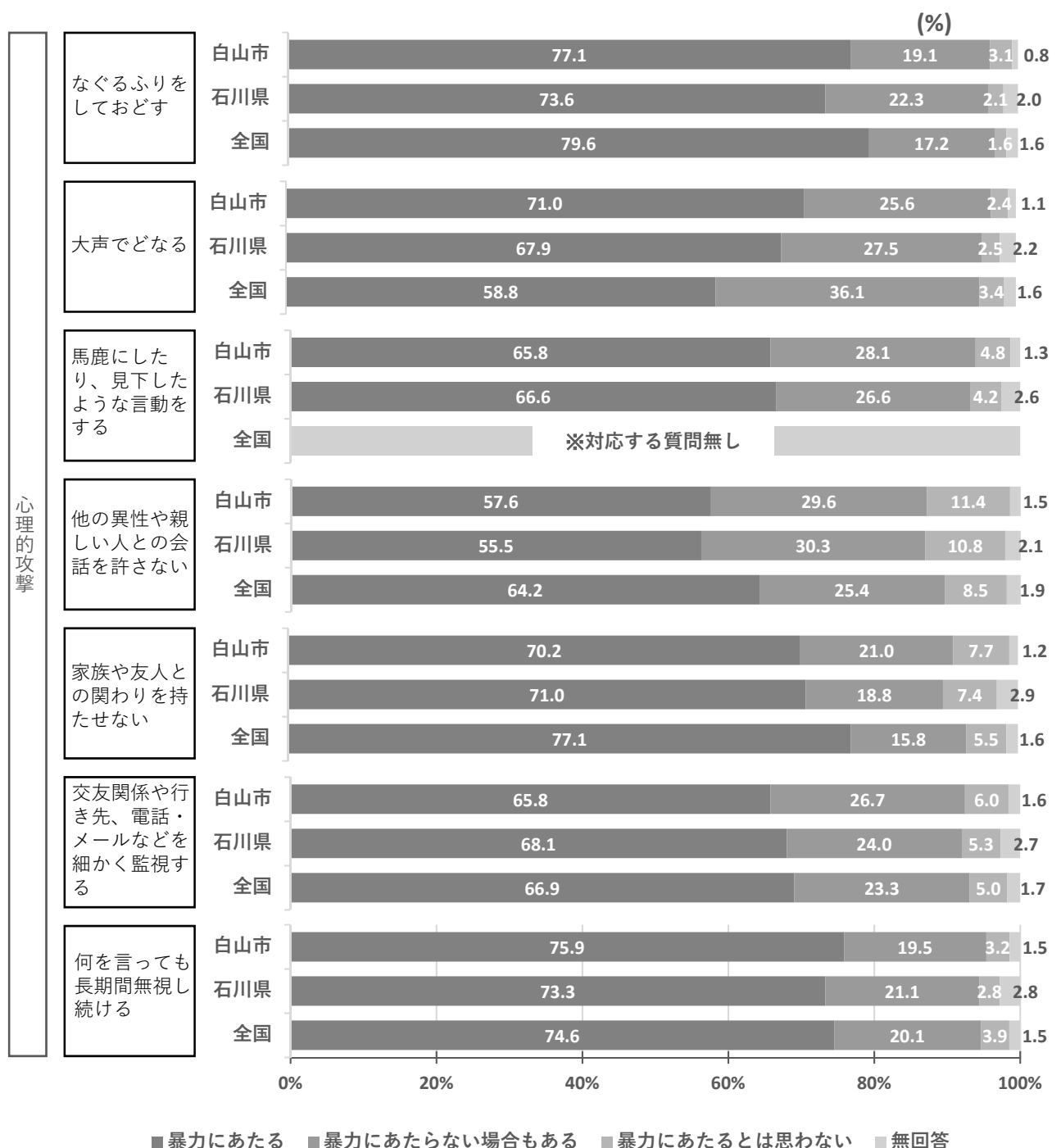


※白山市（n=754）、石川県（n=1,102）、全国（n=2,950）

5-1-13. 暴力に関する意識の、国や県との比較

次に、「心理的攻撃」に分類される行為についての意識を全国や石川県での調査結果と比較する（図表3-14-13-2）。なお、全国調査では「馬鹿にしたり、見下したような言動をする」の質問が無かったため、その部分は除外している。「大声でどなる」での『暴行にあたる』の選択率に関しては、全国調査より12.2ポイント高かった。また「他の異性や親しい人との会話を許さない」での『暴力にあたる』の選択率は、石川県の調査よりも高かったが、全国調査よりも6.6ポイント低かった。また、同項目での『暴力にあたらない』の選択率については、全国や石川県よりも低かった。

図表3-14-13-2. 「心理的攻撃」への認識（全国、石川県との比較）



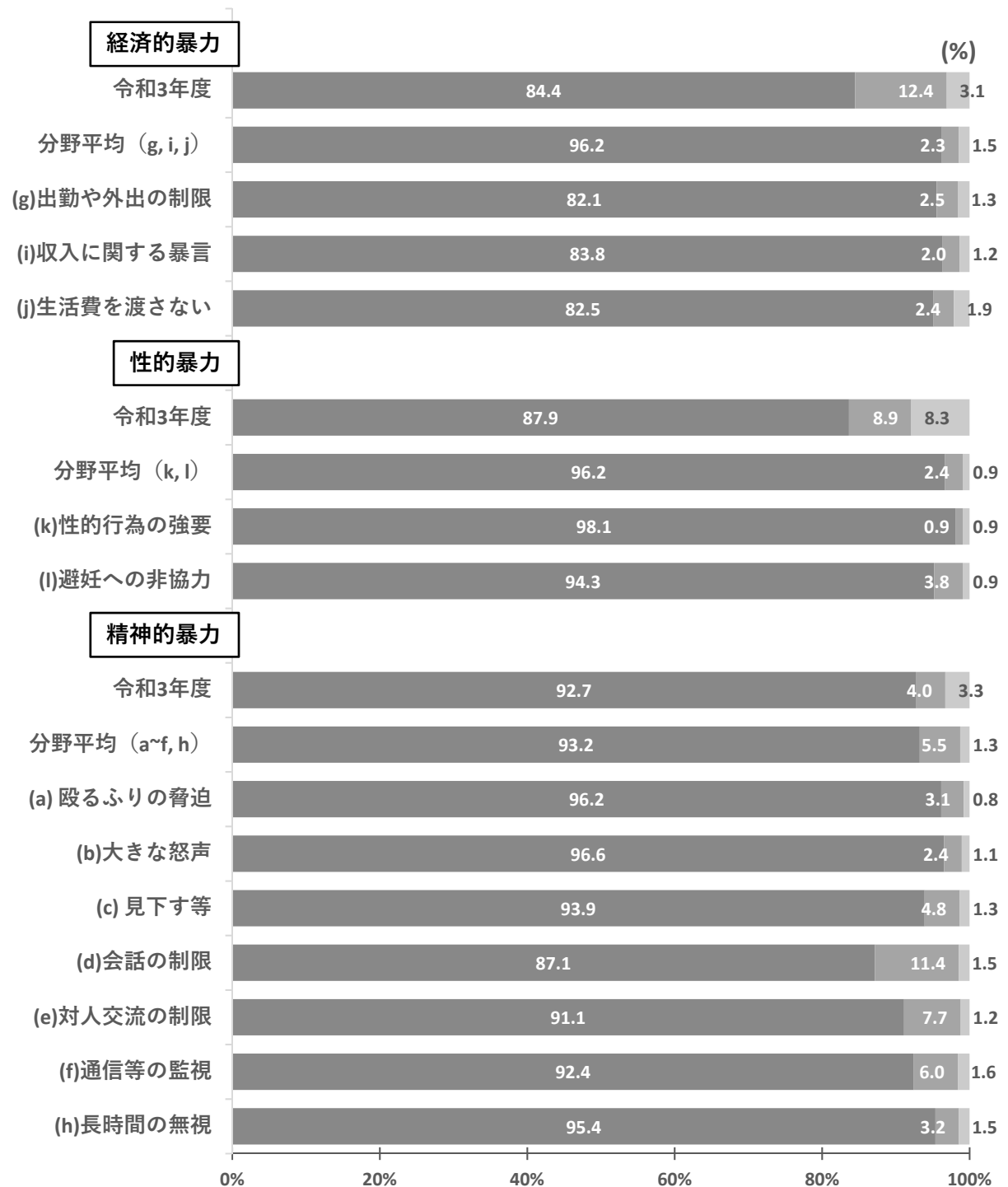
※白山市（n=754）、石川県（n=1,102）、全国（n=2,950）

5-1-14.暴力に関する意識の比較（前回調査との比較）

前回調査（令和3年度実施）の結果と比較する。前回調査では今回と異なる形式で質問が行われているため、比較はできないが、参考に記載する。前回調査では、「身体的暴力」「経済的暴力」「性的暴力」「経済的暴力」の4項目について、知っているか否かを尋ねた。

今回の調査項目を、前回調査の項目に分類し、それぞれについて『暴力にあたる』と『簿力にあたらな場合もある』の合計値を前回調査の『知っている』と比較した。「経済的暴力」と「性的暴力」の項については、今回調査で改善が見られる。

図表3-1-8. 男女の地位の平等意識（令和3年度調査との比較）



■ 暴力にあたる+当たらない場合もある（前回調査：知っている）

■ 暴力にあたるとは思わない（前回調査：知らない）

■ 無回答

5-2. 配偶者や交際相手からのDV被害経験の有無

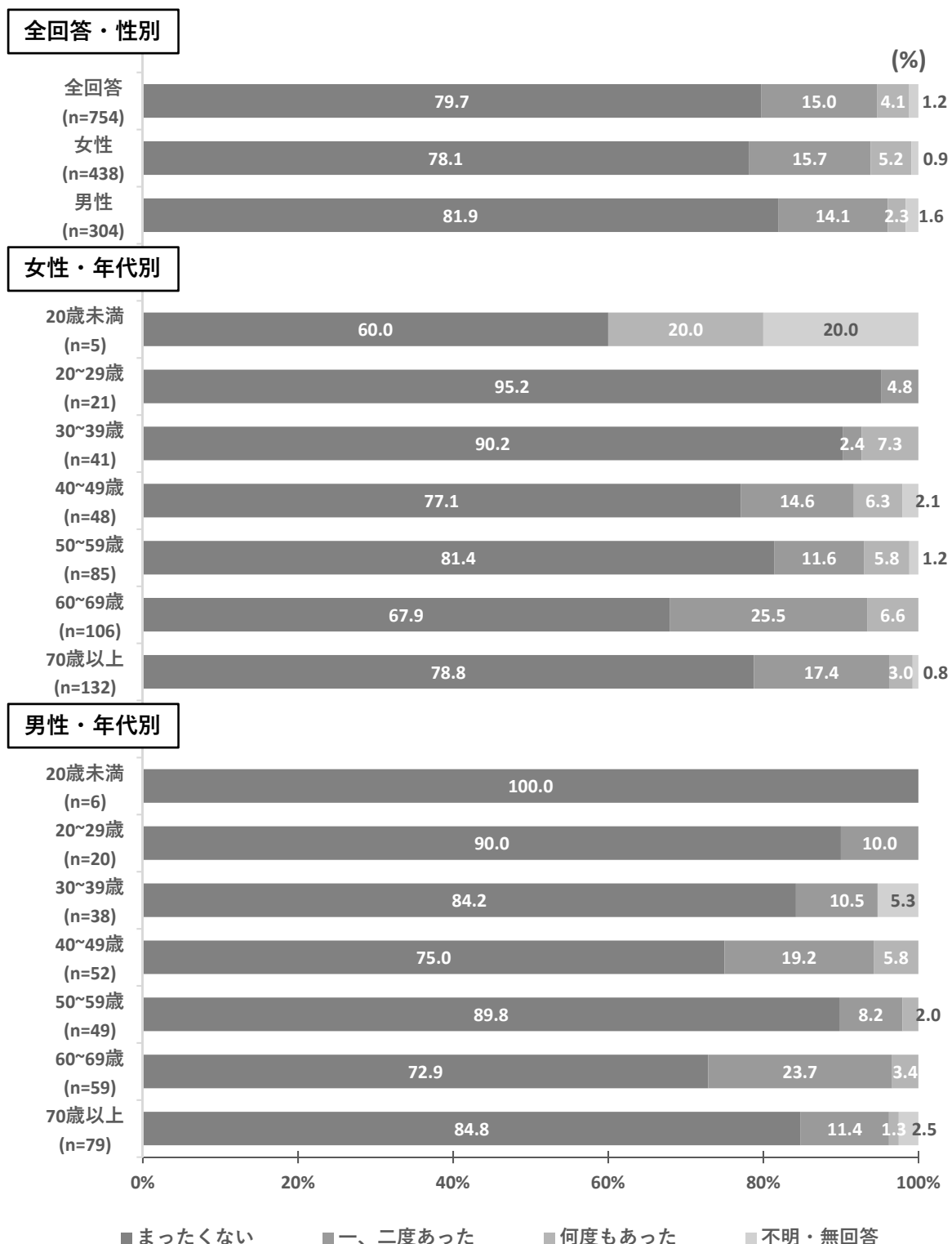
問15 あなたは、これまでにあなたの配偶者や交際相手（事実婚や別居中の夫婦、元配偶者、元交際相手を含む）から次のようなことをされたことがありますか。（各項目についてあてはまる番号に1つずつ○をつける）

回答者全員に配偶者や交際相手からのDV（ドメスティック・バイオレンス、家庭内暴力）の被害の有無を尋ねた。各項目の選択率を性別でみた場合、「身体的暴行」では、『一、二度あった（女性15.7%、男性14.1%）』、『何度もあった（女性5.2%、男性2.3%）』で、その合計は女性が男性を4.4ポイント上回った（図表3-15-1）。次に「心理的攻撃」では、『一、二度あった（女性19.1%、男性18.1%）』、『何度もあった（女性7.3%、男性8.6%）』となり、その合計の差は1ポイント未満に収まった（図表3-15-2）。「経済的圧迫」では、『一、二度あった（女性5.5%、男性3.9%）』、『何度もあった（女性3.9%、男性2.3%）』で、その合計は女性が1.5ポイント上回った（図表3-15-3）。最後に「性的強要」では、『一、二度あった（女性7.7%、男性7.6%）』、『何度もあった（女性3.9%、男性2.3%）』で、その合計は女性が1.7ポイント上回った（図表3-15-3）。

5-2-1. 配偶者や交際相手などからの身体的暴行の被害経験の有無

「身体的暴行」の被害経験者（『一、二度あった』または『何度もあった』を選択した回答の合計割合）を世代別に見ると、男女ともに40歳代以上で1割を超えていた。また、男女ともに60歳代で最も多かった（女性が計32.1%、男性が計27.1%）その次点については、男女ともに40歳代となり、男性においては60歳代に次ぐものの、他の世代よりも突出して高かった。

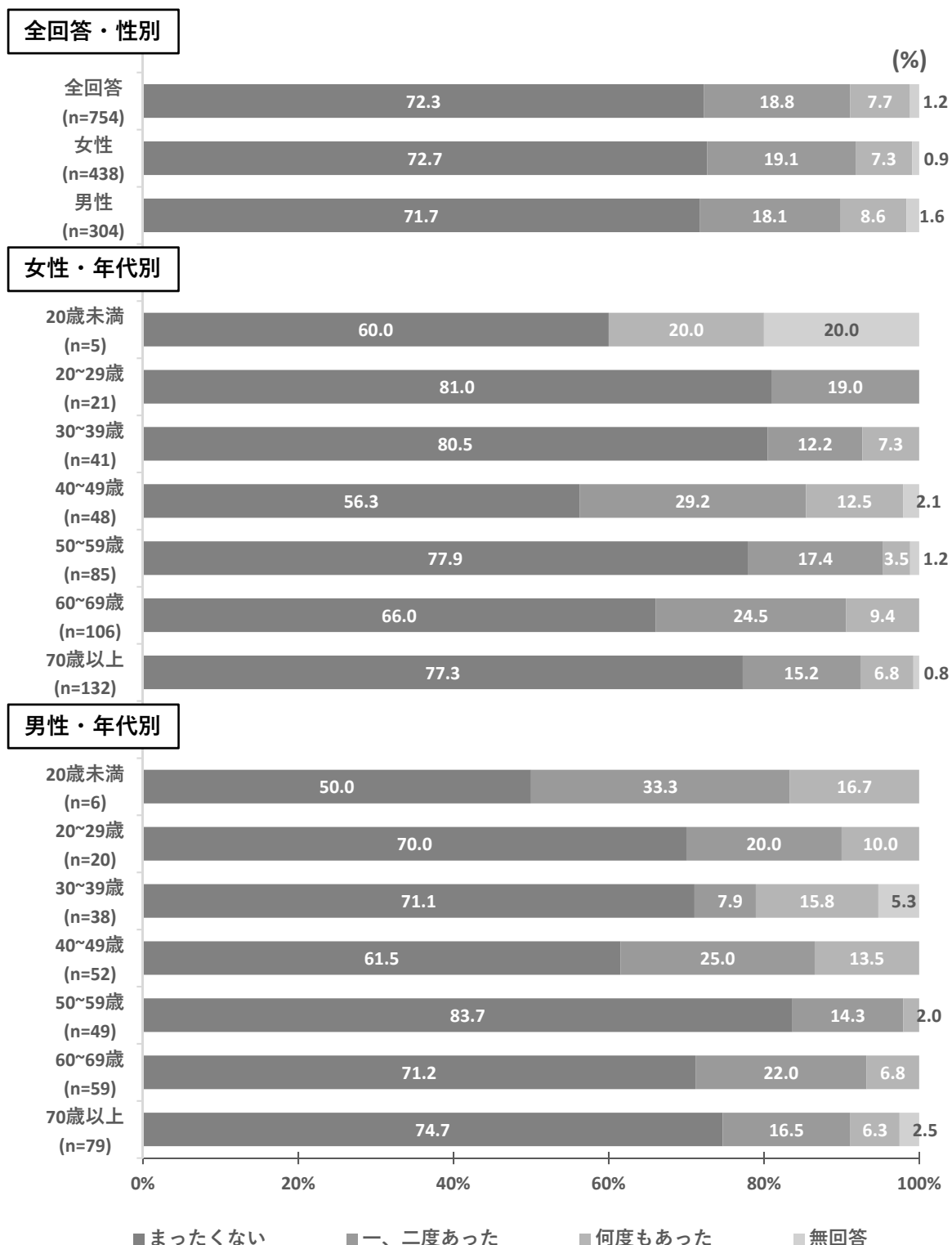
図表3-15-1. 配偶者や交際相手などからの身体的暴行の被害経験の有無（性別、年代別）



5-2-2. 配偶者や交際相手などからの心理的攻撃の被害経験の有無

「心理的攻撃」の被害経験者を世代別に見ると、女性では40歳代で4割強、60歳代で3割強となった。男性では40歳代で4割弱、20歳代以下で3割台半ばで被害経験があった。女性では、他の世代が2割前後なのに対して上述の2世代が突出して高く、男性では他の世代が2～3割に対して、50歳代が特に低かった（計16.3%）。

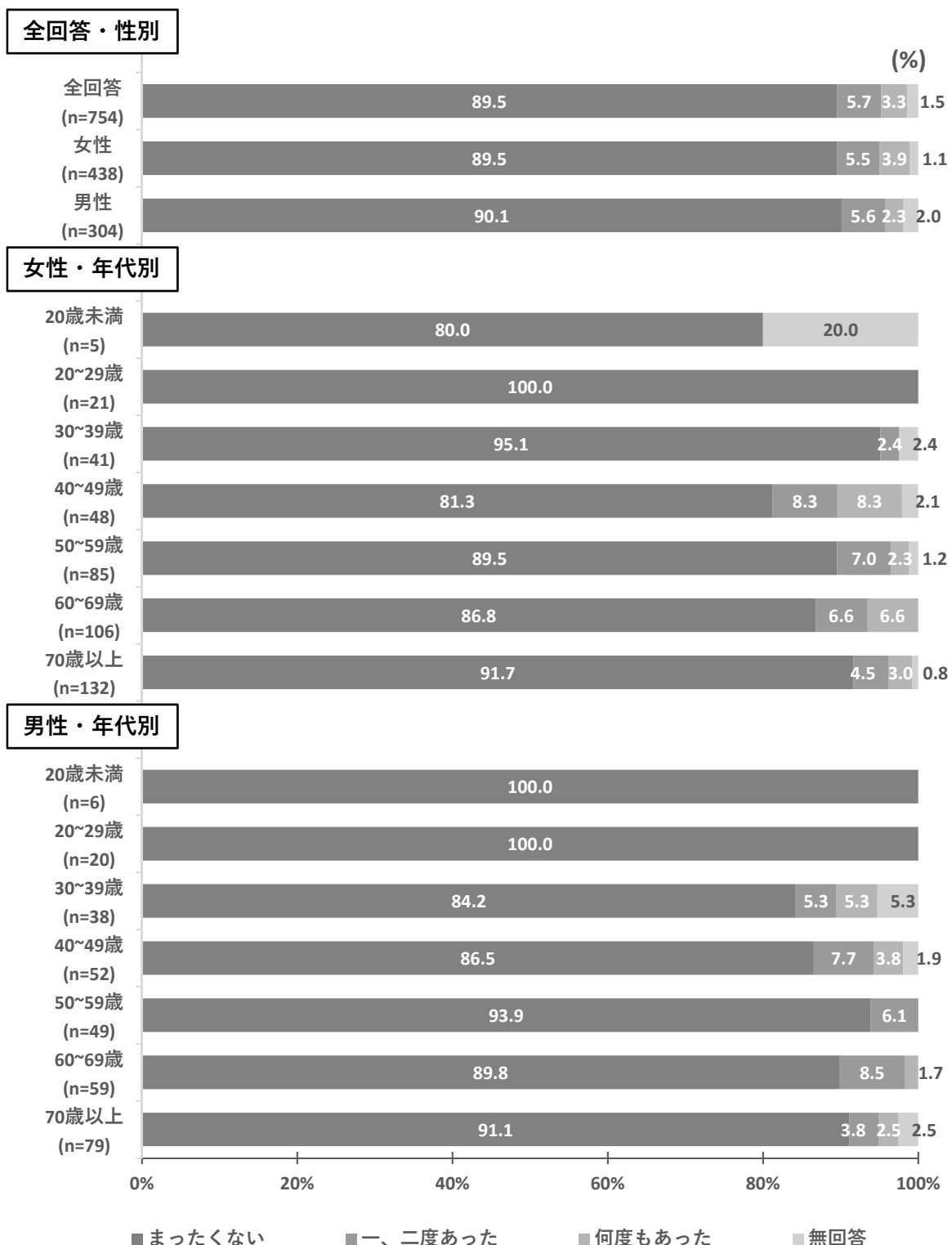
図表3-15-2. 配偶者や交際相手などからの心理的攻撃の被害経験の有無（性別、年代別）



5-2-3. 配偶者や交際相手などからの経済的圧迫の被害経験の有無

「経済的圧迫」の被害経験者を世代別に見ると、男女ともに40歳代が最も多かった（女性の計16.8%、男性の計11.5%）。一方で男女ともに20歳代以下では被害経験者はなかった。この質問においても50歳代男性は周囲の世代よりも被害経験者が少なかった（計6.1%）が、70歳以上の男性も同様の割合だった（計6.3%）。

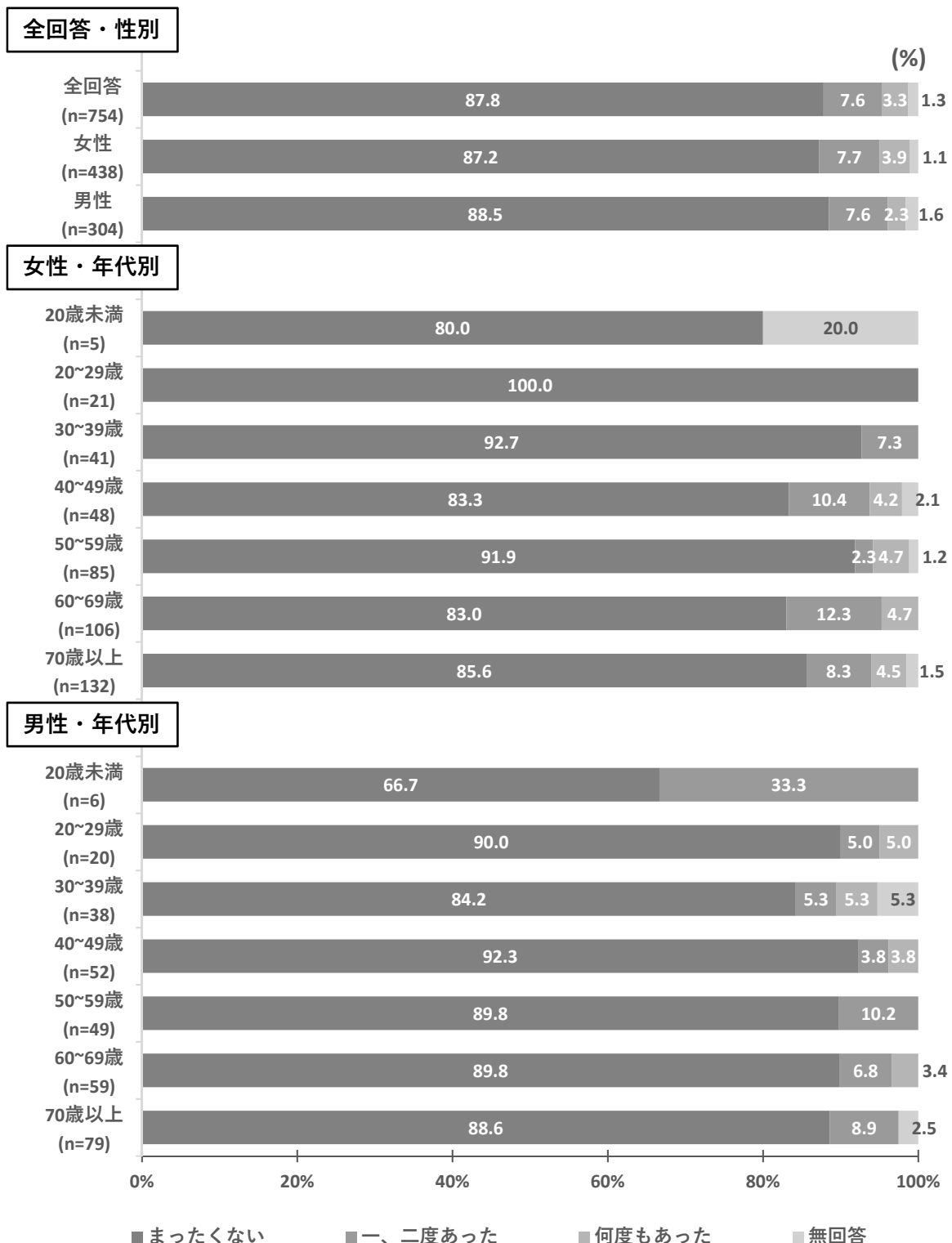
図表3-15-3. 配偶者や交際相手などからの経済的圧迫の被害経験の有無（性別、年代別）



5-2-4. 配偶者や交際相手などからの性的強要の被害経験の有無

「性的強要」の被害経験者を世代別に見ると、女性では60歳代が最も高く（計17.0%）、男性では20歳代以下が最も多かった（計15.4%）。また、女性では50歳代が周囲の世代が15%前後の割合だった中、被害経験者が少なかった（計8.0%）。男性では40歳代が周囲の世代よりも低かった（計7.6%）が、周辺は1割前後だったので、さほど大きな差ではなかった。

図表3-15-4. 配偶者や交際相手などからの性的強要の被害経験の有無（性別、年代別）



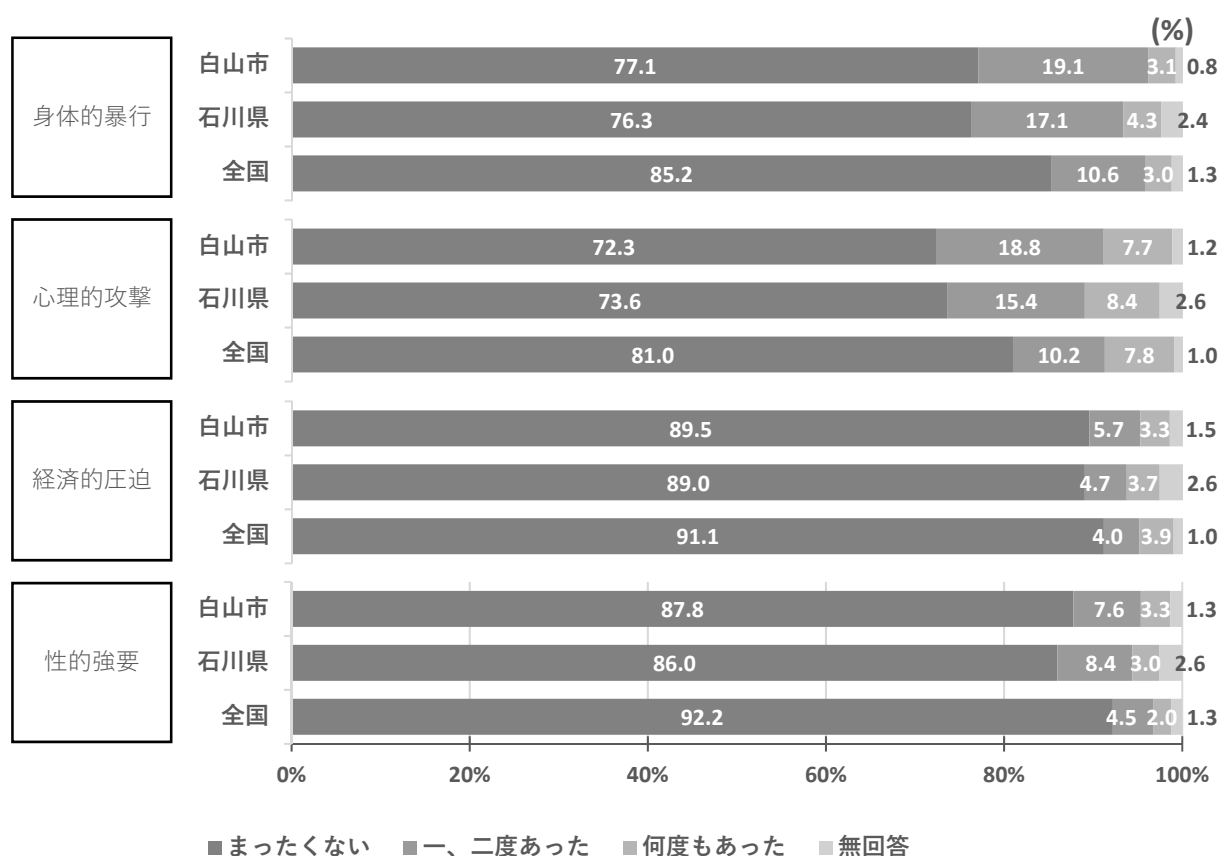
5-3. 配偶者や交際相手などからのDV被害経験（全国、石川県との比較）

全国調査と石川県の調査と比較した。全国調査は内閣府による令和5年度「男女間における暴力に関する調査」を石川県の調査は、令和6年度「男女共同参画に関する県民意識調査」の調査結果を使用した。選択肢については各調査間で差は無いため、調査結果をそのまま比較した。

被害経験者の割合は「経済的圧迫」を除いた三項目での全国よりも高かったものの、石川県とは同程度だった。「身体的暴行」では8.6ポイント（白山市22.2%、全国13.6%）、「心理的攻撃」では8.5ポイント（白山市26.5%、全国18.0%）、「性的強要」では、4.4ポイント（白山市10.9%、全国6.5%）それぞれ高かった。

被害経験者の割合は多かったものの、『何度もあった』の選択率は全国と同程度で、「性的強要」では1.3ポイント（白山市3.3%、全国2.0%）、「身体的暴行（白山市3.1%、全国3.0%）」と「精神的攻撃（白山市7.7%、全国7.8%）」では0.1ポイントの差に収まった。

図表3-15-5. 配偶者や交際相手などからの経済的圧迫の被害経験の有無（性別、年代別）



※白山市（n=754）、石川県（n=1,102）、全国（n=1,838）

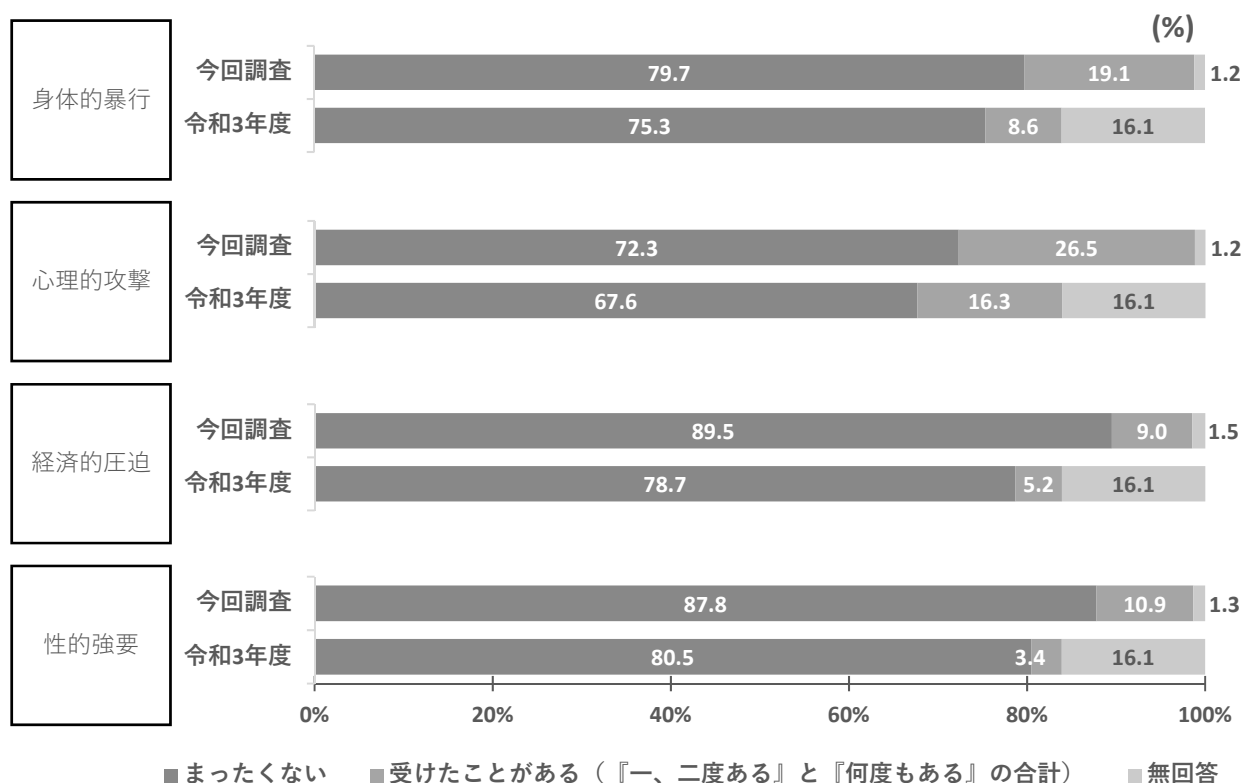
5-4. 配偶者や交際相手などからのDV被害経験（前回調査との比較）

前回調査（令和3年度実施）の結果と比較する。前回調査は今回のものと集計方法、質問項目、選択肢が異なるため、それに合わせて再集計をしている。まず、集計方法について、前回調査ではDV全般について被害経験の有無を聞いた後、その中での具体的な分類を集計している。そのため、『無回答』については個別に集計していないため今回の比較では令和3年度の『無回答』の選択率は全ての質問項目で共通の数値を表示している。また、質問項目については、前回調査で今回調査と共通するものについて「身体的暴力」、「精神的暴力」、「経済的暴力」、「性的暴力」との表記になっているため、今回調査の表記に読み替えて比較した。選択肢については、前回調査では被害経験の有無のみを聞いているため、今回の調査結果では被害経験者（『一、二度あった』と『何度もあった』の合計）の割合を表示している。

被害経験者の割合は全項目で前回よりも増加した一方で、『まったくない』の選択率も全項目で増加している。無回答の割合が前回調査では今回調査より15ポイント程度高いため、被害経験者よりも『まったくない』の選択率による比較に妥当性が高いと考えられる。

『まったくない』の選択率は、「身体的暴行」で4.3ポイント（今回79.7%、前回75.3%）、「心理的攻撃」で9.7ポイント（今回72.3%、前回67.6%）、「経済的圧迫」で11.8ポイント（今回89.5%、前回78.7%）、「性的強要」で7.3ポイント（今回87.8%、前回80.5%）と、それぞれ増加した。

図表3-15-6. 配偶者や交際相手などからの経済的圧迫の被害経験の有無（性別、年代別）



※全体（n=754）、令和3年度（n=700）

5-5. DV被害の相談先

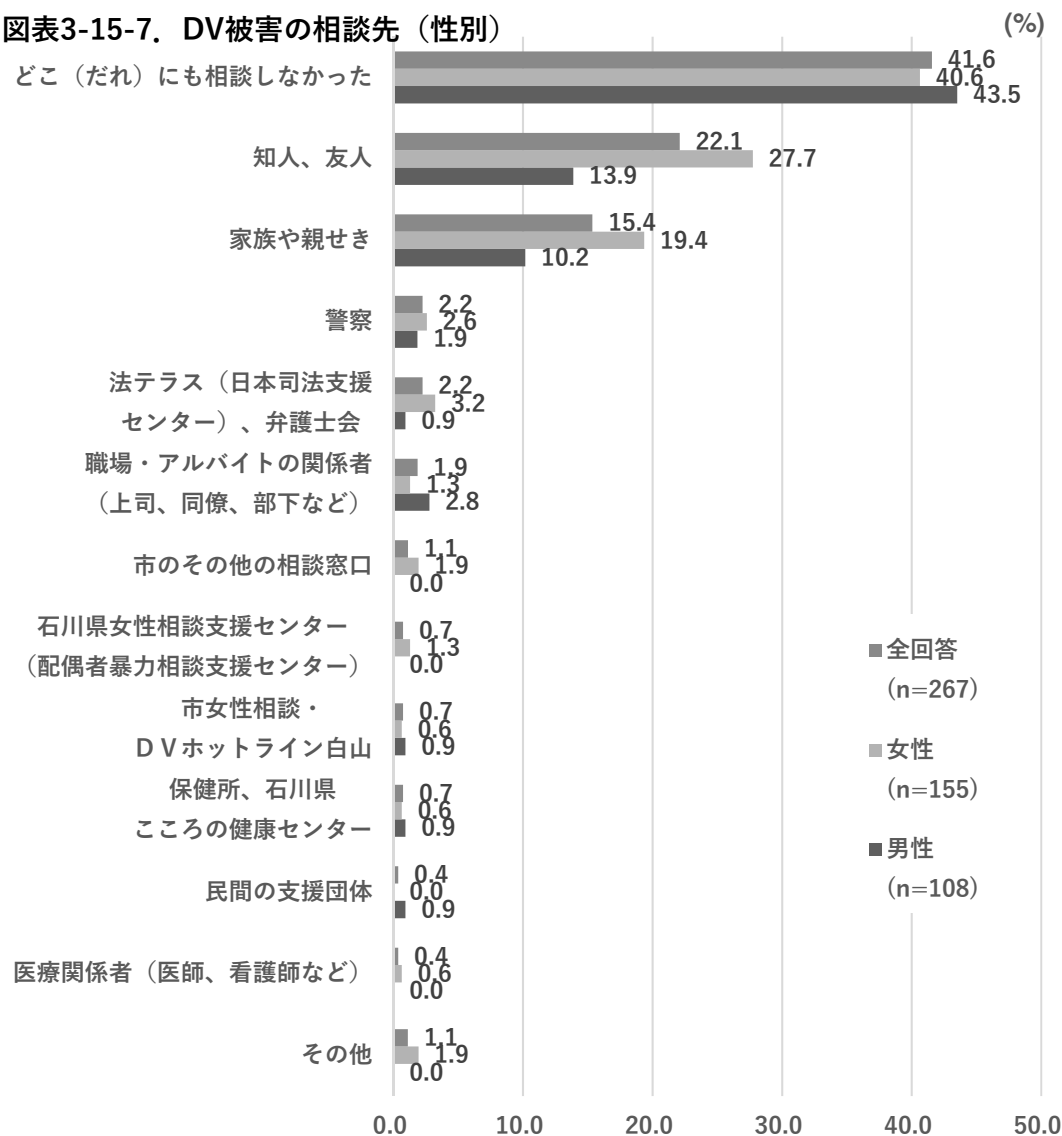
問15-1 問15で1つでも「2.一、二度あった」「3.何度もあった」と答えた方にお聞きします。あなたはこれまでに、あなたの配偶者や交際相手から受けたそのような行為について、どこ（だれ）かに打ち明けたり、相談したりしましたか。（あてはまる番号すべてに○をつける）

前問（問15）での被害経験者に尋ねた。質問の対象者が限られ、年代別の区分では個人差に強く影響されてしまうため、ここでは男女差のみを述べる（図表3-15-7）。なお、次の3選択肢では全体で選択が0件だった（男女ともに選択率が0）ため、図表の都合上、除外した。

『学校関係者（教育、養護教諭、スクールカウンセラーなど）』、
『市心配ごと相談』、『法務局・人権擁護委員』

回答全体を見ると、4割強は相談経験がなかった。相談した回答では、多い順に『知人、友人（22.1%）』、『家族や親せき（15.4%）』、『警察（2.2%）』と、私的な間柄にある相手への相談が、公的な相手よりも圧倒的に多かった。これらの回答を性別で見ると、女性の選択率がそれぞれ13.8ポイント（女性27.7%、男性13.9%）、9.2ポイント（女性19.4%、男性10.2%）、0.7ポイント（女性2.6%、男性1.9%）高かった。

図表3-15-7. DV被害の相談先（性別）



5-6. DV被害を相談しなかった理由

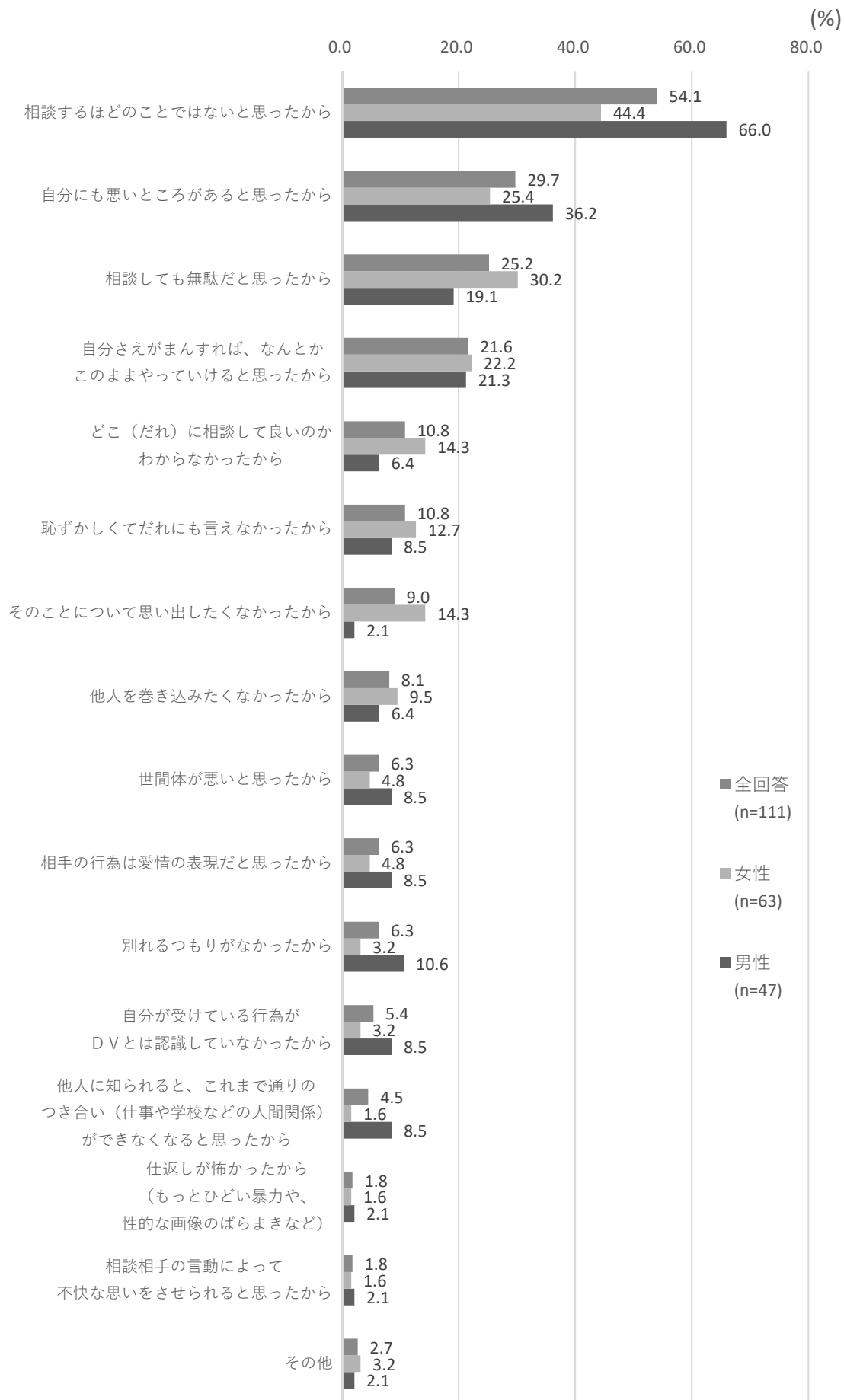
問15-2 問15-1で「16.どこ(だれ)にも相談しなかった」と答えた方にお聞きます。どこ(だれ)にも相談しなかったのは、なぜですか。(あてはまる番号すべてに○をつける)

前問(問15-1)で相談しなかった回答者に尋ねた。質問の対象者が限られ、年代別の区分では個人差に強く影響されてしまうため、ここでも男女差のみを述べる(図表3-15-8)。

回答全体を見ると、選択率の高い順に『相談するほどのことではないと思ったから(54.1%)』、『自分にも悪いところがあると思ったから(29.7%)』、『相談しても無駄だと思ったから(25.2%)』となった。一方で、低い順には同列で『相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思ったから』と『仕返しが怖かったから(もっとひどい暴力や、性的な画像のばらまきなど)』(ともに1.8%)、『他人に知られると、これまで通りのつき合い(仕事や学校などの人間関係)ができなくなるといったから(4.5%)』、『自分が受けている行為がDVとは認識していなかったから(4.5%)』となった。

回答を性別で見ると、選択率が高い順に『相談するほどのことではないと思ったから』と『自分にも悪いところがあると思ったから』では男性がそれぞれ21.5ポイント(女性44.4%、男性66.0%)、10.8ポイント(女性25.4%、男性36.2%)上回った。一方で『相談しても無駄だと思ったから』においては、女性が11.0ポイント(女性30.2%、男性19.1%)上回った。また、男性の選択率が高かった選択肢には『相手の行為は愛情の表現だと思ったから(女性4.7%、男性8.5%)』、『自分が受けている行為がDVとは認識していなかったから(女性3.2%、男性8.5%)』があり、DVについて事態を小さく見る傾向が女性より強いと考えられる。

図表3-15-8. DVの被害を相談しなかった理由（性別）



5-7. 性暴力被害に関する言説への考え

問16 性暴力被害に関するイメージとして、あなたの考えに近いものを選んでください。
(あてはまる番号に1つつ0をつける)

全回答者に性暴力被害に対して抱く印象を尋ねた。

回答全体を見ると、同意合計（『そう思う』と『どちらかというと思う』の合計）が高い順に「性暴力は加害者の性欲がコントロールできずに起こっている（計62.3%）」、「被害にあうのはたいてい暗い夜道やひと気の悪い場所である（計56.5%）」、「性暴力にあうのは、若い女性である（計53.5%）」となった。また、同意合計と非同意合計（『そう思わない』と、『どちらかというと思わない』の合計）の差が大きい項目は、順に「本気で抵抗すれば被害は防げる（同意合計10.2%、非同意合計77.1%）」で74.5ポイント、「性暴力は加害者の性欲がコントロールできずに起こっている（同意合計62.3%、非同意合計16.5%）」で45.8ポイント、「被害にあうのはたいてい暗い夜道やひと気の悪い場所である（同意合計56.5%、非同意合計28.7%）」で27.8ポイントとなった。

回答を性別で見ると、同意合計の差が大きい順に「挑発的な服装や行動が被害をまねいている（女性52.2%、男性45.7%）」で女性が6.5ポイント、「性暴力にあうのは、若い女性である（女性51.3%、男性56.9%）」と「本気で抵抗すれば被害は防げる（女性8.4%、男性12.8%）」で男性がそれぞれ5.6ポイント、4.4ポイント上回った。

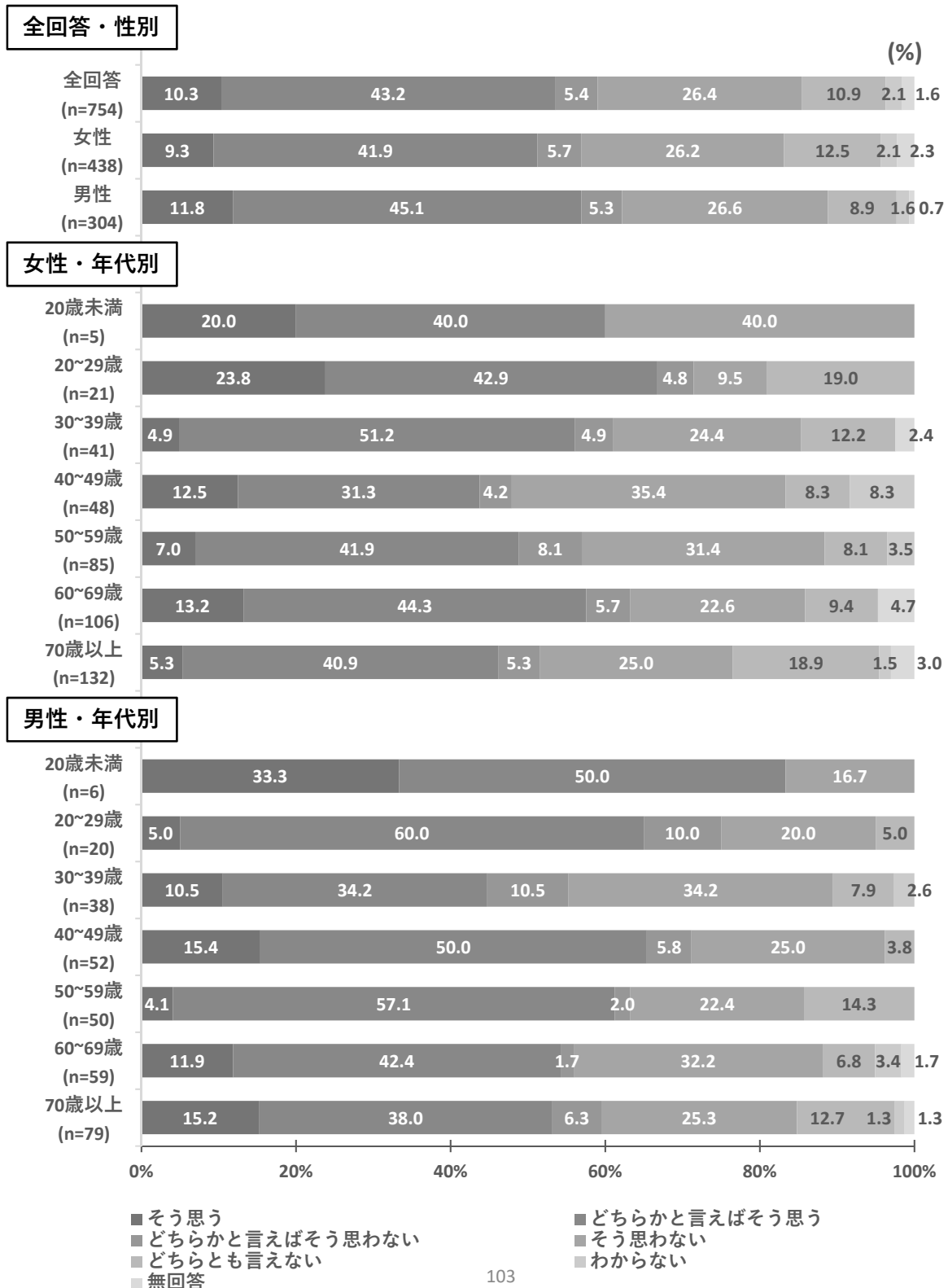
また、非同意合計の差を見ると、差が大きいものはそれぞれ男性が上回っていた。差が大きい順に「挑発的な服装や行動が被害をまねいている（女性28.5%、男性35.5%）」で7.0ポイント、「加害者のほとんどは見ず知らずの人である（女性45.1%、男性51.3%）」で6.2ポイント、「被害にあうのはたいてい暗い夜道やひと気の悪い場所である（女性26.2%、男性32.2%）」で6.0ポイントとなった。

男女間で認識の差について、「挑発的な服装や行動が被害をまねいている」の項目が同意合計でも非同意合計でも大きかった。

5-7-1. 「性暴力にあうのは、若い女性である」に対する考え（性別、年代別）

年代別に同意合計をみると、女性では40歳代が最低（43.8%）で、29歳以下が最高（65.4%）となった。男性では30歳代が最低（44.7%）、50歳代が最高（65.4%）となった。また、非同意合計では、女性では29歳以下が最低（19.2%）で、40歳代が最高（39.6%）となった。男性は50歳代が最低（30.8%）、30歳代が最高（44.7%）となった。女性では29歳以下で同意の傾向が特に強く、男性では30歳代で同意と非同意が拮抗している。

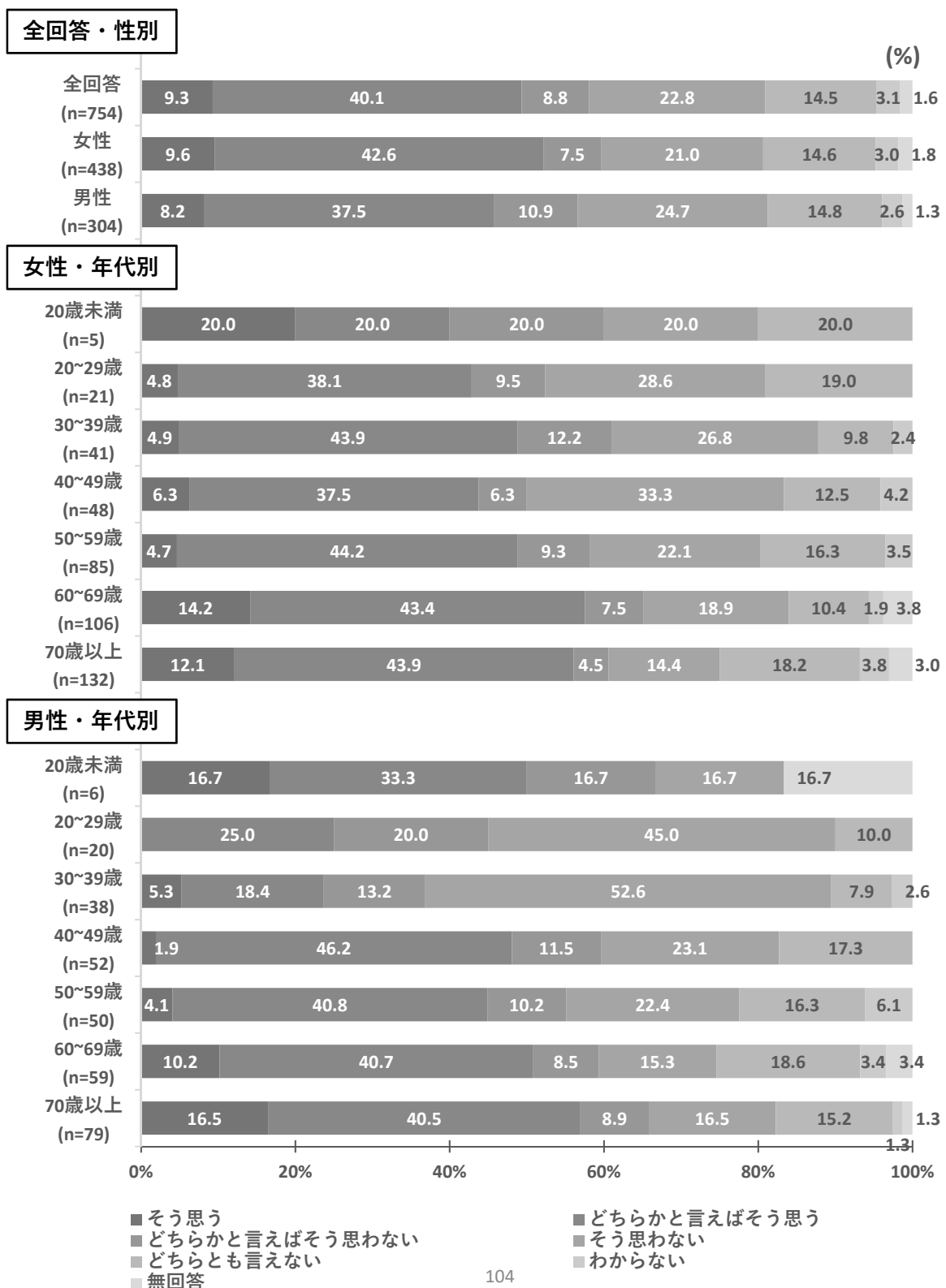
図表3-16-1. 「性暴力にあうのは、若い女性である」に対する考え（性別、年代別）



5-7-2. 「挑発的な服装や行動が被害をまねている」への考え（性別、年代別）

年代別の同意合計では、女性が29歳以下で最低（42.3%）、60歳代で最高（57.5%）となり、男性では30歳代が最低（23.7%）、70歳代が最高（57.0%）となった。一方で、非同意合計をみると、女性では70歳代が最低（18.9%）で、40歳代が最高（39.6%）となり、男性は60歳代が最低（23.7%）、30歳代が最高（65.8%）となった。女性では40歳代以下で意見の差が10ポイント未満と小さく、60歳以降では同意合計が大きく上回った。

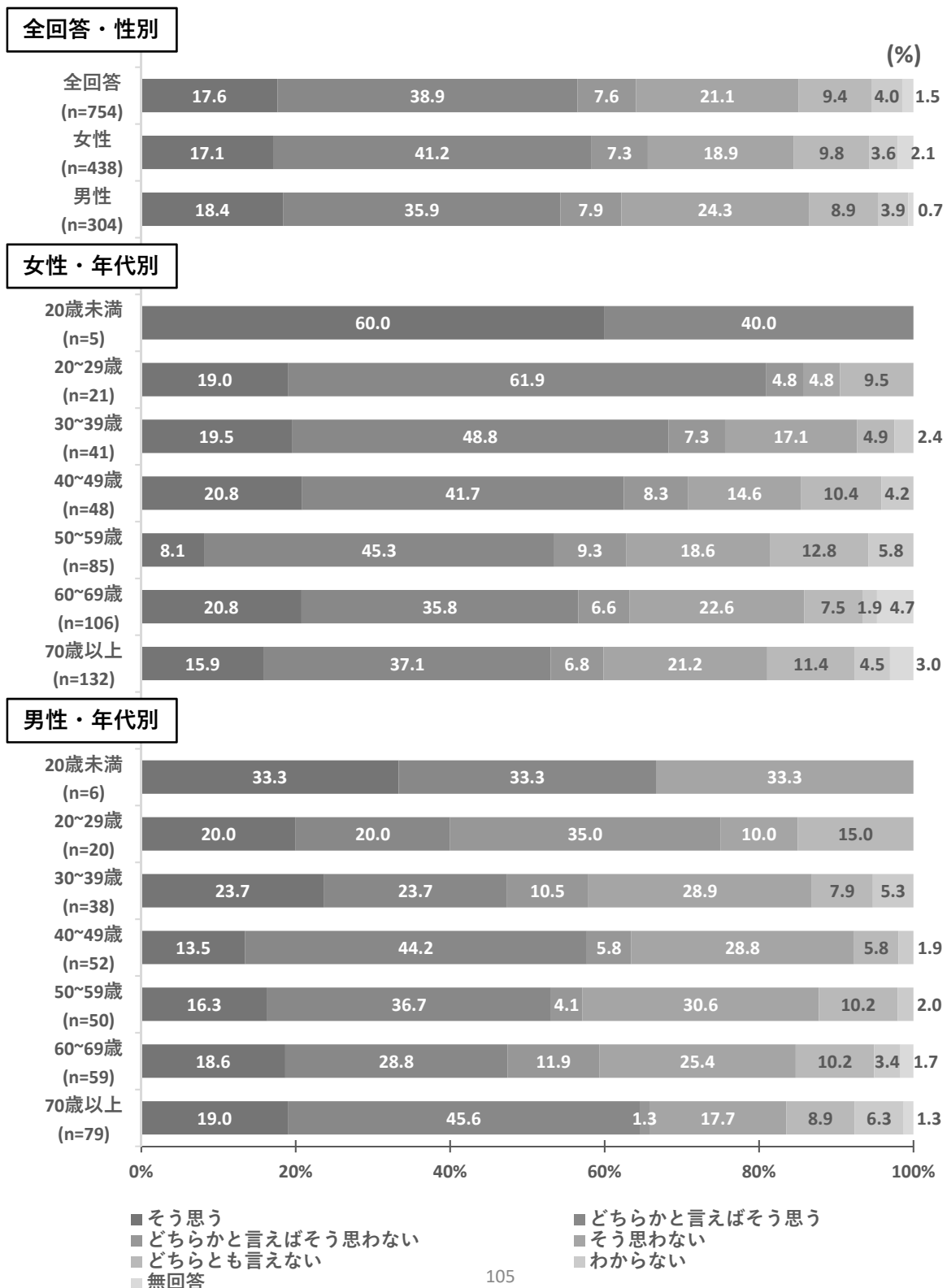
図表3-16-2. 「性暴力にあうのは、若い女性である」に対する考え（性別、年代別）



5-7-3. 「被害にあうのはたいてい暗い夜道やひと気の少ない場所である」への考え (性別、年代別)

年代別に同意合計をみると、女性では70歳以上が最低（53.0%）で、29歳以下が最高（84.7%）となった。男性では29歳以下が最低（44.7%）、40歳代が最高（57.7%）となった。また、非同意合計では、女性が29歳以下で最低（7.6%）、40歳代が最高（29.2%）となった。男性は70歳以上が最低（19.0%）、29歳以下が最高（42.3%）となった。

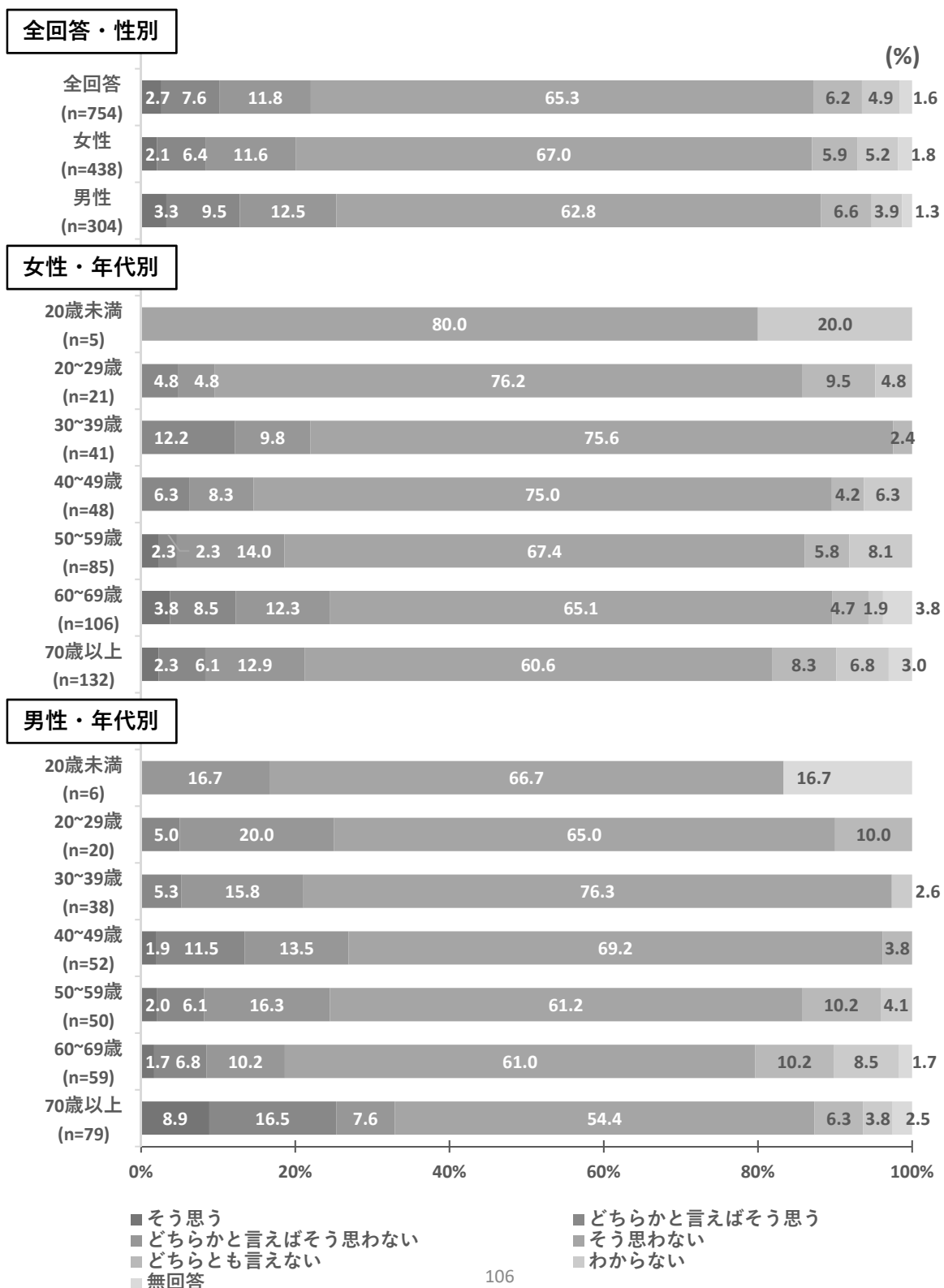
図表3-16-3. 「被害にあうのはたいてい暗い夜道やひと気の少ない場所である」に対する考え
(性別、年代別)



5-7-4. 「本気で抵抗すれば被害は防げる」への考え（性別、年代別）

同意合計が最低の項目となった。年代別でみると、女性では50歳代が最低（4.7%）で、60歳代が最高（12.3%）となった。男性では29歳以下が最低（3.8%）、70歳代が最高（25.3%）となった。また、非同意合計では、女性が70歳以上で最低（73.5%）、30歳代が最高（85.4%）となった。男性は70歳以上が最低（62.0%）、30歳代が最高（92.1%）となった。男女ともに、年配で非同意が上がる傾向があった。

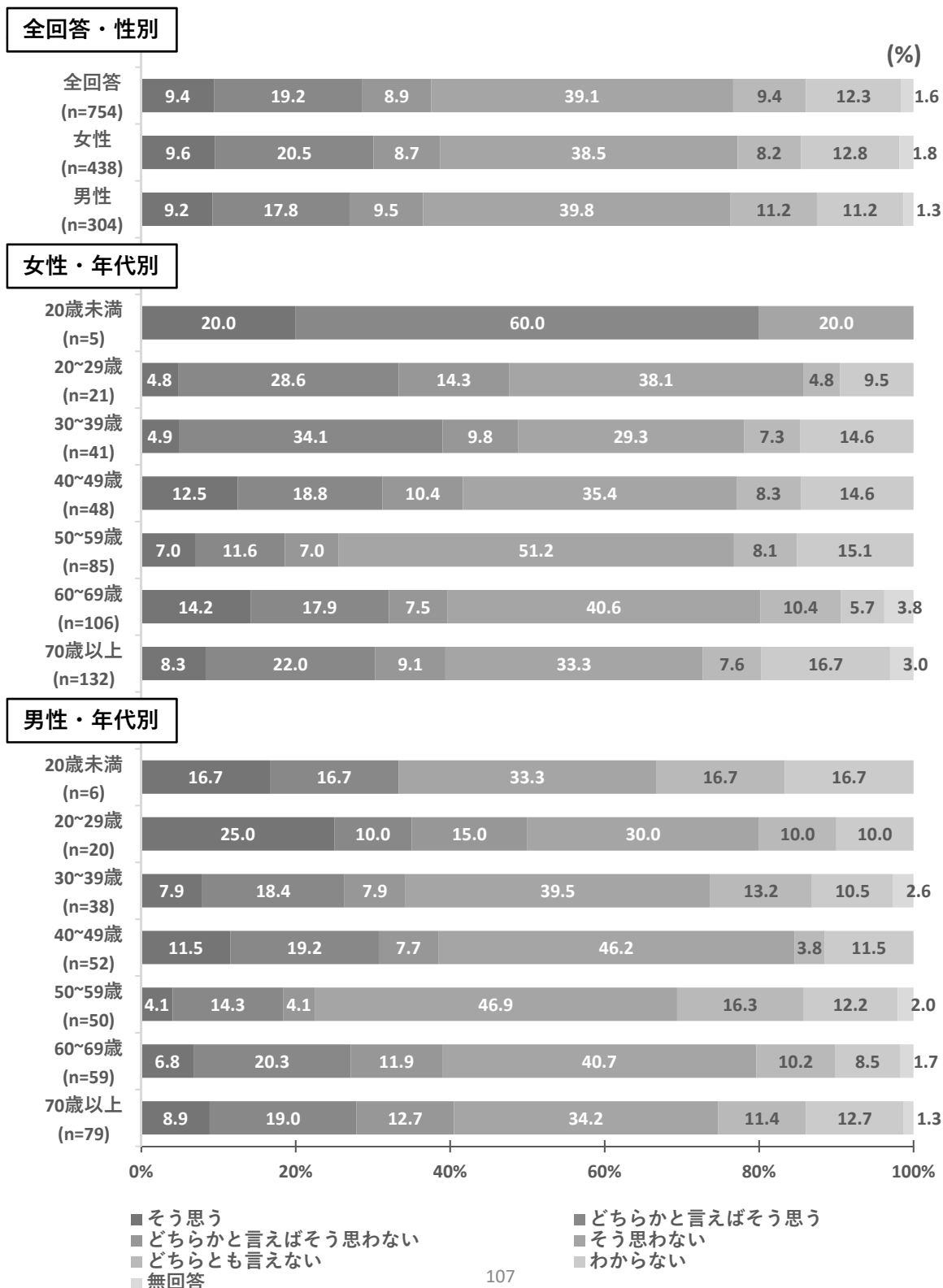
図表3-16-4. 「本気で抵抗すれば被害は防げる」に対する考え（性別、年代別）



5-7-5. 「性暴力は衝動的なものである」への考え（性別、年代別）

同意合計を年代別でみると、最低は男女ともに50歳代（女性18.6%、男性18.4%）で、最高は女性が30歳代（39.0%）、男性が29歳以下（34.6%）となった。また、非同意合計では、女性が30歳代で最低（39.0%）、50歳代が最高（58.1%）となった。男性は29歳以下が最低（42.3%）、40歳代が最高（53.8%）となった。女性の30歳代では同意と非同意が同数で拮抗したが、同意は『どちらかと言えばそう思う』、非同意では『そう思わない』が多かった。

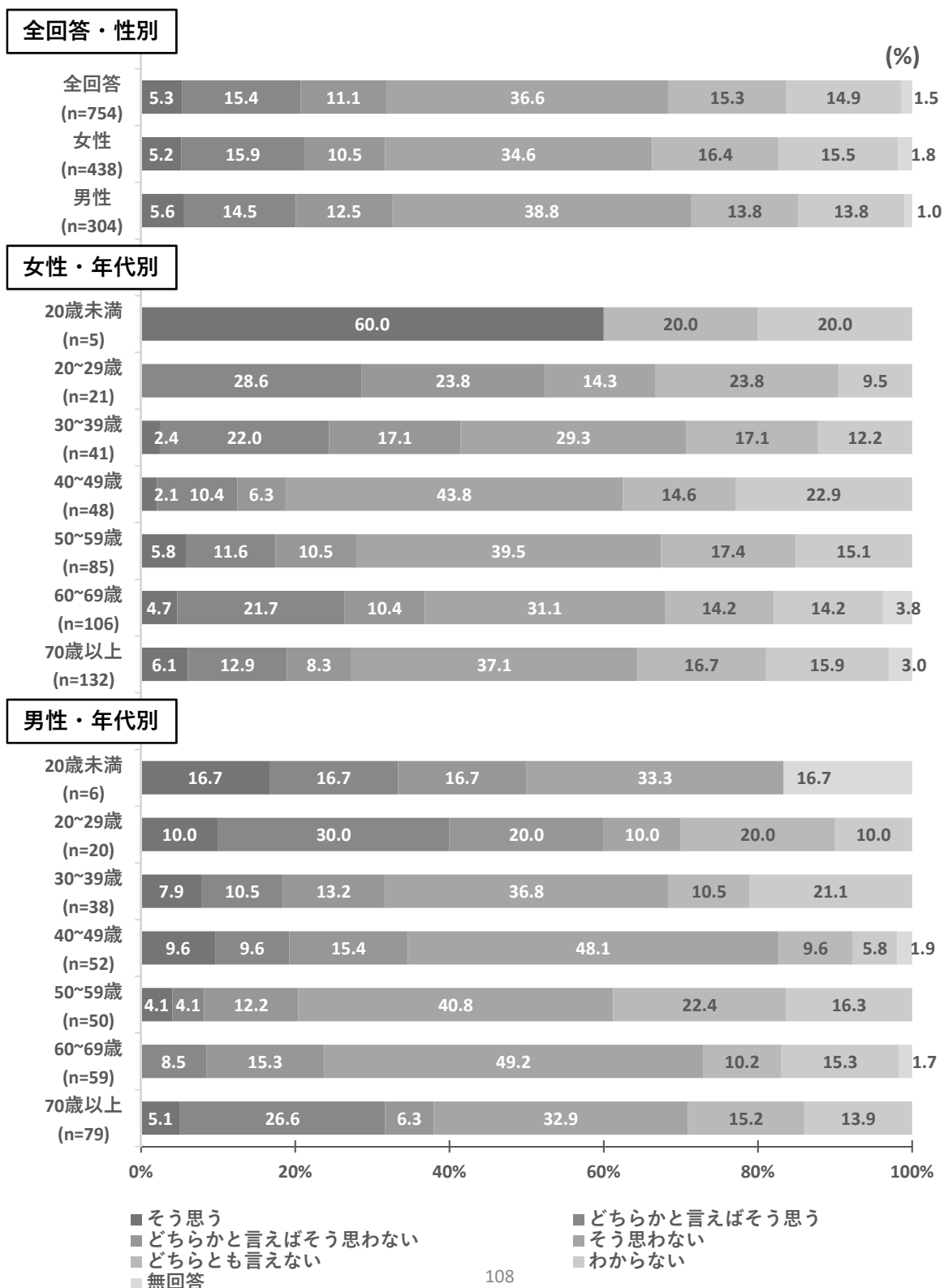
図表3-16-5. 「性暴力は衝動的なものである」に対する考え（性別、年代別）



5-7-6. 「加害者のほとんどは見ず知らずの人である」への考え（性別、年代別）

同意合計を年代別でみると、最低は女性が40歳代（16.7%）、男性が50歳代（16.3%）で、最高は男女ともに29歳以下（女性42.3%、男性46.2%）となった。また、非同意合計では、最低が男女ともに29歳以下（女性34.6%、男性42.3%）で、最高は女性が40歳代（58.3%）男性は50歳代（63.3%）となった。男女ともに29歳以下では、他の世代とは対照的に、同意が非同意を上回った。

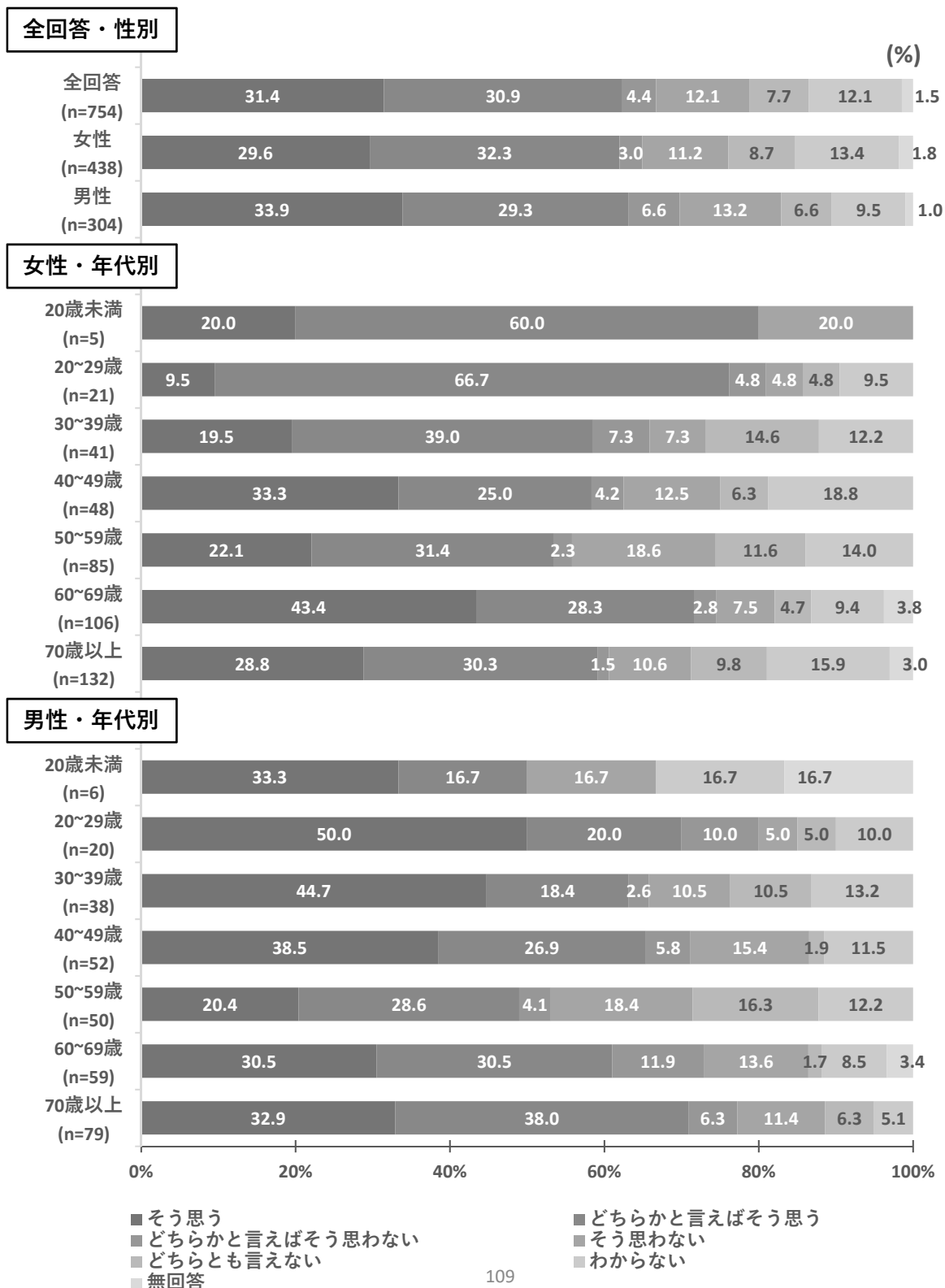
図表3-16-6. 「加害者のほとんどは見ず知らずの人である」に対する考え（性別、年代別）



5-7-7. 「性暴力は加害者の性欲がコントロールできずに起こっている」への考え (性別、年代別)

同意合計を年代別でみると、女性では40歳代が最低（29.2%）、29歳以下が最大（69.2%）となった。男性では29歳以下が最低（11.5%）、70歳以上が最高（44.3%）となった。また、非同意合計では、最低が男女ともに29歳以下で同率の11.5%、最高は男女ともに50歳代（女性30.2%、男性34.7%）となった。

図表3-16-7. 「性暴力は加害者の性欲がコントロールできずに起こっている」に対する考え
(性別、年代別)



5-8. DVや性暴力の相談機関の認知度

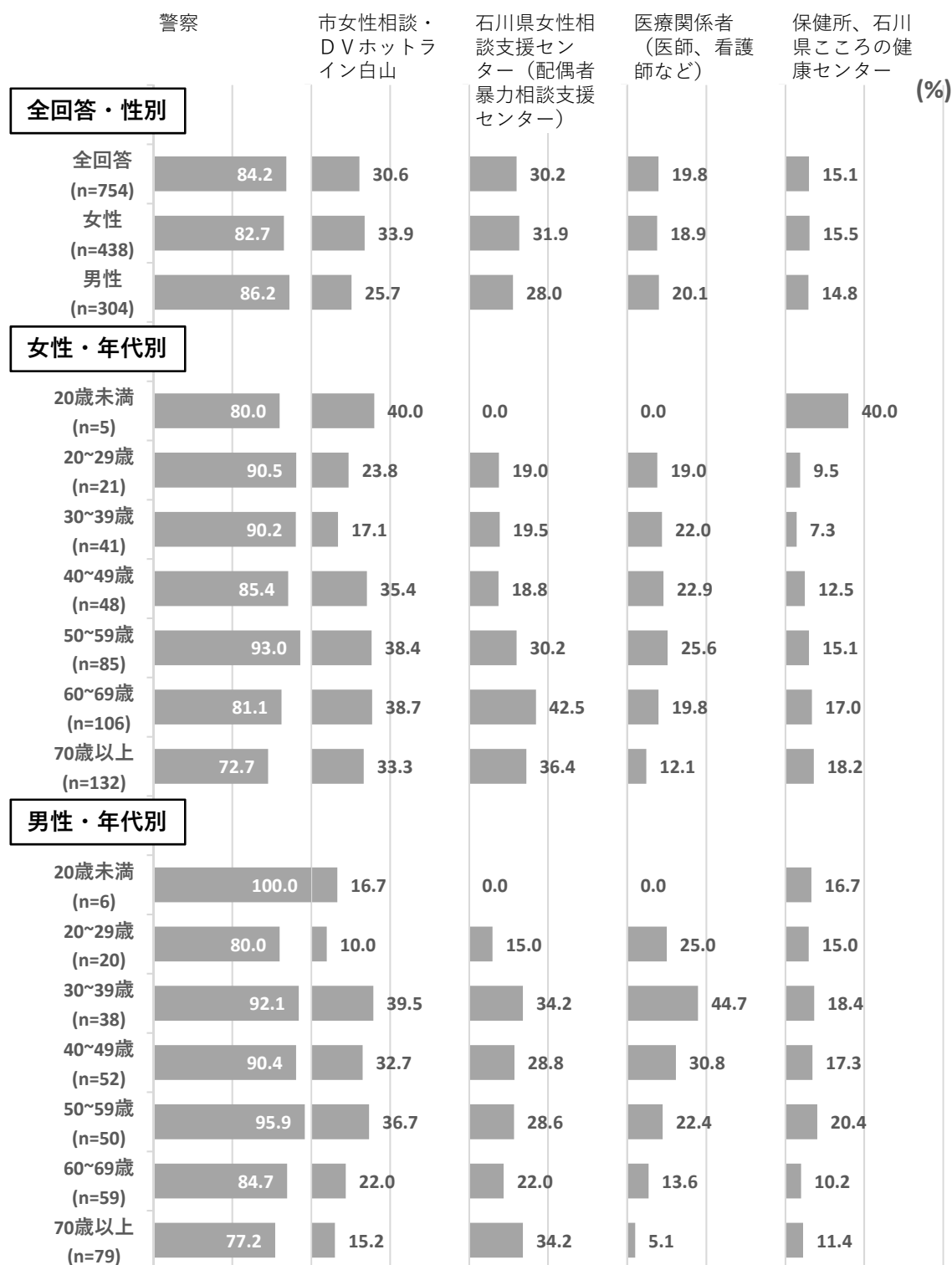
問17 DVや性暴力を受けたとき、相談できる機関や関係者であなたが既に知っていたものを選んでください。(あてはまる番号すべてに○をつける)

回答全体を見ると、選択率の高い順に『警察（84.2%）』、『市女性相談・DVホットライン白山（30.6%）』、『石川県女性相談支援センター（配偶者暴力相談支援センター）（30.2%）』となった。一方で、低い順には『民間支援団体（3.7%）』、『法務局・人権擁護委員（5.3%）』、『市のその他の相談窓口（9.7%）』となった。警察以外の専門機関については、高いところでも認知度が3割台にとどまった。

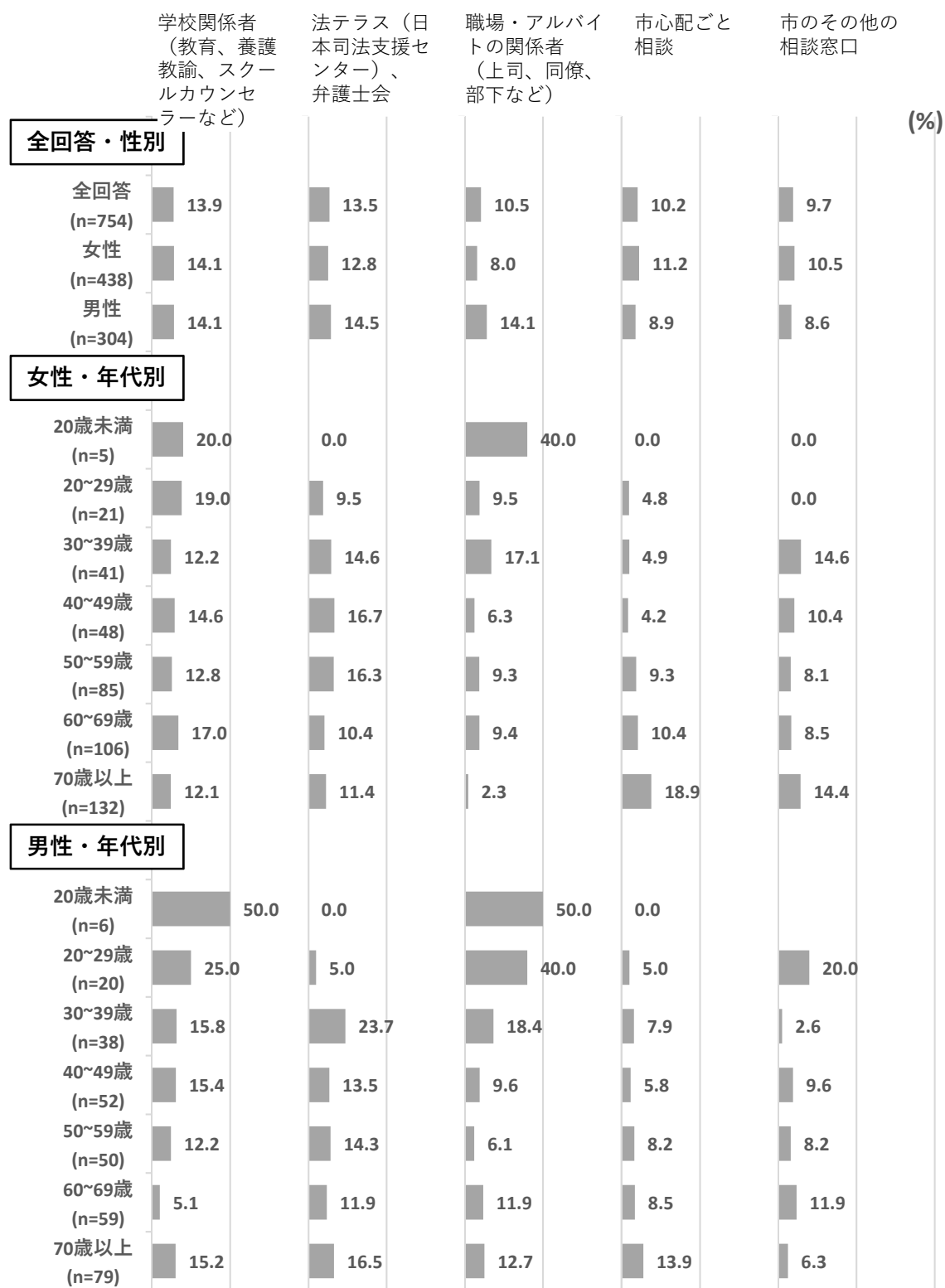
回答を性別で見ると、『市女性相談・DVホットライン白山』では女性の選択率が男性よりも8.2ポイント高かった（女性33.9%、男性25.7%）。男性では『職場・アルバイトの関係者（上司、同僚、部下など）』が女性より6.1ポイント高かった（女性8.0%、男性14.1%）。

年代別でみると、女性では『市女性相談・DVホットライン白山』で40歳代以降が、『石川県女性相談支援センター（配偶者暴力相談支援センター）』では50歳代以降が、それより若い世代より10ポイント以上選択率が上がっていた（図表3-17-1）。また、『医療関係者（医師、看護師など）』では、70歳代以上で選択率が他の世代よりも低かった。男性では『市女性相談・DVホットライン白山』の選択率が、30～50歳代で他の世代よりも10ポイント以上高く、『医療関係者（医師、看護師など）』では、30歳代（44.7%）が他の世代よりも15ポイント前後高かった（図表3-17-2）。

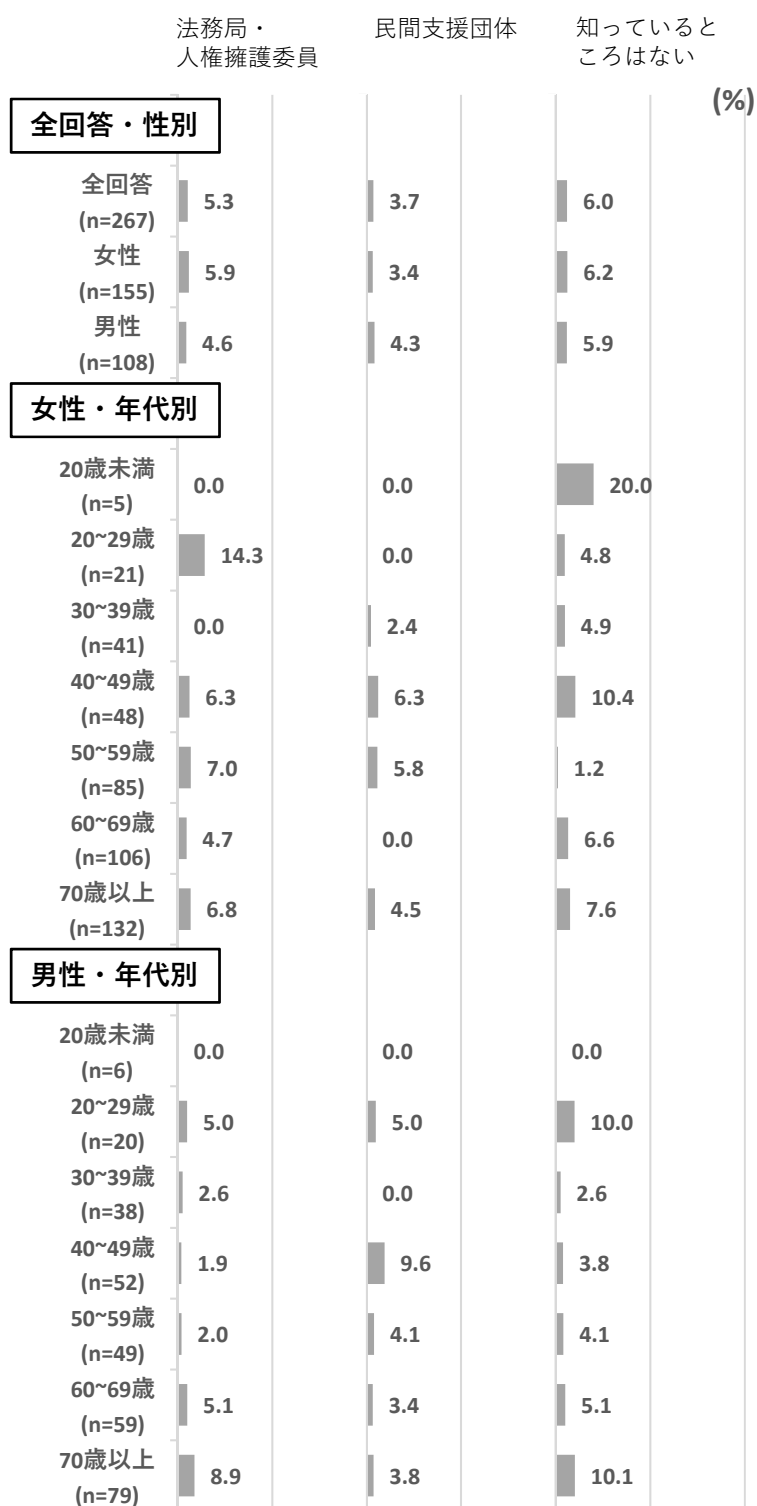
図表3-17-1. DVや性暴力の相談機関の認知度（性別、年代別）①



図表3-17-2. DVや性暴力の相談機関の認知度（性別、年代別）②



図表3-17-3. DVや性暴力の相談機関の認知度（性別、年代別）③



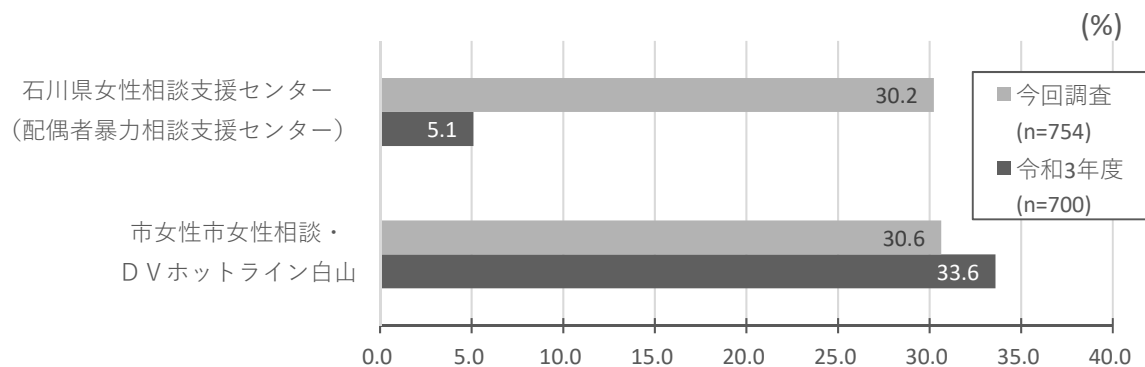
5-9. DVや性暴力の相談機関の認知度（前回比較）

前回調査と認知度を比較した。なお、前回と共通のもののみを比較する(図表3-17-4)。

『石川県女性相談支援センター（配偶者暴力相談支援センター）』については大幅な向上が見られた（今回調査30.2%、前回調査5.1%）となった一方で、『市女性相談・DVホットライン白山』の認知度は3.0ポイント低下した（今回調査30.6%、前回調査33.6%）。

なお、第2次白山市男女共同参画行動計画においては、「職場において『男女の地位が平等』と考える人の割合」を令和8年度（2026年度）までに100%とする数値目標を掲げている。今回の調査では前回よりも認知度が落ちているため、対策が求められる。

図表3-17-4. DVや性暴力の相談機関の認知度（前回調査との比較、全体）



5-9. DV・性暴力等の防止に必要なこと

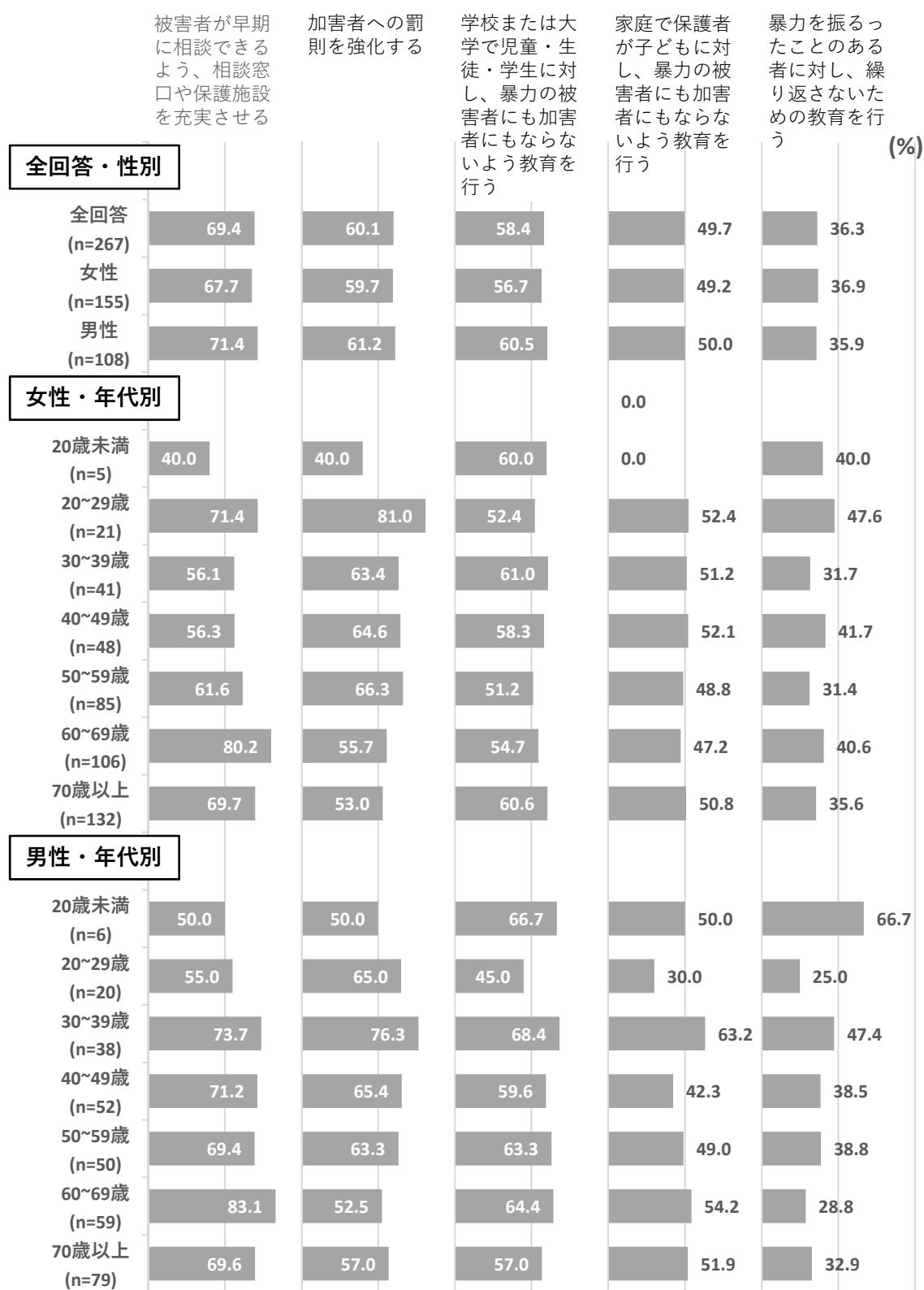
問18 DVや性暴力等の暴力を防止するためには、どのようなことが必要だと考えますか。
(あてはまる番号すべてに○をつける)

回答全体を見ると、選択率の高い順に『被害者が早期に相談できるよう、相談窓口や保護施設を充実させる（69.4%）』、『加害者への罰則を強化する（60.1%）』、『学校または大学で児童・生徒・学生に対し、暴力の被害者にも加害者にもならないよう教育を行う（58.4%）』となった。一方で、低い順には『地域で、暴力を許さない社会づくりのための研修会、イベントなどを行う（18.0%）』、『被害者を発見しやすい立場にある警察や医療関係者、民生委員、教員などに対し、研修や啓発を行う（25.6%）』、『メディアを活用して、暴力の防止や相談窓口の周知について広報・啓発活動を積極的に行う（32.4%）』となった。

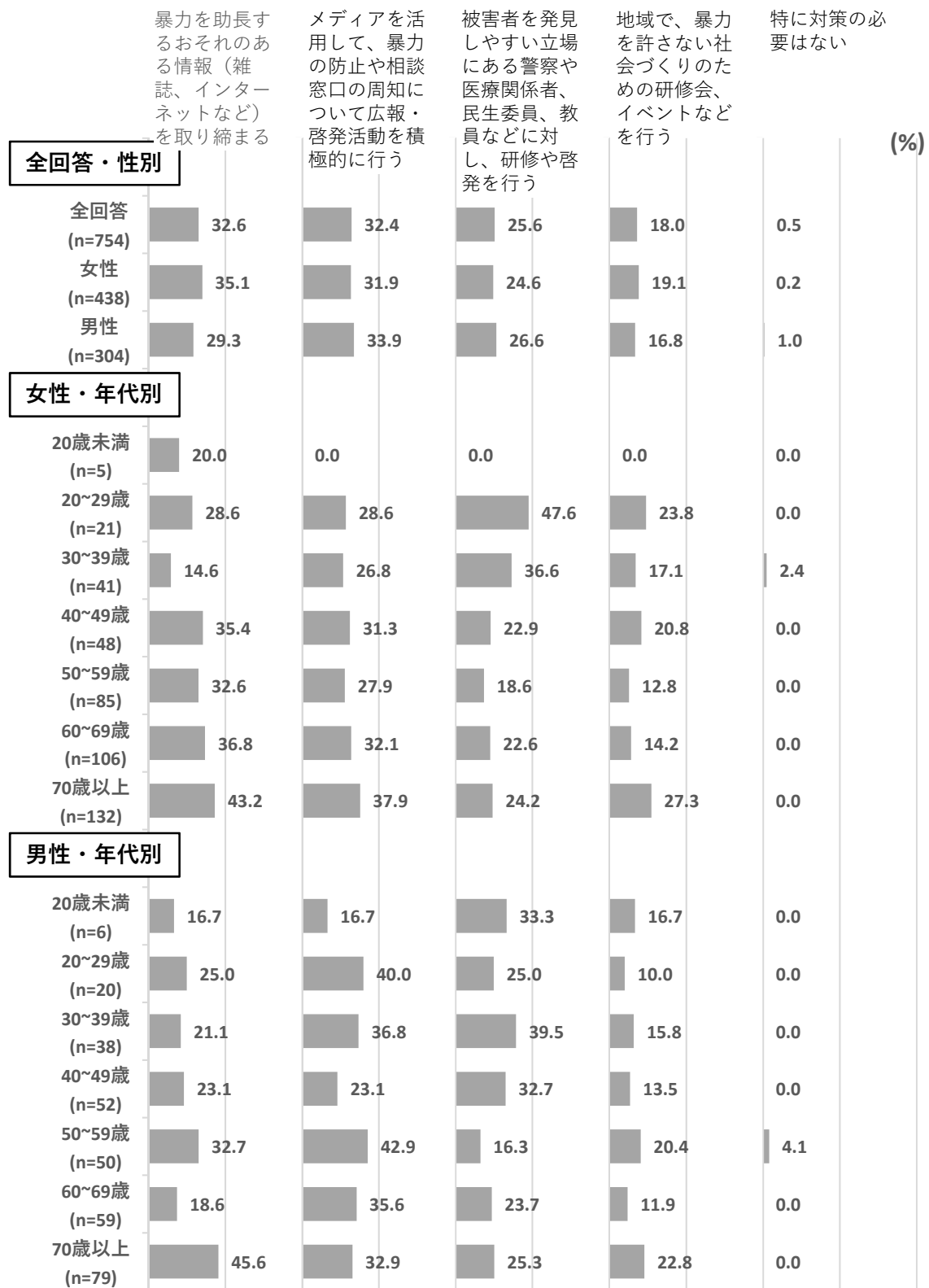
回答を性別で見ると、男女での選択率の差は、『暴力を助長するおそれのある情報（雑誌、インターネットなど）を取り締まる』の5.8ポイントが最大（女性35.1%、男性29.3%）で、それ以外の選択肢では男女間の差は5ポイント未満に収まった。

年代別でみると、女性では『暴力を助長するおそれのある情報（雑誌、インターネットなど）を取り締まる』で40歳代以降に選択率が高かった。また、『加害者への罰則を強化する』では男女ともに60歳代以降で、それより若い世代と比べて選択率が10ポイント前後低かった。

図表3-18-1. DV・性暴力等の防止に必要なこと（性別、年代別）①



図表3-18-2. DV・性暴力等の防止に必要なこと（性別、年代別）②



VI. 男女共同参画社会の実現について

6-1. 用語の認知度

問19 あなたは次の言葉や法律などについて、どの程度ご存知ですか。
(各項目についてあてはまる番号すべてに○をつける)

回答全体でみると、『言葉も内容も知っている』が高い順に「DV（配偶者や交際相手からの暴力）（85.3%）」、「マタニティ・ハラスメント（60.9%）」、「ジェンダー（社会や文化の中で形成された、性別に関する考え方や役割）（60.7%）」、「男女雇用機会均等法（雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律）（57.3%）」となった。なお、これらの項目は『言葉は知っている』の選択率まで含めると、いずれも9割を超える（以下、『言葉も内容も知っている』と『言葉は知っている』の合計を認知度とする）。

一方で低い順では、「ポジティブ・アクション（積極的改善措置）（6.1%）」、「白山市パートナーシップ宣誓制度（さまざまな事情により婚姻の届け出ができないカップルが、お互いが人生のパートナーであることを宣誓し、市が『パートナーシップ宣誓書受領証』等を交付する制度）（8.1%）」、「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律（8.1%）」となった。これらの項目は認知度も5割に届くかどうかの認知度だった。

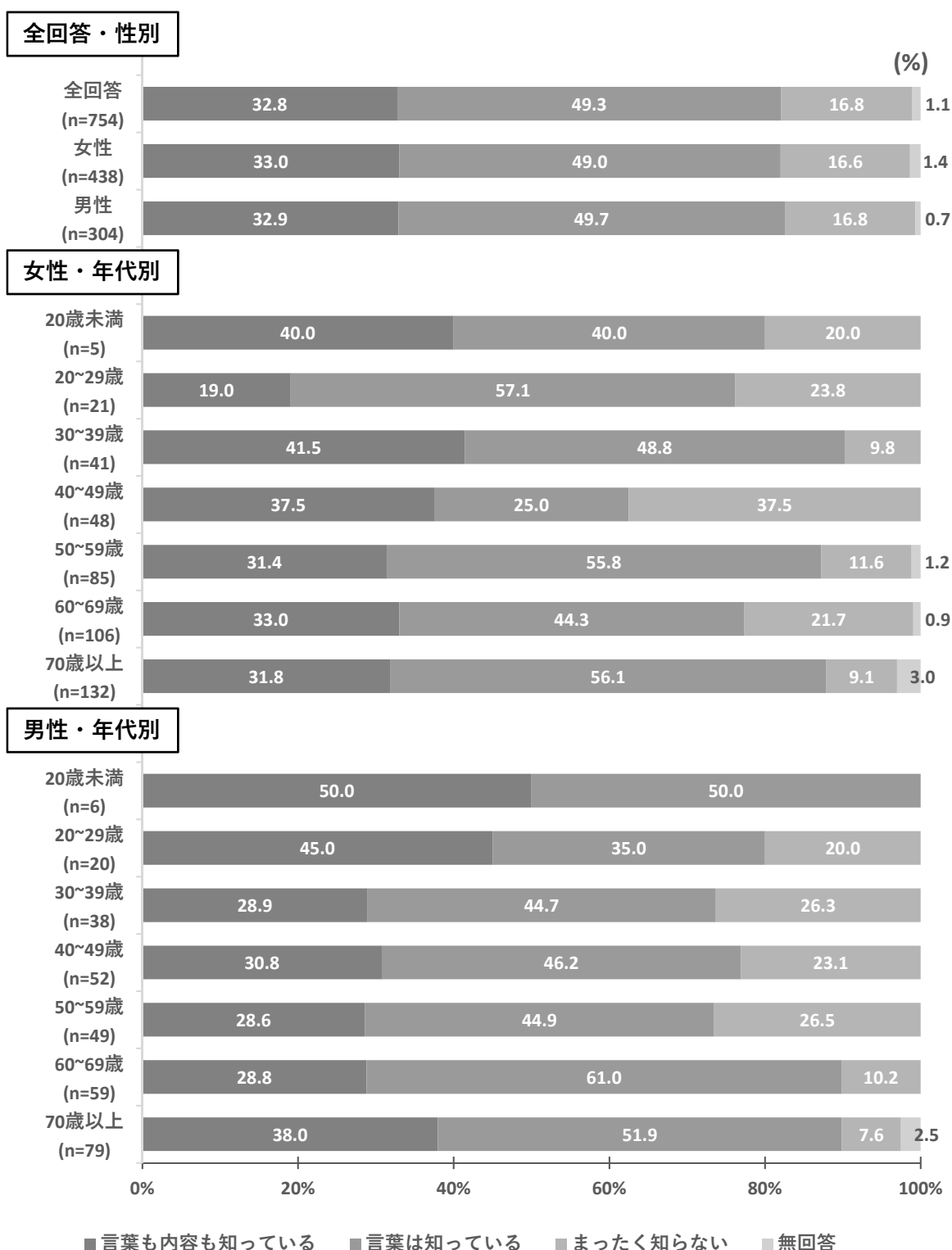
なお、第2次白山市男女共同参画行動計画において掲げられた「『DV』という用語の認知度」と「『男女共同参画社会』という用語の認知度」を令和8年度（2026年度）までに100%とする数値目標について、「DV」については認知度は97.5%、『まったく知らない』の回答が1.9%であり、ほぼ達成されている。「男女共同参画社会」については、認知度が82.1%、『まったく知らない』の回答が16.8%となった。

用語のうち、「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」で5.3ポイント（女性70.8%、男性65.3%）、「性的少数者（LGBTQ+など）」で5.6ポイント（女性71.9%、男性77.6%）、「ポジティブ・アクション（積極的改善措置）」で8.0ポイント（女性36.9%、男性28.9%）、「白山市パートナーシップ宣誓制度（さまざまな事情により婚姻の届け出ができないカップルが、お互いが人生のパートナーであることを宣誓し、市が『パートナーシップ宣誓書受領証』等を交付する制度）」で11.0ポイント（女性39.6%、男性28.6%）の開きがそれぞれあったものの、それ以外の用語では男女間での認知度の差は5ポイント未満に収まった。

6-1-1. 用語「男女共同参画社会」の認知度（性別、年代別）

男女間では各選択肢の選択率の構成に大きな差はない。年代別でみると、女性では40歳代で『言葉は知っている』の選択率だけが他の世代よりも顕著に低く、結果として認知度も低くなった（62.5%）。男性では60歳以上で認知度が上がり、9割に迫った。60歳代では『言葉は知っている』の選択率が、70歳以上では『言葉も内容も知っている』がそれぞれ他の世代より高く、認知度を押し上げていた。

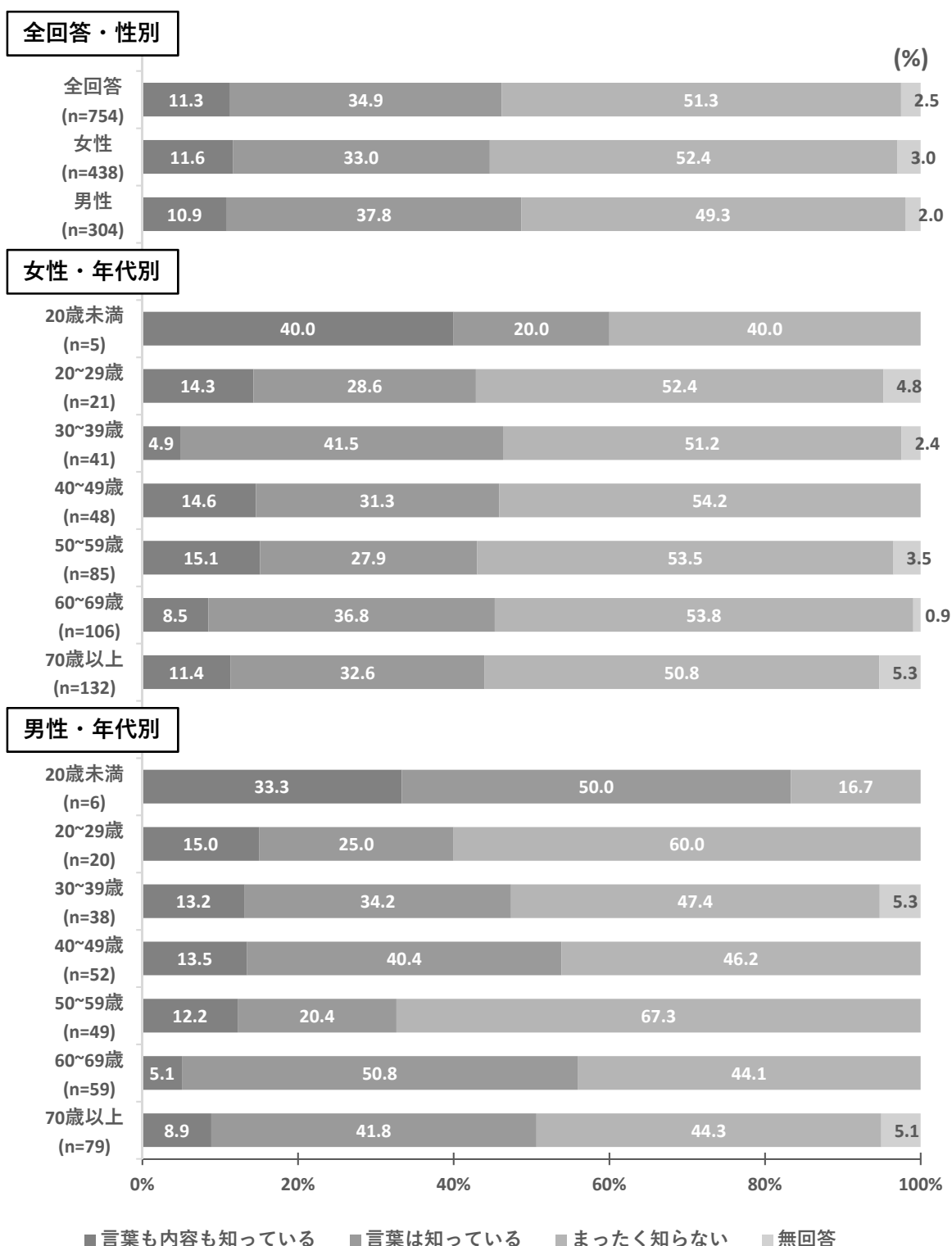
図表3-19-1-1. 用語「男女共同参画社会」の認知度（性別、年代別）



6-1-2. 用語「女子差別撤廃条約（女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約）」の認知度（性別、年代別）

男女間では各選択肢の選択率の構成に大きな差はない。年代別でみると、女性では年代で認知度に大きな差はないものの、30歳代で『言葉も内容も知っている』の選択率が他の世代よりも10ポイント前後低くなった（4.9%）。男性では50歳代の認知度が他の世代より10～20ポイント前後低かった（32.6%）。これも、『言葉は知っている』が低かったことによる。

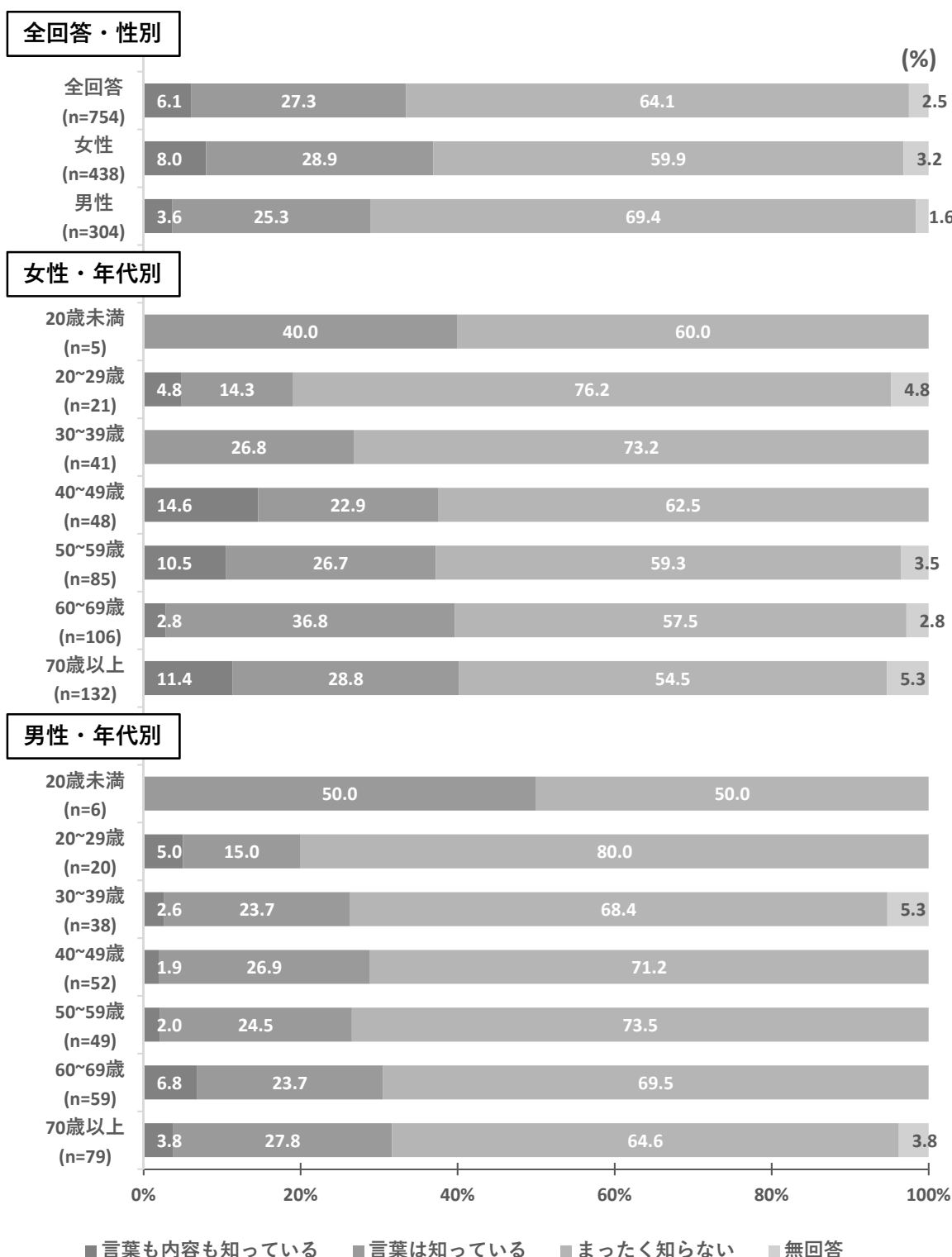
図表3-19-1-2. 用語「男女共同参画社会女子差別撤廃条約（女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約）」の認知度（性別、年代別）



6-1-3. 用語「ポジティブ・アクション（積極的改善措置）」の認知度（性別、年代別）

性別では、女性の認知度が男性よりも8.0ポイント高かった（女性36.9%、男性28.9%）。年代別でみると、30歳代で『言葉も内容も知っている』を選択した回答が無く、認知度が低かった。男性では、世代間で認知度の差が無く、大半が3割未満となった。

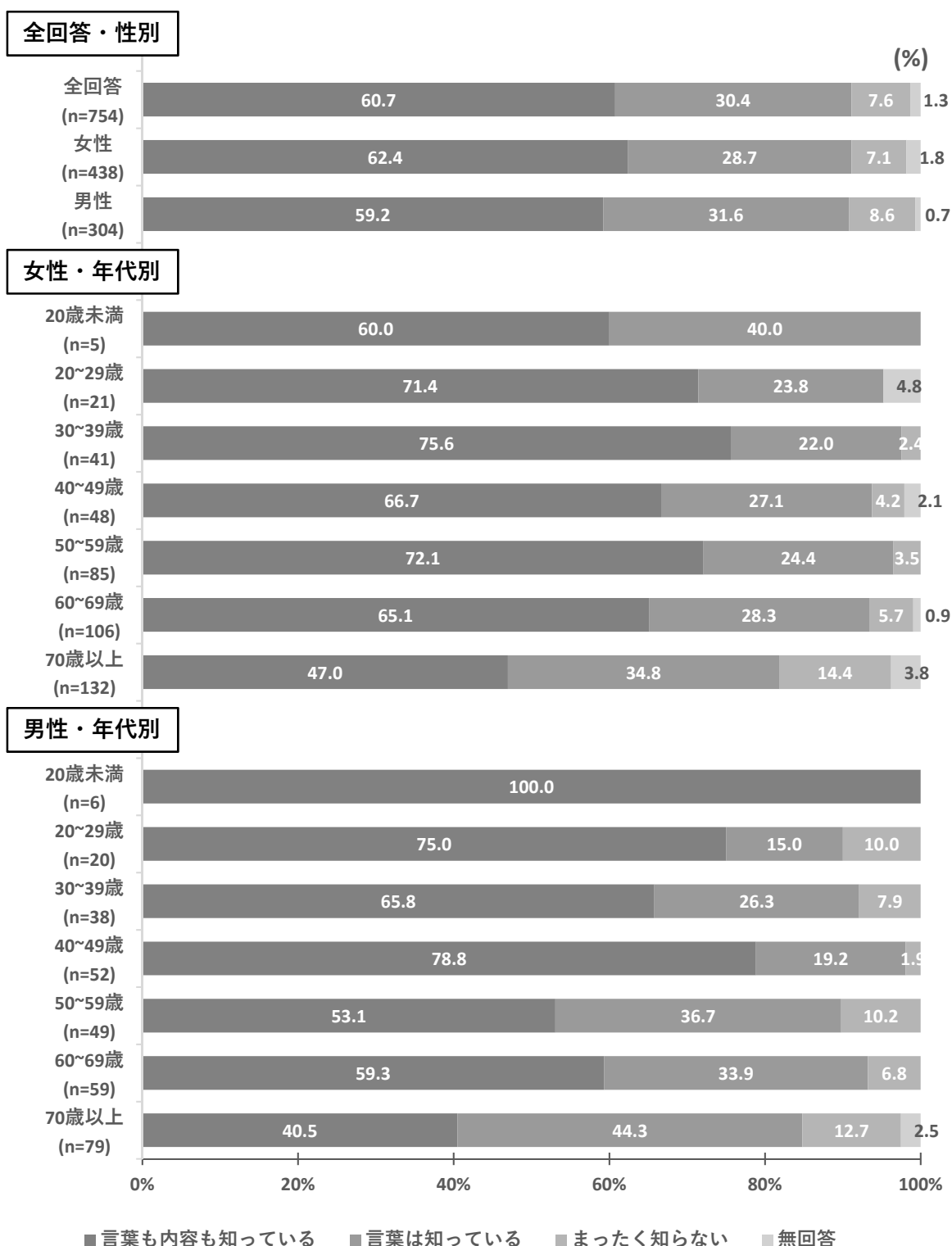
図表3-19-1-3. 用語「ポジティブ・アクション（積極的改善措置）」の認知度（性別、年代別）



6-1-4. 用語「ジェンダー」の認知度（性別、年代別）

性別では、男女で認知度に大きな差はなく、それぞれ9割を超えている。年代別でみると、男女ともに70歳代以上で『言葉も内容も知っている』が他の年代よりも10ポイント以上低かった（女性47.0%、男性40.5%）。また、女性では30歳代の認知度が高く、97.6%に達した。男性では40歳代で『言葉も内容も知っている』の選択率が高く、認知度も98.1%まで上がった。

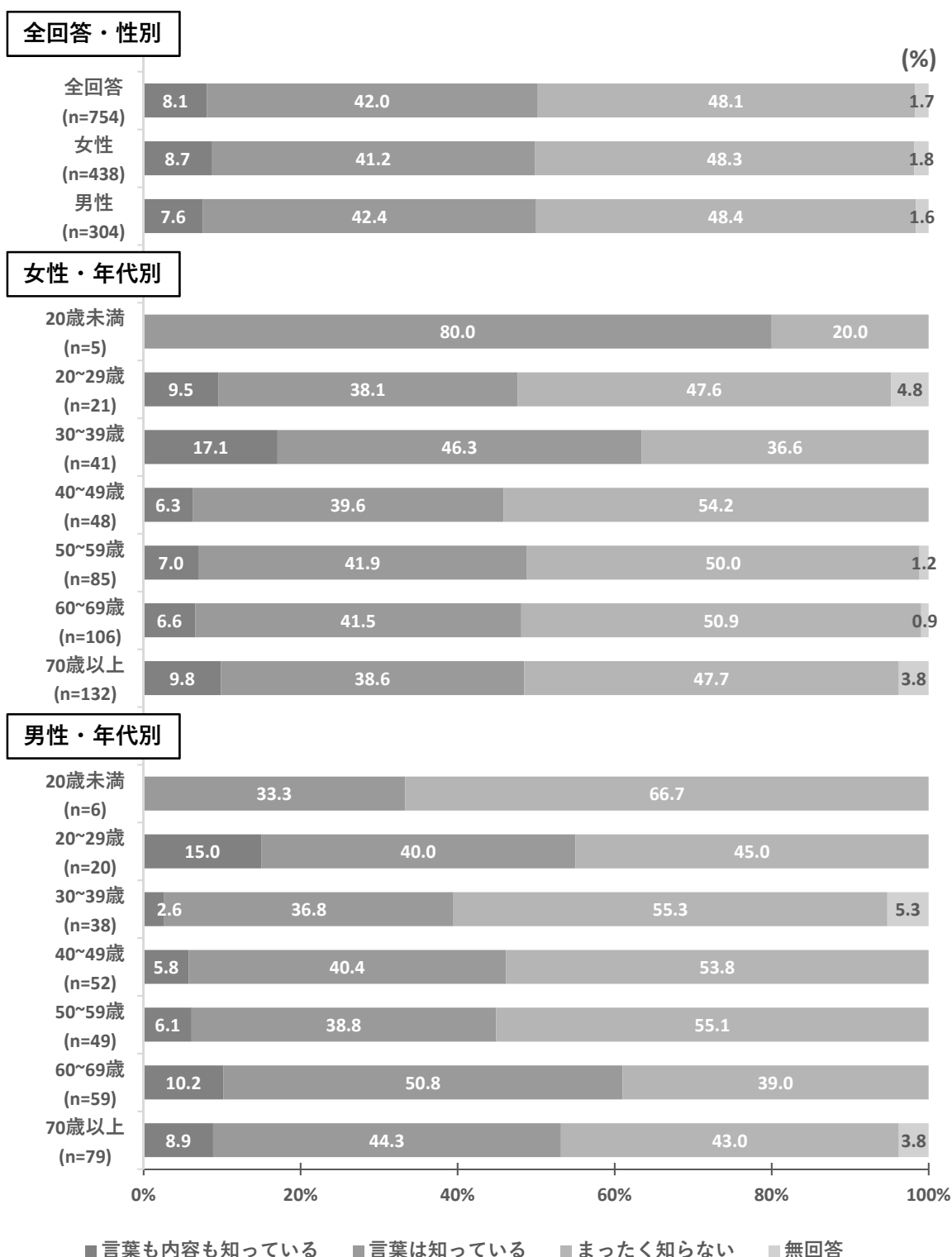
図表3-19-1-4. 用語「ジェンダー」の認知度（性別、年代別）



6-1-5. 用語「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」の認知度（性別、年代別）

性別では、男女で認知度に大きな差はない。年代別でみると、女性では30歳代で『言葉も内容も知っている』が他の年代よりも10ポイント前後高く、認知度も高かった（53.4%）。また、男性では30歳代の認知度が他の世代より5ポイント程度低く、50歳代では『言葉も内容も知っている』『言葉は知っている』がおおよそ5ポイントずつ高く、認知度も高かった。

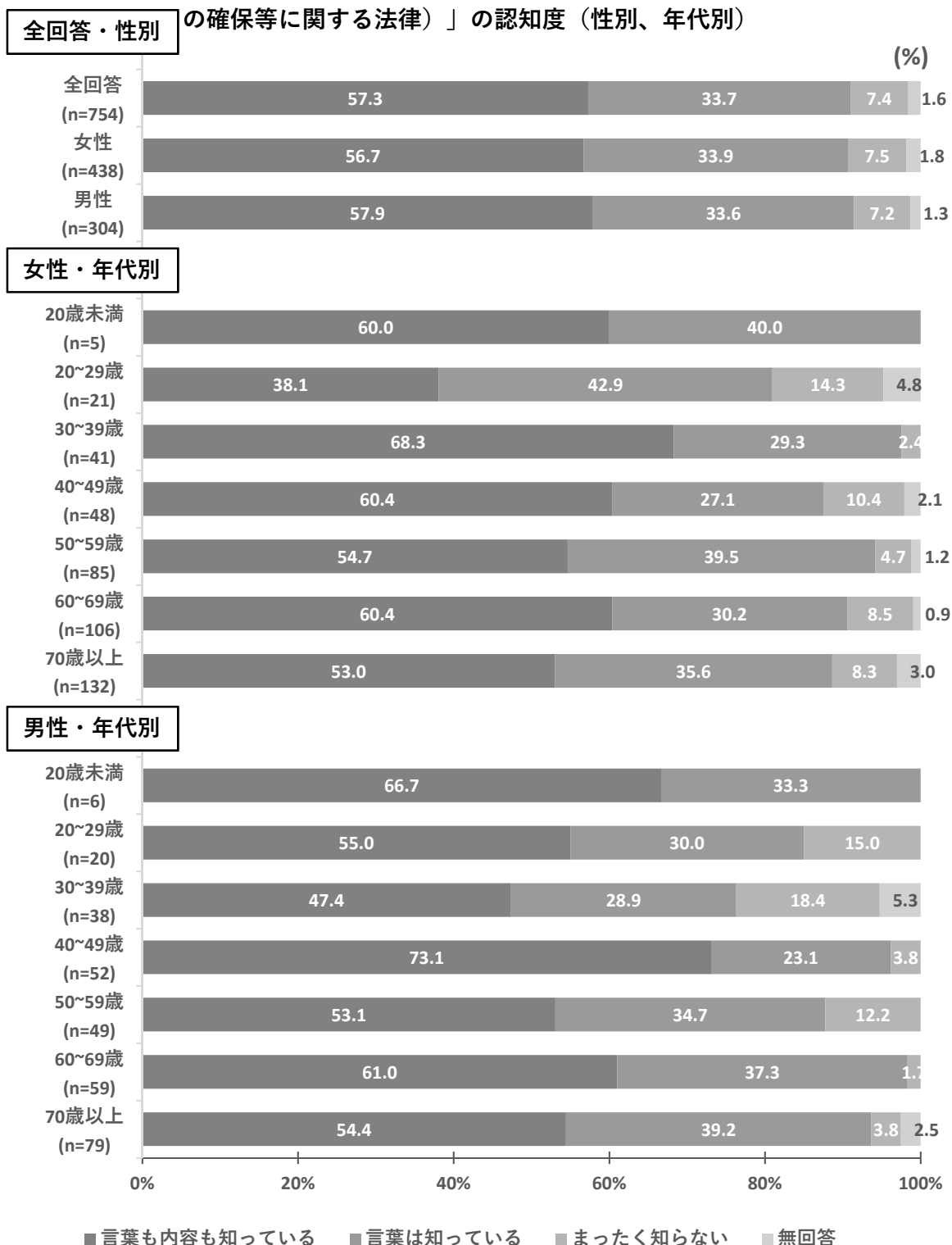
図表3-19-1-5. 用語「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」の認知度（性別、年代別）



6-1-6. 用語「男女雇用機会均等法（雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律）」の認知度（性別、年代別）

性別では、男女で認知度に大きな差はない。年代別でみると、女性では30歳代で『言葉も内容も知っている』が他の世代より10ポイント前後高く、認知度も高かった（97.6%）。また、男性では40歳代で『言葉も内容も知っている』が他の世代より10ポイント以上高く、認知度も高い（96.2%）一方で、30歳代では『言葉も内容も知っている』も認知度も低かった。

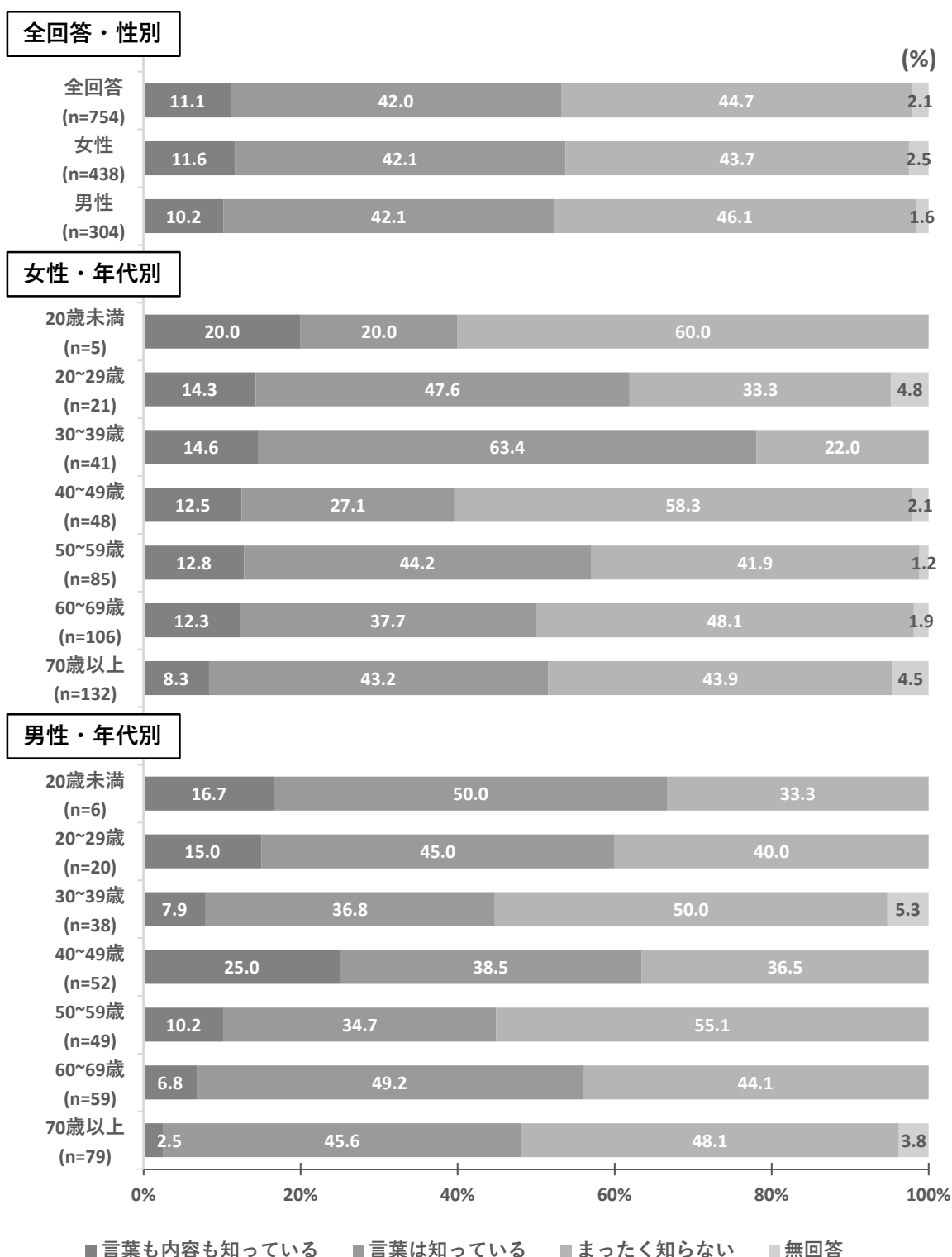
図表3-19-1-6. 用語「男女雇用機会均等法（雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律）」の認知度（性別、年代別）



6-1-7. 用語「女性活躍推進法（女性の職業生活における活躍の推進に関する法律）」の認知度（性別、年代別）

性別では、男女で認知度に大きな差はない。年代別でみると、女性では30歳代で『言葉は知っている』が他の世代より15ポイント以上高く、認知度も高かった（78.0%）。また、男性では40歳代で『言葉も内容も知っている』が他の世代より10ポイント以上高かった（25.0%）一方で、『言葉は知っている』は低かったため、認知度に大きな差は出なかった。

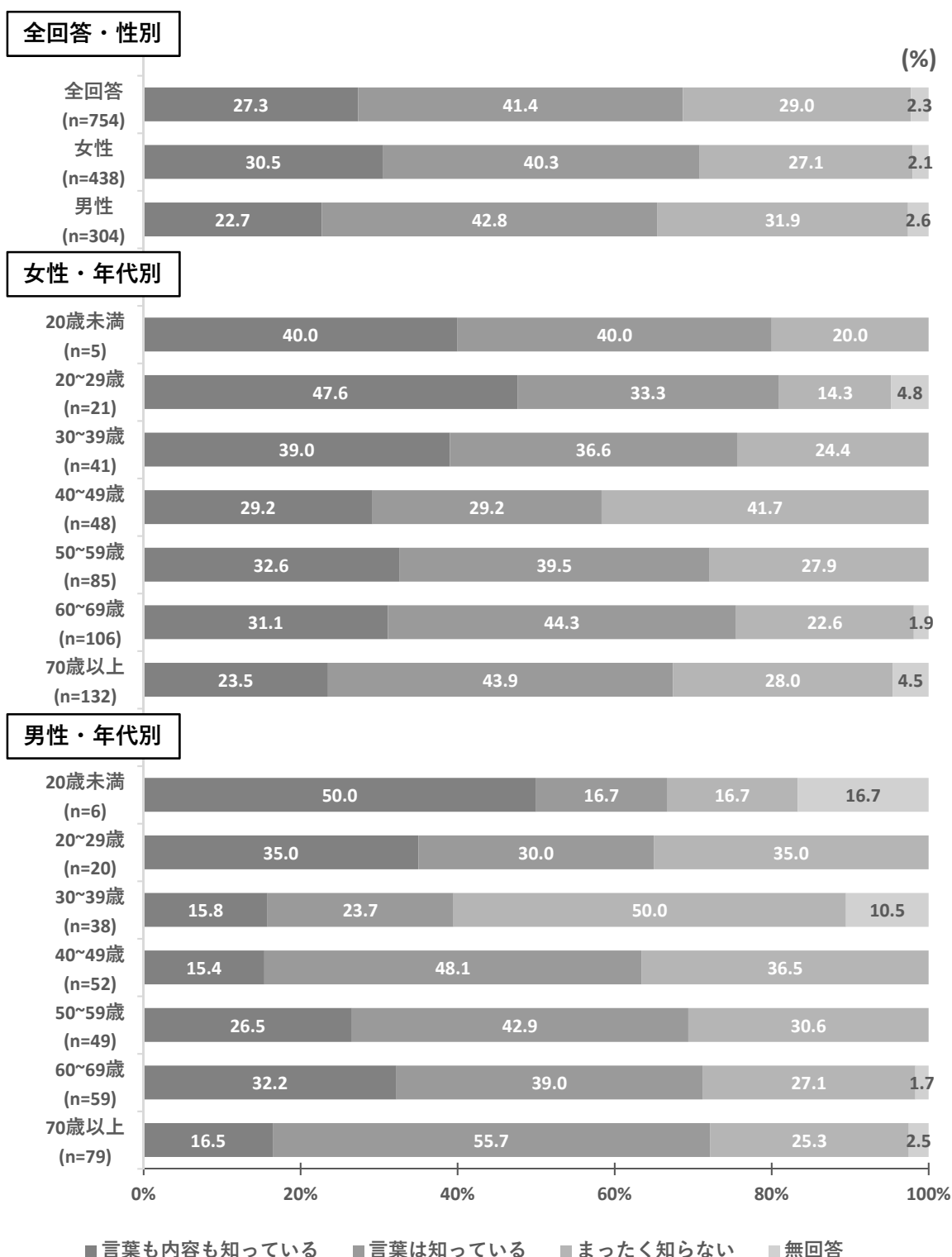
図表3-19-1-7. 用語「女性活躍推進法（女性の職業生活における活躍の推進に関する法律）」の認知度（性別、年代別）



6-1-8. 用語「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」の認知度（性別、年代別）

性別では、女性が『言葉も内容も知っている』では7.8ポイント、認知度では5.3ポイント高かった。年代別でみると、女性では40歳代（58.3%）で、男性では30歳代（39.5%）でそれぞれ認知度が他の世代より低かった。また、男性では30～40歳代で『言葉も内容も知っている』が他の世代よりも低く、『言葉は知っている』が高くなり、認知度は同程度となった。

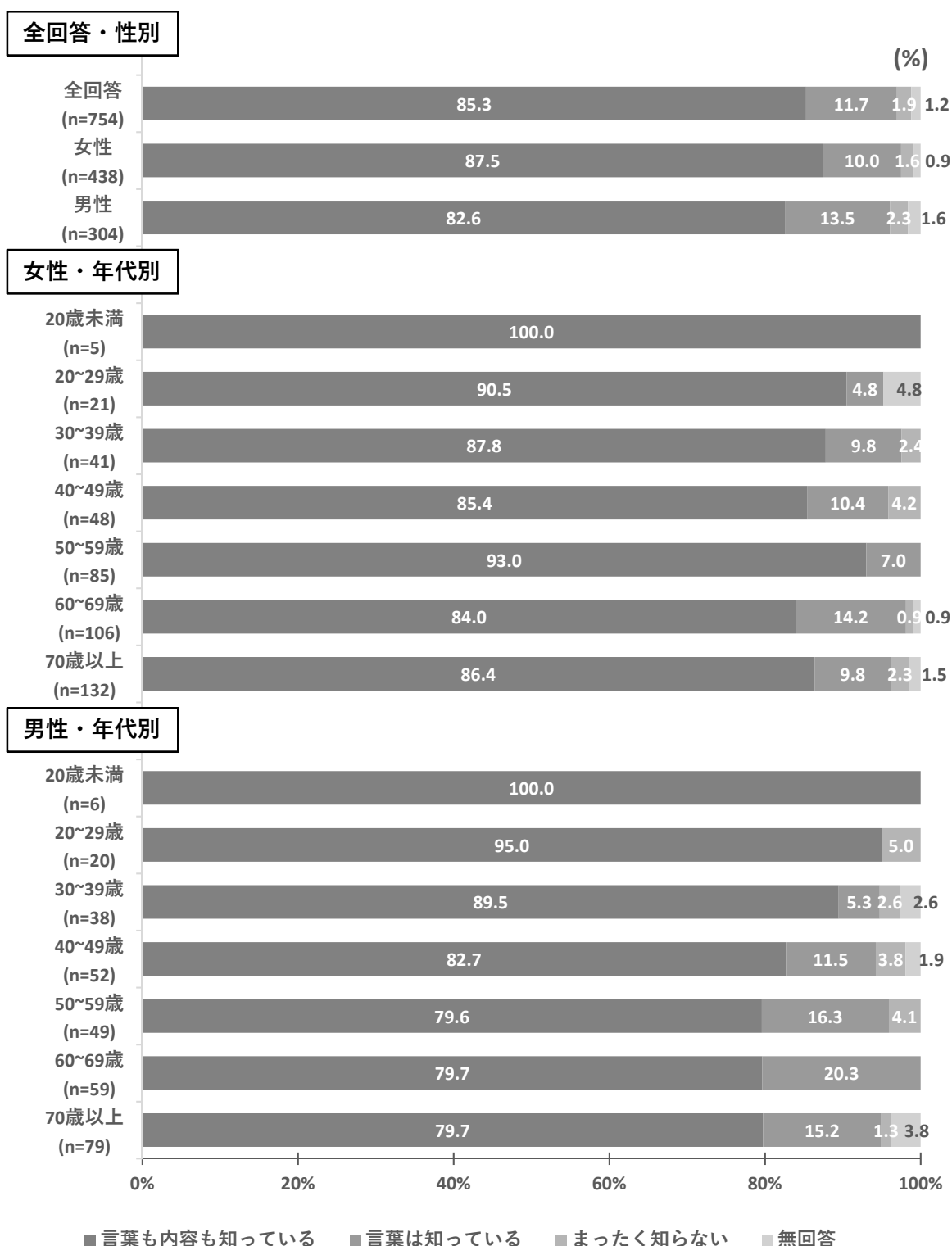
図表3-19-1-8. 用語「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」の認知度（性別、年代別）



6-1-9. 用語「DV（配偶者や交際相手からの暴力）」の認知度（性別、年代別）

性別では、女性が『言葉も内容も知っている』では4.9ポイント男性より高いものの、認知度には大きな差はなかった。年代別でみると、男女ともに世代が上がるにつれて『言葉も内容も知っている』の割合が下がる傾向にあるものの、50歳代女性では高くなっており、認知度は100%となった。また、男性でも60歳代で認知度が100%を達成している（男女ともに20歳以下でも100%となっているものの、回答者数が少ないため、参考とする）。

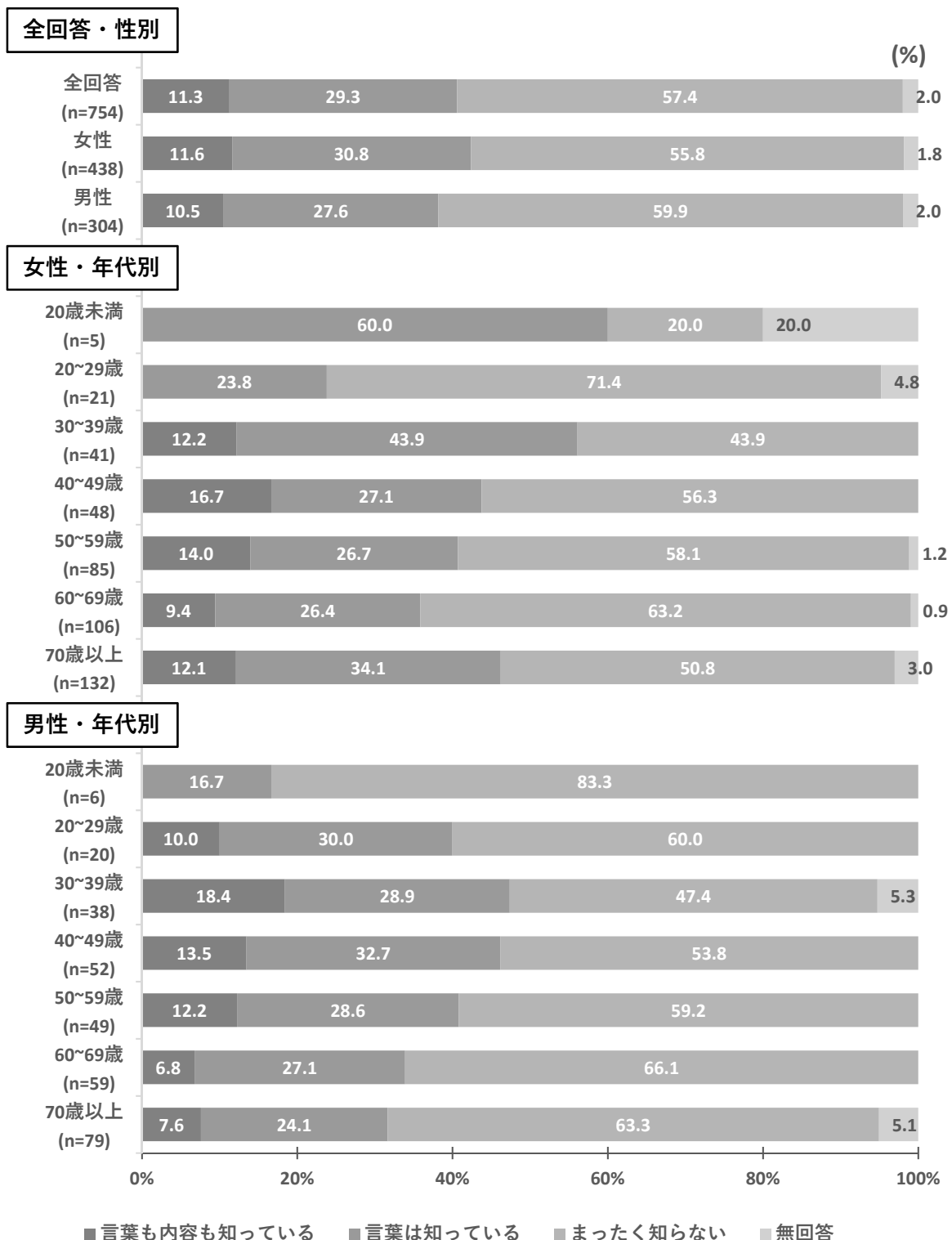
図表3-19-1-9. 用語「DV（配偶者や交際相手からの暴力）」の認知度（性別、年代別）



6-1-10. 用語「パープルリボン（女性に対するあらゆる暴力の根絶のシンボル）」の認知度（性別、年代別）

性別では、認知度の差は5ポイント未満となった。年代別にみると、男女ともに若い世代が高く、世代が上がるほどに認知度が下がる傾向にある。女性では30歳代（56.1%）を頂点に低下するものの、70歳以上の女性（46.2%）では認知度が高かった。男性では30~40歳代を天井に、世代が上がるごとに認知度が下がっていった。

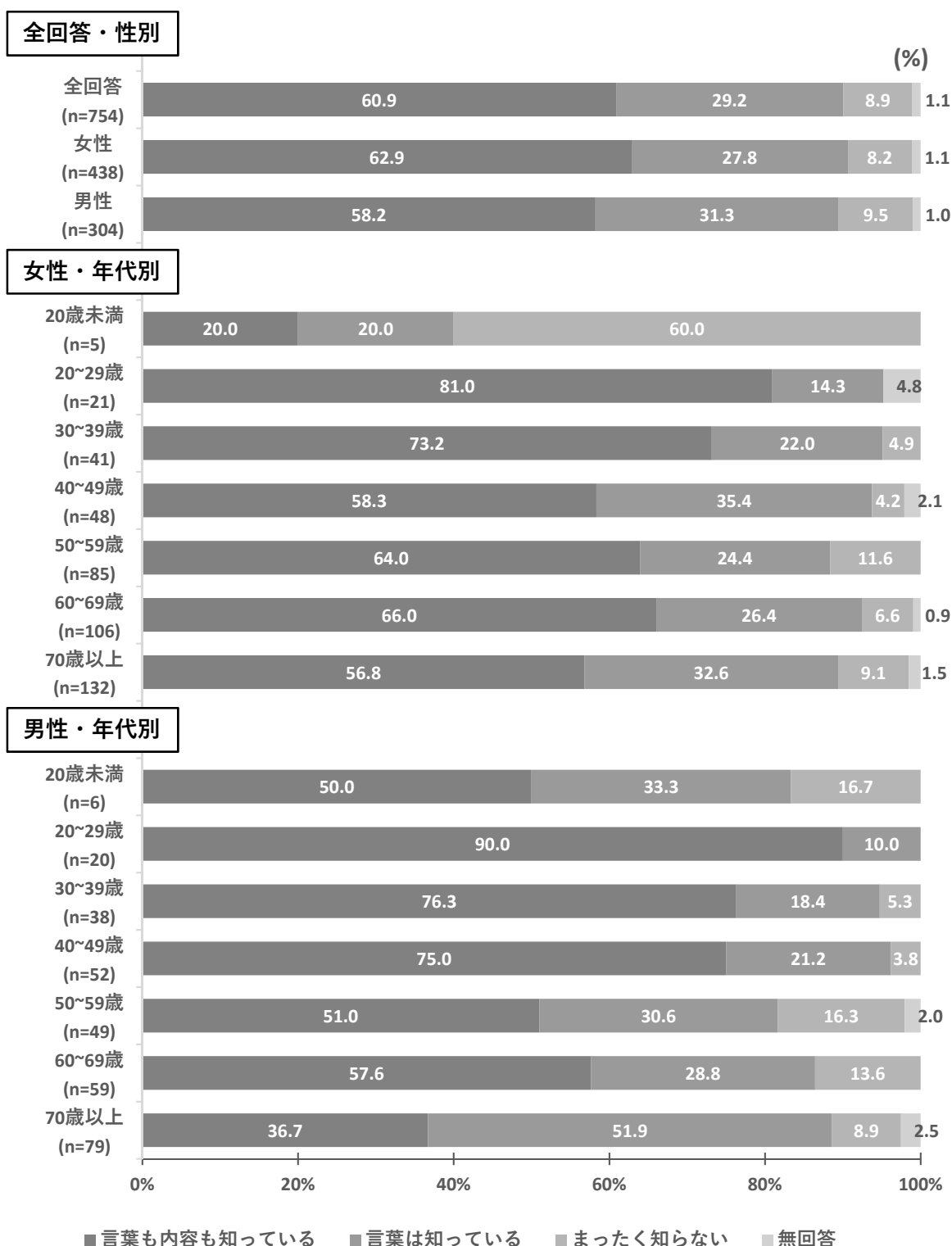
図表3-19-1-10. 用語「パープルリボン（女性に対するあらゆる暴力の根絶のシンボル）」の認知度（性別、年代別）



6-1-11. 用語「マタニティ・ハラスメント」の認知度（性別、年代別）

性別では、認知度の差は5ポイント未満となった。年代別にみると、若い世代で『言葉も内容も知っている』がの選択率が高く、世代が上がるほど下がる傾向にある。この傾向は男性の方が顕著であり、70歳以上では4割を下回る。ただし、60歳代では50歳代よりも6.6ポイント高かった。認知度については男女ともに30～40歳代で9割台半ばと高くなるものの、それより高い世代では『まったく知らない』の選択率が増え、認知度は9割前後になっている。

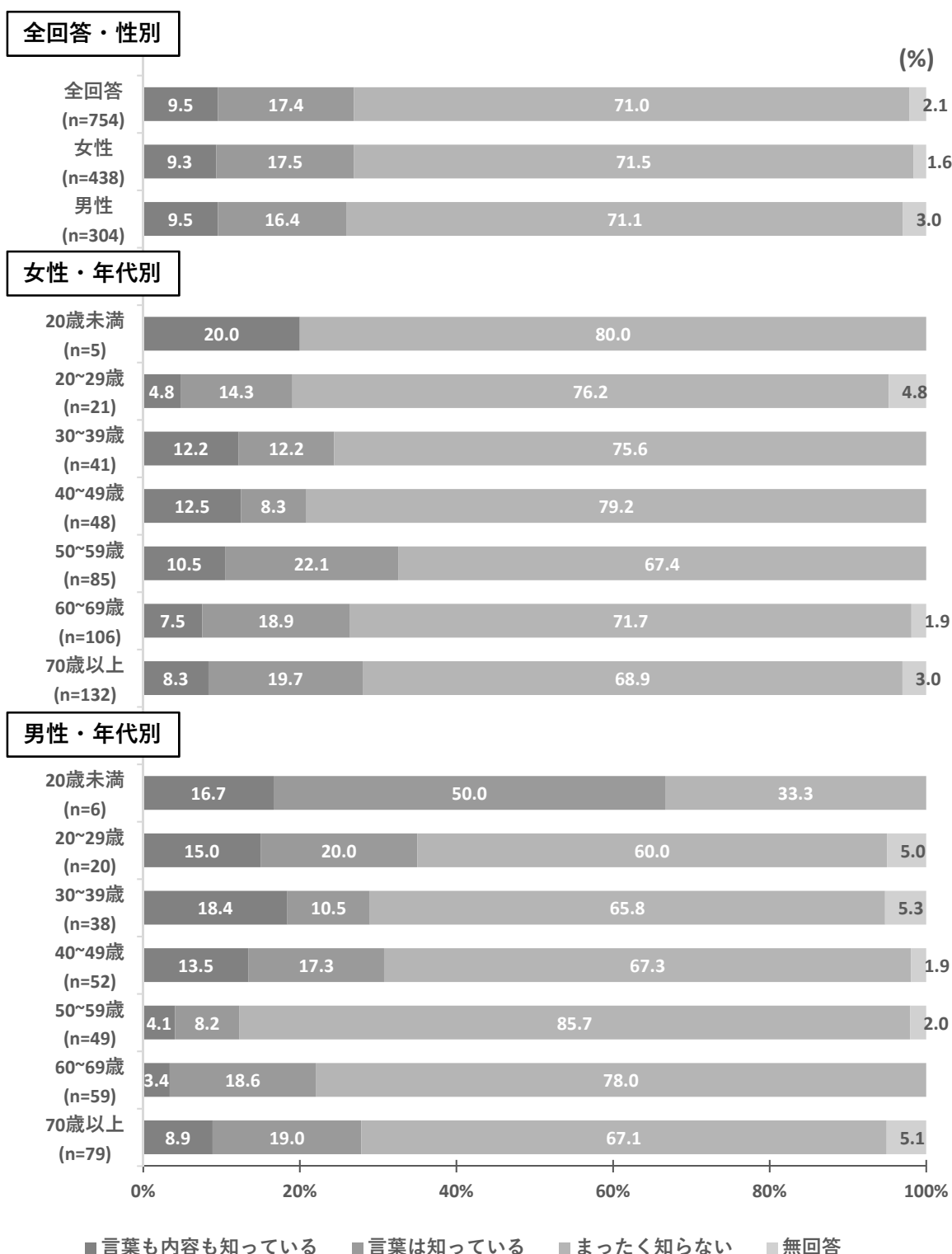
図表3-19-1-11. 用語「マタニティ・ハラスメント」の認知度（性別、年代別）



6-1-12. 用語「セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス・アンド・ライツ（性と生殖に関する健康と権利）」の認知度（性別、年代別）

性別では、認知度に大きな差は無く、男女ともに3割を下回った。年代別にみると、女性では50歳代で他の世代より認知度が高くなっている（32.6%）ものの、その他の世代では認知度に大きな差は無い。一方で、男性では50歳以上で『言葉も内容も知っている』の選択率が低く認知度も下がる傾向にあり、50歳代が顕著で、認知度も最も低くなった（12.3%）。

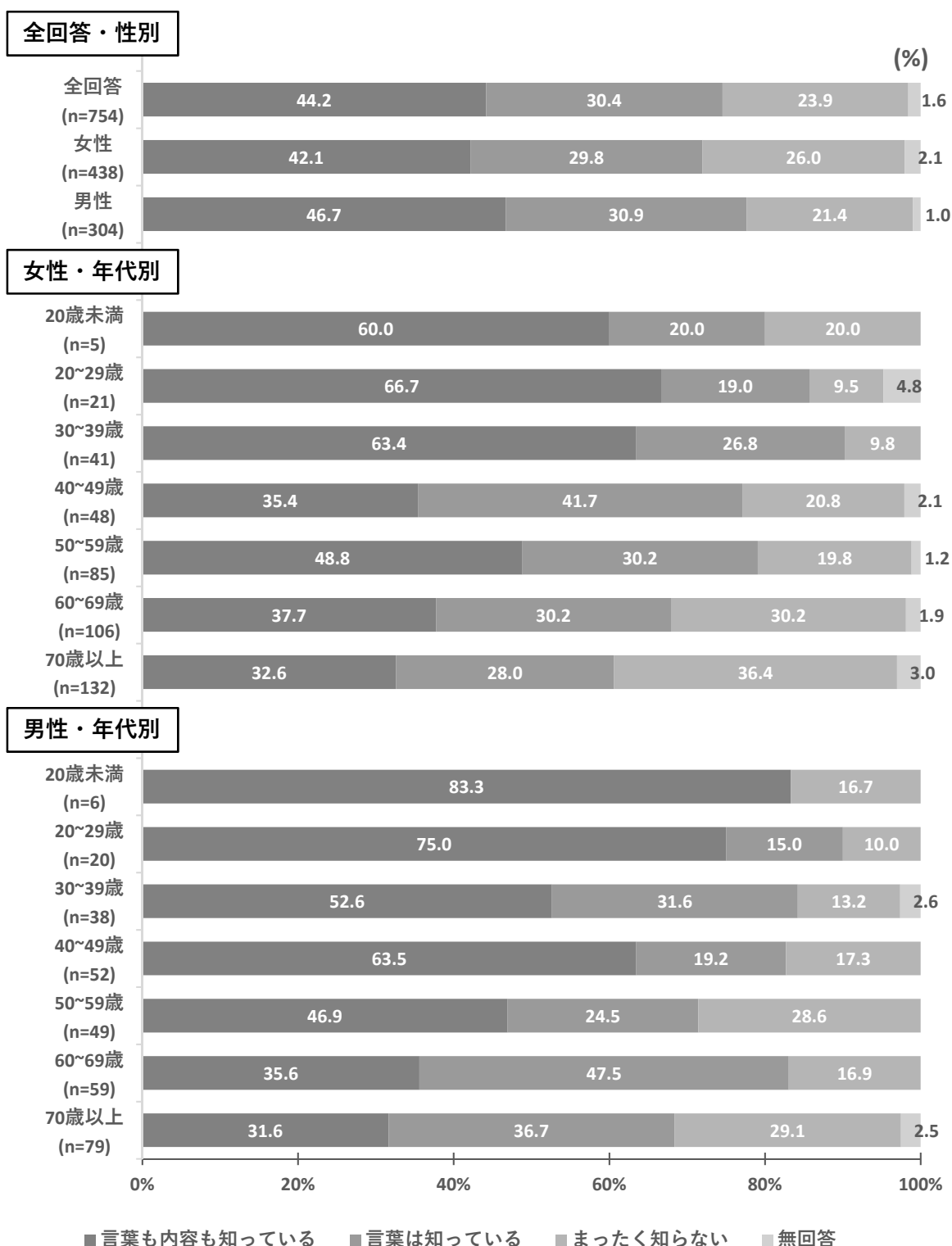
図表3-19-1-12. 用語「セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス・アンド・ライツ（性と生殖に関する健康と権利）」の認知度（性別、年代別）



6-1-13. 用語「性的少数者（LGBTQ+など）」の認知度（性別、年代別）

性別では、男性の認知度が女性を5.6ポイント上回った。年代別にみると、男女ともに年代が上がるごとに『言葉も内容も知っている』が下がり、認知度も下がる傾向にある。ただし、女性では40歳代で、男性では30歳代で『言葉も内容も知っている』が周辺の世代より低くなった。また、50歳代で『言葉も内容も知っている』が高く（48.8%）、男性では60歳代で『言葉は知っている』の選択率が高く、認知度が周辺の世代より高くなった。

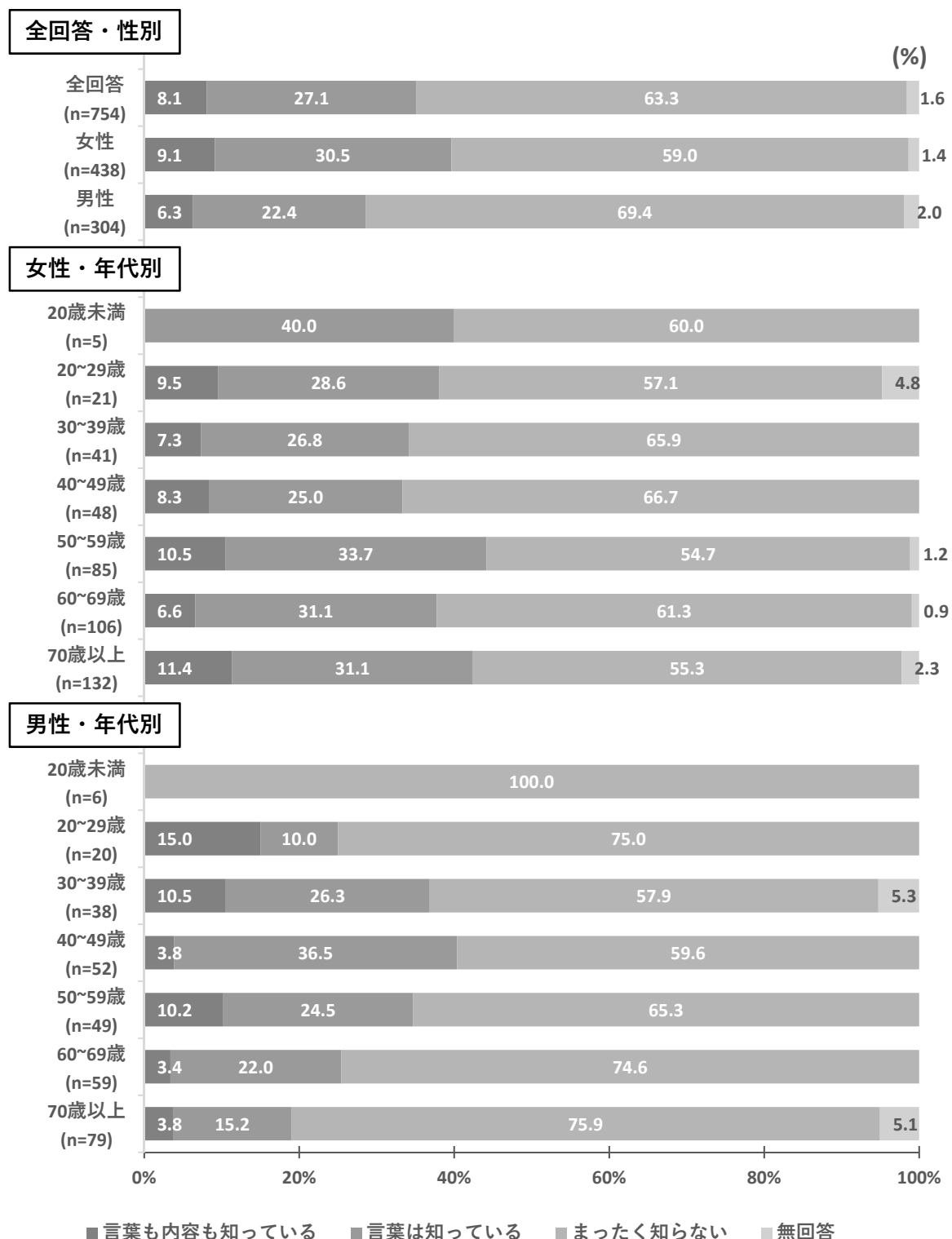
図表3-19-1-13. 用語「性的少数者（LGBTQ+など）」の認知度（性別、年代別）



6-1-14. 用語「白山市パートナーシップ宣誓制度」の認知度（性別、年代別）

性別では、女性の認知度が男性を11.0ポイント上回った（女性39.6%、男性28.6%）。年代別にみると、女性では世代を通じて認知度が3～4割前後を維持し、50歳代で他の世代より5ポイント前後上回って最大（44.2%）となった。一方で、男性では40歳代を頂点（40.4%）に、年代が上がるごとに認知度も下がる傾向にあった。特に、29歳以下（19.2%）、70歳以上（19.0%）では認知度が2割を下回っていた。

図表3-19-1-14. 用語「白山市パートナーシップ宣誓制度」の認知度（性別、年代別）



6-2. 用語の認知度（石川県との比較）

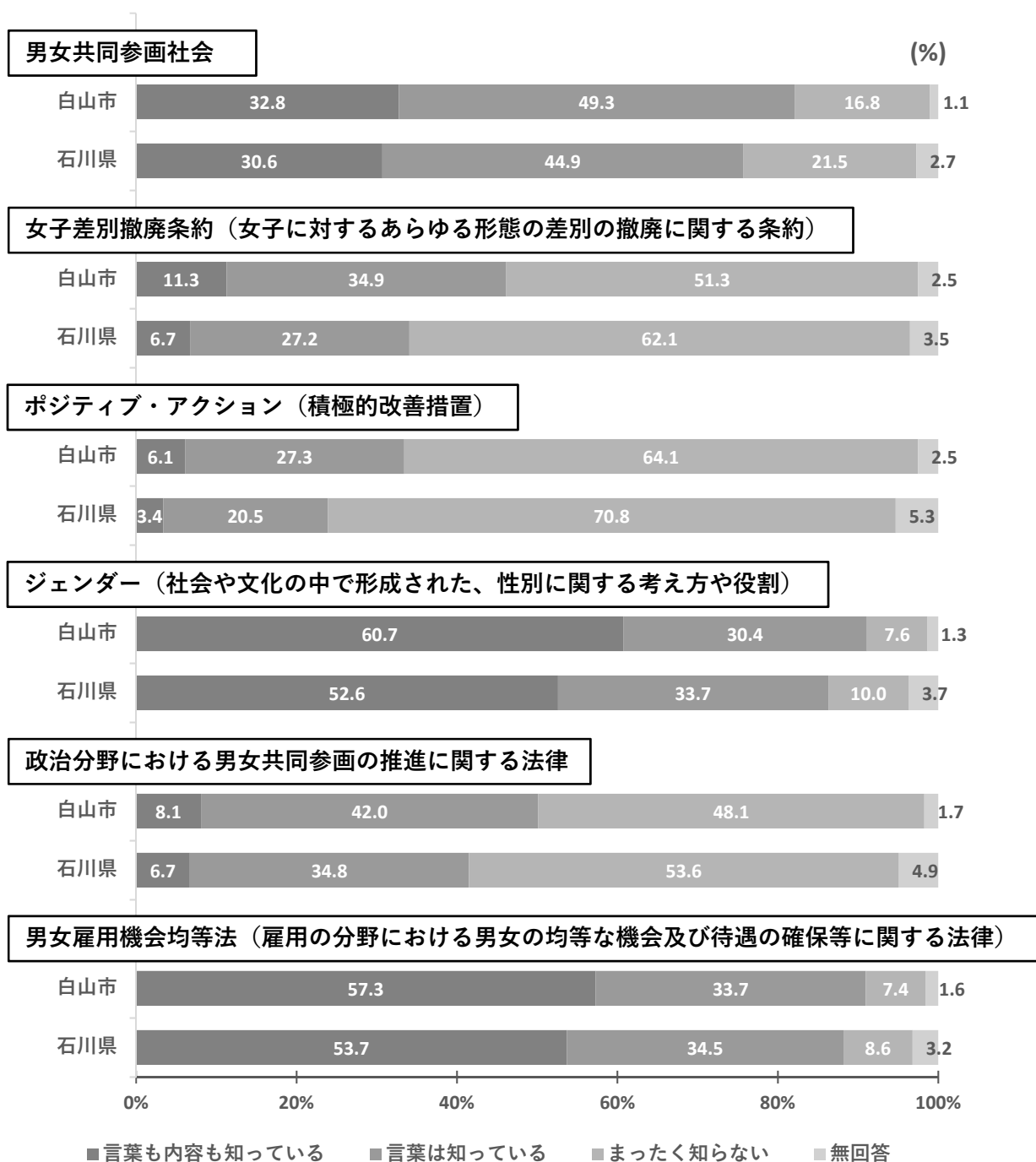
石川県による調査の結果と比較した。比較には、令和6年度「男女共同参画に関する県民意識調査」の調査結果を使用した。項目が異なるため、共通するものについて比較する。また、選択肢については、『言葉は知っている（石川県：言葉は聞いたことがあるが内容は知らない）』のみ、選択肢が異なるが、本調査の選択肢に読み替えて表示する。

石川県よりも認知度が低かったのは2項目のみで、それ以外は白山市の認知度が上回った。下回ったのは、「パープルリボン（女性に対するあらゆる暴力の根絶のシンボル）」で4.5ポイント（白山市40.6%、石川県45.1%）、「性的少数者（LGBTQ+など）」で6.7ポイント（白山市74.6%、石川県81.3%）だった。

認知度が上回ったもののうち、差が大きかった順に「女子差別撤廃条約（女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約）」で12.3ポイント（白山市46.2%、石川県33.9%）、「ポジティブ・アクション（積極的改善措置）」で9.5ポイント（白山市33.4%、石川県23.9%）、同列で「女性活躍推進法（女性の職業生活における活躍の推進に関する法律）」で9.5ポイント（白山市53.1%、石川県43.6%）となった。

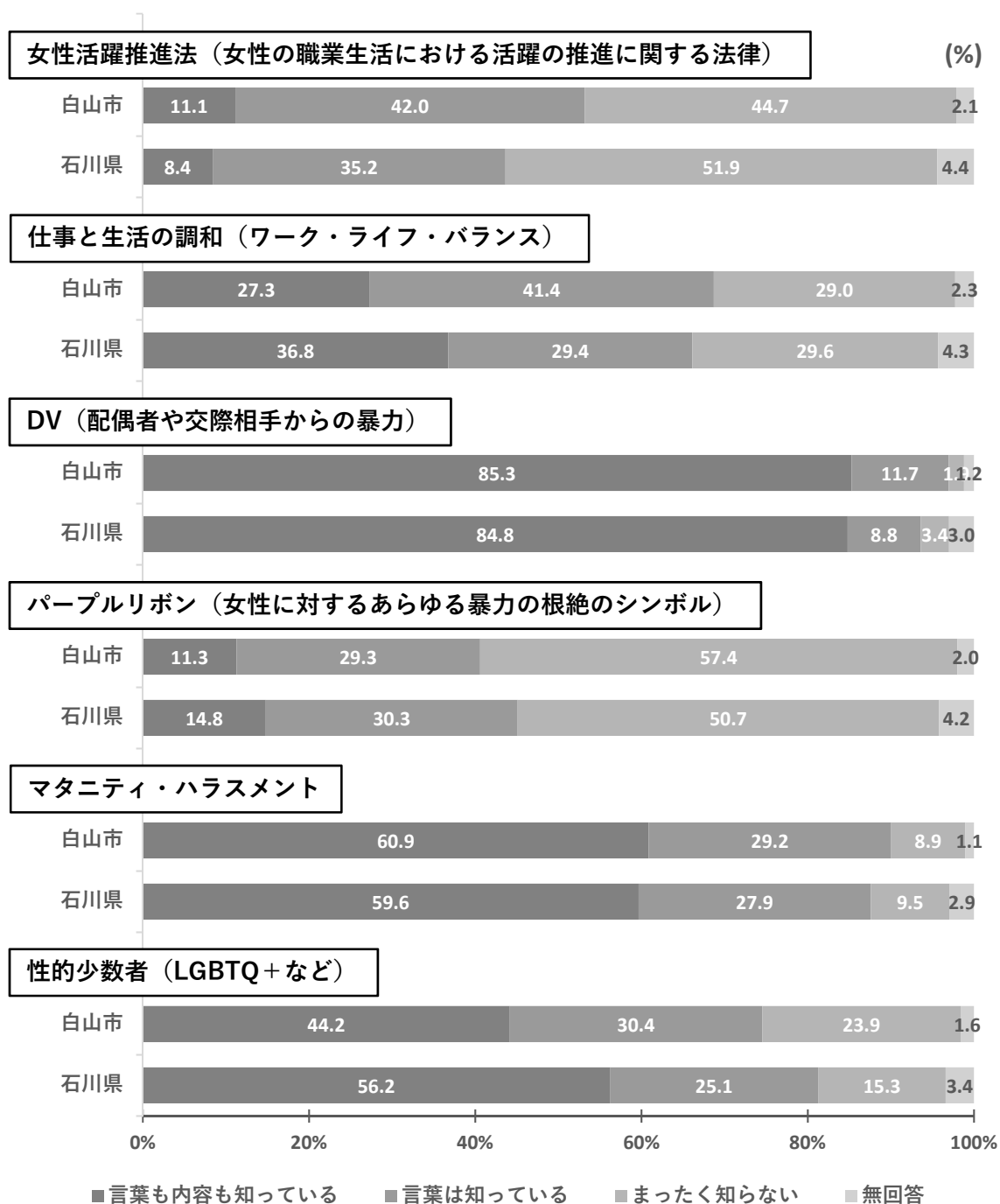
また、「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」においては、『言葉も内容も知っている』の選択率については石川県の方が高かった（白山市27.3%、石川県36.8%）ものの、『言葉は知っている』での差がそれを上回った（白山市29.4%、石川県41.4%）ため、認知度は白山市の方が高かった（図表3-19-2-2）。

図表3-19-2-1. 用語の認知度（石川県との比較、全体）①



※白山市（n=754）、石川県（n=1,102）

図表3-19-2-2. 用語の認知度（石川県との比較、全体）②



※白山市（n=754）、石川県（n=1,102）

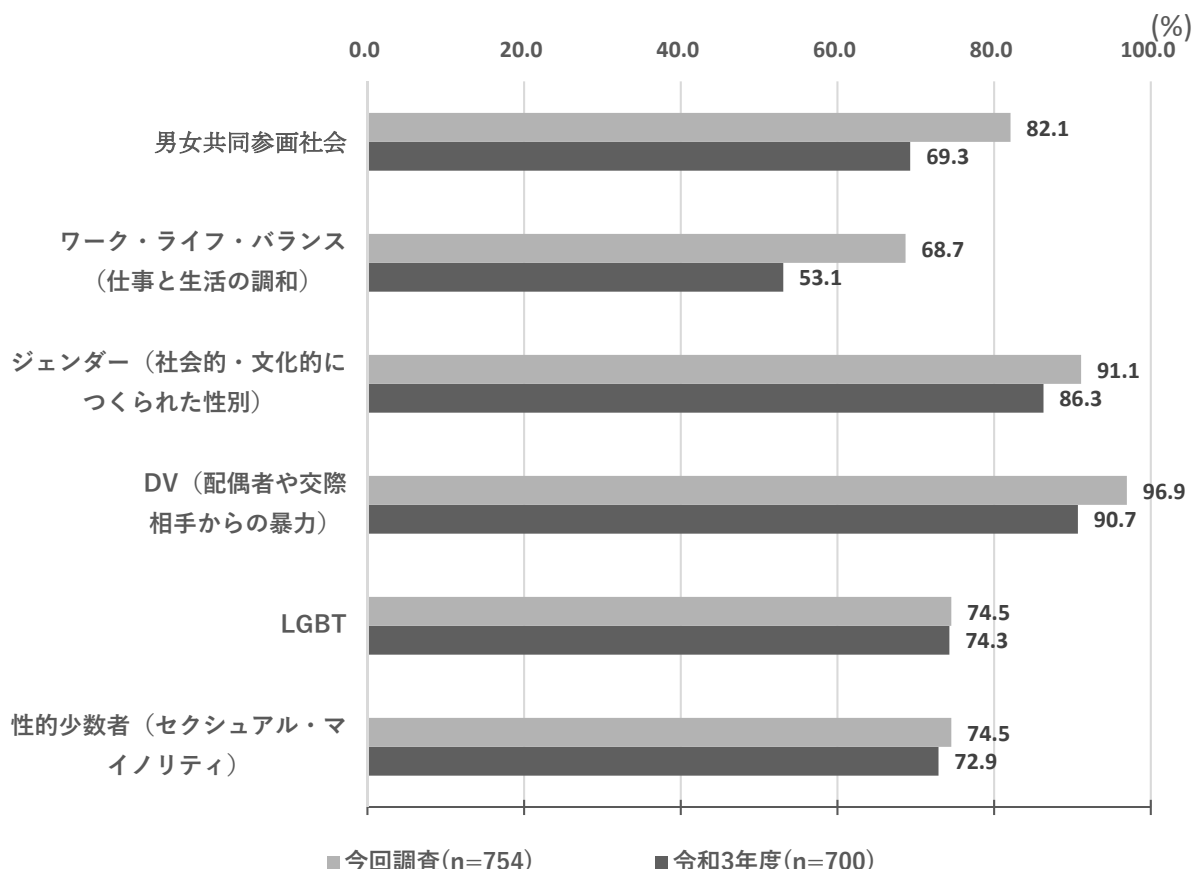
6-2. 用語の認知度（前回調査との比較）

前回調査（令和3年度実施）の結果と比較する。項目と選択肢が異なるため、共通するものについて比較する。前回調査の方法は、知っているものを選ぶ方式であったため、認知度のみが計測されている。それに合わせて、今回調査での結果を認知度で集計し、認知度を比較した。なお、前回調査において、「性的少数者」と「LGBT」（今回調査ではLGBTQ+）は別項目として設定されていたため、それぞれ今回調査での「性的少数者（LGBTQ+など）」の認知度と比較しており、項目も前回調査に準じた。

前回調査と比べ、すべての項目で認知度の向上が見られた。5ポイント以上の向上があったのは「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」で15.6ポイント（今回調査68.7%、前回調査53.1%）、「男女共同参画社会」で12.8ポイント（今回調査82.1%、前回調査69.3%）、「DV（配偶者や交際相手からの暴力）」で5.8ポイント（今回調査96.9%、前回調査90.7%）であった。

なお、第2次白山市男女共同参画行動計画においては、「『DV』という用語の認知度」と「『男女共同参画社会』という用語の認知度」を令和8年度（2026年度）までに100%とする数値目標が掲げられている。今回の調査では両項目ともに5ポイント以上の向上が見られた。「DV」については、96.9%とほぼ達成に近づいている一方で、「男女共同参画社会」については、認知度が82.1%となっており、前回調査からの向上幅を鑑みると、より一層の施策が求められる。

図表3-19-2-1. 用語の認知度（前回調査との比較、全体）



6-3. 性別による無意識の思い込み

問20 あなたは、次の考え方についてどう思いますか。

（各項目についてあてはまる番号に1つつ0をつける）

全回答者に、一般的な無意識な思い込みとされている性別役割分担意識について質問し、どう考えるかを尋ねた。

回答全体を見ると、同意合計（『そう思う』と『どちらかというと思う』の合計）が5割を超えていたのは、「女性には女性らしい感性があるものだ（計66.8%）」、「男性は仕事をして家計を支えるべきだ」（計62.3%）の2項目のみだった。一方で非同意合計が高い順に、「同程度の實力なら、まず男性から昇進させたり、管理職に登用するものだ（計78.6%）」、「受付、接客・対応（お茶出し）は女性の仕事だ（計74.7%）」、「男性は人前で泣くべきではない（計74.0%）」となった。

また、同意合計と非同意合計（『そう思わない』と、『どちらかというと思わない』の合計）の差が大きい項目は、順に「同程度の實力なら、まず男性から昇進させたり、管理職に登用するものだ（同意合計8.1%、非同意合計78.6%）」で70.5ポイント、「受付、接客・対応（お茶出し）は女性の仕事だ（同意合計13.5%、非同意合計74.7%）」で61.1ポイント、「男性は人前で泣くべきではない（同意合計13.5%、非同意合計74.0%）」で60.5ポイントと、すべて非同意合計が上回った。

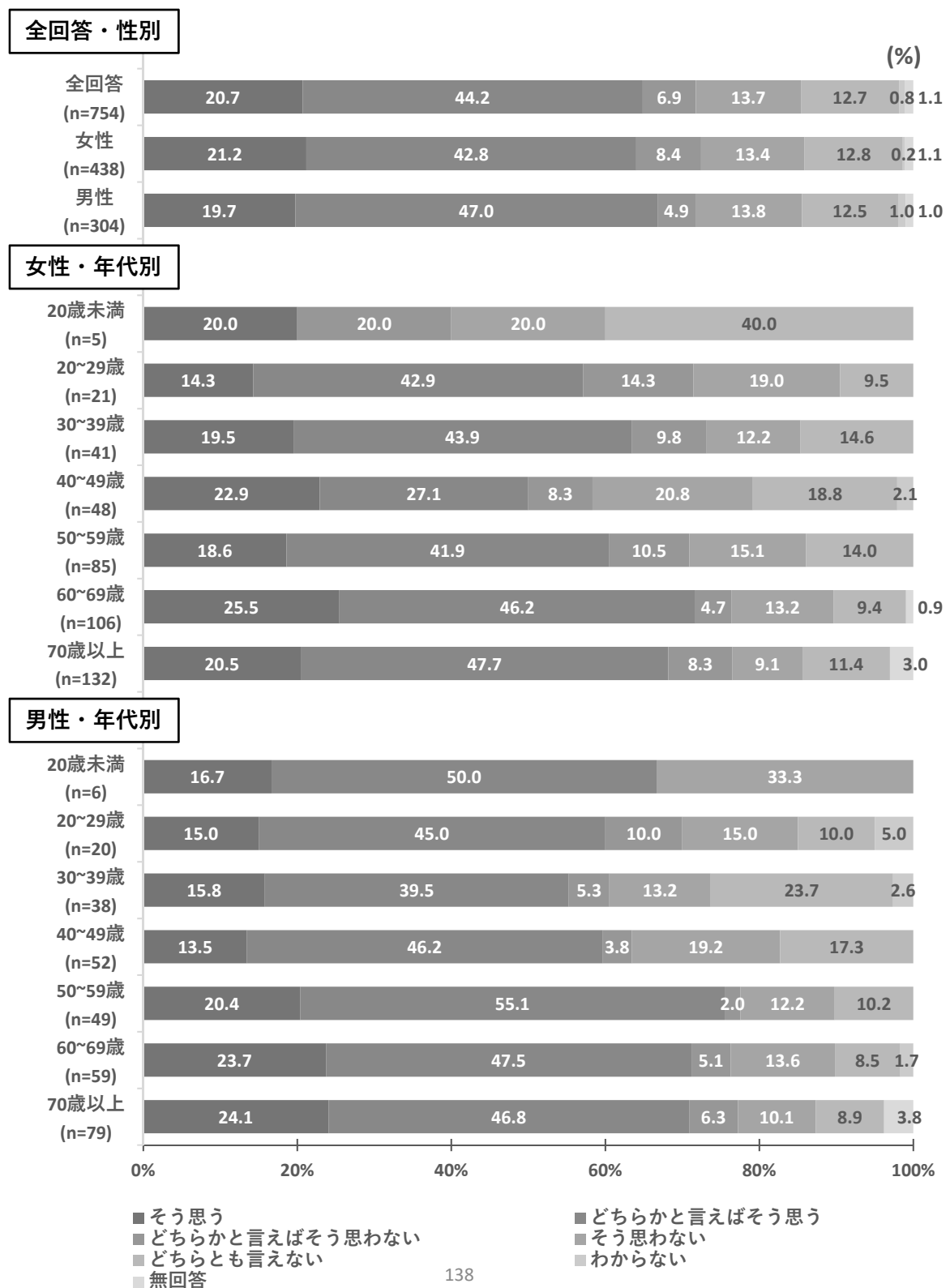
回答を性別で見ると、同意合計の差が大きい順に「デートや食事のお金は男性が負担すべきだ（女性19.1%、男性27.0%）」で男性が7.9ポイント「女性には女性らしい感性があるものだ（女性69.9%、男性63.2%）」で女性が6.7ポイント、「結婚したら姓を変えるのは女性であるべきだ（女性15.0%、男性20.4%）」で男性が5.4ポイント、上回った。

また、非同意合計の差を見ると、5ポイント以上の差がある項目は2つのみで、順に「デートや食事のお金は男性が負担すべきだ（女性64.5%、男性58.2%）」で6.3ポイント、「結婚したら姓を変えるのは女性であるべきだ（女性65.1%、男性59.2%）」で5.9ポイントと、それぞれ女性の方が高かった。

6-3-1. 「男性は仕事をして家計を支えるべきだ」に対する考え（性別、年代別）

年代別に同意合計をみると、女性では40歳代が最低（50.0%）で他の世代より低いものの、全体として6割から7割前後となった。特に60歳代以降では71.7%、68.2%と、他の世代よりも5ポイント以上高くなった。男性でも、50歳以上の世代では7割台、それより若い世代では6割弱と、世代間で10ポイント以上の差があった。年代が高くなるほど、この考えに同意する傾向がある。

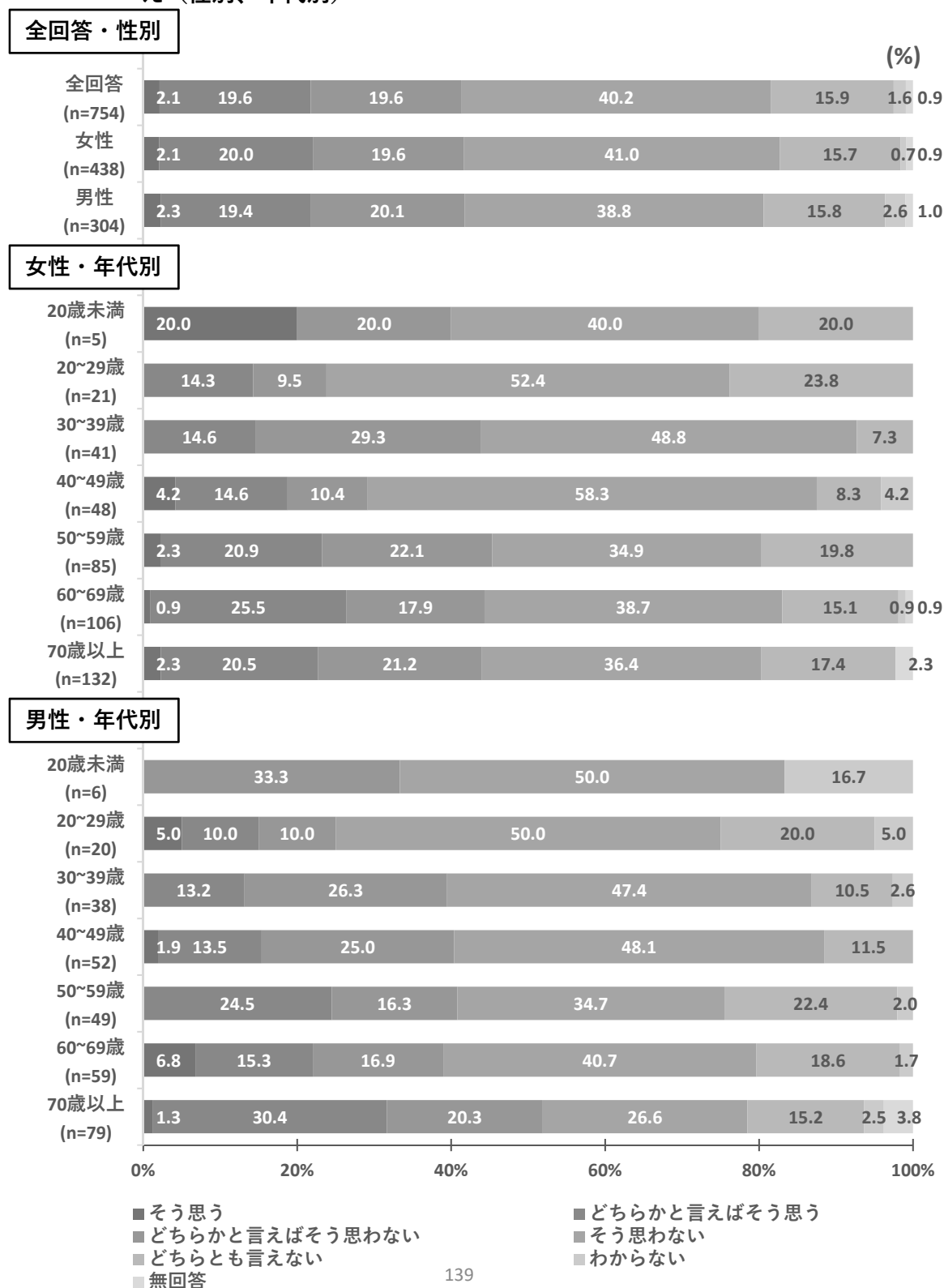
図表3-20-1. 「男性は仕事をして家計を支えるべきだ」に対する考え（性別、年代別）



6-3-2. 「共働きで子どもの具合が悪くなった時、母親が看病すべきだ」に対する考え（性別、年代別）

年代別に非同意合計をみると、女性では30歳代（78.0%）を頂点に、世代が上がるにつれて下がっていき、「どちらとも言えない」が上がっていた。また、『そう思わない』は、40歳代が最も高かった（58.3%）。男性では30～40歳代と50歳以上の間で15ポイント前後の差があった。男性でも、『そう思わない』が減り、『どちらとも言えない』が増えた。

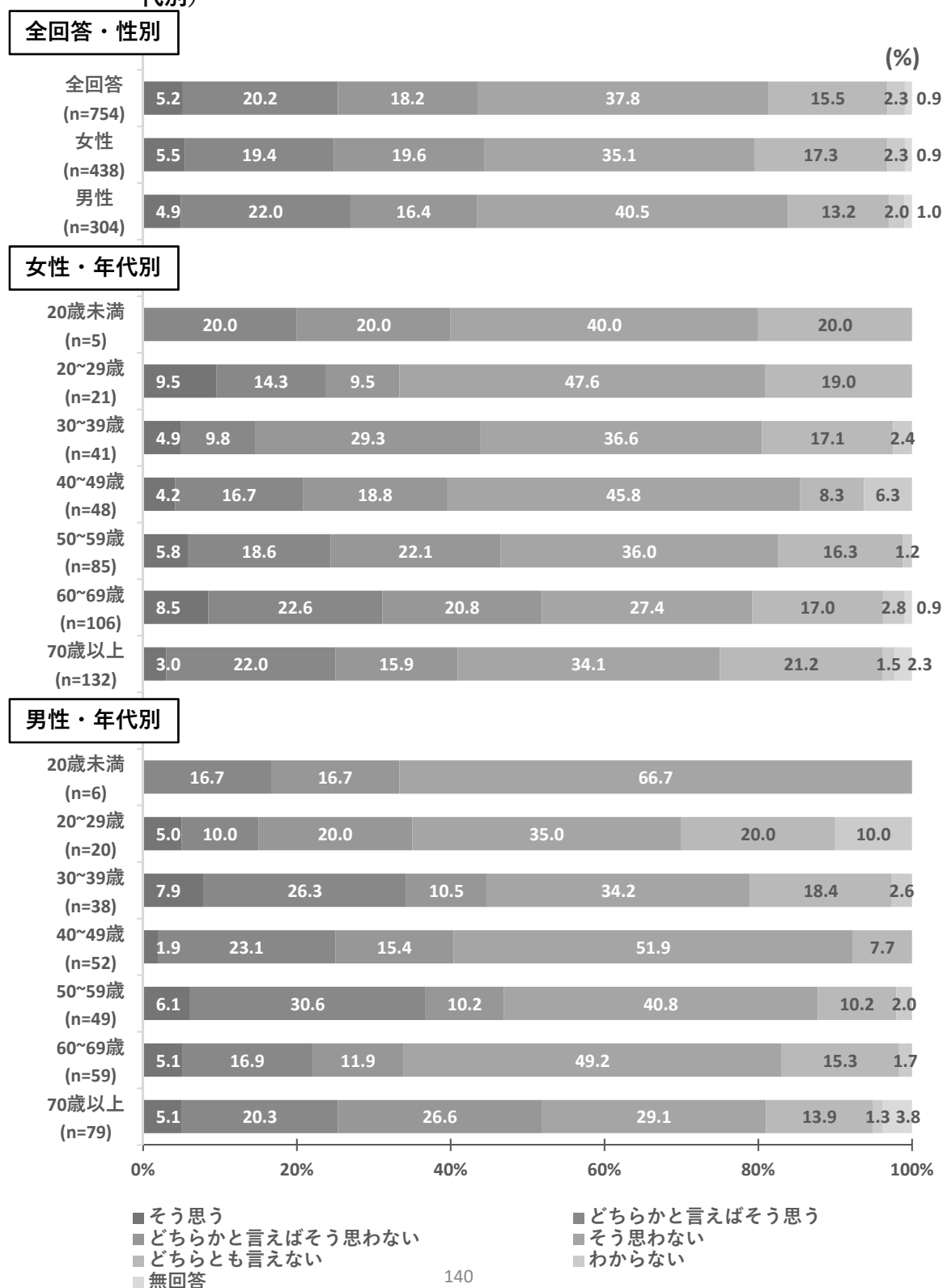
図表3-20-2. 「共働きで子どもの具合が悪くなった時、母親が看病すべきだ」に対する考え（性別、年代別）



6-3-3. 「自治会や町内会の重要な役職は男性が担うべきだ」に対する考え（性別、年代別）

年代別に非同意合計をみると、女性では若い世代から世代が上がるにつれて下がっていき、60歳代（48.1%）が底になった。男性では40歳代（67.3%）が前後の世代よりも15ポイント以上高くなった。同意合計は、30歳代と50歳代で3割半ばとなり、他の世代よりも10ポイント前後高かった。

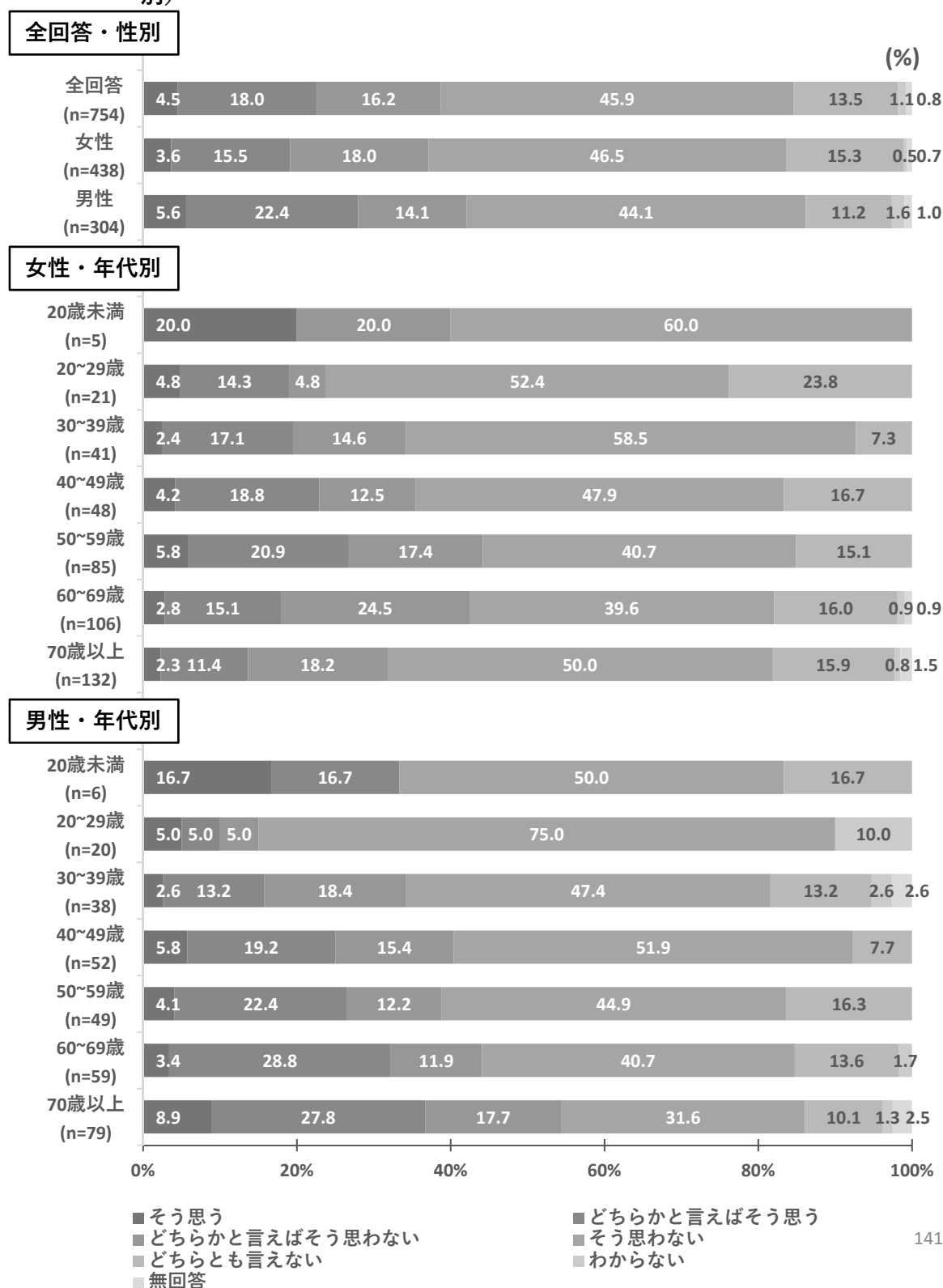
図表3-20-3. 「自治会や町内会の重要な役職は男性が担うべきだ」に対する考え（性別、年代別）



6-3-4. 「デートや食事のお金は男性が負担すべきだ」に対する考え（性別、年代別）

年代別に非同意合計をみると、女性では30歳代が最も高く（73.2%）、他の世代よりも10ポイント前後高かった。次いで高かったのは70歳以上（68.2%）で、この世代では同意合計が最も低かった（13.6%）。男性では29歳以下（73.1%）から世代が上がるにつれて下がる傾向にあり、同意合計でも、世代ごとに上がっていき、70歳以上では36.7%となった。

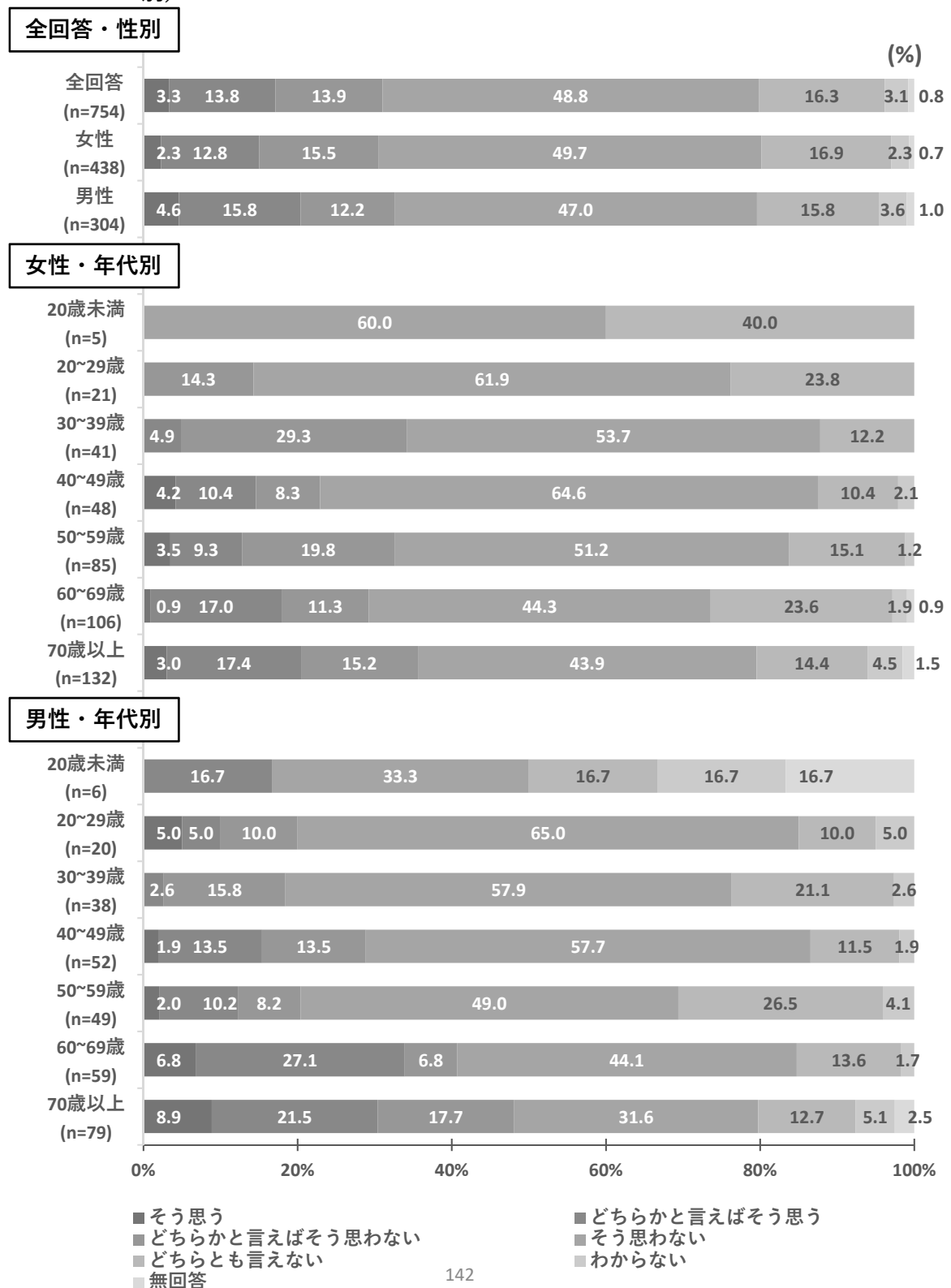
図表3-20-4. 「自デートや食事のお金は男性が負担すべきだ」に対する考え（性別、年代別）



6-3-5. 「結婚したら姓を変えるのは女性であるべきだ」に対する考え（性別、年代別）

年代別に非同意合計をみると、女性では60歳以上が、それより若い世代より10ポイント以上低く、特に60歳代が低くなった（55.7%）。男性では30歳代が最も高く（73.7%）、世代が上がるにつれて下がっていた。また、男女ともに、60歳以上で同意合計と非同意合計の差が20ポイント以上縮まっていた。

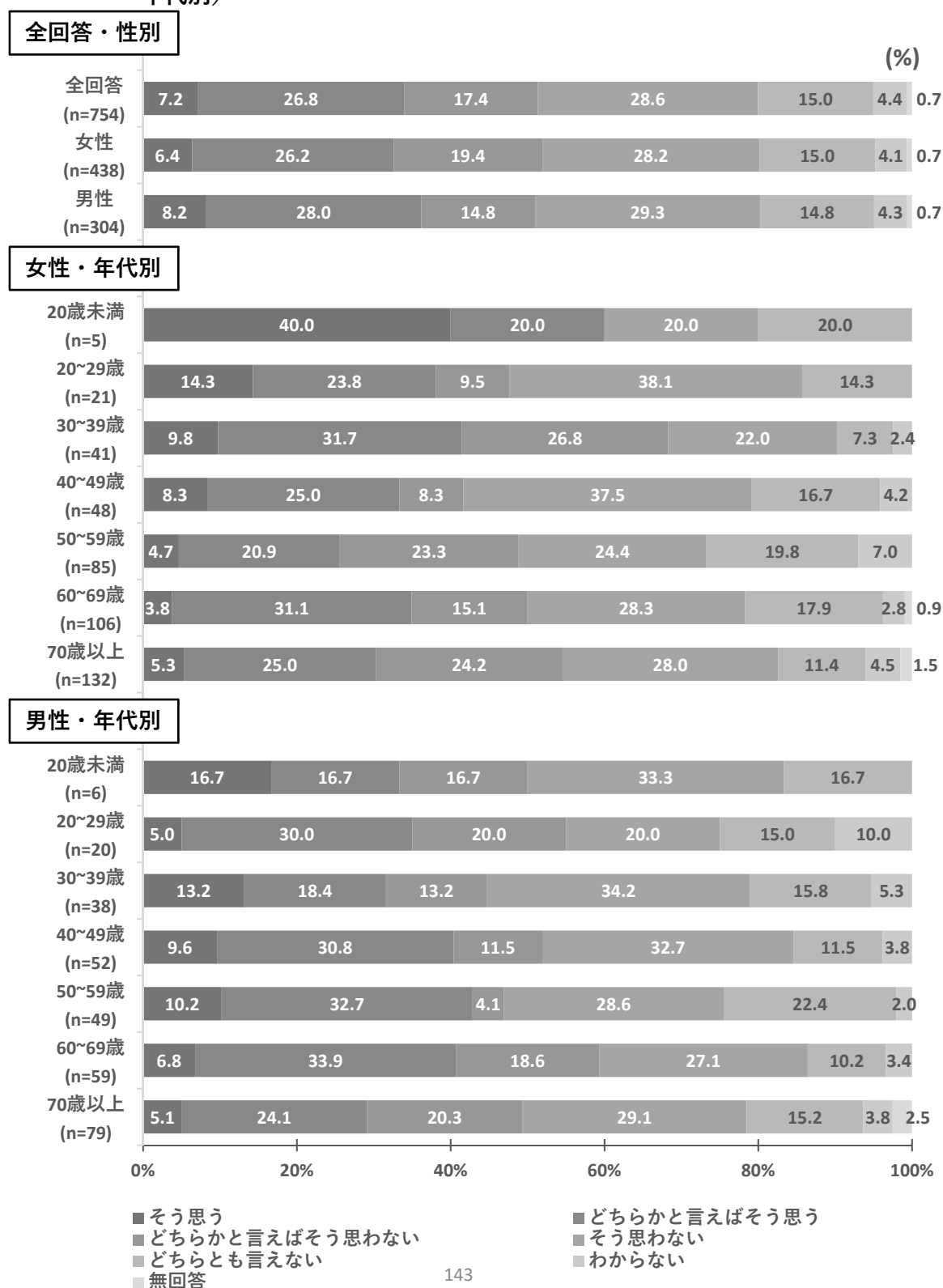
図表3-20-5. 「結婚したら姓を変えるのは女性であるべきだ」に対する考え（性別、年代別）



6-3-6. 「育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない」に対する考え（性別、年代別）

年代別にみると、女性では50歳代で同意合計（25.6%）が他の世代よりも5ポイント以上低くなったものの、非同意合計では他の世代と比べても大きな差は無かった。男性では、40～60歳代で同意合計が高く、50歳代では非同意合計が他の世代よりも10ポイント以上低かったため、同意合計が非同意合計を上回った。

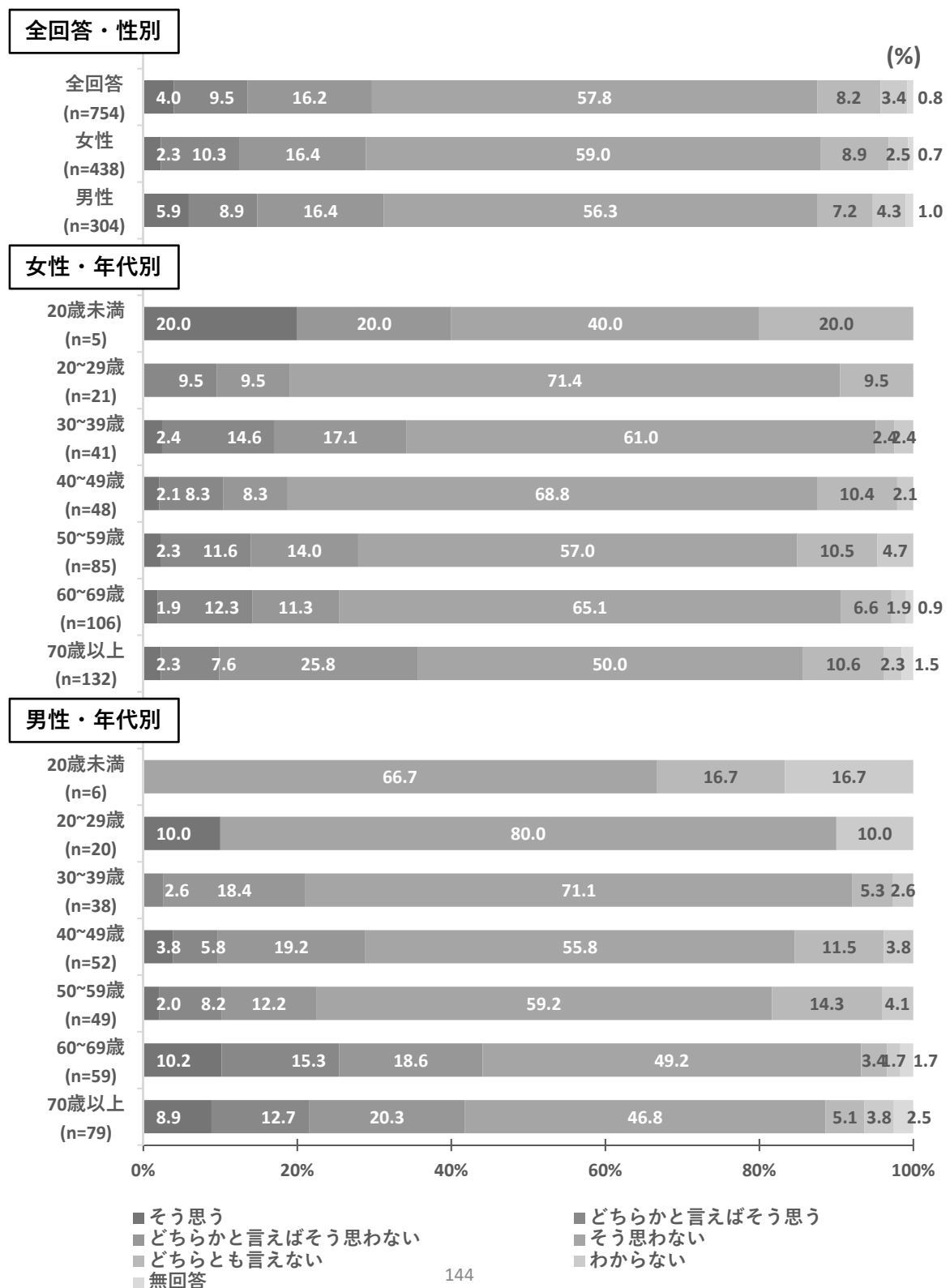
図表3-20-6. 「育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない」に対する考え（性別、年代別）



6-3-7. 「男性は人前で泣くべきではない」に対する考え（性別、年代別）

非同意合計が高くなった項目の一つである。年代別にみると、女性では50歳代で非同意合計（70.9%）が他の世代よりも5ポイント以上低くなったものの、全体として女性では非同意合計が7割を超えていた。男性では、60歳以上で同意合計が高く、それより若い世代より10～15ポイント以上の差があった。一方で、30歳代では同意合計が2.6%と、男女どの世代よりも低く、非同意合計も89.5%と高くなったため、その差が86.8ポイントと大きく開いた。

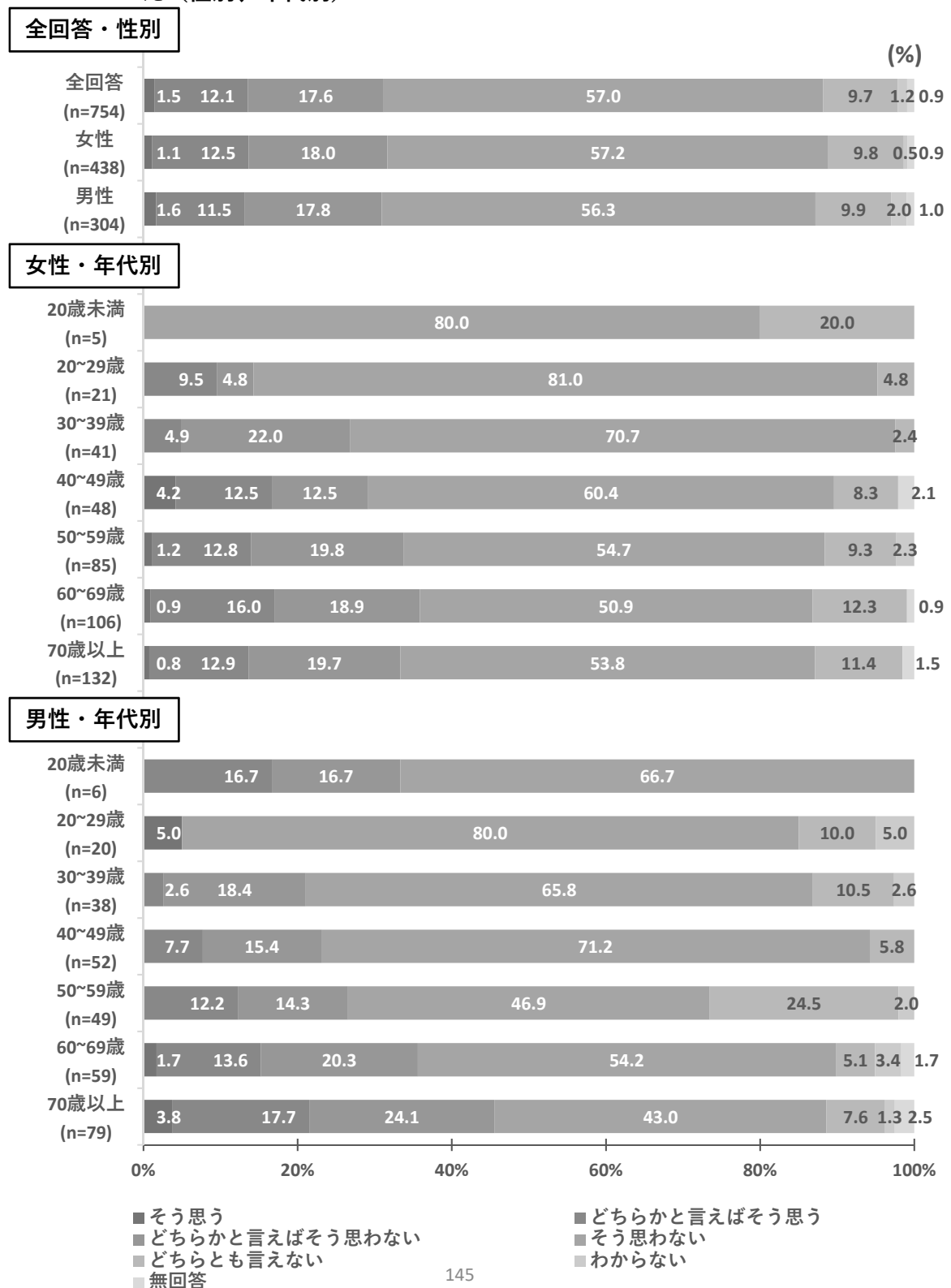
図表3-20-7. 「男性は人前で泣くべきではない」に対する考え（性別、年代別）



6-3-8. 「親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ」に対する考え（性別、年代別）

年代別にみると、女性では30歳代以下の同意合計が上の世代よりも10ポイント前後低く、非同意合計が10ポイント前後高かった。加えて、30歳代では非同意合計が他の世代よりも突出して高く（92.7%）同意合計との差が87.8ポイントとなった。男性でも、30歳代で同様の傾向が見られ、同意合計（2.6%）と非同意合計（84.2%）の差が81.6ポイントとなった。

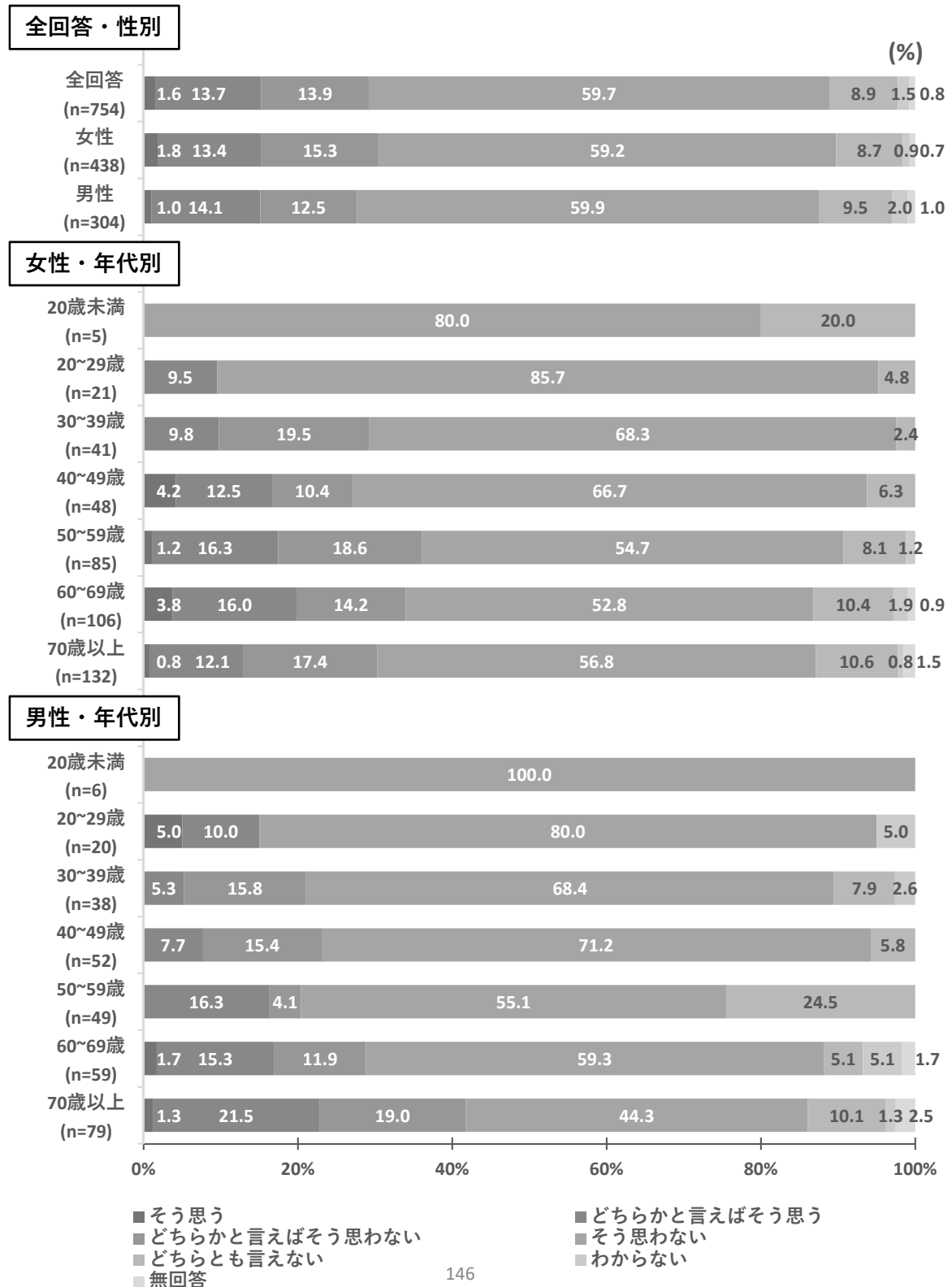
図表3-20-8. 「親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ」に対する考え（性別、年代別）



6-3-9. 「受付、接客・対応（お茶出し）は女性の仕事だ」に対する考え（性別、年代別）

年代別にみると、男女ともに年代が上がると同意合計が上がり、非同意合計が下がる傾向にある。女性では60歳代（同意合計19.8%、非同意合計67.0%）で、男性では50歳代（同意合計16.3%、非同意合計59.2%）でこの傾向が強く、同意合計と非同意合計の差が小さくなった。一方で、70歳以上の女性では同意合計が低かったため、差も大きくなった。

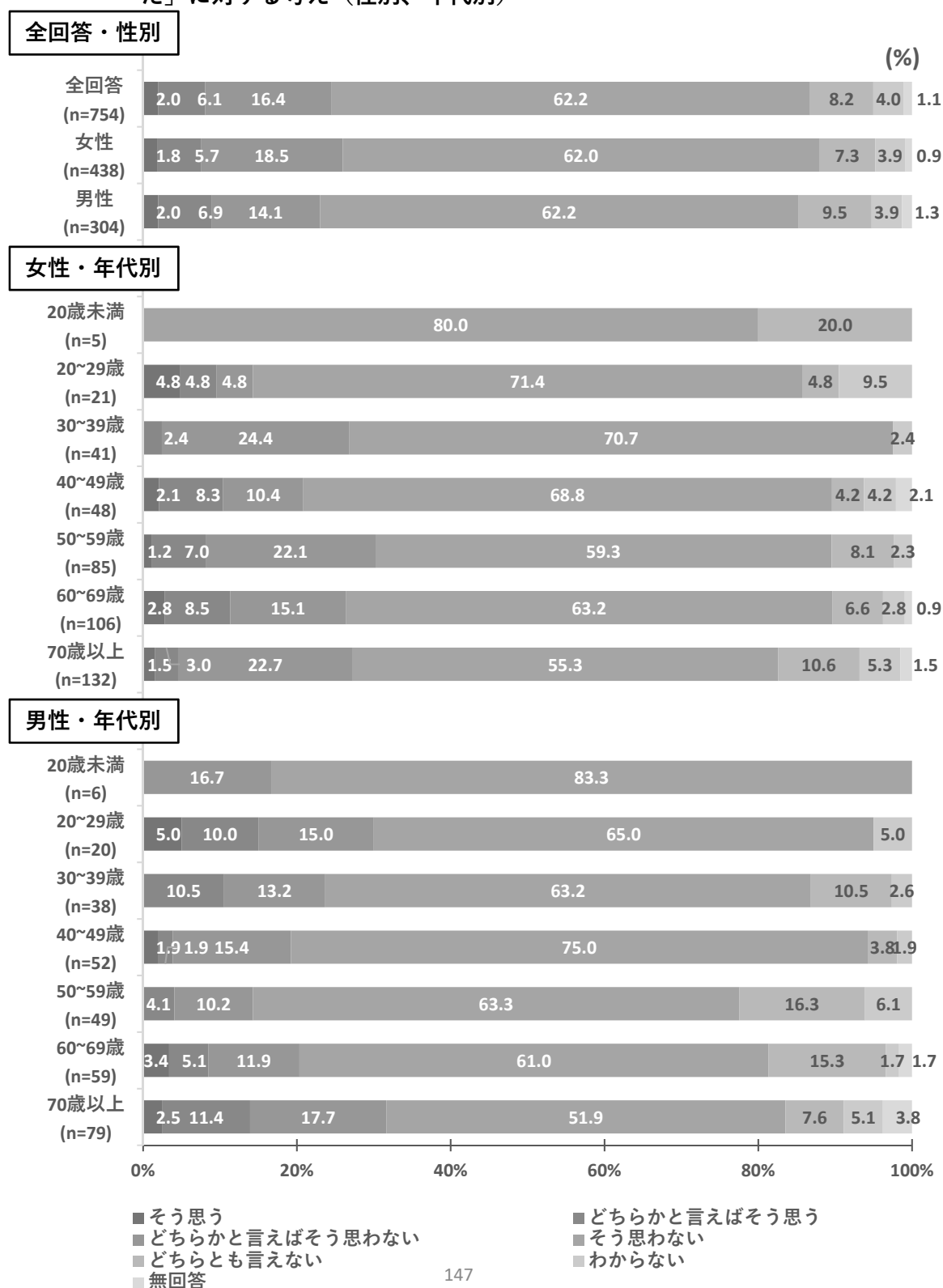
図表3-20-9. 「受付、接客・対応（お茶出し）は女性の仕事だ」に対する考え（性別、年代別）



6-3-10. 「同程度の実力なら、まず男性から昇進させたり、管理職に登用するものだ」に対する考え（性別、年代別）

非同意合計が最大の項目となった。年代別にみると、女性では非同意合計が同意合計を70ポイント前後上回っていたが、30歳代（同意合計2.4%、非同意合計95.1%）では92.7ポイントと、特に開きがあった。また、男性では40歳代（同意合計3.8%、非同意合計90.4%）で同様に、他の世代よりも20ポイント以上の開きで非同意合計が同意合計を上回った。

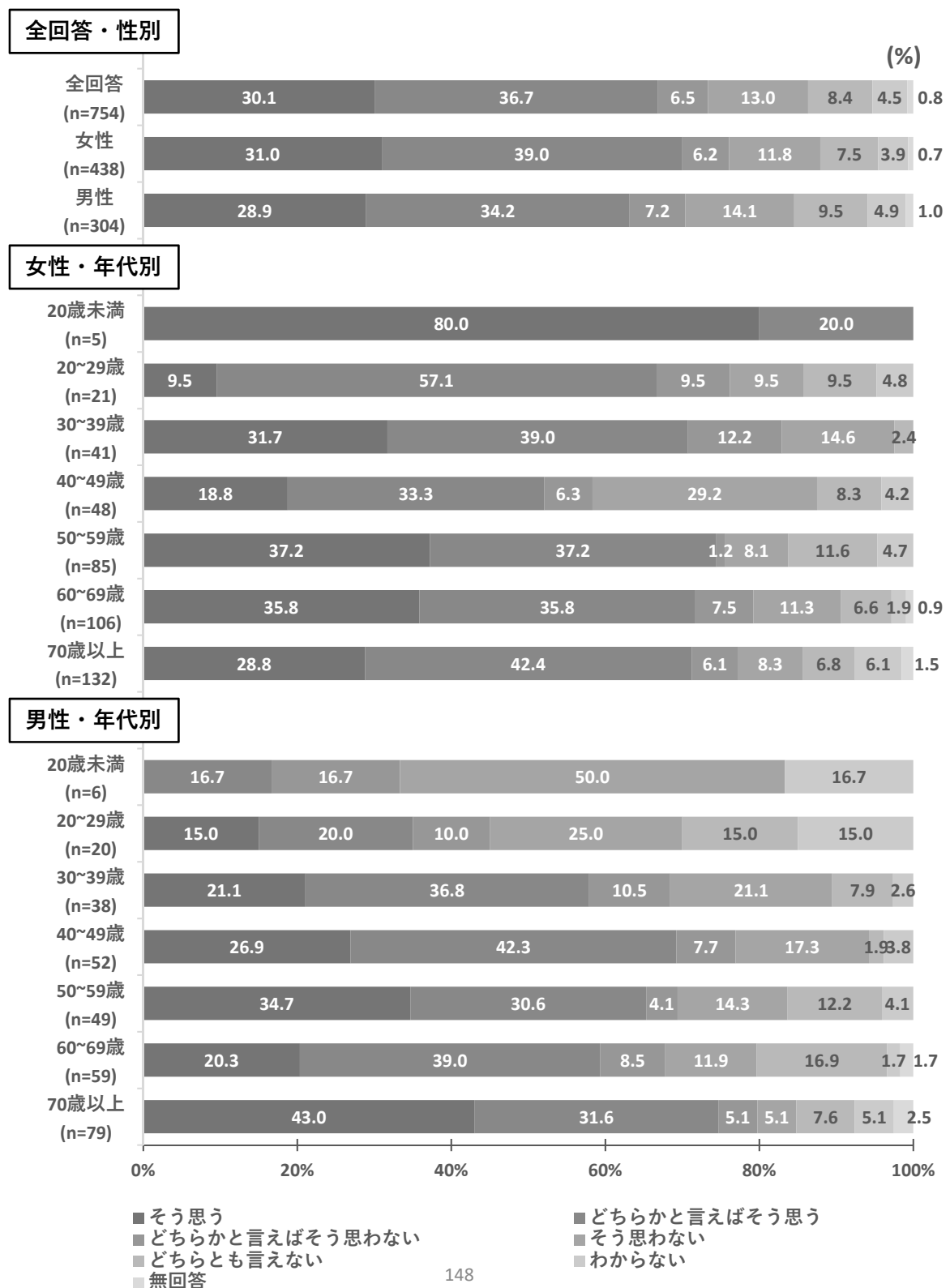
図表3-20-10. 「同程度の実力なら、まず男性から昇進させたり、管理職に登用するものだ」に対する考え（性別、年代別）



6-3-11. 「女性には女性らしい感性があるものだ」に対する考え（性別、年代別）

同意合計が最大の項目で、女性の同意合計が男性を6.7ポイント上回った（女性69.9%、男性63.2%）。年代別にみると、女性では40歳代が他の世代よりも、同意合計が15ポイント以上低く（52.1%）、非同意合計が10ポイント前後高く（35.4%）、他の世代よりも同意合計と非同意合計の差は小さくなった。男性では同意合計が、70歳以上（74.7%）、40歳代（69.2%）、50歳代（65.3%）の順に高くなり、29歳以下では最も低くなった（30.8%）。

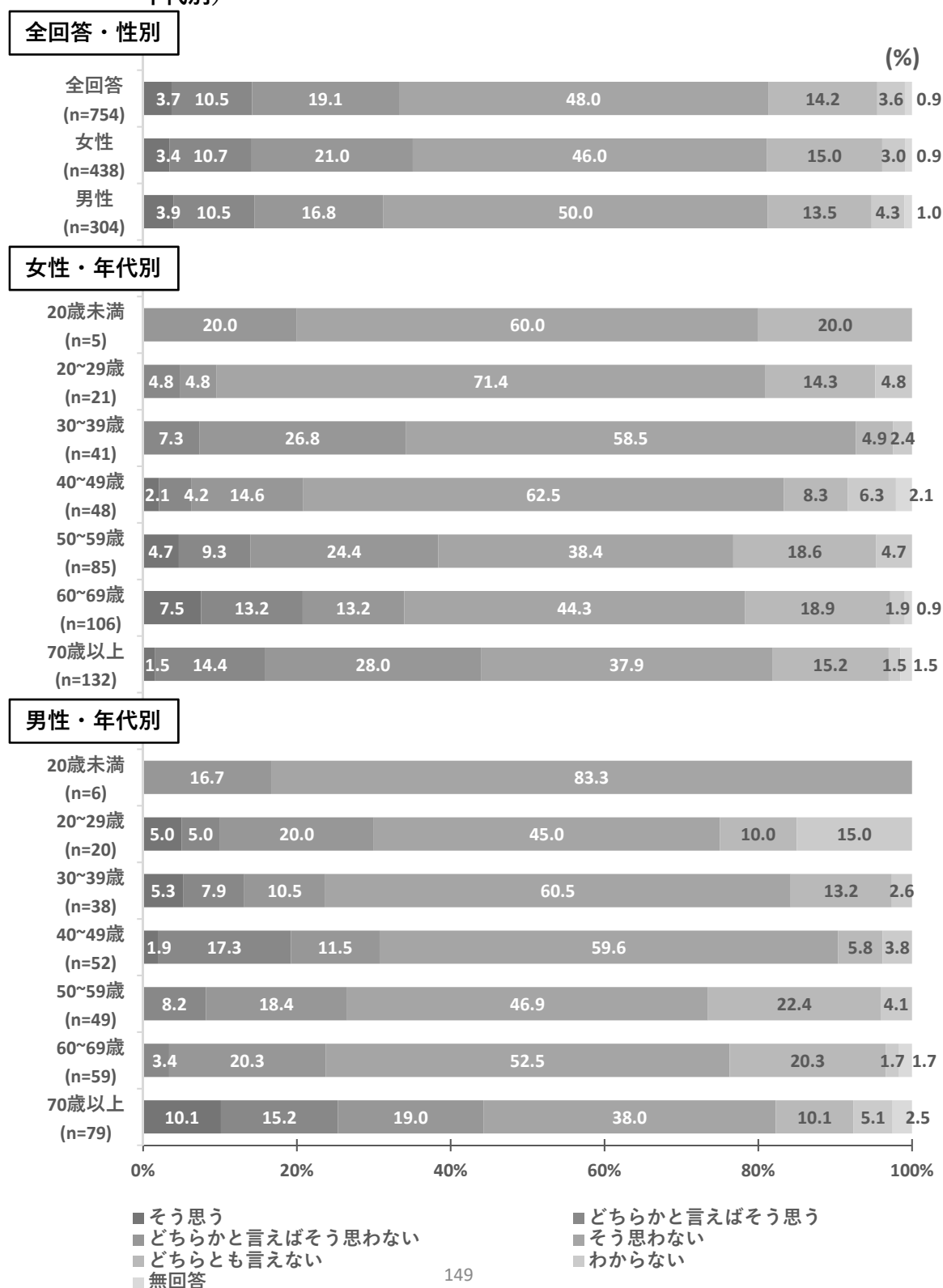
図表3-20-11. 「女性には女性らしい感性があるものだ」に対する考え（性別、年代別）



6-3-11. 「大きな商談や大事な交渉事は男性がやる方が良い」に対する考え（性別、年代別）

年代別にみると、女性では30歳代（同意合計7.3%、非同意合計85.40%）で、男性では60歳代（同意合計3.4%、非同意合計72.9%）で、他の世代よりも非同意合計が大きく上回っていた。他の世代と比べ、30歳代の女性では非同意合計が高いために、60歳代の男性では同意合計が低いために、他の世代よりも大きな開きが出た。

図表3-20-11. 「大きな商談や大事な交渉事は男性がやる方が良い」に対する考え（性別、年代別）

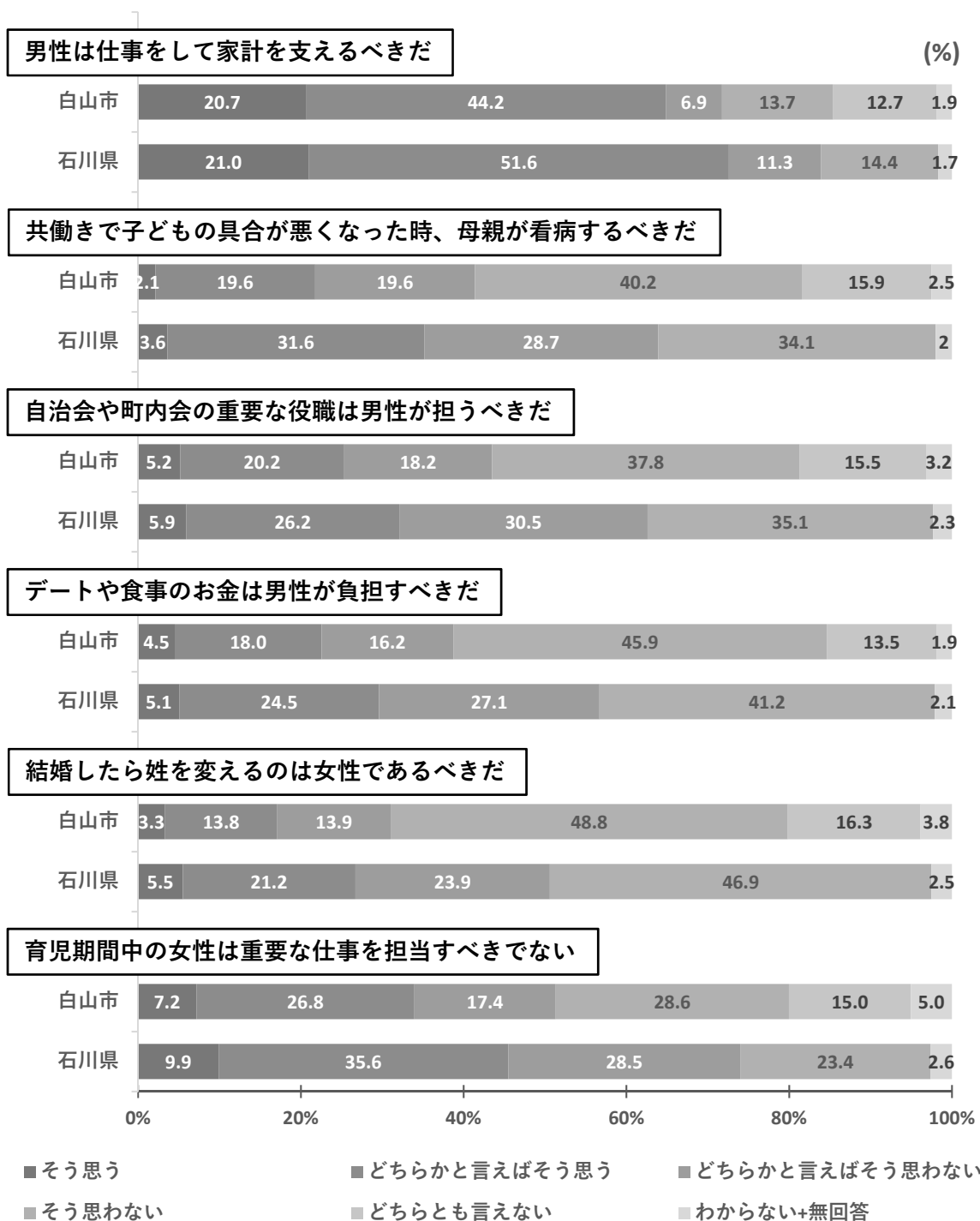


6-4. 性別による無意識の思い込みに関する比較（石川県との比較）

石川県による調査の結果と比較した。比較には、令和6年度「男女共同参画に関する県民意識調査」の調査結果を使用した。項目は同一となるが、選択肢については、本調査で設定していた『どちらとも言えない』および『わからない』が石川県の調査では存在しないため、単純に比較はできない点に留意が必要である。なお、図表中には『わからない』と『無回答』を合計して表記している。

全体として、県の回答より非同意合計や同意合計の選択率が高かった項目は無かった。『どちらとも言えない』や『わからない』の選択肢に回答が流れたためと考えられる。

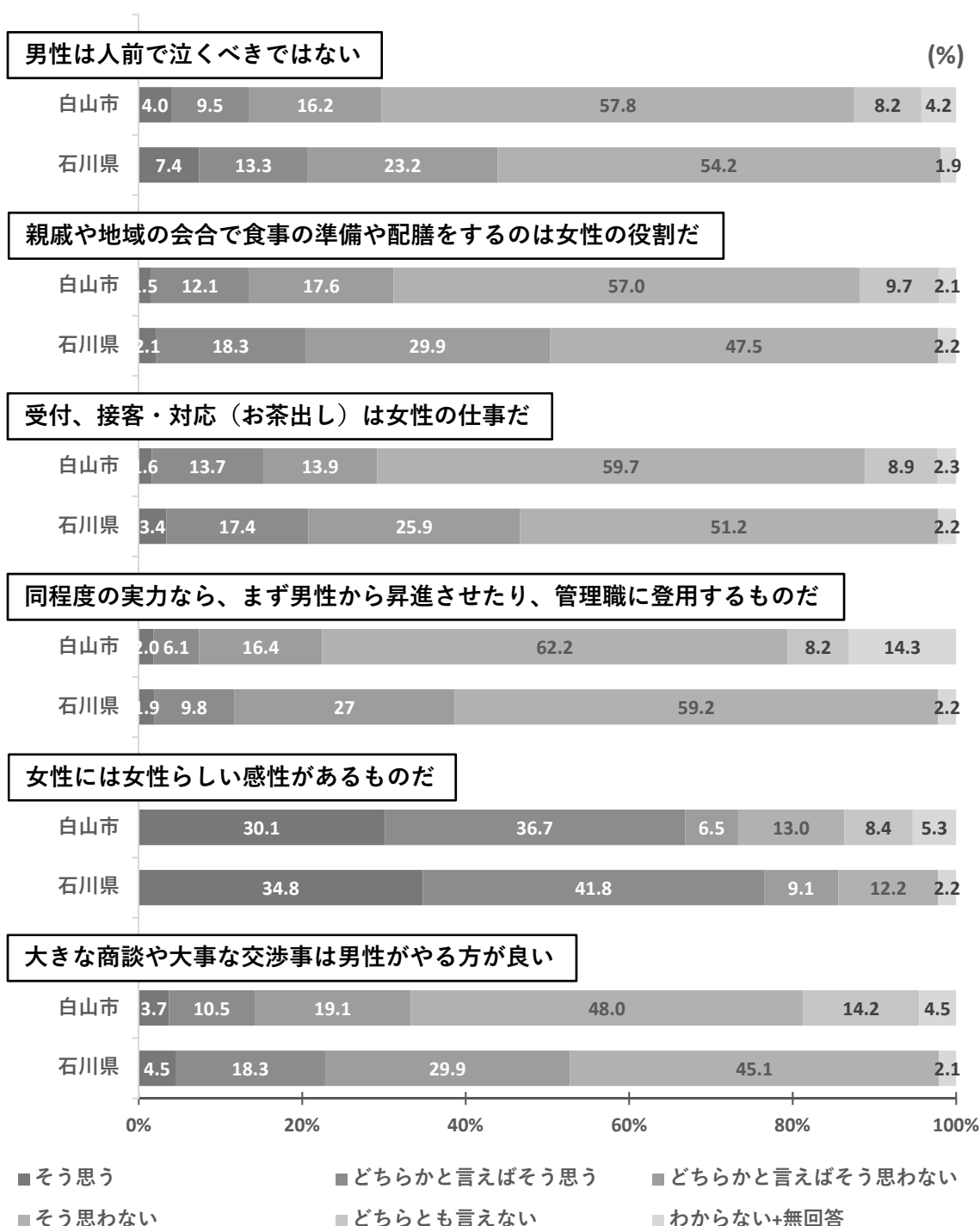
図表3-20-11-1. 性別による無意識の思い込みに関する比較（石川県との比較）①



※白山市（n=754）、石川県（n=1,102）

一方で、県の回答より『どちらかと言えばそう思う』、『どちらかと言えばそう思わない』それぞれの選択肢の選択率が減っているものの、『そう思う』『そう思わない』の選択率については、県の回答より高い項目もある。特に、非同意合計が同意合計を上回る項目すべてについて、『そう思わない』の選択率が県の調査よりも高くなっている。そのうち、「親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ」で9.5ポイント、「受付、接客・対応（お茶出し）は女性の仕事だ」で8.5ポイント、「共働きで子どもの具合が悪くなった時、母親が看病するべきだ」で6.1ポイントなど、県の回答より顕著に高い選択率となった項目も存在する。そのため、県の調査と比較して、思い込みに対する考えが弱い、とは一概には言い切れない。

図表3-20-11-2. 性別による無意識の思い込みに関する比較（石川県との比較）②



※白石市（n=754）、石川県（n=1,102）

6-5. 男女共同参画社会の実現に向けて行政に望むこと

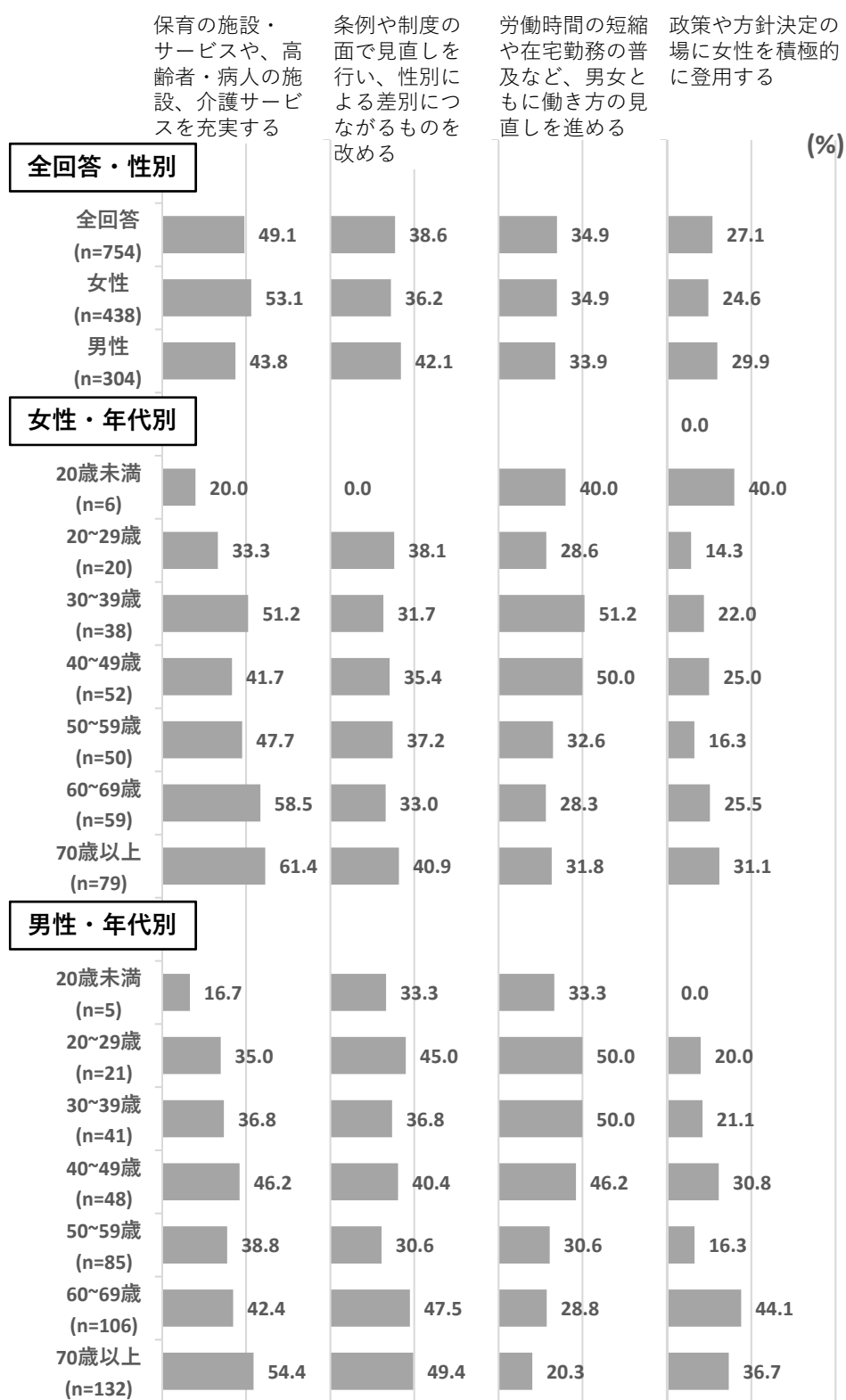
問21 男女共同参画社会の実現のために、行政に対して望むことはどのようなことですか。
(あてはまる番号3つまでに○をつける)

回答全体を見ると、選択率の高い順に『保育の施設・サービスや、高齢者・病人の施設、介護サービスを充実する（49.1%）』、『条例や制度の面で見直しを行い、性別による差別につながるものを改める（38.6%）』、『労働時間の短縮や在宅勤務の普及など、男女ともに働き方の見直しを進める（30.2%）』となった。一方で、低い順には『DV や性暴力等の被害者支援を進める（1.3%）』、『男女の平等と相互理解について広報・PRする（8.4%）』、『女性の社会的・経済的な自立をめざす講座などを実施する（8.5%）』となった。

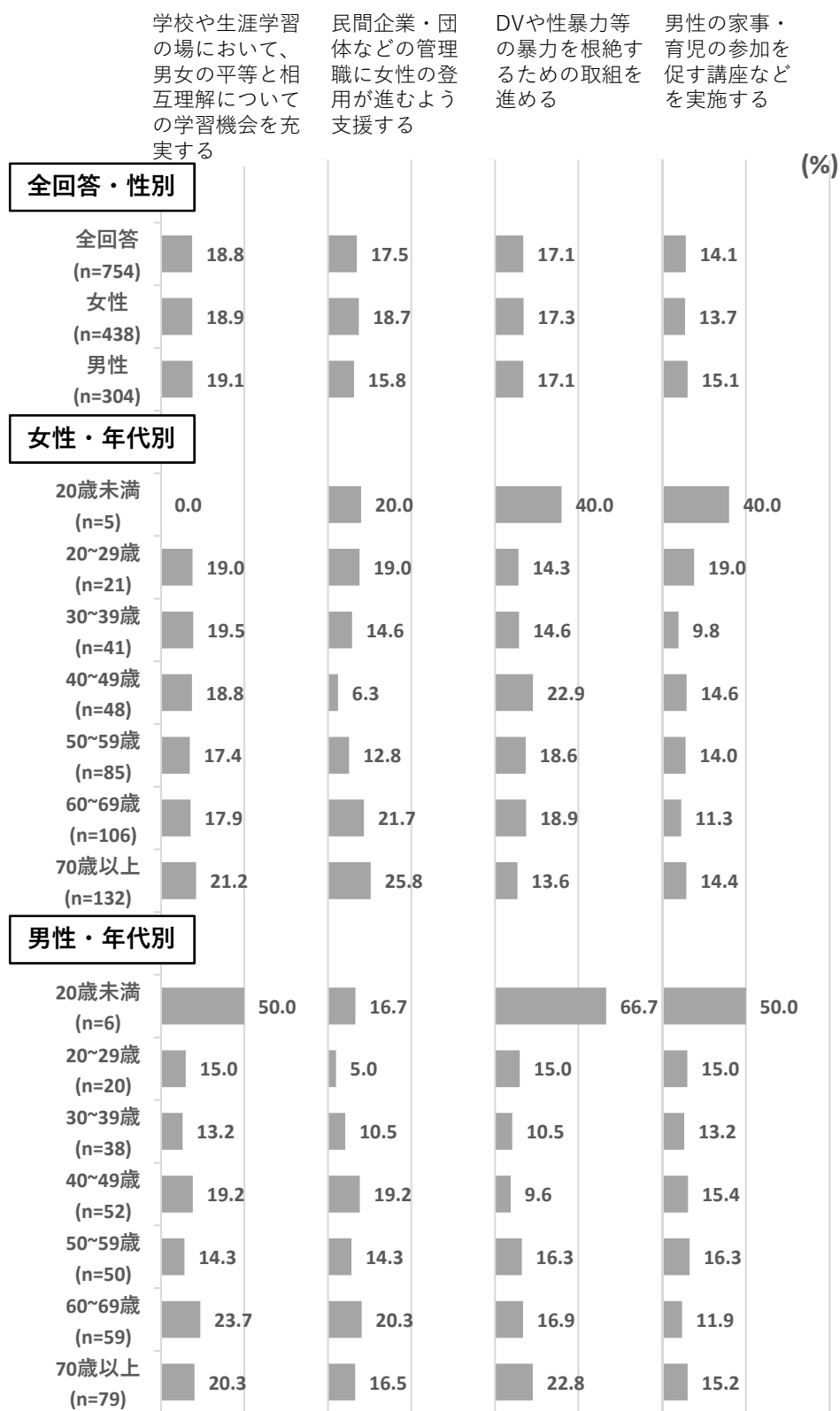
回答を性別で見ると、『保育の施設・サービスや、高齢者・病人の施設、介護サービスを充実する』では、女性の選択率が男性よりも9.3ポイント高かった（女性53.1%、男性43.8%）。また、『政策や方針決定の場に女性を積極的に登用する』では、男性が女性より5.3ポイント高かった（女性24.6%、男性29.9%）。

年代別でみると、『労働時間の短縮や在宅勤務の普及など、男女ともに働き方の見直しを進める』では、男女ともに若い世代の選択率が高くなった。女性では、30～40歳代の選択率が、50歳以上の世代よりも15ポイント以上高く、男性でも40歳代以下の世代の選択率が、50歳代以上の世代の選択率よりも15ポイント高くなった。

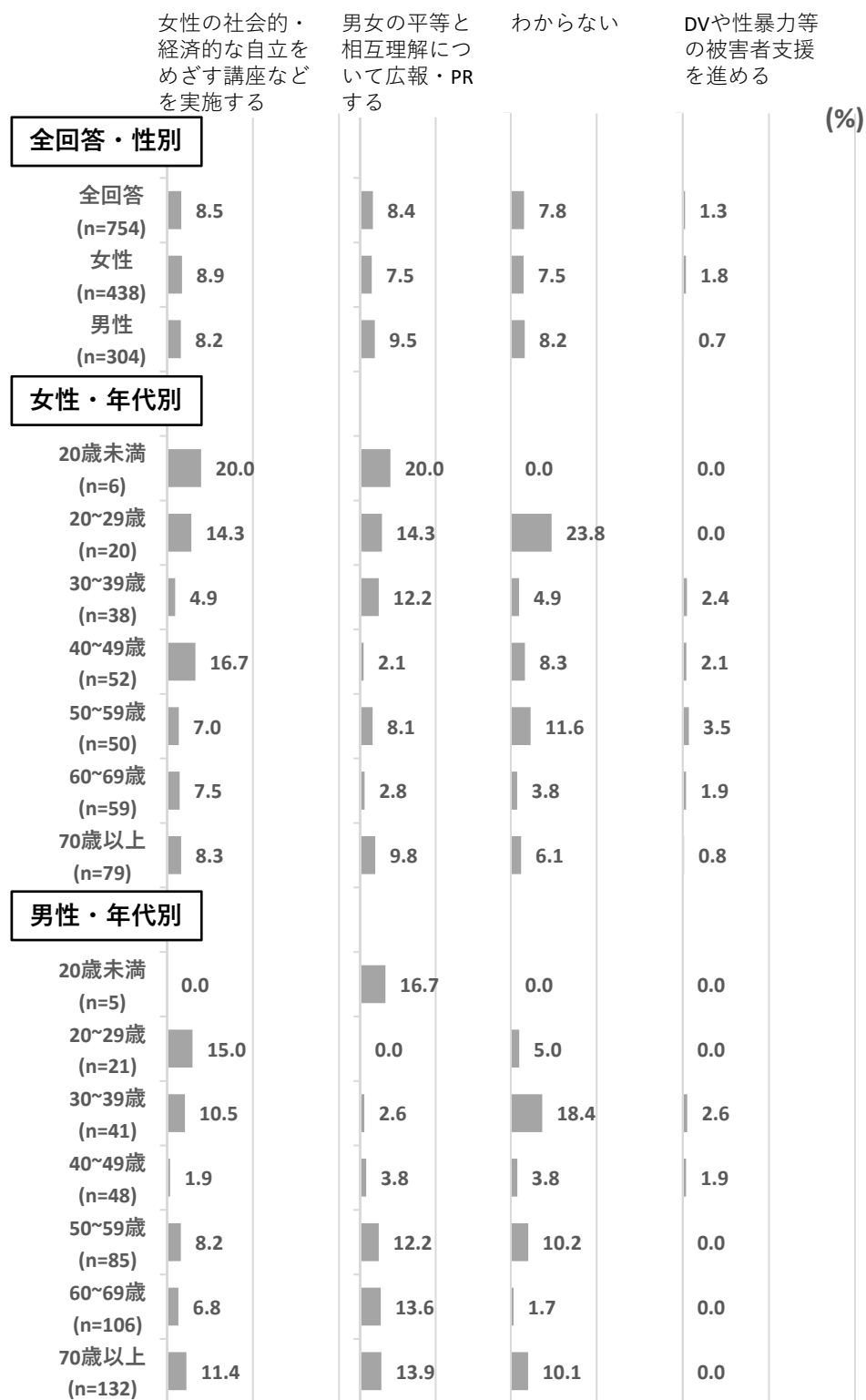
図表3-21-1-1. 男女共同参画社会の実現に向けて行政に望むこと（性別、年代別）①



図表3-21-1-2. 男女共同参画社会の実現に向けて行政に望むこと（性別、年代別）②



図表3-21-1-3. 男女共同参画社会の実現に向けて行政に望むこと（性別、年代別）③



6-6. 自由意見

〇ご意見欄 その他ご意見がありましたらお聞かせください。

6-6-1. 男女平等に関する意識

女性	70歳以上	少しずつ男女平等に近づければいい。人間の長い歴史の中で男のいい所、女のいい所もあるので仲良くしていくことだ。
女性	70歳以上	被害者の残酷なニュースを見るたびに、何故未然に防げなかったのかと、いつも疑問に思う。また最近学校の先生による盗撮事件も「何故?」と思う。モラルの低さに心が痛む。
女性	60~69歳	今回のアンケートで何が見えてくるのか。あまり費用対効果がない設問ばかりのようだ。回答する選択肢も今ひとつピン트가ずれているもののように感じた。現在60代の自分は男女共同のちょうど過渡期にしているように感じている。子どもたちは父母関係なく家事育児に励んでいる姿を微笑ましく見ている。
女性	60~69歳	男性だから、女性だからというのではなく、みんなが力を出し合って、家庭においても社会においても協力してみんなが働きやすい社会になってくれることを願う。
女性	70歳以上	男性の生ゴミ出し、学校の父親参観も普通の事になってきた。少しずつ男女の立場が変化していると思う。
女性	70歳以上	本来はこうあるべきだと思うことと、現状ではこうするしか仕方がないと思うことの間で答えに少し迷った。社会や家庭内が男女平等という目標からあまりにも離れていると思うからだ。
女性	60~69歳	性教育を小学生に教えるなんて言語道断だ。(LGBT)シェンダー。普通の人が生き辛くする政策はおかしい。日本は、昔から差別なんてない国で、欧米を真似る必要などなかった。男は男、女は女。それぞれ役割があり、区別であり、差別ではない。
女性	70歳以上	男女平等とはいえ昭和の考え方(町内)がまだまだ男性が優先であると思う。
男性	70歳以上	女性が自立できる、男性に依存しない生き方を選択できる社会でありたい。
男性	70歳以上	政治で出来る事、社会通念上男女平等(参画)社会は、大変むずかしい。人間一人一人が固定観念を持たない事、やはりこれは幼少の頃から、家庭教育→社会生活環境であろう。重要な点は、義務教育における男女平等社会教育で、これをいかにどういう風に教えるか?
女性	30~39歳	男だから女だからというのではなく、一人ひとりが自分の意志を尊重できるようになると良いと思う。
男性	60~69歳	女性、男性との決めつけからの心理の良さ悪さ。人権尊重を大切にすること。
女性	50~59歳	性別にとらわれず、互いを思いやって尊重すれば問題はおこらないと思う。どちらも、思いやりにかけているから、問題が起こるのだろう。
女性	60~69歳	世の中が良い方に向かってきていると思う。少しずつでも前進して皆が安全に幸せに暮らせる世の中になっていくとよい。
女性	50~59歳	男性だから、女性だからということに縛られたくない。縛るようなこともしたくないと思っている。現実には、まだまだ難しい。人間としての役割はそれぞれあると思う。
女性	50~59歳	男女という言葉ではなく、人間というひとつの見方をする。女性には女性にしか、男性には男性にしかできないこともあるので、すべてを平等にするのは難しい。法律で罰したりするよりも、お互いがお互いを尊重し違いを理解し受け入れ合えるコミュニケーションの学びをもっと取り入れたらよいと思う。

6-6-2. 家庭生活、育児、介護、地域活動など

女性	40~49歳	子供が産まれたら、共働きより、どちらかが専業で家事育児ができると良いと思う。私は子供が小さいときは働きたくなかったのも、自分で子育てができて良かった。
女性	20~29歳	育児・出産の補助を増やしてほしい。
男性	40~49歳	DVは女性が加害者のケースもある。
女性	70歳以上	私自身の子育て中も、まったく協力がなく、人として当たり前の事を認めず、プライドばかりが高い日本の男性の子供っぽさに失望した。しかし、親としての責任を考えた時、子供が自立するまで離婚をしないで来た。好きだった責任ある職場を捨てて生きて来た事は、私に後悔とむなしさしか残らなかった。ここ白山市も、まだまだ色濃く男性社会を感じる。一人暮らしが増える一方、男性も女性も協力して働ける場所、女性だから続かない。”だから駄目だ”ではなく、そこを改善し予算を組み、女性の感性を生かせる職場はいっぱいあると感じている。世間体や外見で決める社会ではなく、日本人として助け合う白山市になってほしいと思う。
女性	70歳以上	結婚し妊娠した時、男性も自治体発信の勉強会に参加の義務づけをお願いしたい。『命』の根本『生きる』とこの原点は夫婦で、ここから始まると感じている。『命の誕生』からそれを育てる現実的な行動と使命感→家族の大切さ、夫婦の協力の始まりだと思う。自治体と市民がハード面、ソフト面での協力を期待する。
男性	70歳以上	女性はどうしても子供の世話ができる。男ではできないことが多い。
女性	60~69歳	DVは近年女性から受ける男性が多い事を社会は知る必要がある。経済DVも暴力的な女性が増えている事や、近年の男女の平等あるいは女性が弱いという立場を利用したDVがある事を知る必要がある。
男性	50~59歳	嫁に行くと家事や育児について、いまだに男にそのようなことをさせてなど言う親がいる。高齢者やそういう考えの人に、今の時代、共働きが普通なので、男女平等なのだと理解してもらいたい。男の人も積極的に家事や育児に参加する、自分が女性と同じように家事や育児ができるかやってみて女性がどれだけ大変かを身を持って感じてもらいたい。思いやりが大事だ。
男性	30~39歳	母親として一番幸せなのはお腹を痛めて産んだ我が子が手を離れるまで（小学校卒業）は収入や復帰後の立ち位置を心配することなく育児に専念できることで、その後しっかり復帰できる社会環境が一番理想だ。

6-6-3. 仕事など

男性	30~39歳	女性が活躍できる社会、とても望ましいことだと思う。能力がある人はどんどん性別に関係なく活躍していただきたい。しかし、それを推進することで、社会や個人への負担が増したり、女尊男卑になることはあってはいけないと思う。女性だから優遇されている、女性には優しく。男は優遇されている、男は家庭を守れ。性別の違いに与えられていた日本人という生物の生き方を、個の能力に置き換える事、男から女性への、女性から男性への考え方、生まれもった身体的特長、いろいろな視点や考え方があると思うが、互いを尊重できるよい白山市になってほしい。
男性	50~59歳	職場における男女平等は能力が男女とも同等であることを前提に進めるべき。女性を登用することだけが一人歩きしてしまうことはとても危険だと思う。
男性	50~59歳	業種によって平等にならないものも多くあると思う。ニーズの段階で平等性がなくなっていることも多いのでは。

女性	50~59歳	男女の差別もそうだが、社会（会社も）が年や見た目で差別的な事があるので、なくしてほしい。賃金もそうだと思う。
女性	20~29歳	保育施設の充実よりもまず、仕事の時間を減らして子供と過ごせる時間が男女両方に必要だと思う。働きすぎないと稼げない、生活できない世の中がおいしい。
女性	50~59歳	男女問わず管理職や上に立つ人は人間性のある人が良い。もっと男女問わず上司になってからも評価してほしい。
女性	50~59歳	男性の見方と女性の見方は異なる。女性を男性と同じように働かせるのではなく、両性の特徴を上手にかみ合わせる事を考えても良いのではないかな？
女性	50~59歳	子育て、介護をして、現在パートで働いています。日々自分の存在価値の低さに落ち込んでいる。なぜ正社員ではないのだろう、そんなに価値のない人間なのだろうかと。頑張ってきたのにと思う。
男性	60~69歳	アンケート内容からすると、サラリーマン（会社員、公務員）を対象としている様に思われるが、自営業や一次産業の方々にとっては、以前から男女（夫婦）共同で働いていた訳で、男女共同参画社会そのものが、都会的な一方的な価値感の押し付けに思う。
女性	30~39歳	妊娠により退職し、出産後に企業からは保育園に預けないと雇用できないと言われるのに、就業していないから保育園に入れる優先順位が低くなる制度を早急に変えてほしい。この制度では出産後に仕事に復帰できないことは誰でもわかるのになぜ変わらないのか疑問。
男性	30~39歳	男性育休について。育休は取るのは子供にとって必要だが、夫婦で2人とも同時には必要ないのではないかな？どこも人手不足が深刻で、現場が回らない。補填のため募集しても中々みつからず。男性育休を勧めるのはよいが、周囲の負担感が大きい。幼児時期の子供の受診などで、育休として男性が休みを取れるような制度が良いのではないかと考える。
女性	30~39歳	男女ともにフルタイムで働けるように子育てをサポートするべきだと思う。幼児だけでなく、小学中学までは時間を確保できるようお願いしたい。
女性	50~59歳	今の時代は職場で怒鳴りつけたりするのは減ったが、性格が悪くて毎日顔を見たくない人は必ずいるので、その辺を上司が注意して治させないといけないと思う。言い返せる強い人なら良いが、おとなしく優しい人は言いなりになり、仕事はしたいが顔を見たくない人がいるというのが問題だと思う。みんなで一生懸命仕事をする以前に難しいのは人間関係だ。その辺を踏まえての男女の上手い配置をすれば良いこともあると思う。
男性	30~39歳	共働きが普通になった現在でもまだまだ”男性は働き、妻は家事育児をする”という考えは根強い。夫婦で平等に与えられる有給休暇も、保育園や学校から電話が来るのは母親の方だ。夫婦間で話し合い、子供の体調不良時に平等に休むと、夫の職場では”普通は”母親が休むでしょと言われるそうだ。これはその職場の特別ではない。私の職場では「旦那さん優しいね、素敵だね」と、女では”普通”な事も男なら”素敵”となり平等ではない。意識の改革はなかなか難しいが、変えていきたい。
女性	40~49歳	理想としては女性も発言権や決定権を持てる社会が良いとは思うものの、私はパートとして働いており、家の収入はほとんど夫が稼いでいるという現状だ。私は子育てとパートだけで手一杯で、今以上の社会的な活動は難しいように感じている。もしもう少し生活に余裕ができて、社会のためより、まずは自分のパートを増やして子どもの学費を貯金するだろう。自分でも矛盾していると思う。自分以外の女性に、社会のために発言や決定をして欲しいと言っているようなものだ。ただおそらく皆私と似た状況で、自分と自分の家族のことで手一杯だと思われる。そのような中でも何か役員になっていただける女性がいてほしい、とてもありがたい。

6-6-4. 男女共同参画社会実現に向けての取り組みなど

女性	40~49歳	白山市が男女共同参画について積極的に取り組んでいるイメージがなかったので、このようなアンケートがあることが意外でした。よりPRしていただきたいです。
男性	70歳以上	政治家(国会議員、知事、市長村長、議員)の古い意識を改革しなければ前進しないと思う。選択性夫婦別性の議論も前進しない現状から見ても政治家の意識改革が必要ではないか。
女性	70歳以上	実力のある女性、男性が共に社会に貢献できる社会のしくみを作る。
女性	30~39歳	保育現場で働いているので女性率98%の職場である。現場から言わせると、社会のニーズに合わせて保育の制度(利用時間、内容、サービス)を変えるのではなく、保育園の延長保育時間を制限することで、遅くまで預けられない → 残業できない → 会社(社会)の働き方を考え直す → 大きくは日本全体の働きすぎ、問題改善につなげていくべきだと思う。男女共同参画社会が進むことで、その辺りの意見も深まるのでは?遠い未来のことだろうが……。現場は感じている。これ以上保育者を過労働かせないで!
女性	50~59歳	男女共同参画社会の実現の前に、子供たちが安心してお母さんとゆっくり過ごせるように、お母さんの温かさを感じて幸せを感じられるような社会にしてほしい。私の周りでは、バリバリ仕事をしたいという人が少ない。子どもが小さい時は、家で子どもとゆっくり過ごしたいと思っている人が大半だが旦那さんの給料だけでは少ないから、仕方なく家事と子育てと仕事を両立している。お母さんが働かなくても経済的に困らない制度をつくってほしいです。
女性	60~69歳	医療や介護、保育など社会福祉の制度を利用しやすく整備して、それらについての負担が女性に片寄らない。押しつけられない社会にしていく必要があると思う。男性が既得権益を手離しても生きやすくなるようなしくみ作り(働き方その他の改革)や意識の変革を促すことができれば、平等や自由や人権を守っていける社会になるのかと思う。そういうしくみ作りを行政が進めることを期待する。
男性	60~69歳	首相に女性が選出されたように、女性のさらなる社会進出を期待する。
女性	60~69歳	市民意識調査の結果について、施策方針の参考とするだけでなく市の広報にて、何らかの形で報告していただきたい。
女性	70歳以上	婚姻における夫婦別姓を早く成立させてほしい。
女性	70歳以上	教育現場での男女共同参画、ジェンダー平等などの教育が欠かせないと思う。人権の尊重、人間の尊厳が基本にあるという立場で。
男性	60~69歳	トチソーカ等のポイント制度を活用しての物価高支援、育休時の収入面の支援。
男性	70歳以上	男女共同参画への予算をもっと増やしても良いのではないかな。
女性	70歳以上	如何なる事案にも優しい行政を望む。
男性	20歳未満	なにか過去の経験でDVや傷つけられた場合の相談所をもっと広めて欲しい
女性	30~39歳	女性が活躍する社会になってほしい思いはあるが、女性参画、女性起用を意識しすぎるあまり、女性にとって負担にならないような配慮も必要かと思う。
男性	60~69歳	まだまだ男尊女卑の風習がどこに残っているような気がする。特に高齢者世代の方々。高齢者にも男女参画等のイベントなんかをわかりやすく、そして参加しやすい啓発を望む。
女性	60~69歳	郡部にはまだ男尊女卑的な文化が残っているところがある。地域と行政が一緒になって取り組まないと進歩は無い!
女性	50~59歳	今まで人それぞれ曖昧だったことに対して指針を決めるのは大変だと思うが、より良い未来になることを期待する。
男性	50~59歳	個々人が「男性が」とか「女性が」とか性別を意識した考えをどうしたら持たなくなるか、長期的な取り組みが必要だ。このような調査が必要なくなる世の中になってほしい。

女性	50~59歳	実際相談したくても、時間的に経済的に出来ない人もおられるのでは？また、本人は解っていないだけで、傍からみたら「あれ？」と思う人もいるのでは？そういう人たちを誰かが気付いてあげられるような社会になって欲しい。
男性	60~69歳	何回かこの調査回答をしてきて、自分の年齢も立場も働き方も変わってきて、世の中も少しずつ変わっていくので、対応が進んでいるもの、変わらないものなどを感じる。これからも地道に制度改正や意識改革が進んでいってほしいと思う。
女性	40~49歳	行政が表面的に、数値的に女性役員の起用を増やすことが国際的にも大切だ。しかし「女性の為」が先行し過ぎて、行政が本来の順序で社会を育成していない為、理想と現実に差異が生じる。「事実を解析しない、理由なき目標は鈍足であり、完遂は不可能」という認識のもと、行政は表面的な名称や数字の操作をやめ、社会の構造的なひずみを解明し、本質から正していくべきである。

資料 本調査の調査票

男女共同参画に関する市民意識調査

《調査票》

日ごろから市政の発展にご協力いただきありがとうございます。このたび、市内にお住いの方を対象に、男女共同参画に関するアンケート調査を実施することとなりました。

この調査は、これまでの施策の現状を調査するとともに、今後の施策方針の参考とさせていただくため、市民の皆様のご意見をお聞きするものです。

ご理解・ご協力をいただきますようお願いいたします。

ご回答にあたって

- この調査は、無作為抽出により 18 歳以上の市民 2,000 人を対象に実施しています。
- この調査は個人を対象にしていますので、お送りした封書に書かれているあて名の方がご回答ください。
- この調査は無記名でお願いします。また、この調査票に記入された内容は、統計的に処理され、他の目的に利用することはありません。
- ご回答は、次のいずれかの 1 つの方法でお願いいたします。

回答方法 1：本調査票へのご記入による回答

回答を本調査票に直接ご記入いただき、同封の返信用封筒（切手不要）に入れて、令和 7 年 11 月 6 日（木）までに、ご投函をお願いします。

回答方法 2：「白山市電子申請システム」による回答

以下にアクセスいただき、令和 7 年 11 月 6 日（木）までに WEB 上で入力をお願いします。

【回答手順】

- ①右記二次元コードもしくは下記アドレスからアクセスして回答を始めてください。
- ②回答入力後、「送信」をクリック

回答 URL： <https://forms.gle/yybD8jUEQf2dz9Vk7>



【問い合わせ先】

白山市市民生活部男女共同・人権推進室（白山市倉光二丁目 1 番地）

電話 076-274-9577 メール danjyo@city.hakusan.lg.jp

回答の方法

あてはまる項目の番号に
○をつけてください。

○正しい回答方法

1	20 歳未満	2	20～29 歳	3	30～39 歳
5	50～59 歳	6	60～69 歳	7	70 歳

×間違った回答方法

1	20 歳未満	2	20～29 歳	3	30～39 歳
5	50～59 歳	6	60～69 歳	7	70 歳

回答者の属性に関する質問

A あなたの性別は。（あてはまる番号に 1 つだけ○をつける）

1	女性	2	男性	3	どちらとも言えない・答えたくない
---	----	---	----	---	------------------

B あなたの年齢は。（あてはまる番号に 1 つだけ○をつける）

1	20 歳未満	2	20～29 歳	3	30～39 歳	4	40～49 歳
5	50～59 歳	6	60～69 歳	7	70 歳以上		

C あなたは結婚（法律婚）をしていますか。（あてはまる番号に 1 つだけ○をつける）

1	結婚している	2	死別
3	結婚していないがパートナーと暮らしている	4	未婚（選択肢 2 の場合をのぞく）
5	離別		

D C で「1.結婚している」または「3.結婚していないがパートナーと暮らしている」を選択した方にお聞きます。あなたは共働き（収入を得る仕事を共にしている状態）ですか。

（あてはまる番号に 1 つだけ○をつける）

1	共働きである	2	共働きではない
---	--------	---	---------

E あなたには、お子さんがいらっしゃいますか。（あてはまる番号に 1 つだけ○をつける）

1	いる	2	いない
---	----	---	-----

F あなたの家族構成は次のどれですか。（あてはまる番号に 1 つだけ○をつける）

1	単身世帯（ひとり暮らし）	2	一世代世帯（夫婦のみ）
3	二世帯世帯（親と子）	4	三世帯世帯（親と子と孫）
5	その他世帯（ ）		

I 男女の平等について

問1 現在の日本の社会において、次にあげる分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。
(各分野についてあてはまる番号に1つずつ○をつける)

	優遇されている 男性が	どちらかと 言えば男性が 優遇されている	平等である	どちらかと 言えば女性が 優遇されている	優遇されている 女性が	どちらとも 言えない	わからない
家庭の中では	1	2	3	4	5	6	7
職場の中では	1	2	3	4	5	6	7
地域活動の中では	1	2	3	4	5	6	7
学校教育の場では	1	2	3	4	5	6	7
政治の場では	1	2	3	4	5	6	7
法律や制度の上では	1	2	3	4	5	6	7
社会通念・地域の慣習・ しきたりの上では	1	2	3	4	5	6	7

II 家庭生活等について

問2 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、どう思いますか。
(あてはまる番号に1つだけ○をつける)

1	賛成	2	やや賛成	3	どちらとも言えない
4	あまり賛成しない	5	賛成しない	6	わからない

- 「1.賛成」「2.やや賛成」と答えた方は、➡問2-1へ
- 「4.あまり賛成しない」「5.賛成しない」と答えた方は、➡問2-2へ
- 「3.どちらとも言えない」「6.わからない」と答えた方は、➡問3へ

問2-1 問2で「1.賛成」「2.やや賛成」と答えた方にお聞きます。 そう思うのはなぜですか。
(あてはまる番号すべてに○をつける)

1	日本の伝統的な家族の在り方だから	2	家事・育児・介護と両立しながら、女性（妻）が働き続けることは大変だから
3	自分の両親も役割分担をしていたから	4	女性（妻）が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いから
5	男性（夫）が働いた方が、多くの収入を得られるから	6	その他（ ）
7	わからない		

問 2 - 2 問 2 で「4.あまり賛成しない」「5.賛成しない」と答えた方にお聞きます。そう思うのはなぜですか。
(あてはまる番号すべてに○をつける)

1	男女平等に反するから	2	男性(夫)、その他の家族と協力しながら家事・育児・介護を両立することは可能だから
3	自分の両親も共働きをしていたから	4	固定的な男性(夫)と女性(妻)の役割分担の意識を押しつけるべきではないから
5	男性(夫)も女性(妻)も働いた方が、多くの収入を得られるから	6	女性(妻)が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いから
7	その他 ()	8	わからない

全員の方にお聞きます

問 3 あなたは男性が家事・育児を行うことについて、どのようなイメージをお持ちですか。
(あてはまる番号すべてに○をつける)

1	男性も家事・育児を行うことは当然である	2	妻が家事・育児をしていない
3	家事・育児を行う男性は、時間の使い方が効率的で、仕事もできる	4	周囲から冷たい目で見られる
5	男性自身にとっても充実感が得られる	6	男性は、家事・育児を行うべきではない
7	子どもに良い影響を与える	8	仕事と両立させることは、現実として難しい
9	家事・育児は、男性よりも女性の方が向いている	10	その他 ()
11	特になし	12	わからない

問 4 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。(あてはまる番号すべてに○をつける)

1	男性が家事、育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと
2	男性が家事・育児などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと
3	夫婦や家族間で家事・育児などの分担について、十分に話し合うこと
4	年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること
5	男性が家事・育児などを行うことについて、社会的に高く評価すること
6	育児・介護のための休暇を取得しやすい職場環境が整備されること
7	労働時間の短縮や休暇制度、テレワークなどの I C T (情報通信技術) を利用した多様な働き方を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること
8	男性の家事・育児などについて、啓発や情報提供、相談窓口の設置、技能の研修を行うこと
9	男性が家事・育児などを行うための、仲間 (ネットワーク) づくりをすすめること
10	その他 ()
11	特に必要なことはない
12	わからない

Ⅲ 職業について

問5 あなたは過去1年に仕事（収入を得る仕事）をしていたことがありますか。

1	ある →問6へ	2	ない →問7へ
----------	---------	----------	---------

問6 問5で「1.ある」とお答えした方にお聞きます。あなたの職場では、次にあげるそれぞれの面で男女平等になっていると思いますか。あなたの考えに近いものを選んでください。

（あてはまる番号に1つずつ○をつける）

	優遇されている 男性が	どちらかと 言えば男性が 優遇されている	平等である	どちらかと 言えば女性が 優遇されている	優遇されている 女性が	どちらとも 言えない	わからない
募集や採用の条件では	1	2	3	4	5	6	7
昇進・昇格は	1	2	3	4	5	6	7
人事配置は	1	2	3	4	5	6	7
教育や研修制度は	1	2	3	4	5	6	7
賃金は	1	2	3	4	5	6	7
仕事の内容は	1	2	3	4	5	6	7

全員の方にお聞きます

問7 女性が管理職に昇進することについて、どう思いますか。（あてはまる番号に1つ○をつける）

1	賛成	2	やや賛成	3	どちらとも言えない
4	あまり賛成しない	5	賛成しない	6	その他（ ）

問 8 あなたは、次の役職について就任を引き受けますか。

(それぞれの役職について**あてはまる番号に1つずつ○**をつける)

	自ら望む	依頼されたら受ける	断る	わからない
a.職場の管理職や役員	1	2	3	4
b.自治会長、町内会長	1	2	3	4
c.議員や自治体の首長	1	2	3	4

●「3.断る」と答えた方は、➡問 8-1 へ。

●それ以外の方は、➡問 9 へ。

問 8-1 問 8 のいずれかの役職で「3.断る」と答えた方にお尋ねします。断る理由は何ですか。

(「3.断る」と答えた役職について**あてはまる番号を下記の選択肢から3つまで選択し、回答欄へ記入**)

a.職場の管理職や役員			
b.自治会長、町内会長			
c.議員や自治体の首長			



断る理由

1. 責任が重いから
2. 家事・育児・介護との両立が困難になるから
3. 知識や能力の面で不安があるから
4. 性別によって不利・不当な扱いを受けそうだから
5. 時間的な余裕がないから
6. 興味がないから
7. 経済的な余裕がないから
8. 人間関係がわずらわしいから
9. 家族の理解・協力が得られないから
10. その他 1 ()
11. その他 2 ()
12. その他 3 ()

全員の方にお聞きます

問 9 女性が職業を続けていく上で、どのようなことが必要だと思いますか。
(あてはまる番号を3つまで○をつける)

1	保育・介護サービスの充実（施設の充実、時間の延長など）
2	家事・育児・介護などにおける家庭内の協力
3	再就職のための自己啓発セミナーや技術、技能の習得機会の充実
4	在宅勤務やフレックスタイム制度の導入
5	給与、昇進・昇格の機会で男女間格差の解消
6	育児や介護等による退職者の再雇用制度の普及
7	女性が働き続けることについて家族の理解
8	結婚や出産の際、退職しなければならない慣行の解消
9	中高年の女性に退職を促すような周りの圧力の解消
10	相談、情報提供機関の充実
11	その他（ ）
12	わからない

問 10 男性が仕事と家庭の両立をしていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。
(あてはまる番号を3つまで○をつける)

1	保育・介護サービスの充実（施設の充実、時間の延長など）
2	再就職のための自己啓発セミナーや技術、技能の習得機会の充実
3	在宅勤務やフレックスタイム制度の導入
4	昇進・昇格において、不当な扱いを受けない職場環境
5	育児や介護等による退職者の再雇用制度の普及
6	労働時間の短縮や休暇制度の充実
7	育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場環境づくり
8	男性が家事・育児などを行うことについての職場や周囲の理解と協力
9	相談、情報提供機関の充実
10	その他（ ）
11	わからない

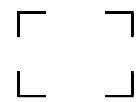
IV 女性の社会進出について

問 11 あなたは、社会の各分野で、女性の参加が進み、女性のリーダーが増えるとどのような影響があると思いますか。（**あてはまる番号すべてに○をつける**）

1	多様な視点が加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される
2	人材・労働力の確保につながり、社会全体に活力を与えることができる
3	女性が持つ意見や発想が反映される
4	男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる
5	男女問わず仕事と家庭が両立しやすい社会になる
6	労働時間の短縮など働き方の見直しが進む
7	男性の家事・育児などへの参加が増える
8	今より仕事以外のことが優先され、業務に支障を来たすことが多くなる
9	男性の役職が減る
10	保育・介護などの公的サービスの必要性が増大し、家計負担や公的負担が増大する
11	国際社会から好評価を得ることができる
12	その他（ ）
13	特にない
14	わからない

問 12 あなたは、自治会やPTAなどの地域活動において、女性が方針決定の場に参加するためには、どのようなことが必要だと思いますか。（**あてはまる番号すべてに○をつける**）

1	地域活動のリーダーは男性が務めるという性別による役割分担意識を改めること
2	女性が地域活動のリーダーを務めることについて、社会的に高く評価すること
3	女性自身の参画意識を高めるため、リーダーを養成する研修を行うこと
4	男女が交代でリーダーを務める、役員の男女比を設定するなど、女性がリーダーとなる仕組みを普及させること
5	さまざまな立場の人が参加しやすいよう活動時間帯を工夫すること
6	その他（ ）
7	特にない
8	わからない



問 13 あなたは、性別に配慮した防災・災害対応・復興対策のためには、どのようなことが必要だと思いますか。

(あてはまる番号を3つまで○をつける)

1	消防団や自主防災組織の女性メンバーを増やす、女性の参画を促進する
2	平常時から性別に配慮した防災訓練を行う
3	災害時に対応できるよう、平常時から自治会・町内会の役員に女性を入れる、増やす
4	災害発生直後から、市町等の女性職員が現場で対応する
5	避難所の設置・運営について、物事を決める際には男女を交えた話し合いをする
6	更衣室やプライバシーの確保など、性別に配慮した避難所運営を行う
7	避難所でのリーダーや炊き出しなどの役割を、性別で固定せずに分担する
8	防災や復興の政策・方針を決める過程に女性が参画する
9	男女共同参画部局と防災部局との連携強化
10	その他 ()
11	特にない
12	わからない

V DV・性暴力について

「DV（ドメスティック・バイオレンス）」とは、配偶者や交際相手など、親密な関係にある者からの暴力のことを言います。また、「性暴力」とは、望まない・同意のない性的な行為のことを言い、性犯罪・性的虐待を含むものです。

DVや性暴力についておたずねします。

問 14 次のようなことが配偶者や交際相手など、親密な関係にある者の間で行われた場合、それを暴力だと思いますか。（各項目について**あてはまる番号に1つずつ○**をつける）

	暴力にあたる	暴力にあたら ない場合 もある	暴力にあたる とは思 わない
なぐるふりをしておどす	1	2	3
大声でどなる	1	2	3
馬鹿にしたり、見下したような言動をする	1	2	3
他の異性や親しい人との会話を許さない	1	2	3
家族や友人との関わりを持たせない	1	2	3
交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する	1	2	3
職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する	1	2	3
何を言っても長期間無視し続ける	1	2	3
「誰のおかげで生活できるんだ」や「甲斐性なし」などと言う	1	2	3
家計に必要な生活費を渡さない	1	2	3
嫌がっているのに、性的な行為を強要する	1	2	3
避妊に協力しない	1	2	3

問 15 あなたは、これまでにあなたの配偶者や交際相手（事実婚や別居中の夫婦、元配偶者、元交際相手を含む）から次のようなことをされたことがありますか。
（各項目について**あてはまる番号に1つずつ○をつける**）

		まったく ない	一、二 度あつた	何 度もあつた
a.身体的暴行	・なぐる、ける ・物を投げつける ・突き飛ばす など	1	2	3
b.心理的攻撃	・人格を否定するような暴言 ・交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視したり、制限したりする、長期間無視するなどの精神的な嫌がらせ ・自分もしくは自分の家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫 など	1	2	3
c.経済的圧迫	・生活費を渡さない ・給料や貯金を勝手に使われる ・外で働くことを妨害される	1	2	3
d.性的強要	・嫌がっているのに性的な行為を強要される ・見たくないポルノ映像等を見せられる ・避妊に協力しない など	1	2	3

- 全てにおいて「1. まったくない」と答えた方は、➡問 16 へ
● 1 つでも「2. 一、二度あった」「3. 何度もあった」と答えた方は、➡問 15-1 へ

問 15-1 問 15 で1つでも「2.一，二度あった」「3.何度もあった」と答えた方にお聞きします。

あなたはこれまでに、あなたの配偶者や交際相手から受けたそのような行為について、どこ（だれ）かに打ち明けたり、相談したりしましたか。（**あてはまる番号すべてに○をつける**）

1	警察	2	法テラス（日本司法支援センター）、弁護士会
3	石川県女性相談支援センター（配偶者暴力相談支援センター）	4	学校関係者（教育、養護教諭、スクールカウンセラーなど）
5	市女性相談・DVホットライン白山	6	職場・アルバイトの関係者（上司、同僚、部下など）
7	市心配ごと相談	8	民間支援団体
9	市のその他の相談窓口	10	家族や親せき
11	保健所、石川県こころの健康センター	12	知人、友人
13	法務局・人権擁護委員	14	医療関係者（医師、看護師など）
15	その他（ ）	16	どこ（だれ）にも相談しなかった ➡問 15-2 へ

問 15-2 問 15-1 で「16.どこ（だれ）にも相談しなかった」と答えた方にお聞きます。どこ（だれ）にも相談しなかったのは、なぜですか。（**あてはまる番号すべてに○をつける**）

1	どこ（だれ）に相談して良いのかわからなかったから	2	仕返しが怖かったから（もっとひどい暴力や、性的な画像のばらまきなど）
3	恥ずかしくてだれにも言えなかったから	4	世間体が悪いと思ったから
5	相談しても無駄だと思ったから	6	他人を巻き込みたくなかったから
7	相談するほどのことではないと思ったから	8	他人に知られると、これまで通りの付き合い（仕事や学校などの人間関係）ができなくなると思ったから
9	相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思ったから	10	自分が受けている行為がDVとは認識していなかったから
11	自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから	12	相手の行為は愛情の表現だと思ったから
13	自分にも悪いところがあると思ったから	14	別れるつもりがなかったから
15	そのことについて思い出したくなかったから	16	その他（ ）

全員の方にお聞きます

問 16 性暴力被害に関するイメージとして、あなたの考えに近いものを選んでください。

（**あてはまる番号に1つつ○をつける**）

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない	どちらとも言えない	わからない
性暴力にあうのは、若い女性である	1	2	3	4	5	6
挑発的な服装や行動が被害をまねている	1	2	3	4	5	6
被害にあうのはたいてい暗い夜道やひと気のない場所である	1	2	3	4	5	6
本気で抵抗すれば被害は防げる	1	2	3	4	5	6
性暴力は衝動的なものである	1	2	3	4	5	6
加害者のほとんどは見ず知らずの人である	1	2	3	4	5	6
性暴力は加害者の性欲がコントロールできずに起こっている	1	2	3	4	5	6

問 17 DV や性暴力を受けたとき、相談できる機関や関係者であなたが既に知っていたものを選んでください。（あてはまる番号すべてに○をつける）

1	警察	2	医療関係者（医師、看護師など）
3	石川県女性相談支援センター（配偶者暴力相談支援センター）	4	法テラス（日本司法支援センター）、弁護士会
5	市女性相談・DVホットライン白山	6	学校関係者（教育、養護教諭、スクールカウンセラーなど）
7	市心配ごと相談	8	職場・アルバイトの関係者（上司、同僚、部下など）
9	市のその他の相談窓口	10	民間支援団体
11	保健所、石川県こころの健康センター	12	法務局・人権擁護委員
13	その他（ ）	14	知っているところはない

問 18 DVや性暴力等の暴力を防止するためには、どのようなことが必要だと考えますか。（あてはまる番号すべてに○をつける）

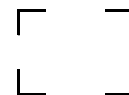
1	被害者が早期に相談できるよう、相談窓口や保護施設を充実させる
2	家庭で保護者が子どもに対し、暴力の被害者にも加害者にもならないよう教育を行う
3	学校または大学で児童・生徒・学生に対し、暴力の被害者にも加害者にもならないよう教育を行う
4	地域で、暴力を許さない社会づくりのための研修会、イベントなどを行う
5	メディアを活用して、暴力の防止や相談窓口の周知について広報・啓発活動を積極的に行う
6	被害者を発見しやすい立場にある警察や医療関係者、民生委員、教員などに対し、研修や啓発を行う
7	暴力を振るったことのある者に対し、繰り返さないための教育を行う
8	加害者への罰則を強化する
9	暴力を助長するおそれのある情報（雑誌、インターネットなど）を取り締まる
10	その他（ ）
11	特に対策の必要はない

Ⅵ 男女共同参画社会の実現について

問 19 あなたは次の言葉や法律などについて、どの程度ご存知ですか。

（各項目についてあてはまる番号に1つつ0をつける）

	言葉も内容も 知っている	言葉は聞いたことは あるが、内容までは 知らない	まったく知らない
男女共同参画社会	1	2	3
女子差別撤廃条約 （女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約）	1	2	3
ポジティブ・アクション （積極的改善措置）	1	2	3
ジェンダー （社会や文化の中で形成された、性別に関する考え方や役割）	1	2	3
政治分野における男女共同参画の推進に関する法律	1	2	3
男女雇用機会均等法 （雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律）	1	2	3
女性活躍推進法 （女性の職業生活における活躍の推進に関する法律）	1	2	3
仕事と生活の調和 （ワーク・ライフ・バランス）	1	2	3
DV （配偶者や交際相手からの暴力）	1	2	3
パープルリボン （女性に対するあらゆる暴力の根絶のシンボル）	1	2	3
マタニティ・ハラスメント	1	2	3
セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス・アンド・ライツ （性と生殖に関する健康と権利）	1	2	3
性的少数者 （L G B T Q + など）	1	2	3
白山市パートナーシップ宣誓制度 （さまざまな事情により婚姻の届け出ができないカップルが、お互いが人生のパートナーであることを宣誓し、市が「パートナーシップ宣誓書受領証」等を交付する制度）	1	2	3



問 20 あなたは、次の考え方についてどう思いますか。
(各項目について**あてはまる番号に1つずつ○**をつける)

	そう 思う	どちらか と 言えば そう 思う	どちらか と 言えば そう 思わない	そう 思わない	どちらとも 言えない	わ か ら な い
男性は仕事をして家計を支えるべきだ	1	2	3	4	5	6
共働きで子どもの具合が悪くなった時、母親が看病するべきだ	1	2	3	4	5	6
自治会や町内会の重要な役職は男性が担うべきだ	1	2	3	4	5	6
デートや食事のお金は男性が負担すべきだ	1	2	3	4	5	6
結婚したら姓を変えるのは女性であるべきだ	1	2	3	4	5	6
育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない	1	2	3	4	5	6
男性は人前で泣くべきではない	1	2	3	4	5	6
親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ	1	2	3	4	5	6
受付、接客・対応（お茶出し）は女性の仕事だ	1	2	3	4	5	6
同程度の實力なら、まず男性から昇進させたり、管理職に登用するものだ	1	2	3	4	5	6
女性には女性らしい感性があるものだ	1	2	3	4	5	6
大きな商談や大事な交渉事は男性がやる方が 良い	1	2	3	4	5	6

問 21 男女共同参画社会の実現のために、行政に対して望むことはどのようなことですか。

(あてはまる番号を3つまで○をつける)

1	条例や制度の面で見直しを行い、性別による差別につながるものを改める
2	政策や方針決定の場に女性を積極的に登用する
3	民間企業・団体などの管理職に女性の登用が進むよう支援する
4	女性（又は男性）が少ない分野への女性（又は男性）の進出を支援する
5	女性の社会的・経済的な自立をめざす講座などを実施する
6	男性の家事・育児の参加を促す講座などを実施する
7	保育の施設・サービスや、高齢者・病人の施設、介護サービスを充実する
8	労働時間の短縮や在宅勤務の普及など、男女ともに働き方の見直しを進める
9	学校や生涯学習の場において、男女の平等と相互理解についての学習機会を充実する
10	男女の平等と相互理解について広報・PR する
11	DV や性暴力等の暴力を根絶するための取組を進める
12	DV や性暴力等の被害者支援を進める
13	その他（ ）
14	わからない

○ご意見欄 その他ご意見がありましたらお聞かせください。

--

ご協力、誠にありがとうございました。

ご記入いただきました調査票は、無記名のまま

同封の返信用封筒に入れて、

令和7年11月6日（木）までに投函ください。

令和7年度 男女共同参画に関する市民意識調査報告書
令和8年2月 発行

白山市市民生活部男女共同・人権推進室

〒924-8688 石川県白山市倉光二丁目1番地

TEL:076-274-9577

FAX:076-275-2211

E-MAIL: danjyo@city.hakusan.lg.jp